

手角地区ふるさと農道整備事業にともなう
夫手遺跡発掘調査報告書

2000年3月

松江市教育委員会

財団法人松江市教育文化振興事業団

手角地区ふるさと農道整備事業にともなう
夫 手 遺 跡 発 掘 調 査 報 告 書

2000年3月

松 江 市 教 育 委 員 会
財団法人松江市教育文化振興事業団



縄文時代の漆液容器



縄文時代の櫂

例　　言

1. 本書は、平成10年度に松江市教育委員会および財団法人松江市教育文化振興事業団が実施した、手角地区ふるさと農道整備事業にかかる発掘調査報告書である。
2. 本書で報告する発掘調査は、島根県松江農林振興センターから松江市教育委員会が依頼を受け、財団法人松江市教育文化振興事業団が委託を受けて実施したものである。
3. 調査組織は下記のとおりである。

依頼者 松江農林振興センター 農村整備部 農道整備課

主体者 松江市教育委員会

・平成10年度（発掘調査）

〈事務局〉松江市教育委員会

教　育　長	原　　敏	文化財室長	岡崎雄二郎
副教　育　長	田中寿美夫	文化財係長(主幹)	吉岡　弘行
生涯学習課長	谷　　正次	主任主事	金山　正樹

〈実施者〉財団法人松江市教育文化振興事業団

理　事　長	宮岡　寿雄	調　査　係　長	瀬古　諒子
専　務　理　事	北村　悦男	調　査　員	曾田　辰雄
事　務　局　長	柳浦　孝行	嘱　託　員	松下　剛

・平成11年度（報告書作成事業）

〈事務局〉松江市教育委員会

教　育　長	原　　敏	文化財室長	岡崎雄二郎
副教　育　長	田中寿美夫（～6月）	文化財係長(主幹)	吉岡　弘行
	神田　義之（7月～）	主任主事	金山　正樹
生涯学習課長	谷　　正次		

〈実施者〉財団法人松江市教育文化振興事業団

理　事　長	宮岡　寿雄	調　査　係　長	瀬古　諒子
専　務　理　事	北村　悦男	調　査　員	江川　幸子
常　務　理　事	福井　勝美	嘱　託　員	松下　剛
事　務　局　長	柳浦　孝行		

4. 発掘調査の実施および報告書作成にあたっては、下記の方々より多大なご教示、ご協力をいただいた。記して感謝の意を表したい（敬称略、順不同）。

田中義昭（島根県文化財保護指導委員）、中村唯史（島根大学汽水域研究センター客員研究員）

柳浦俊一（島根県埋蔵文化財調査センター）、守岡正司（島根県教育委員会文化財課主事）

内田律雄（島根県埋蔵文化財調査センター）、中川　寧（島根県埋蔵文化財調査センター）

北浦弘人（鳥取県埋蔵文化財センター主任調査員）、林　千城（松江市市議会議員）、松山智弘

5. 縄文土器を観察するにあたっては、柳浦俊一氏から多大な協力・指導をいただいた。
6. 縄文土器内面付着物の鑑定については、永嶋正春氏（国立歴史民俗博物館情報資料研究部助教授）に依頼し、貴重な論稿をいただいて本書に掲載した。
7. 縄文土器内面に付着していた漆の実年代測定については、今村峯雄氏（国立歴史民俗博物館情報資料研究部教授）、坂本稔氏（国立歴史民俗博物館情報資料部助手）、永嶋正春氏に依頼し、貴重な論稿をいただいて本書に掲載した。
8. 木製品の樹種鑑定については、古野毅氏（島根大学教授）に依頼し、貴重な論稿をいただいて本書に掲載した。
9. 木製品の樹種鑑定のためのプレパラート作成については、会下和宏氏（島根大学埋蔵文化財調査研究センター）の協力のもとに、埴生典子氏の指導を得て、松下、江川がおこなった。
10. 木製品の年代測定については、株式会社地球科学研究所に依頼した。
11. 本書の作成には下記の者が携わった。
(遺物復原) 花田陽子、田中晶子、福田万里、奥田美穂子
(遺物実測) 石川 崇、古藤博昭、後藤哲男、青山悦朗、広江光洋、広浜貴子、藤原 堅
入江俊介、花田、松下、曾田、江川
(淨 書) 福田、花田、田中、入江、松下、江川
(拓 本) 萩野哲二（松江市教育委員会嘱託員）、花田、福田、田中
12. 本書に掲載した遺構写真は曾田が撮影し、遺物写真は島根県埋蔵文化財調査センターの写場を借用し、木製品を石川、曾田が、そのほかを江川が撮影した。
13. 本書の執筆分担は目次欄に示した。編集は江川がおこなった。
14. 出土遺物は松江市教育委員会生涯学習課文化財室で保管している。

目 次

卷頭カラー図版

第1章 調査に至る経緯と経過金山..... 1

第2章 位置と環境江川..... 2

第3章 調査報告

1. 調査の概要曾田..... 5

2. 土層堆積・遺物出土状況について 5

3. 遺構について 12

4. 遺物について江川..... 15

(1) 繩文土器 15

(2) 弥生土器 29

(3) 土師器 41

(4) 須恵器 81

(5) 土製品 82

(6) 石器 82

(7) 木製品 88

第4章 結語江川..... 99

第5章 自然科学分析

松江市夫手遺跡出土縄文時代前期初頭頃の漆液容器（土器）について

.....永嶋正春 102

松江市・夫手遺跡出土縄文時代前期土器（漆液容器）の実年代

.....今村峯雄・坂本稔・永嶋正春 104

夫手遺跡出土木製品樹種鑑定調査報告書古野毅 107

木製品の実年代測定について株式会社地球科学研究所 113

遺物観察表

図版

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図	夫手遺跡と周辺の遺跡位置図	3
第2図	夫手遺跡調査区図	6
第3図	夫手遺跡調査区セクション図（1）	7, 8
第4図	夫手遺跡調査区セクション図（2）	9, 10
第5図	SB-01実測図	11
第6図	SB-02実測図	12
第7図	木製品出土状況図（1）	13
第8図	木製品出土状況図（2）	13
第9図	縄文土器実測図（1）	16
第10図	縄文土器実測図（2）	17
第11図	縄文土器実測図（3）	18
第12図	縄文土器実測図（4）	19
第13図	縄文土器実測図（5）	20
第14図	縄文土器実測図（6）	21
第15図	縄文土器実測図（7）	22
第16図	縄文土器実測図（8）	23
第17図	縄文土器実測図（9）	24
第18図	縄文土器実測図（10）	25
第19図	縄文土器実測図（11）	26
第20図	縄文土器実測図（12）	27
第21図	縄文土器実測図（13）	28
第22図	弥生土器実測図（1）	31
第23図	弥生土器実測図（2）	32
第24図	弥生土器実測図（3）	33
第25図	弥生土器実測図（4）	34
第26図	弥生土器実測図（5）	35
第27図	弥生土器実測図（6）	36
第28図	弥生土器実測図（7）	37
第29図	弥生土器時速図（8）	38
第30図	弥生土器実測図（9）	39
第31図	弥生土器実測図（10）	40
第32図	土師器実測図（1）	42
第33図	土師器実測図（2）	43
第34図	土師器実測図（3）	44
第35図	土師器実測図（4）	45
第36図	土師器実測図（5）	46
第37図	土師器実測図（6）	47
第38図	土師器実測図（7）	48
第39図	土師器実測図（8）	49
第40図	土師器実測図（9）	50
第41図	土師器実測図（10）	51

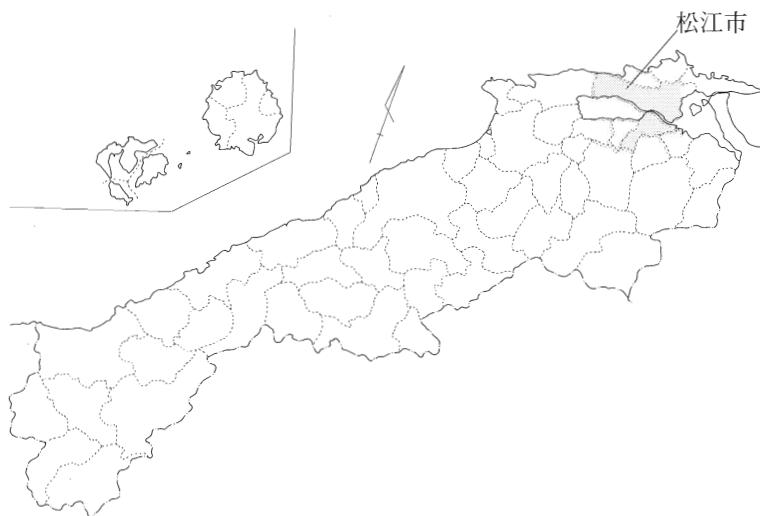
第42図	土師器実測図（11）	52
第43図	土師器時速図（12）	53
第44図	土師器実測図（13）	54
第45図	土師器実測図（14）	55
第46図	土師器実測図（15）	56
第47図	土師器実測図（16）	57
第48図	土師器実測図（17）	58
第49図	土師器実測図（18）	59
第50図	土師器実測図（19）	60
第51図	土師器実測図（20）	61
第52図	土師器実測図（21）	62
第53図	土師器実測図（22）	63
第54図	土師器実測図（23）	65
第55図	土師器実測図（24）	66
第56図	土師器実測図（25）	67
第57図	土師器実測図（26）	68
第58図	土師器実測図（27）	70
第59図	土師器実測図（28）	71
第60図	土師器実測図（29）	72
第61図	土師器実測図（30）	73
第62図	土師器実測図（31）	74
第63図	土師器実測図（32）	75
第64図	土師器実測図（33）	76
第65図	土師器実測図（34）	77
第66図	土師器実測図（35）	78
第67図	土師器実測図（36）	79
第68図	土師器実測図（37）	80
第69図	須恵器実測図	81
第70図	土製品実測図	82
第71図	石器実測図（1）	83
第72図	石器実測図（2）	84
第73図	石器実測図（3）	85
第74図	石器実測図（4）	86
第75図	石器実測図（5）	87
第76図	木製品実測図（1）	88
第77図	木製品実測図（2）	89
第78図	木製品実測図（3）	91
第79図	木製品実測図（4）	92
第80図	木製品実測図（5）	93
第81図	木製品実測図（6）	94
第82図	木製品実測図（7）	95
第83図	木製品実測図（8）	96
第84図	木製品実測図（9）	97
第85図	木製品実測図（10）	98
第86図	暦年較正曲線	106

図版目次

- 図版 1 夫手遺跡遠景
夫手遺跡近景
- 図版 2 2区縄文土器出土状況
1区土師器甕出土状況
3区土師器細片出土状況
- 図版 3 3区南壁土層堆積状況
4区木製品出土状況
- 図版 4 SB-01、SB-02検出状況
4、5区調査終了後風景
- 図版 5 SB-01柱根検出状況
SB-02柱根検出状況
杭出土状況
- 図版 6 5区柱根および遺物出土状況
5区遺物出土状況
5区櫂出土状況
- 図版 7 縄文土器（1）
- 図版 8 縄文土器（2）
- 図版 9 縄文土器（3）
- 図版10 縄文土器（4）
- 図版11 弥生土器（1）
- 図版12 弥生土器（2）
- 図版13 弥生土器（3）
- 図版14 弥生土器（4）
- 図版15 土師器（1）
- 図版16 土師器（2）
- 図版17 土師器（3）
- 図版18 土師器（4）
- 図版19 土師器（5）
- 図版20 土師器（6）
- 図版21 土師器（7）
- 図版22 土師器（8）
- 図版23 土師器（9）
- 図版24 土師器（10）
- 図版25 土製品
石 器（1）
- 図版26 石 器（2）
- 図版27 木製品（1）
- 図版28 木製品（2）
- 図版29 木製品（3）
- 図版30 木製品（4）
- 図版31 永嶋正春氏添付図版 1
漆液容器（土器）縄文時代前期初頭
- 図版32 永嶋正春氏添付図版 2
漆液容器（土器）縄文時代前期初頭
- 図版33 樹種鑑定顕微鏡写真（1）
- 図版34 樹種鑑定顕微鏡写真（2）
- 図版35 樹種鑑定顕微鏡写真（3）
- 図版36 樹種鑑定顕微鏡写真（4）
- 図版37 樹種鑑定顕微鏡写真（5）
- 図版38 樹種鑑定顕微鏡写真（6）
- 図版39 樹種鑑定顕微鏡写真（7）

第1章 調査に至る経緯

松江市手角町・長海町及び美保関町下宇部尾の農地50haを受益とする農道整備事業の実施申請が松江市及び美保関町より提出された。そのため、島根県松江農林振興センター（事業者）において、中海・本庄工区を囲む北端の北部承水路堤の農道化で「手角地区ふるさと農道整備事業」の計画が持ち上がった。接続路を含む総延長約2,200mのうち松江市手角町の承水路堤と国道431号線との接続部約200mに周知の遺跡である「夫手遺跡」が存在する。「夫手遺跡」は昭和39年頃、水田の溝を掘る作業中に縄文後期や弥生中期の土器が出土したことから存在が明らかになったが、性格については不明であった。平成9年10月1日付松農第1114号で本市教育委員会に埋蔵文化財の分布調査依頼書が提出されたため、「夫手遺跡」が存在すると思われる箇所にトレンチを10本設定して試掘調査を実施した。調査の結果、トレンチ8本で暗青～灰色粘質土及び砂礫層より古墳時代前～中期の土師器片が多量に出土したことから、工事着工前に本調査の必要がある旨を事業者宛回答した。事業者と本市教育委員会とで協議した結果、本来の接続路の北側に仮設道路を設け、本来の接続路については本調査終了後、工事に着手する計画となった。発掘調査に至る手続きについて、事業者は平成10年2月17日付松農案1525号で埋蔵文化財発掘の通知（文化財保護法第57条の3）を本市教育委員会経由で文化庁長官宛に提出した。これを受けて本市教育委員会は平成10年4月7日付松教生文第7号で埋蔵文化財発掘調査の報告（同法98条の2）を文化庁長官宛に提出した。平成10年2月17日付で事業者と本市教育委員会で協定書を結び、同年4月1日付で委託契約を結んだ。本調査については松江市教育委員会が財団法人松江市教育文化振興事業団に委託して平成10年度に本調査を実施し、工事との兼ね合いから調査範囲を前・後期に分けて遺跡の取り扱いを行っている。現地調査期間については平成10年4月10日から同年12月11日まで行い、平成11年度に報告書作成業務を行った。



第2章 位置と環境

夫手遺跡は、島根県松江市手角町469-5外に所在する。

松江市の北東端にあたり、隣接する八束郡美保関町との市境に近い。

遺跡は島根半島の中海沿岸に位置しており、西方から中海に流れ出す小河川、現在の長海川の河口部分にあたる。長海川沿いには狭いながらも細長い谷地形の平地があり、現在では水田耕作がおこなわれている。谷の両側は北山山地から派生する丘陵に囲まれており、緑は豊かで、東方には中海、大根島越しに『出雲国風土記』に火の山と記載されている鳥取県の大山を望むことができる。実に風光明媚な場所である。

歴史的環境としては、周知の遺跡数は決して多くはないが、長海川流域には遺跡の集中を見ることができる。以下で長海川流域と周辺地域の概略を時代ごとに記す。

・縄文時代

中海沿岸は縄文時代の遺跡の宝庫として知られている。具体的には、八束郡美保関町のサルガ鼻洞窟遺跡が特に有名で、ケツ状耳飾やゴホウラ製の貝輪など多量の遺物が出土している。美保関町地内には他に含靈塔下遺跡や権現山洞窟遺跡、小浜洞窟遺跡などがある。松江市内では、寺ノ脇遺跡(2)や柳瀬遺跡(7)、九日田遺跡からどんぐりを中心とする木の実の貯蔵穴が検出されているほか、遺物散布地として権田作遺跡(3)が知られている。

中海は山陰地方としては比較的穏やかな海で、一年を通して魚介類が安定して捕獲できること、北山山地で木の実などを採集できることなど、縄文時代の人々にとって良好な生活環境が広がっていたことは想像に難くない。

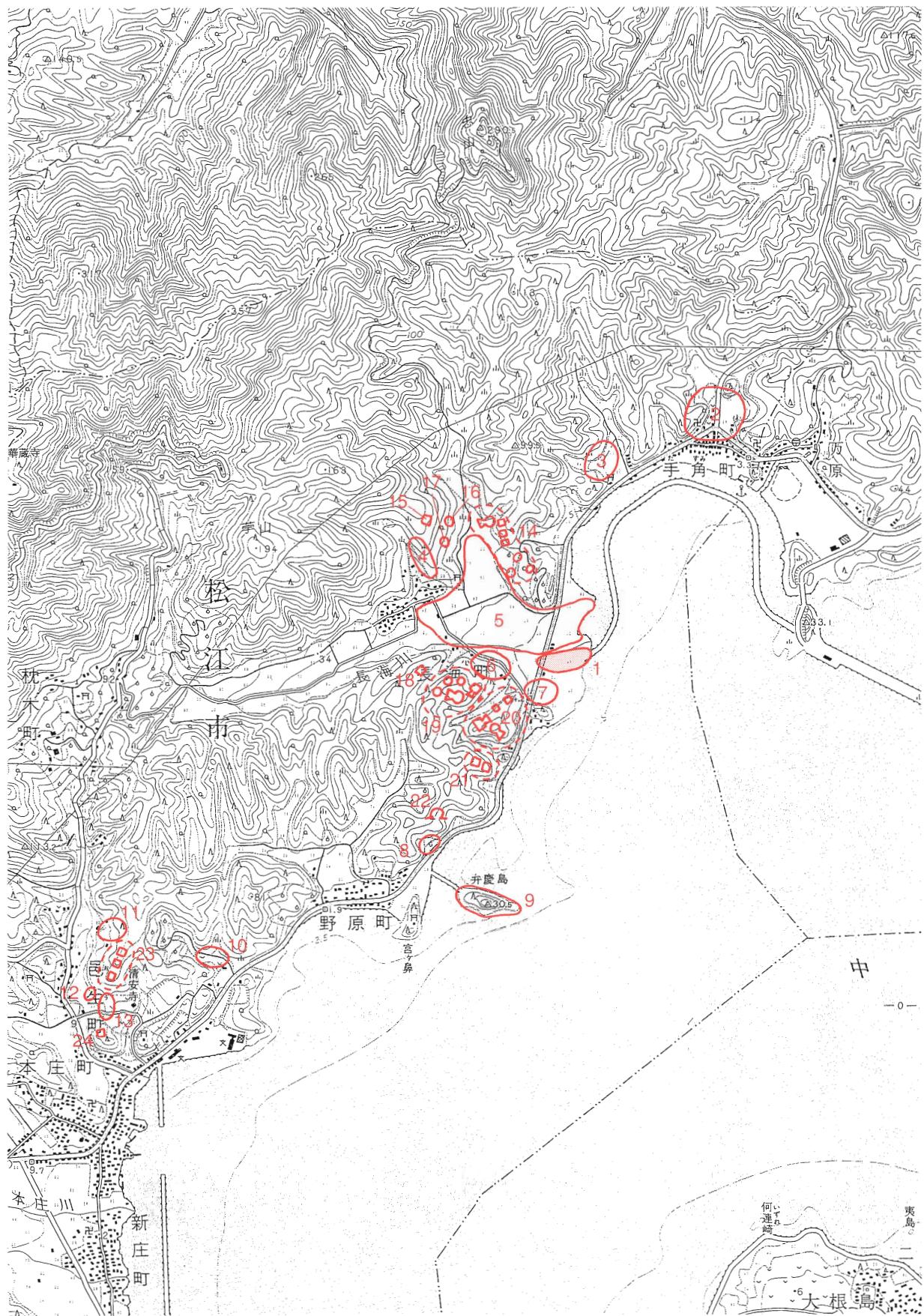
・弥生時代

縄文時代から引き続き、寺ノ脇遺跡や権田作遺跡から前期～中期にかけての土器が出土しているが、その数量は少ない。本格的な稻作とともに弥生文化の中心地は松江市の市街地に近い、西川津遺跡やタテチョウ遺跡、欠田遺跡や田和山遺跡周辺という広い平地や低湿地周縁で大集落遺跡として発展していったと考えられる。

・古墳時代

長海川流域で遺跡数が増加してくる。杉戸遺跡(6)は近年の採砂工事の際に土器や炭化米が採集されて、前期中葉～中期にかけての広い集落跡であることが判明した。現在では工事のために大半が消滅している。善尾遺跡(4)もほぼ同時期の遺物の散布地で、集落跡の存在を示唆している。

また、長海川流域縁辺の低丘陵上には、中規模古墳を含む多くの古墳が密集していることが注目される。杉戸遺跡の背後の丘陵上では渕切古墳群(19)があり、全長33.1mの前方後円墳1基、全長20.5mの前方後方墳1基、直径20mの円墳1基が位置し2基の小規模古墳が築かれている。渕切古墳群の南東には接するように藤田古墳群(20)があり、全長35.5mの前方後方墳1基、全長28.6mの前方後円墳1基のほか2基の小規模古墳が築かれている。藤田古墳群の南の丘陵上には藤田南古墳群(21)があり、小規模古墳2基が築かれている。さらに長海川が流れる谷を挟んで北側の丘陵上には



第1図 夫手遺跡と周辺の遺跡位置図

番号	遺跡名	種別	時期	番号	遺跡名	種別	時期
1	夫手遺跡			13	蓮行遺跡	散布地	
2	寺ノ脇遺跡	散布地	縄文早期末～奈良	14	堀越古墳群	古墳群	古墳
3	権田作遺跡	散布地	縄文後期～弥生前期	15	善尾古墳	古墳	古墳後期
4	善尾遺跡	散布地	古墳前半期か？	16	弁慶森古墳	古墳	古墳後期
5	長海条里制遺跡	条理制		17	御供典古墳	古墳	古墳後期
6	杉戸遺跡	散布地	弥生後期・古墳前半期	18	淵古墳	古墳	古墳
7	柳瀬遺跡	散布地	縄文後期	19	渕切古墳群	古墳群	古墳
8	ガンダ遺跡	散布地	古墳	20	藤田古墳群	古墳群	古墳
9	弁慶島遺跡	祭祀遺跡	古墳	21	藤田南古墳群	古墳群	古墳
10		散布地	古墳	22	ガンダ横穴墳	横穴墓群	古墳後期
11	家床遺跡	散布地	古墳	23	兵ヶ谷古墳群	古墳群	古墳
12	蓑平遺跡	散布地	古墳	24	客山古墳	古墳	古墳

堀越古墳群（14）があり、この古墳群は全長23mの前方後円墳のほか7基の小規模古墳で構成されている。長海川が流れる狭い平地の河口付近の低丘陵上には、このように一群と称してもいいような範囲に多くの古墳が築かれているのである。これらの古墳群の時期については不明であるが、後期古墳という積極的な根拠が無いことから中期の古墳と考えても良いのではないかとされる説がある。このことは周辺の遺跡の分布状況からも十分に考えられよう。長海川流域にはこの時期の一大中心地が存在していたものと考えられ、中規模クラスの前方後円墳や前方後方墳の被葬者は、墳丘規模や古墳群の在り方からして単に長海町周辺の地域のみを治めた人物とは考えられず、おそらく長海川流域を拠点とし、中海を介して広範囲を支配していた権力者であったと想像される。

古墳時代後期にはいると、寺ノ脇遺跡と夫手遺跡から須恵器が出土しているが、きわめて少量であり、中期から継続するような大集落は存在しなかったようである。後期においては本庄地区の中心地で須恵器散布地が多く見られるようになり（10・11・12、13）、大きな歴史的変換があったと思われる。長海川流域には、石棺式石室を内部構造に持つ善尾古墳（15）等の小規模古墳が3基分布しているが、この時期の中心地は完全に本庄地域へ移動してしまったといってよい。

・歴史時代

寺ノ脇遺跡から奈良時代の須恵器や土師器が出土しているが、長海川流域では集落跡や遺物散布地は知られていない。長海川流域の狭い谷間の平地には条理の痕跡が残されている（5）。

参考文献 近藤 正・宍道正年・前島己基・横山純夫『寺ノ脇遺跡』島根県文化財愛護協会 1969年
松本岩雄「原始から古代へ」『郷土誌ふるさと本庄』本庄地区町内会連合会・本庄公民館 1994年

第3章 調査報告

1. 調査の概要

現地調査は、平成10年4月6日から平成10年12月11日までのおよそ9ヶ月にわたって実施した。調査範囲は遺跡の一部に該当する道路幅で、最大幅約20m、最小幅約10m、東西約140mの区間であった。調査区を、ほ場整備されている田面にあわせて全体を5区間に分け、中海に近い東側から1区とし、西側へと調査を進めていった。(第2図)

遺跡周辺は昭和30年代にはほ場整備がされており、上層は耕作土あるいは撹乱土となっていた。平成9年の試掘調査で耕作土下の青灰色砂礫層が遺物包含層であることが確認されており、調査はまず、水田面の耕作土を重機により除去することから開始した。耕作土は調査区全体に約0.4m～0.5m程堆積しており、これを除去後、青灰色砂礫層を確認した。続いて、茶褐色粘質土層の一部と青灰色砂礫層を順次人力によって掘削した。耕作土以下の茶褐色粘質土は調査区の全体に堆積していたのではなく、4区の一部と5区に堆積していたものである。

1区から4区にかけては遺構は検出されず、土層の堆積に注意しながら、青灰色砂礫層中の遺物を取り上げていく作業となった。4区の一部と5区にかけては耕作土の下から柱材が出土し、精査していくと掘立柱建物跡が2棟検出された。また、北側のセクションではこの遺構の検出面を削られるようにして流路跡が確認された。調査区内は土層の堆積状況が予想以上に複雑で、残念ながら、流路跡を面的に検出することができなかった。

また、遺物包含層の青灰色砂礫層を除去した後、暗茶色粘質土から櫂が4本出土し、杭を30本あまり検出した。この暗茶色粘質土層は標高0mから下に1m以上厚く堆積しており、標高マイナス2mまでトレンチを入れた結果、遺物、遺構共に検出されなかった。

現地調査終了の後、平成10年12月から遺物整理を開始した。時期、器種、特徴などを考慮して分類、選択し、実測作業に入った。

2. 土層堆積・遺物出土状況について(第3・4図)

調査区内の土層は大別すると耕作土、茶褐色粘質土(遺物包含層)、青灰色砂礫層(遺物包含層)、暗茶色粘質土層となり、遺物は暗茶色粘質土層より上層の堆積土より出土した。

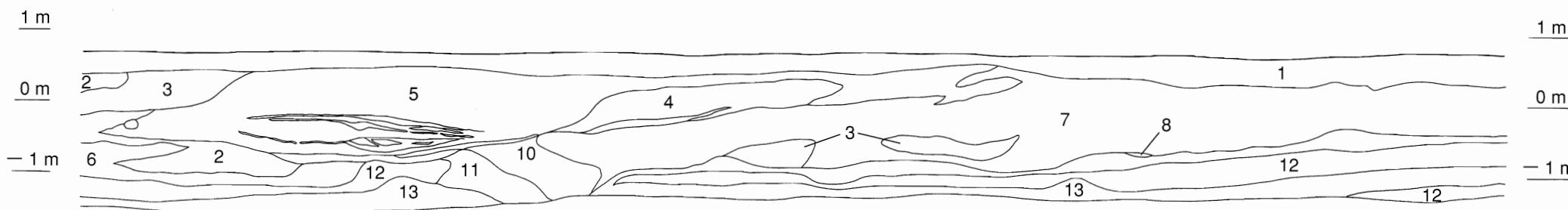
耕作土以下の茶褐色粘質土は調査区西側の4区・5区のみに認められた土層で、古墳時代中期の高坏、甕などが出土している。

青灰色砂礫層は遺物包含層で、1m近く堆積していた。中海に最も近い1区では標高約1.3mから確認し、マイナス1.2mまで細砂層、粘質土層を間に挟んだ状態で堆積していた。砂礫層は握りこぶし大の礫から、砂混じりの砂礫まで構成されていた。

最も中海から離れた西側の5区では標高約1mから砂礫層を確認し、標高約0mまで堆積していた。粗

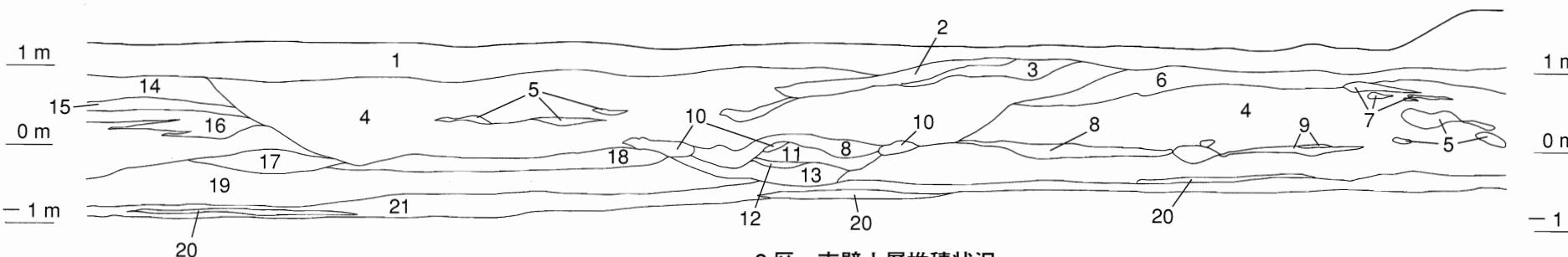


第2図 夫手遺跡調査区図



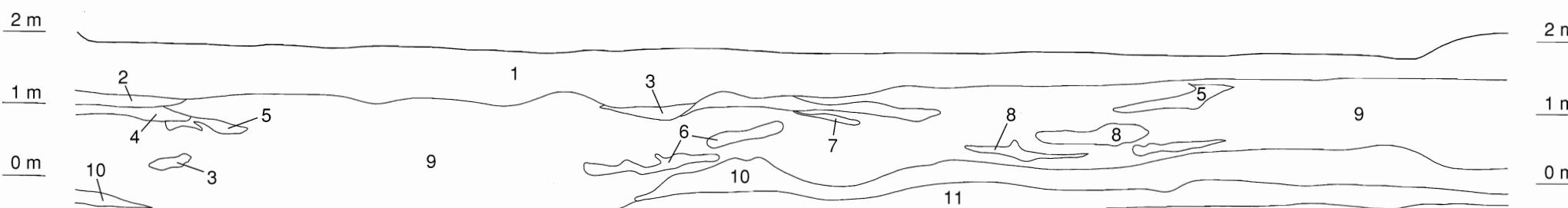
1区 南壁土層堆積状況

- 1. 灰色粘質土層
- 2. 青灰色砂礫層
- 3. 青灰色粘質土層
- 4. 青灰色細砂層
- 5. 青灰褐色細砂層（粘質土混入）
- 6. 暗青灰色粘質土層
- 7. 青灰色粗砂礫層
- 8. 明青灰色粘質土層
- 9. 青灰色礫層（粘質土混入）
- 10. 明灰色粘質土層
- 11. 暗灰色粘質土層
- 12. 青灰色礫層
- 13. 青灰色砂質層（木質混入）



2区 南壁土層堆積状況

- 1. 耕作土
- 2. 褐色砂層（砂質土混入）
- 3. 暗灰色砂質土層
- 4. 青灰色砂礫層
- 5. 暗褐色粘質土層（礫混入）
- 6. 灰褐色粘質土層
- 7. 茶色砂層
- 8. 木質混入土層
- 9. 明青灰色砂層
- 10. 青灰色粘質土層
- 11. 灰色砂礫層
- 12. 灰白色粘質土層
- 13. 明青灰色礫層
- 14. 灰色粘質土層
- 15. 青灰色礫層
- 16. 暗黑灰色粘質土層
- 17. 青灰色砂質粘土層（木質多量に含む）
- 18. 青灰褐色砂質粘土層
- 19. 青灰礫層（粘質含む）
- 20. 木質混入土層
- 21. 青灰色砂層

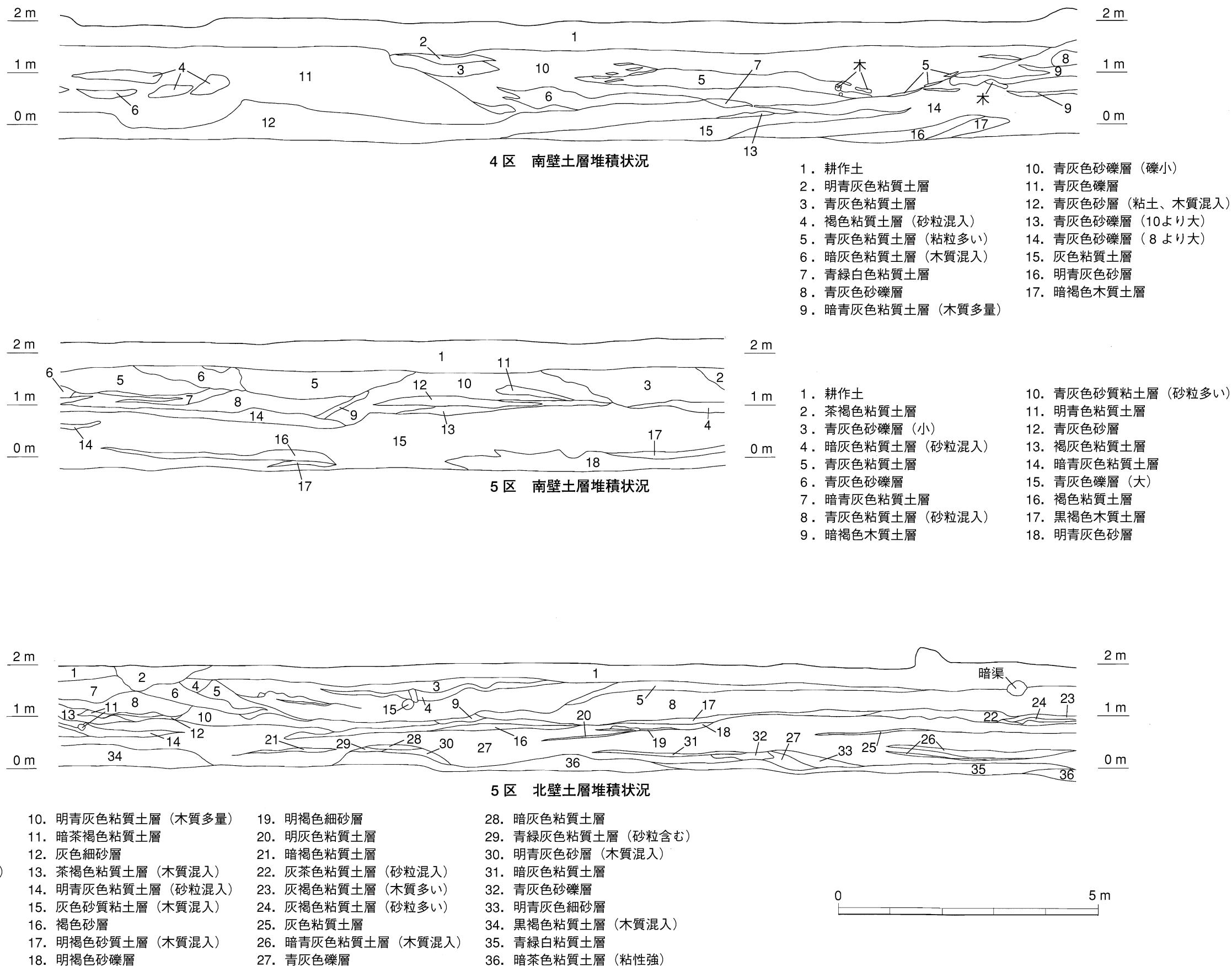


3区 南壁土層堆積状況

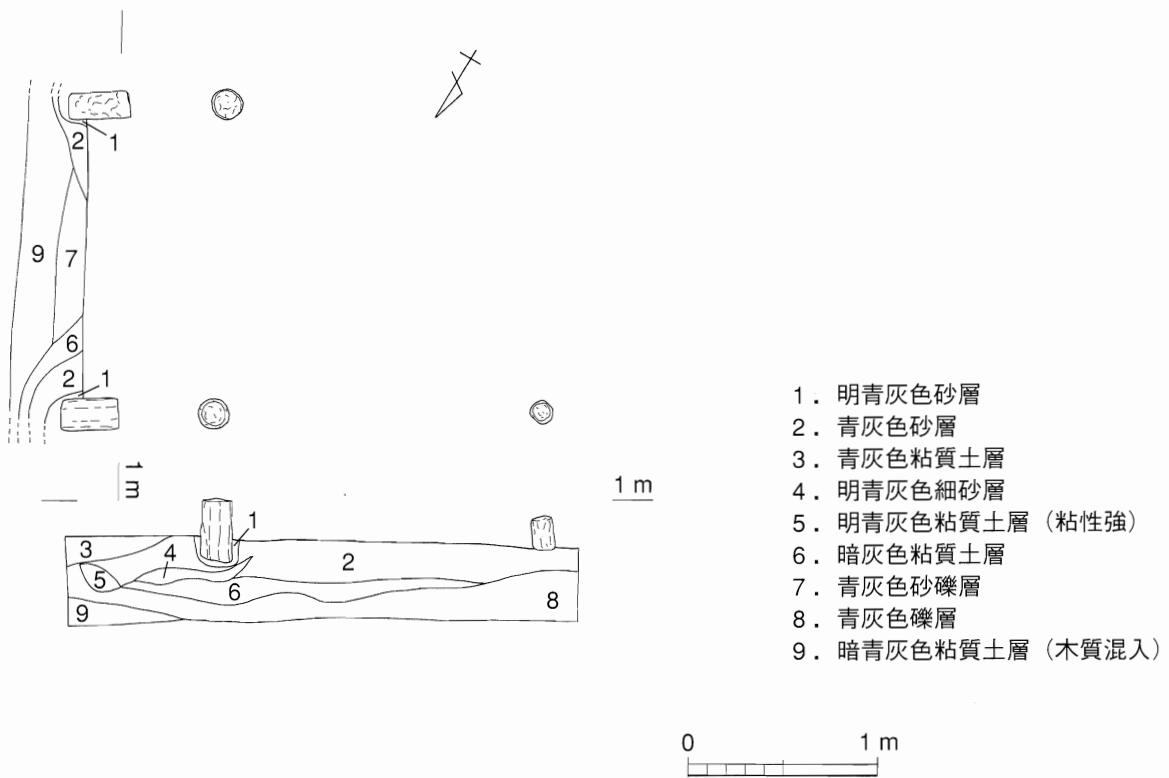
- 1. 耕作土
- 2. 灰褐色粘質土層
- 3. 暗褐色粘質土層
- 4. 灰褐色粘質土層（砂粒多い）
- 5. 灰褐色砂層
- 6. 暗灰褐色粘質土層（砂粒混入）
- 7. 暗褐色土層（木質混入）
- 8. 褐色粘質土層
- 9. 青灰色礫層
- 10. 青灰色砂層（粘土、木質混入）
- 11. 青灰色砂礫層



第3図 夫手遺跡調査区セレクション図（1）



第4図 夫手遺跡調査区セレクション図(2)



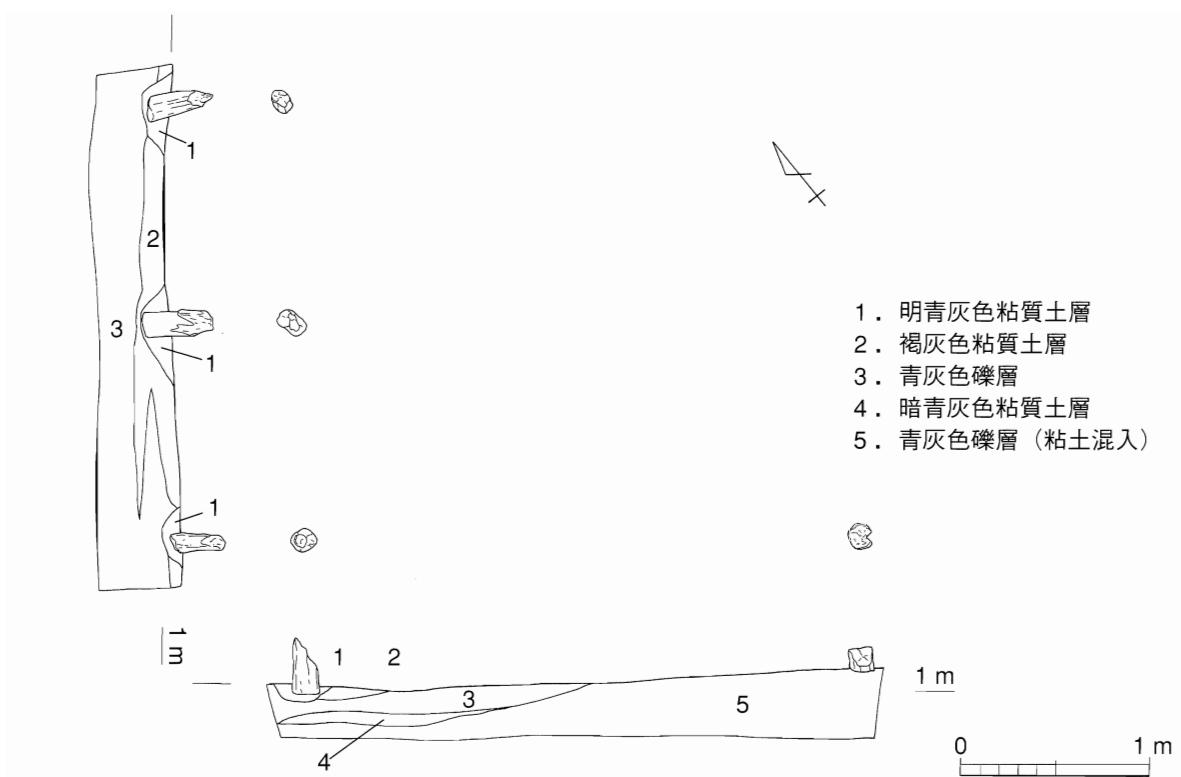
第5図 SB-01実測図

砂礫、細砂礫が複雑に入り交じって堆積しており、頻繁に礫層が流され、堆積していると思われる。調査区全体に砂礫層は堆積しており、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器が混在して出土した。

5区においては調査区北側の土層断面で上端約8.0m深さ0.8mの流路が確認された。流路の最深部は標高0.9mであった。前述したように平面での検出は出来なかったが、北側の土層断面と比較してみると、南側よりも最深部が約40cm高くなっていた。ある時期に北側からの流れがあったと思われる。流路跡には流木が堆積していた他、古墳時代中期の土師器が出土した。

また、青灰色砂礫層を除去した後、暗茶色粘質土層上面から木製の櫂が出土した。櫂自体の向きは様々であるが、南北方向に一列に並んで出土していることから、暗茶色粘質土層の方向に沿っているものと考えられる。

遺跡全体として青灰色砂礫層以上の土層は古墳時代中期以降の土層堆積であると考えられ、青灰色砂礫層は、古墳時代に周辺の遺構を巻き込んだ土石流のような状態で長海平野の形成時に堆積したものと考えられる。



第6図 SB-02実測図

3. 遺構について

調査の結果、5区で2棟の掘立柱建物跡を検出した。青灰色砂礫層上面の茶褐色粘質土層より、合計7本の柱材が出土した。

・SB-01（第5図）

5区の北東側で検出された掘立柱建物跡である。柱材はL字状に3本出土し、規模はそれぞれ1間1.6mを測る。最低1間×1間以上の建物であったと思われる。柱の直径は20cmで、底部は平坦に加工を施している。これらは青灰色砂礫層の上層の青灰色砂層に掘り込まれていたもので、この砂層からは古墳時代中期の土師器、高坏、甕などが出土していることから、古墳時代中期以降のものと考えられる。

・SB-02（第6図）

SB-01の西側で検出された、長辺3.0m、短辺2.4mを測る1間×2間の掘立柱建物跡である。柱材は4本検出され、直径は15cm～20cmであった。柱の底部は褐灰色粘質土層に掘り込まれ、明青灰色粘質土が堆積していた。残存状況から建物跡は最低1間×2間と考えられ、さらに大きい可能性もある。



第7図 木製品出土状況図(1)



第8図 木製品出土状況図(2)

・杭列（第7図）

4区から5区にかけて30本あまりの杭状の木製品が出土した。砂礫層下の暗褐色粘質土に打ち込まれており、頂部は欠損していた。先端は丸みを帯びた丁寧な加工が施されている。この杭状木製品は一列にはならず、実際には規則性に欠くものであるが、南北に堆積している暗茶色粘質土層に沿って打ち込まれていることが分かる。打ち込まれている深さや検出したレベルは一定しないが、一様に砂礫層によって頂部を欠損していることや、1m近く堆積している砂礫層中からは杭が出土しなかったことなどから、砂礫層上面から打たれたとは考えにくく、砂礫層が堆積する以前に打ち込まれ、後に砂礫層によって欠損したものと考えられる。

この木製品は直径が5cm前後と細く、規則性も見受けられることなどから、建物の施設としての目的で打たれている可能性は低いように思われる。推測の域を出ないが、魚を捕える簡易施設の一部としての遺構とも考えられる。

4. 遺物について

夫手遺跡は低湿地の遺跡であるため、比較的残存状況の良好な遺物が大量に出土した。遺物の種類は土器、土製品、石器、木製品がある。

出土遺物の時期は縄文時代早期から古墳時代後期までと幅広い。しかし、夫手遺跡は主として古墳時代中期における長海川の洪水、土石流およびその後の沖積作用によって形成された遺跡であり、長海川上流の遺物が流されて来て埋没した遺跡であるということが今回の発掘調査によって判明した。したがって、遺物は古墳時代前期後半から中期の時期のものが全体のほぼ9割りを占めており、その他の時期の遺物はその中に若干混入しているという出土状況であり、層位的に遺物の新旧を把握することはできなかった。

そこで、夫手遺跡の遺物については層序別ではなく、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、土製品、石器、木製品にわけて整理することにした。

各遺物の詳細は後頁の遺物観察表に掲載することとし、以下では遺物の種類ごとに概略を記す。

(1) 縄文土器

小さな破片ばかりであるが、早期から晩期まで幅広い土器が出土している。残存状況が良好な破片が多く、貴重な資料になると思われるため、出土した破片のほとんどを図面化して掲載した。出土割合としては、晩期の土器片が多く、前期の土器片もやや多かったようである。

第9図は、早期の土器である。

1の器面調整は内外面ともナデ、2は内外面とも条痕、3は口縁に突帯を持ち外面が縄文、内面がナデによるもので、1・2が菱根式、3が長山式にあたる。いずれも胎土中に多くの纖維を含んでいる。

第10～14図は、前期の土器である。

第10図は西川津式で、前期でも早い時期の土器と位置づけられている。器面調整は基本的には条痕が施されているが、ナデも見られる。1～8の口縁端部には折り返し状の肥厚帯が巡らされており、肥厚帯およびその周辺には刺突文を施したものが見られる。10～13の口縁は幅の広い肥厚帯が巡らされており、11以外は肥厚帯の下端部に刻み目が施されている。口縁部が残存するものはほとんど水平口縁であるが、11は緩やかな波状口縁を呈する可能性がある。器面文様としては、8、9に押し引き文、6、16に列点文が見られる。1～5には炭化物の付着が著しく、3と5には焼成後の接合孔が穿たれている。

さて、この中で特筆すべきは8に示した小型の鉢である。この鉢は完形に近く、口径9.9cm（推定）、胴部最大径10.5cm、器高9.35cmを測る。口縁は直立し、口縁端部にはやや幅が狭い折り返し状の肥厚帯が巡らされている。胴部は下方でわずかに張り出し、底部は尖底を呈している。器面調整は外面が条痕で、胴部には一部ナデた後、刺突に近い押し引き状の文様が施されており、在地の土器であることは明白である。この土器を観察すると、内面には全面に厚く層をなした付着物が残存しており、外面の一部にも若干の付着物が観察された。この付着物について永嶋正春氏に分析を依頼したところ、

漆であるとの回答を得た。詳細は第5章の永島氏の分析結果を参照していただきたいが、この漆はクロメ漆であり、少量の赤色顔料が認められたことから、塗り物に利用されていた可能性が高いことが指摘された。したがって、8の小型鉢は漆液容器として使用されていたことが判明し、縄文時代前期前半には夫手遺跡周辺においてもすでに漆文化が存在していたことがわかった。また、第5章に掲載したとおり、今村峯雄氏、坂本稔氏、永嶋氏に依頼して、この漆をAMS法による炭素14年代測定をおこなったところ、現在より6,800年前のものという結果を得た。このことにより、西川津式の土器が自然科学分析の面から縄文時代前期に位置づけることができた。

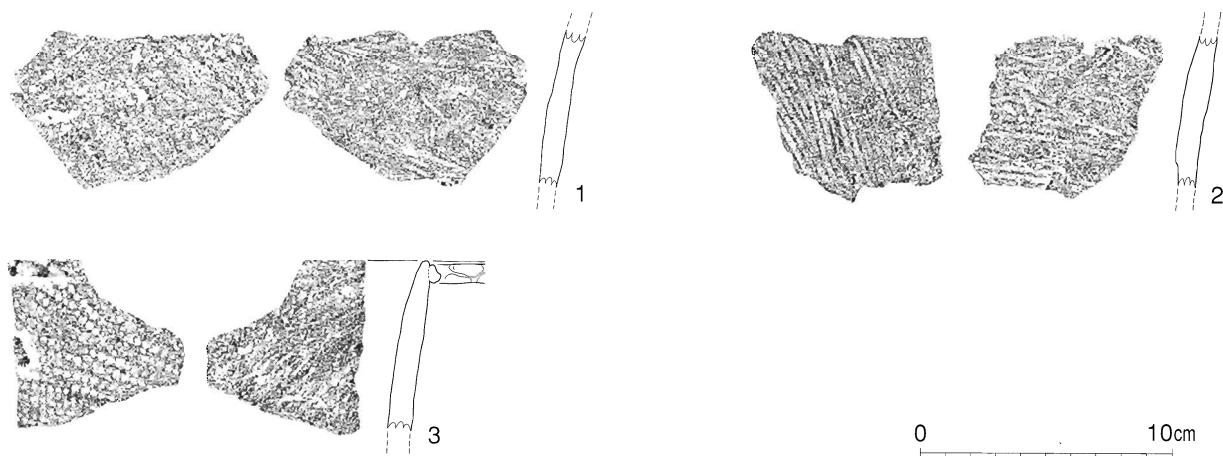
第11図は、大型の尖底深鉢である。器面調整は内外面とも条痕で、口径42cm（推定）を測る。外面上部には炭化物の付着が著しい。

第12図は、里木I式にあたる。いずれも器壁が薄く、焼成が極めて良い。器面調整は、基本的には外面が縄文で内面はナデである。文様としては、1に押し引き沈線が、2には特殊突帯文、4には隆帯文、5には縄文地に間隔の広い2段の爪形文が施されている。

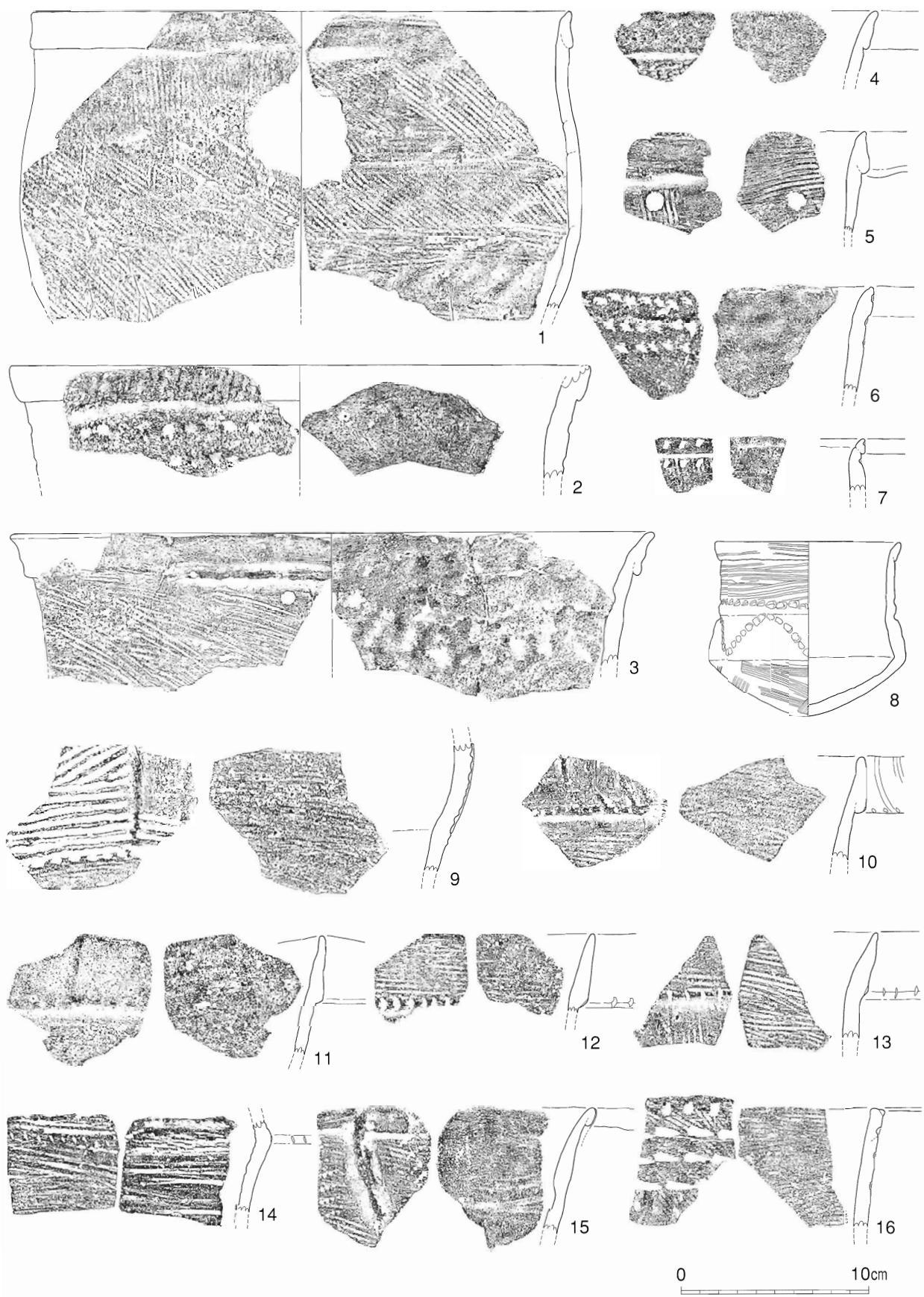
第13図の1は羽島下層II式にあたる。器面調整は内外面とも条痕で一部ナデである。外面には2段で1セットになる逆3の字状の爪形文が施されている。2～14は羽島下層III式にあたる。器面調整は基本的には外面は条痕で文様を施す部分をナデしている。内面は条痕とナデの2種類が見られる。外面にはきわめて狭い間隔で爪形文が施されている。これらの爪形文を観察すると、2は小さめの爪形文、3～9は半裁竹のような工具を利用した爪形文、10～13は貝殻復縁を利用した爪形文、14は円弧がくずれてL字状となった爪形文で、おおまかに4タイプに分けることができる。口縁部分が残存するものはすべて水平口縁で、口縁端部には刻み目が施されている。

第14図も前期の土器片と思われる。1、2は口縁部に厚くて幅広い肥厚帯が巡らされており、器面調整は内外面とも条痕である。西川津式の流れをくむものと思われる。3は底部に近い位置に刻み目を施した粘土紐を巡らせた鉢で、目久美遺跡に類例を見いだすことができる。5は口径31.8cm（推定）を測る深鉢である。7・8は胴部外形が緩やかなS字状となる深鉢である。他の土器片にはとりたて特徴が見られない。器面調整は内外面とも条痕が多く、若干のナデも見られる。

第15・16図は、中期の土器である。



第9図 縄文土器実測図（1）



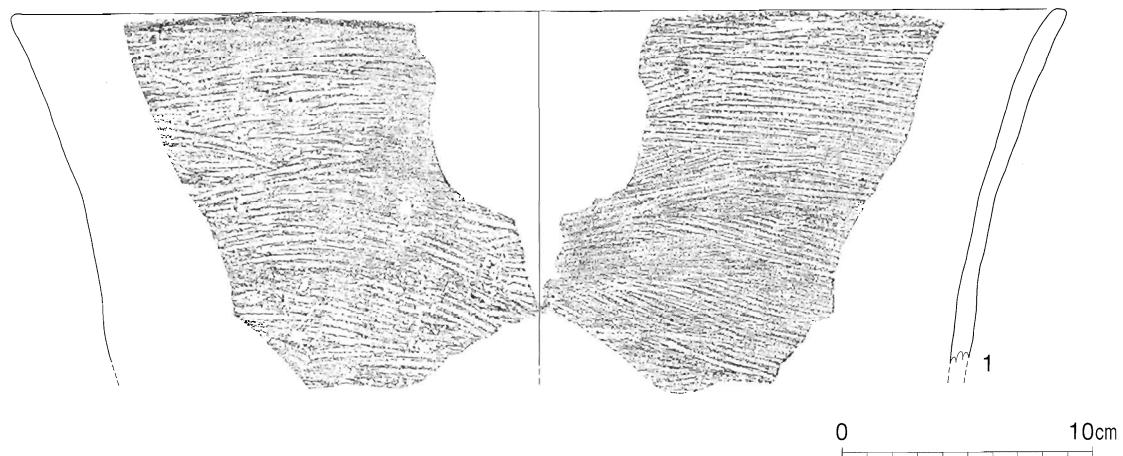
第10図 縄文土器実測図（2）

第15図1～4は船元Ⅰ式にあたる。器面調整は口縁内面の肥厚帯と外面が縄文で内面はミガキである。1、2は波状口縁である。5～9は船元Ⅱ式とその並行期と思われる。7、8は波状口縁である。器面調整は内外面ともナデが多いが、6の外面と8の内面は条痕である。施文については、6は隆帶文、7は刻み目隆帶文、8は沈線と隆帶による波状文様、9は沈線文様が施されている。8には焼成後の接合孔が穿たれている。10～14は里木Ⅱ式にあたる。器面調整は外面が特徴的なより糸縄文で、内面はナデである。10・11には弧状にヘラ描きの文様が描かれている。15・16は波子式の上げ底の鉢で、器面調整は外面が縄文である。

第16図は、北白川C式とその並行期の土器片と思われる。1は立体的な波状口縁の深鉢で、器面調整は内外面とも丁寧なミガキを施し、外面には断面U字状の太い沈線で文様が描かれている。2は緩やかな波状口縁の深鉢で、器面調整は内外面とも丁寧なミガキで、外面には断面U字状の太い沈線で文様が描かれている。3は口縁の一部に粘土をはりつけて縦方向の多条凸線が表現された鉢である。4の器面調整は外面がナデで、内面は条痕である。口縁周辺の外面には、先端が長方形の工具によって4段の刺突文が施されており、部分的に縦方向に粘土紐を貼りつけてその上にも刺突文が施されている。5の器面調整は内外面とも条痕であるが、外面は部分的に条痕をナデ消しており、そこに断面U字状の沈線で最低2段の波状文が描かれている。6の器面調整は内面が丁寧なナデ、外面が条痕である。口縁直下に粘土帯を貼りつけてその上に押し引き沈線を施しているが、炭化物の付着が著しく明瞭でない。7は外面の器面調整が粗く、幅約1.5cmの粘土紐の痕跡が顕著であるが、内面はナデ消されている。口縁端部と外面には円形の刺突文が施されている。

第17図は、後期の土器である。

擦り消し縄文の技法が多用されているが、小さな破片が多くて全体の形状がわかりにくい。1～6は擦り消し縄文土器の胴部破片である。7・8は波状口縁の一部で、それぞれ布勢式、彦崎KⅠ式にあたるとと思われる。9の器面調整は内外面とも丁寧なミガキで、口縁端部外面には縄文帯が巡らされている。口径19.6cm（推定）を測る。11の器面調整は内外面とも丁寧なミガキで、口縁部は内湾し、口縁外面にのみ文様が描かれている。15は注口土器の口縁周辺の破片である。外面には擦り消し縄文



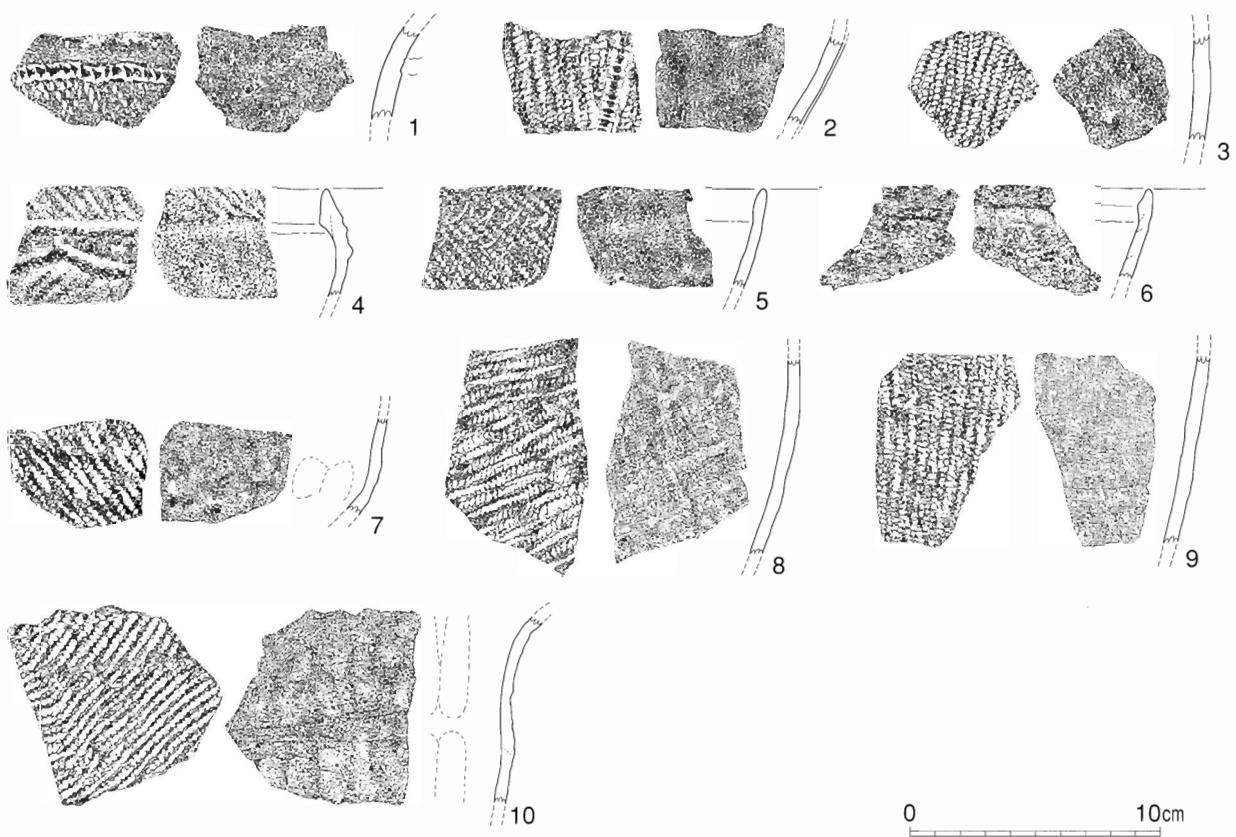
第11図 縄文土器実測図（3）

や円形刺突による美しい装飾が施され、内面は丁寧にミガキが施されている。

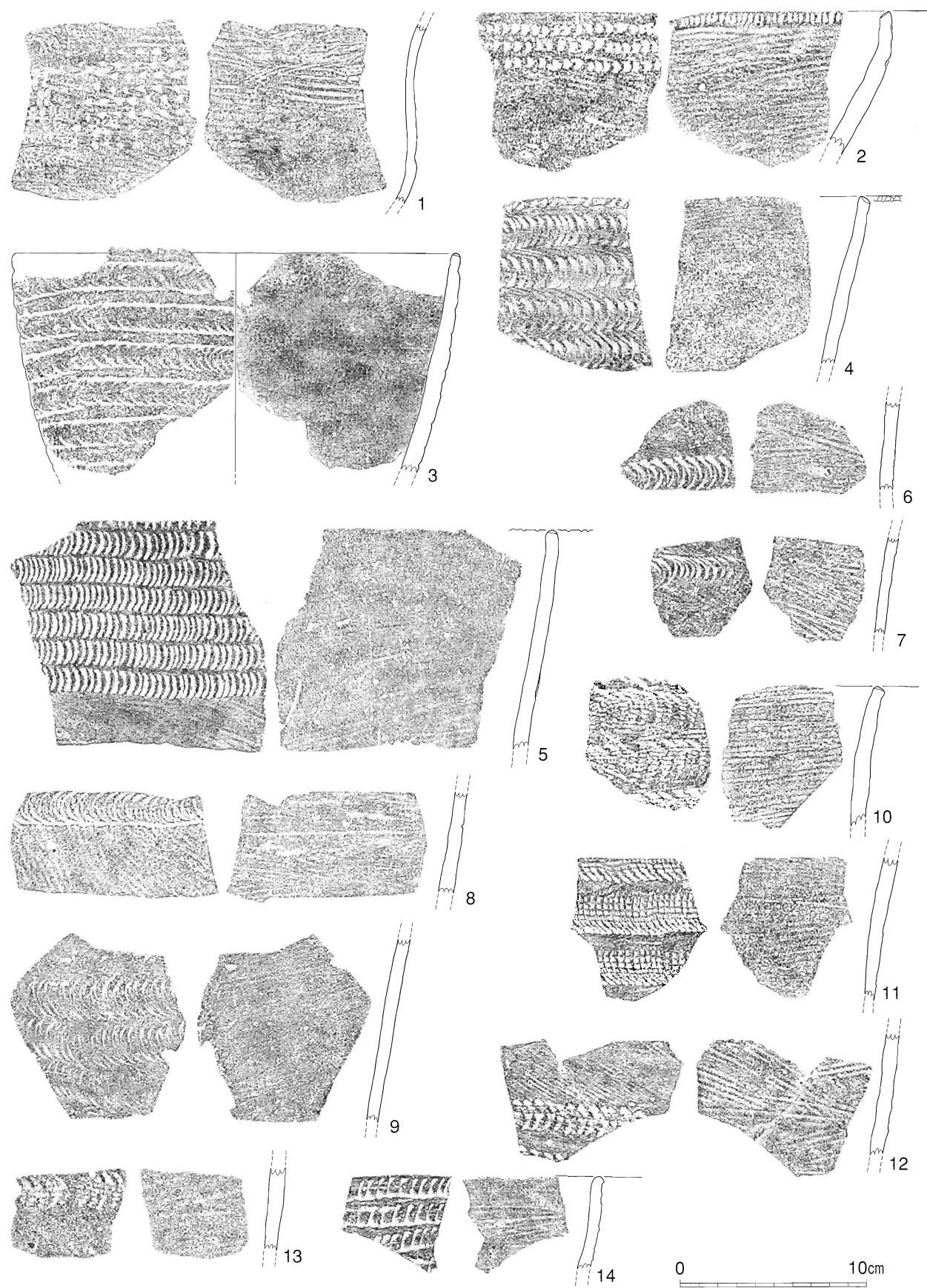
第18図～20図は晚期の土器である。

第18・19図の鉢、深鉢類は突帯文土器が多く、口縁端部外面もしくは口縁端部よりやや下がった外面に突帯や刻み目突帯が巡らされている。第19図9、12は口縁端部に刻み目が施されている。器面調整は内外面ともナデが主流であるが、第18図14、18は内外面とも条痕である。第18図1は口径20.6cm（推定）を測る小型の鉢で、第19図1は口径21.0cm（推定）、2は口径26.2cm（推定）を測る深鉢である。15は浅鉢で、口縁部外面にはヘラ描き文様が描かれている。17の器面調整は内面が巻貝条痕で、外面がナデである。口縁端部の内面と口縁下の外面には、ナデた後に巻貝の先端部分を利用した刺突文が施され、外面を刺突した部分の内面は円形に盛り上がっている。第20図は突帯文土器以外の鉢、深鉢、浅鉢である。2の口縁端外面はやや突帯状であるが、口縁端部の粘土の処理の痕跡と思われる。器面調整はナデが主流であるが、2の外面は条痕である。5には焼成後の接合孔が穿たれている。1は口径15.2cm（推定）、2は口径24.3cm（推定）、3は口径32.8cmを測る。9は底部で、円盤状の粘土から胴部を立ち上げていった状態が観察できる。底径は5.1cmを測る。10は口縁が内傾する浅鉢で、器面調整は内外面ともミガキである。水平口縁で、口径は22cm（推定）を測る。11は緩やかな波状口縁の浅鉢である。口縁端部は凸部でやや内傾、肥厚し、そこを強調するかのように両わきにヘラによる沈線が描かれている。器面調整は外面が風化のため不明、内面は丁寧なミガキである。

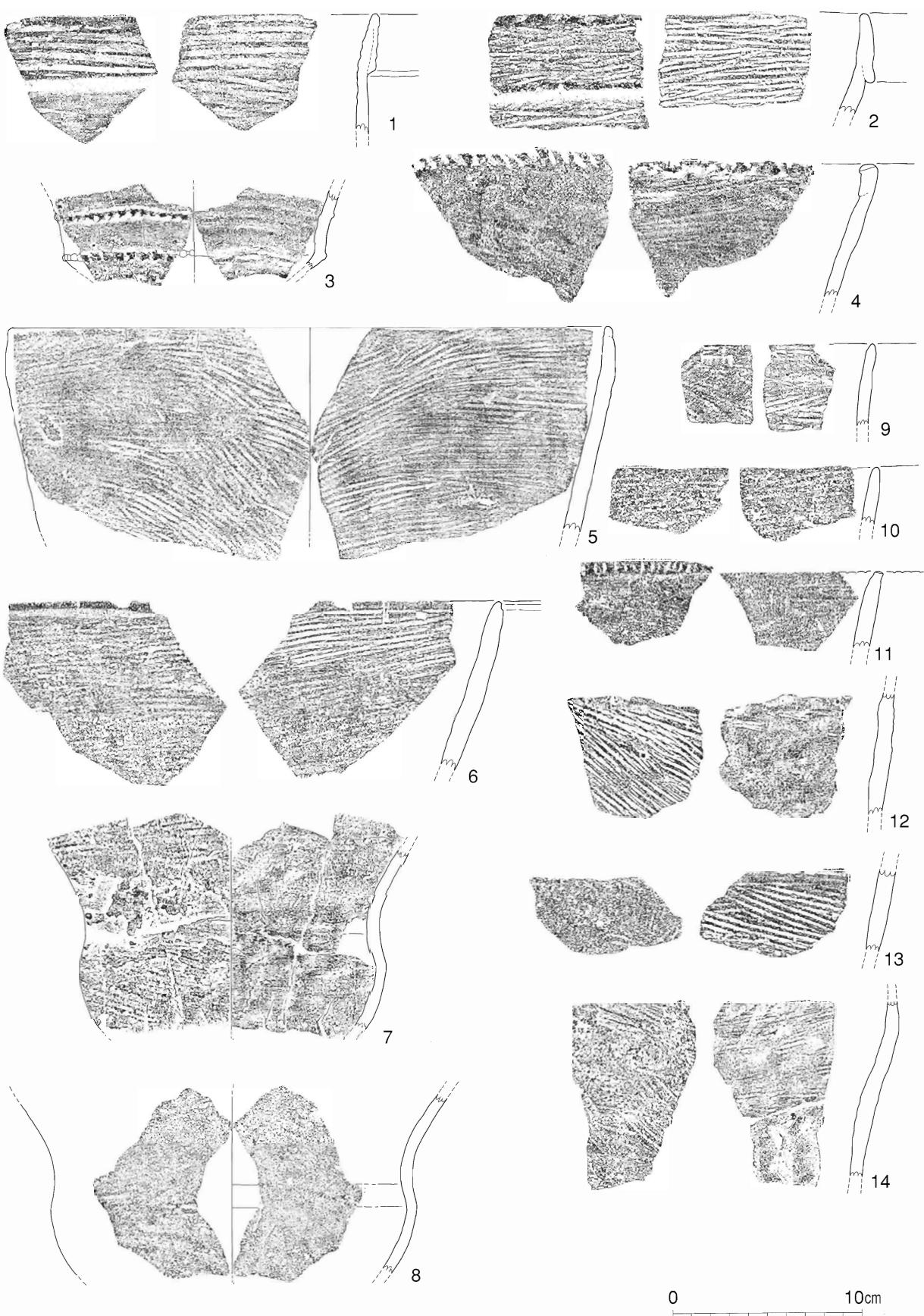
第21図は粗製土器である。1は口径28.2cm（推定）、2は口径30.8cm（推定）を測る。10には焼成後の接合孔が穿たれている。



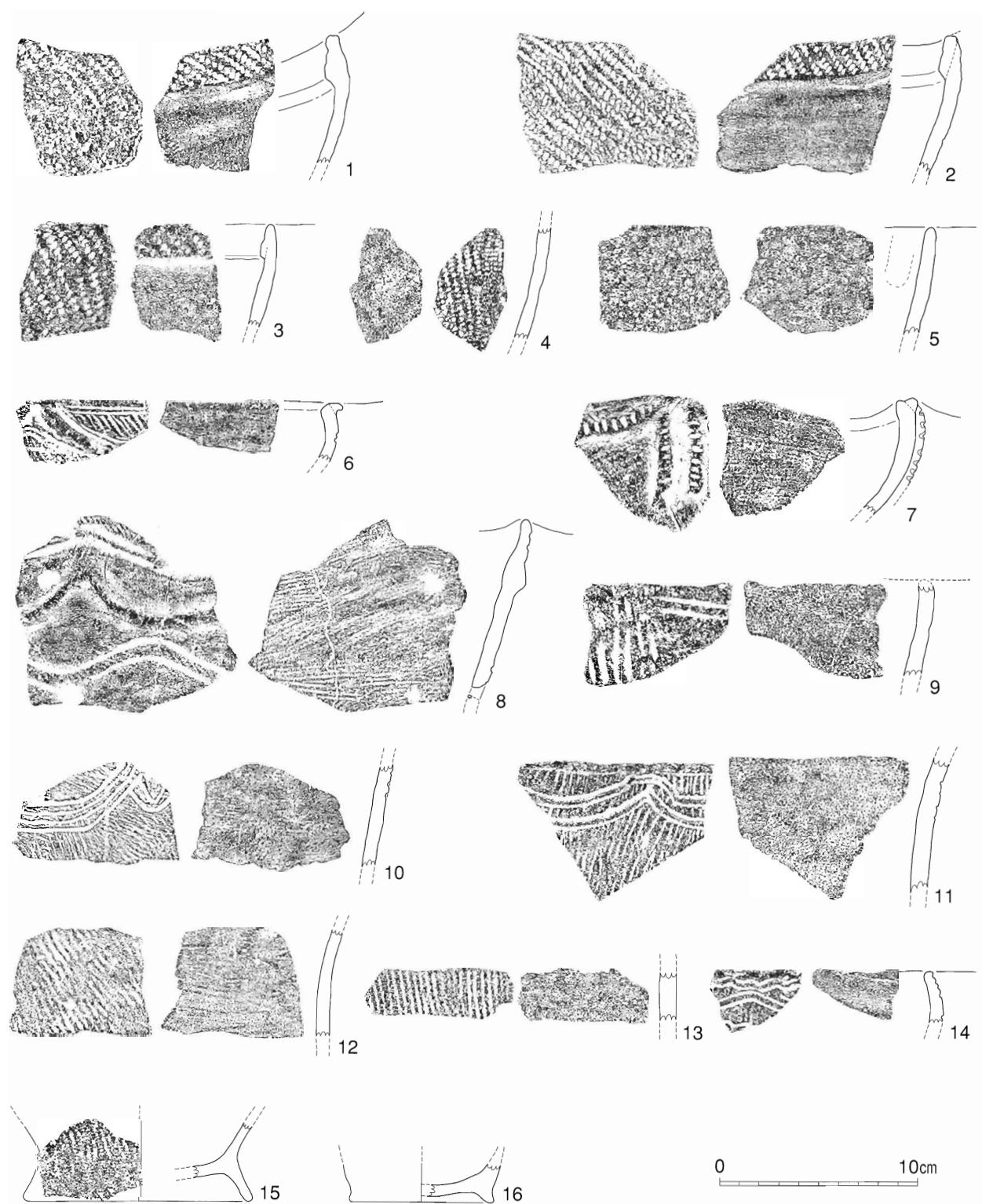
第12図 縄文土器実測図（4）



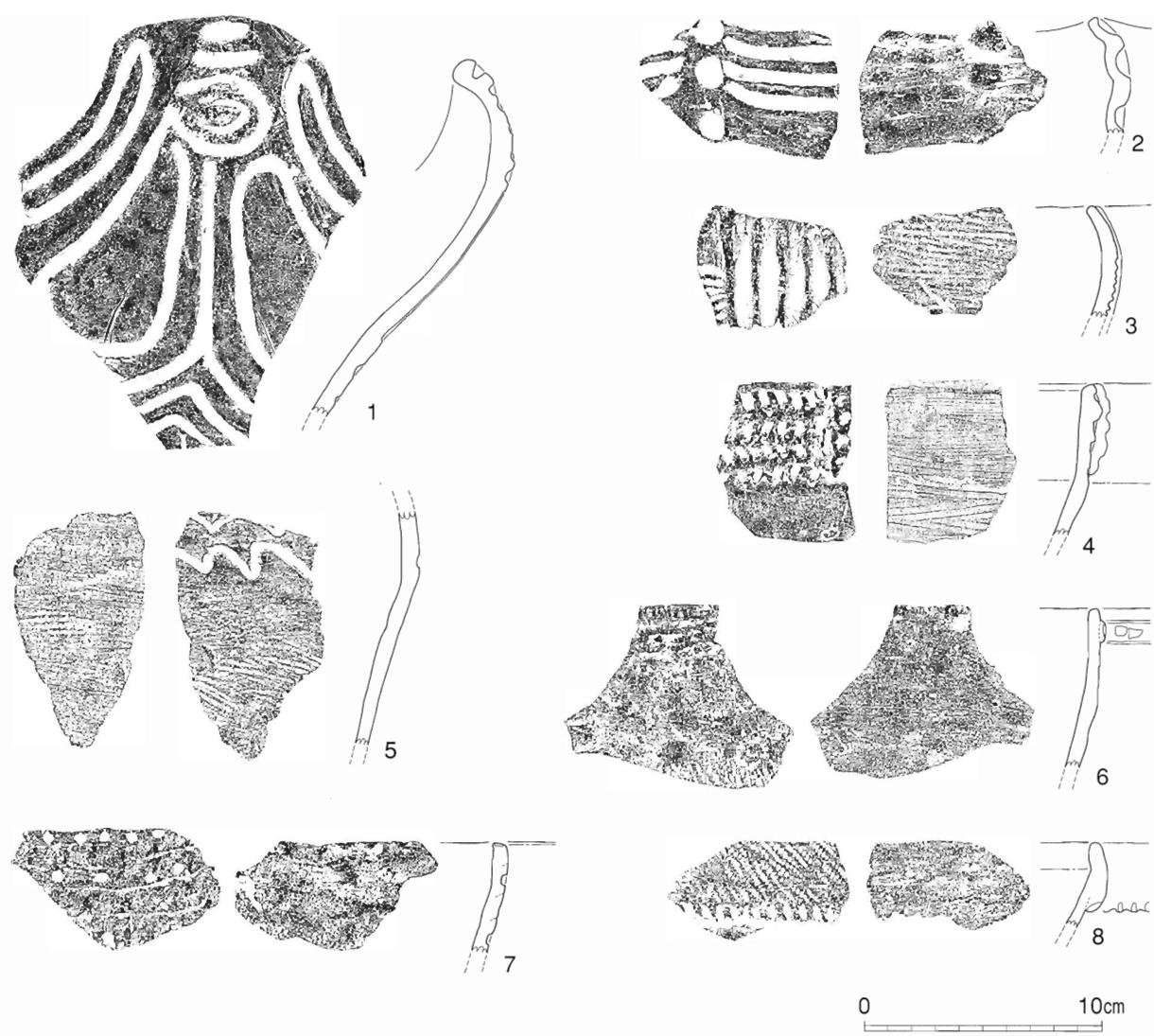
第13図 縄文土器実測図（5）



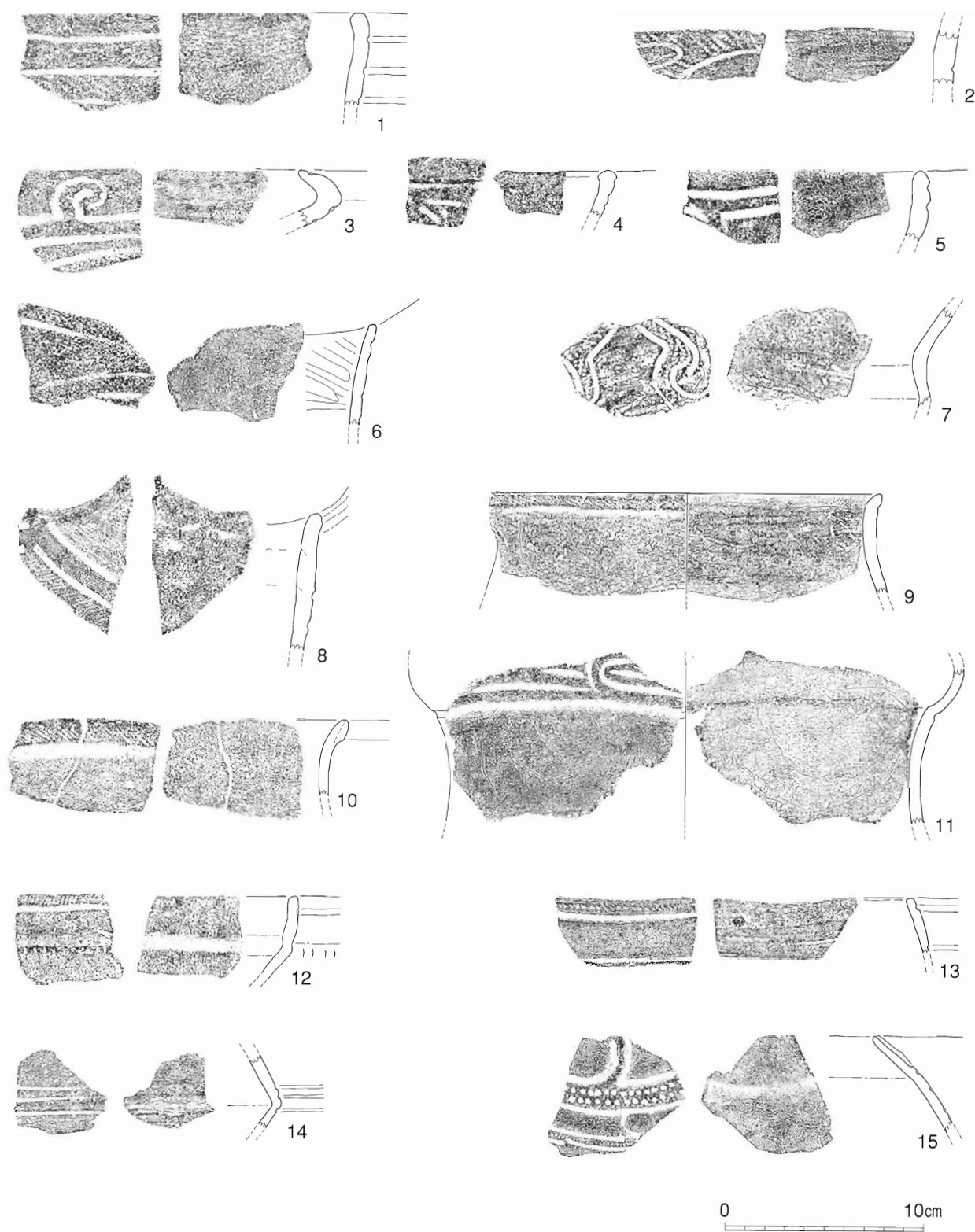
第14図 繩文土器実測図（6）



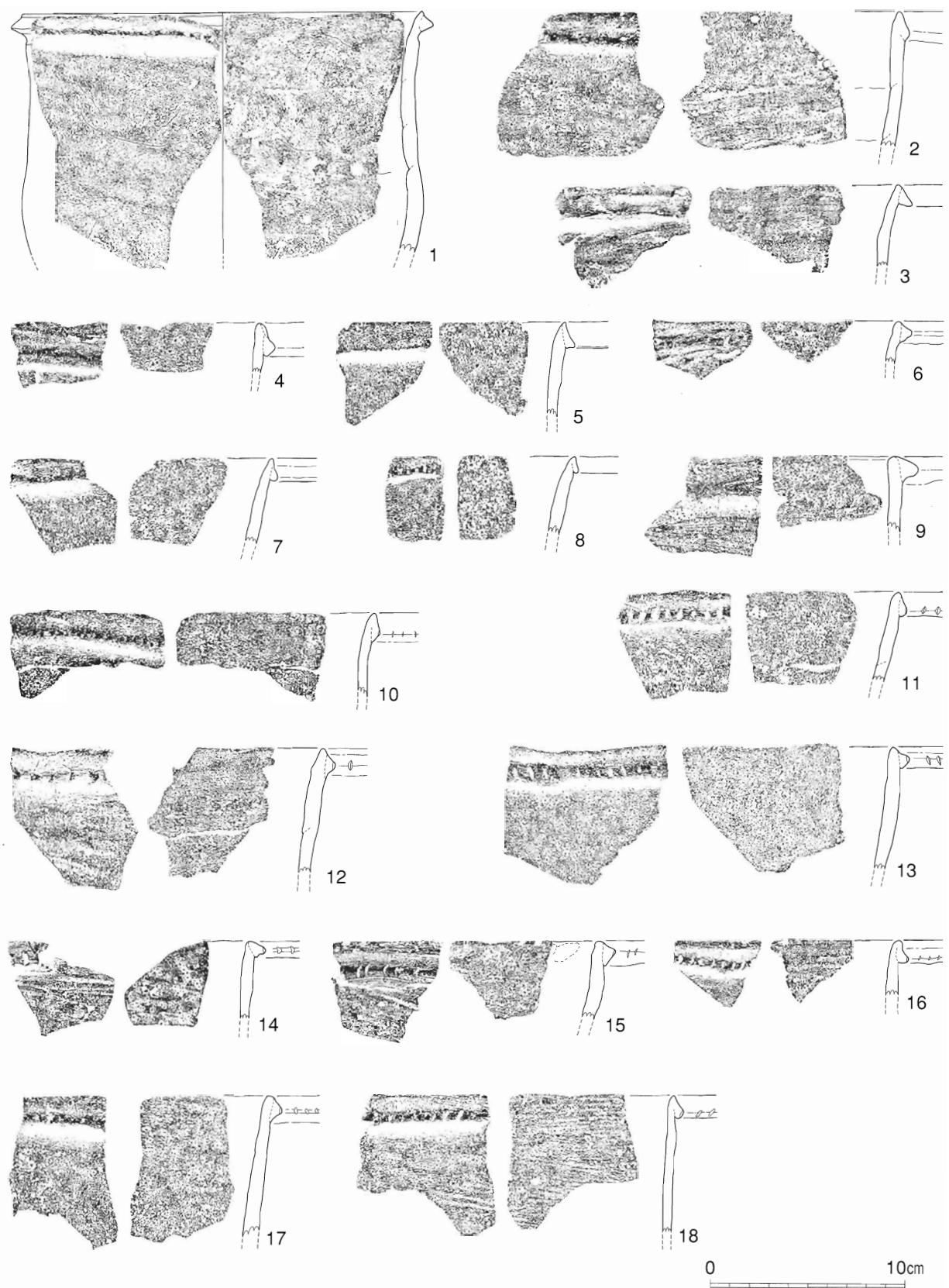
第15図 縄文土器実測図（7）



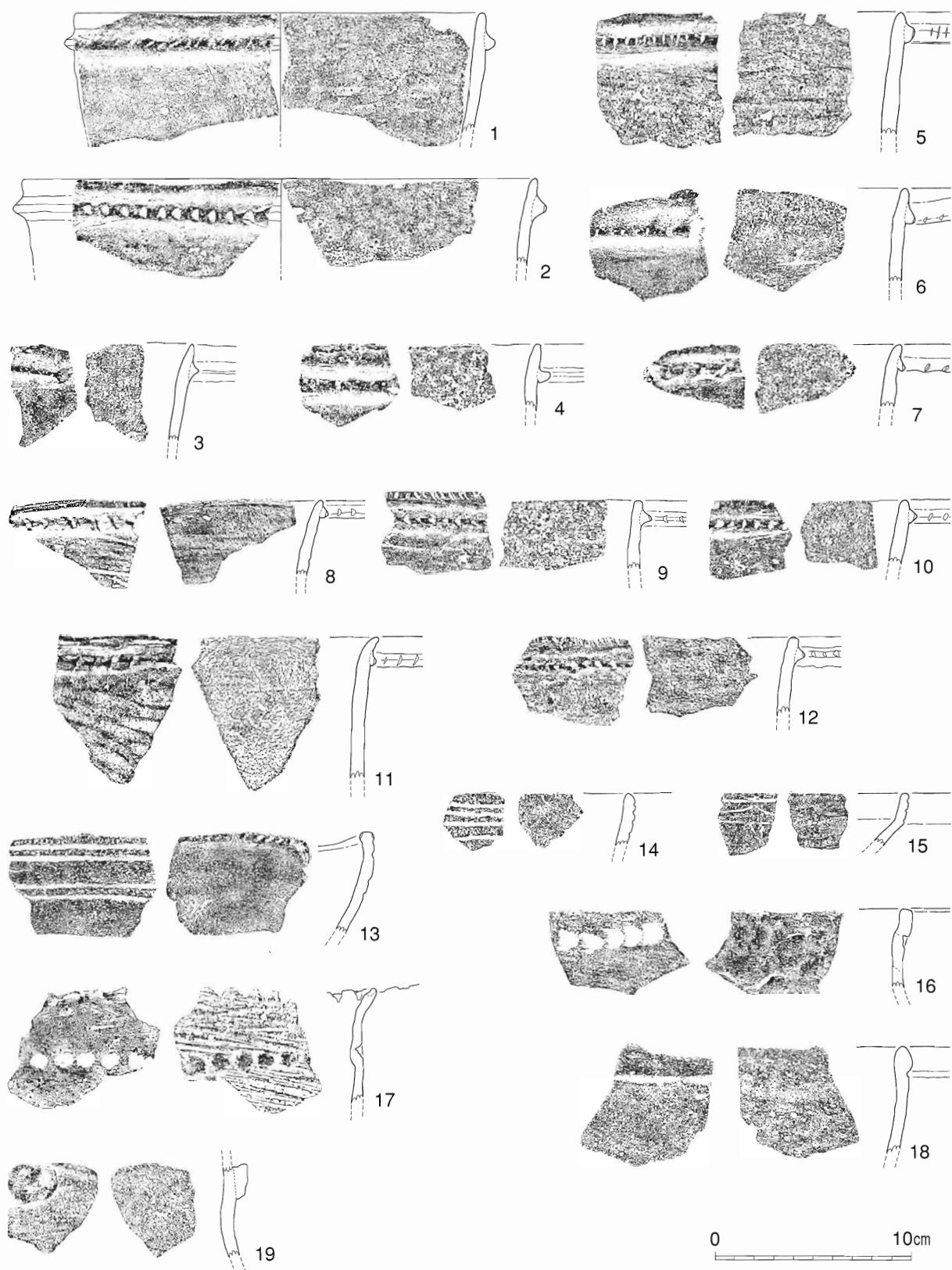
第16図 繩文土器実測図（8）



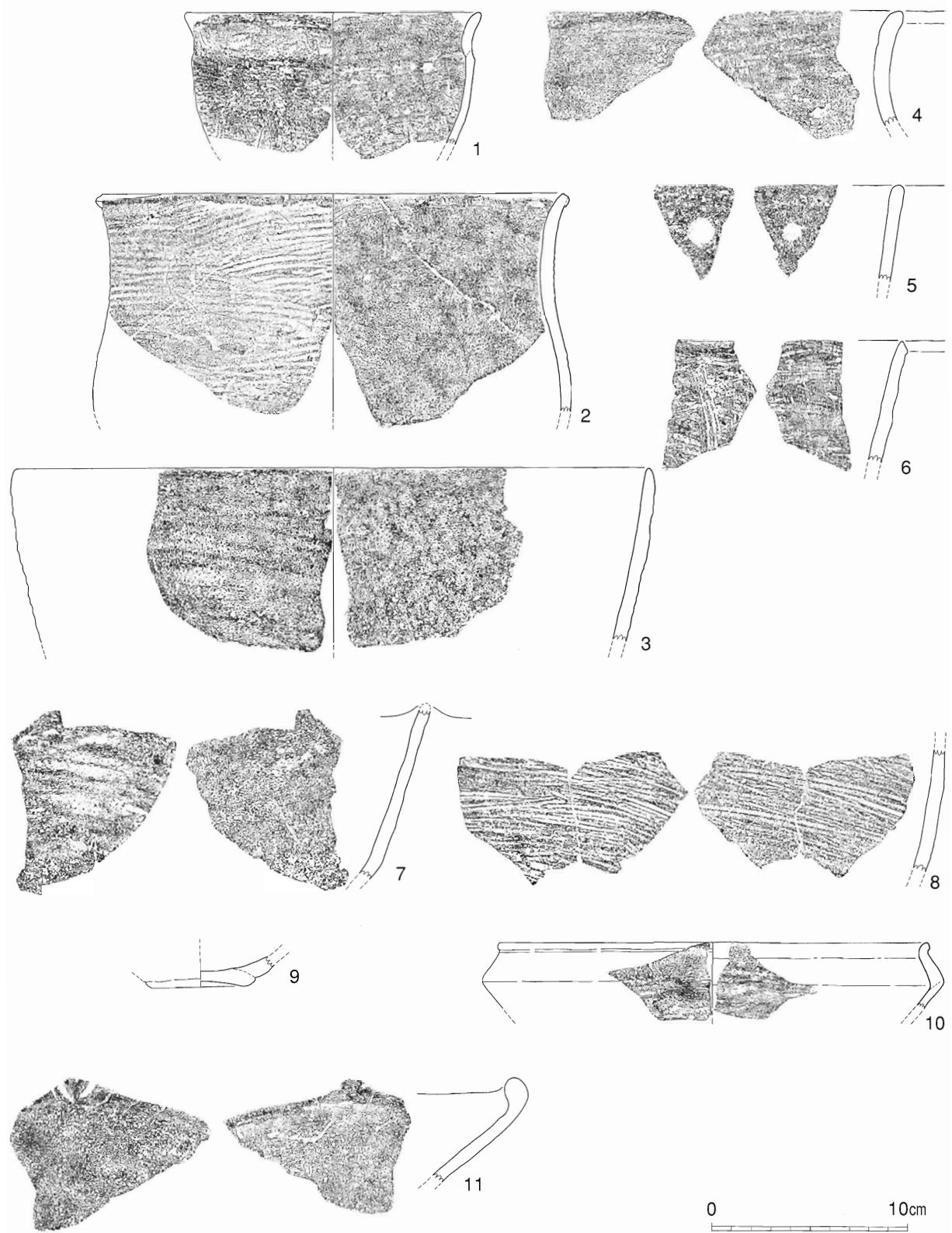
第17図 繩文土器実測図（9）



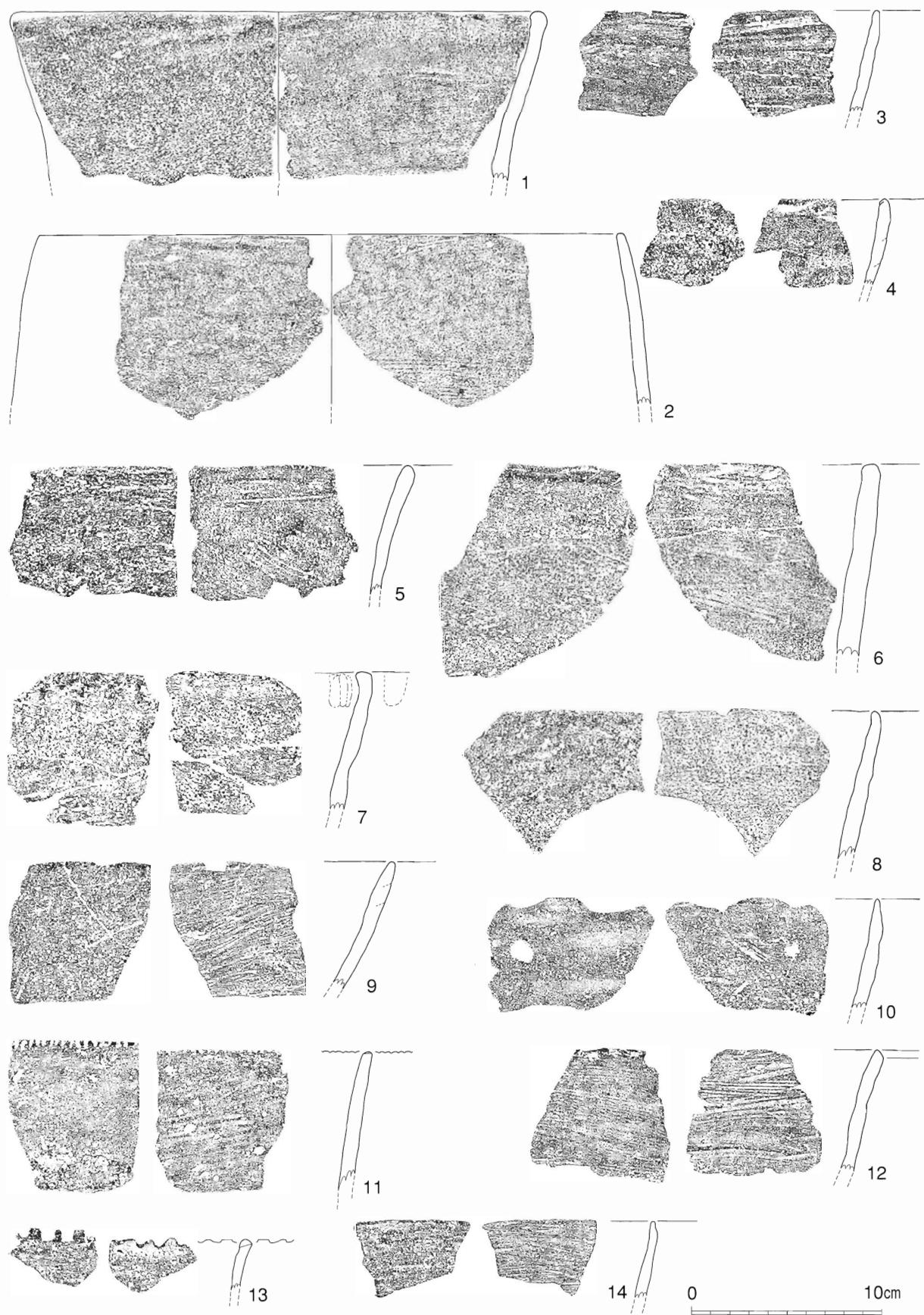
第18図 縄文土器実測図 (10)



第19図 繩文土器実測図 (11)



第20図 縄文土器実測図 (12)



第21図 縄文土器実測図 (13)

(2) 弥生土器

弥生土器は出土数が少ないうえ小さな破片ばかりであるが、可能な限り図面化をおこなった。器種は広口壺、短頸壺、無頸壺、甕、鉢、高杯がある。時期としては、前期から後期初頭がまでがあり、松本編年¹⁾で表現すると、I様式からIV様式の土器が大半を占めており、V様式以降の土器の数はきわめて少ない。以下で器種ごとに概略を記す。

第22図から第24図は壺である。

第22図1～6は前期の広口壺、10は短頸壺で、7～9は中期の広口壺である。1は口頸部界が比較的明瞭である。器面調整は外面がミガキで、内面は風化が著しいがナデと思われる。2は頸胴部界の段が明瞭で、肩部には貝殻腹縁による羽状文や斜格子文が描かれている。3は頸胴部界の段の位置に沈線が施されており、残存している胴部全体にヘラ描きによる格子状の文様帶が縦方向や斜方向に描かれている。頸部には二条の沈線が巡らされている。4は小片で、肩部のヘラ描き距歯文、および一部横線が加えられた三角文である。1から3は前期でも古いタイプの壺である。5、6は胴部に張り付け突帶が巡らされた壺である。5は2条が1単位で、10は口縁が短く外反する短頸壺で、口縁の下には6条のヘラ描き沈線が巡らされ、その下には円形刺突文が施されている。7は頸部に櫛描き文が巡らされたもので、口縁端部と口縁端内面および頸部の櫛描き文下には三角形の刺突文が施されている。8は頸部に刻み目のある貼りつけ突帶を何条か巡らしたものである。9も貼りつけ突帶を数条巡らしたもので、口縁部外面はハケメ調整がおこなわれている。

第23図は中期の広口壺で、1～3は口縁が大きく朝顔形に外反し、1、2では端部が下垂し、3では上向きの幅広となっている。口縁端部および口縁内面にヘラ描きや円形貼り付け文による派手な装飾が施されている。4～6は口縁端部の文様が多条回線と刺突文のみに簡素化されたもので、6では口縁の立ち上がり外面に何条かの密な貼り付け突帶が巡らされている。7は口縁がやや垂直気味に立ち上がる、中期の中でも新しいタイプの壺である。

第24図は1、2が中期の広口壺の胴部である。櫛状工具による波状文や沈線文が描かれている。3は中期の無頸壺である。口縁端部には雑な刻み目が施され、口縁直下の外面には櫛描き沈線文が巡らされている。4は中期の短頸壺である。口縁端部外面に刻み目が施されており、口縁直下外面には櫛描き沈線文が巡らされ、さらにその下に三角形の刺突文が施されている。

25図から29図までは甕である。甕は形状のみによる時期細分が困難であるため、前期・中期・後期と大きく3分して掲載した。

第25図1から第26図3は前期の甕である。口縁はすべて如意形を呈している。全体形は口縁から底部にかけて自然にすぼむタイプが多いが、第25図8や第26図2のように胴の上部が若干張るものも見られる。施文としては、口縁下外面に1条～6条のヘラ描き沈線が巡らされたものがある。また、25図12では6条の沈線が巡らされた下に、三角形の刺突文が施されている。また、第26図2ではヘラ描き沈線の間に竹管状の刺突文が加えられている。

第26図4から第29図6までは中期の甕である。

第26図4～7、第27図は中期でも古いタイプの甕で、口縁は如意形、くの字形、逆L字形の3種類

がある。全体の器形は第27図5、6、11、12のように胴部が張るものが見られる。調整はハケメが主流である。施文としては、前期のヘラ描き沈線文が発展した、櫛描き多条沈線文が第26図5～7、第27図1に施されている。前期から続く口縁部の刻み目も若干残る。この時期の新しい傾向としては、施文の位置が以前より若干下がり、第26図4ではハケメ原体による列点文、第27図4では円形の列点文、8では1条のヘラ描き沈線が施されている。

第28図、第29図1～6は中期でも新しいタイプの甕で、くの字形口縁の端部が拡張し、数条の凹線が巡らされるようになる。頸部には第28図12～15、第29図3、4のように、指頭圧痕文帯が巡らされているものも見られる。全体の器形は胴部上半が張るようになり、第28図11～16、第29図1～6のように大きく張りだすものも出現する。調整はハケメが主流である。施文は口縁端部の凹線と頸部の指頭圧痕文帯以外は少ない。第28図9では口縁端部に1条の凹線を引いた後、刻み目が施されているほか、第29図3では口縁端部に数条の凹線を引いた後、円形の貼りつけ文が施されている。4では凹線を引いた後にヘラの押し当てと思われる密な斜線が施されている。

第29図7～13は、松本編年では第V様式に含まれる、後期初頭の甕である。

外形的には、中期よりもさらに口縁端部の幅が広がり、複合口縁に近い形状を呈している。調整は、外面については破片が小さいため不明であるが、内面は頸部までケズリが施されている。

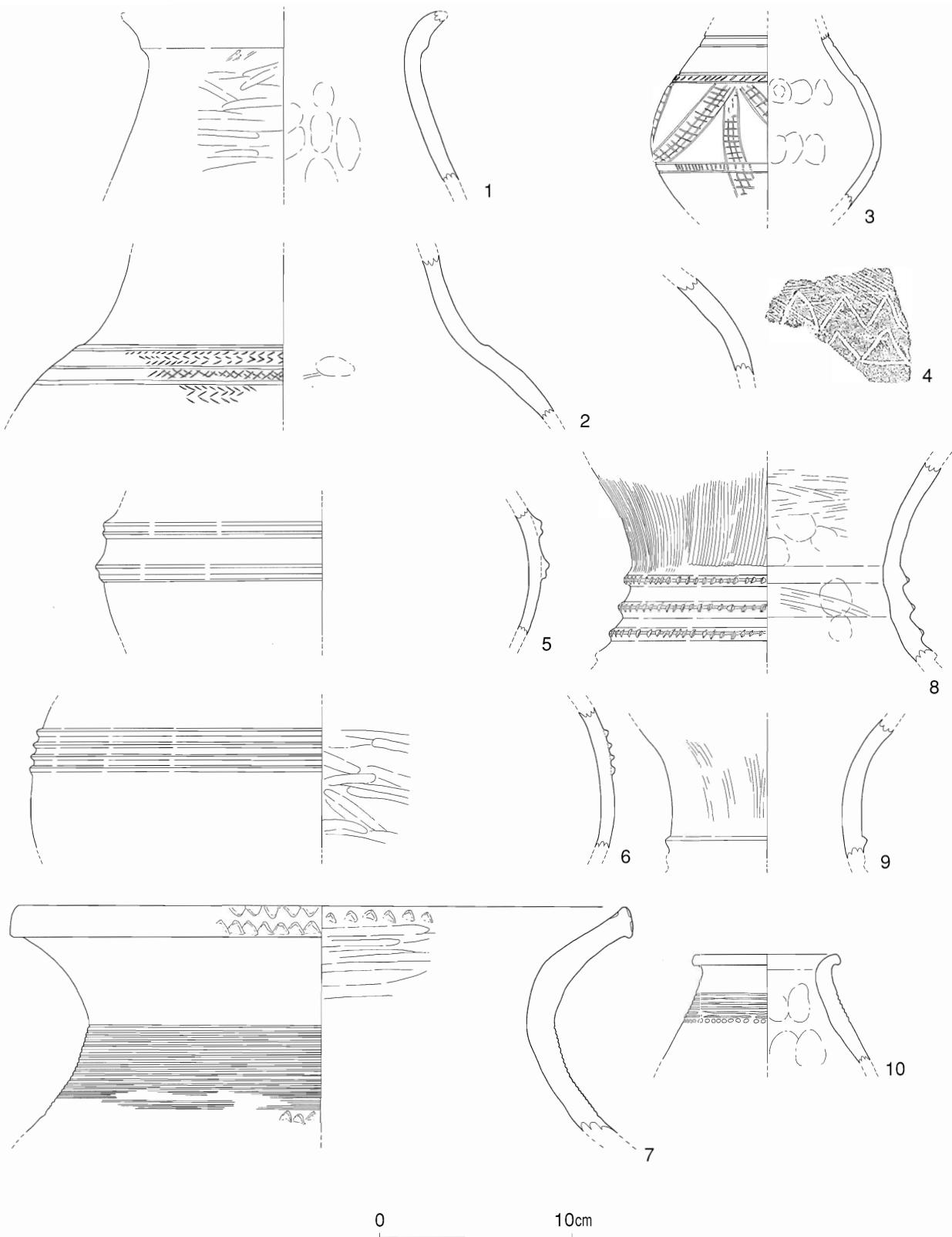
第30図は、壺および甕の底部である。

1～6は壺の底部と思われる。器面調整は基本的には外面がミガキで、内面はミガキまたはハケメである。この中で特徴的なのは4で、胴部の張りに対して底径が7.2cmと小さい。底部周辺の立ち上がり外面には平行線状のタタキの痕跡が見られ、底部接地面には大きめな木の葉の葉脈痕が観察できる。回転台上に木の葉を敷き、その上で土器を作成したことがうかがえる。7～15は甕の底部と思われる。壺、甕とも底部接地面が平坦なものと、中央がやや上がるものと2種類が見られる。

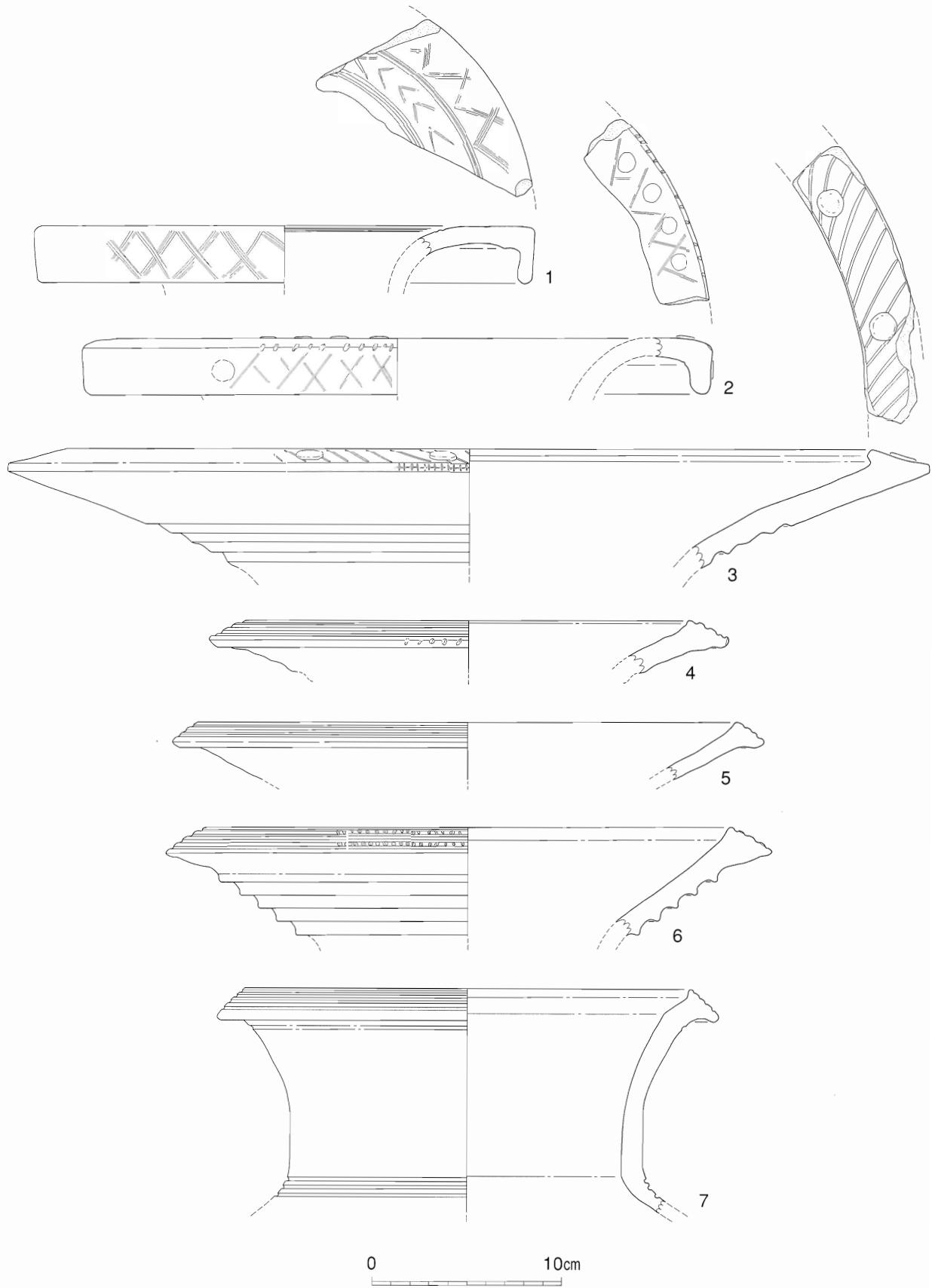
第31図は、壺と甕以外の器種である。

1、2は如意形口縁の鉢、3は直口口縁の小型の鉢である。時期はともに前期と思われる。4は上下端を欠損するが、上げ底の甕である。5～10は高坏で、時期は中期後葉である。7は口縁端部がフラットで幅広く、斜格子文が描かれているほか上下方向に小さな孔が穿たれており、装飾性が高い。11、12は直口口縁の鉢で、口縁直下の外面には指頭圧痕文帯が巡らされている。時期は中期中葉である。13は頸部に一対の瘤状突起がつけられた鉢で、時期は口縁の形状から前期末と考えられる。

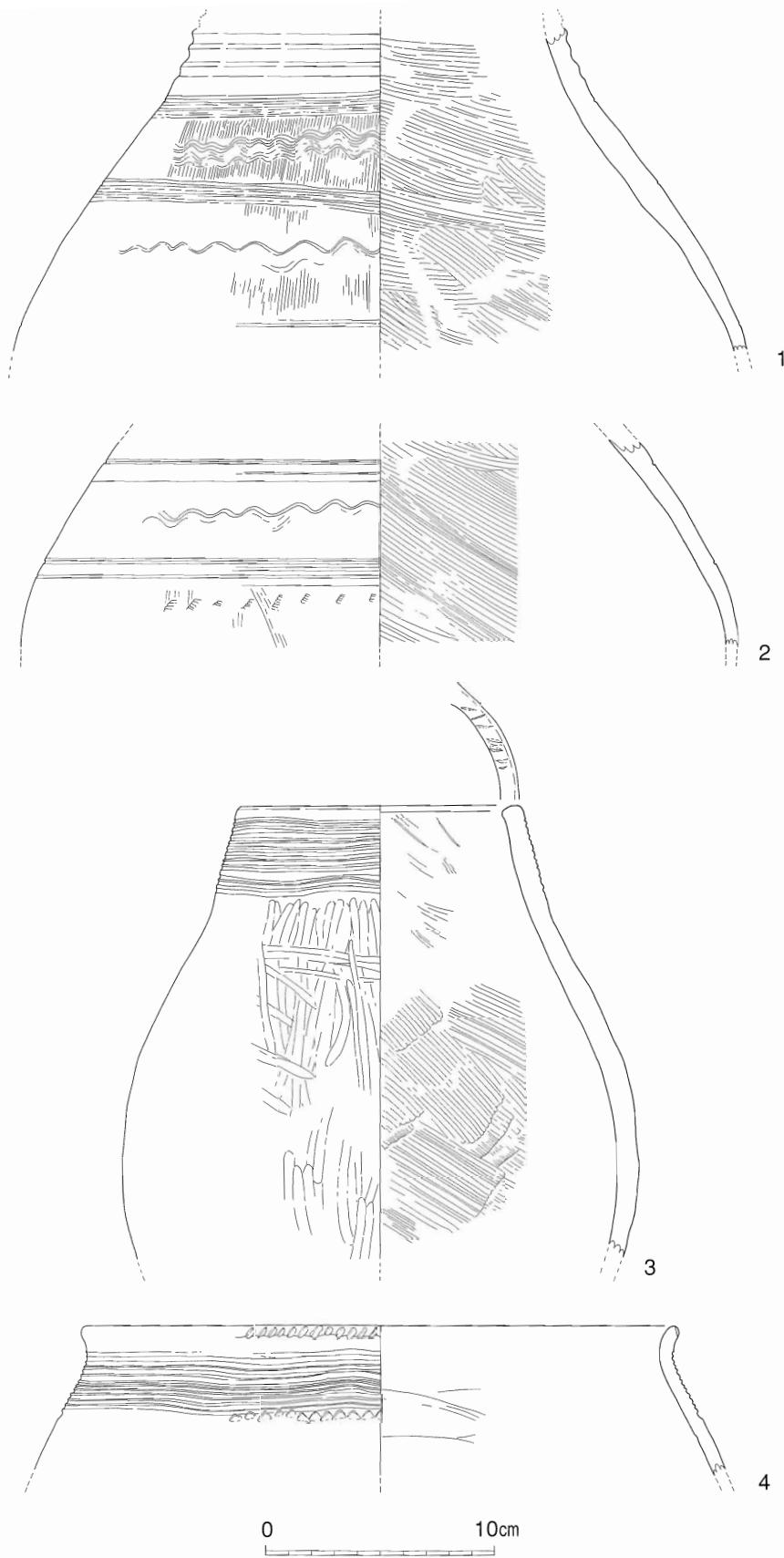
註1 松本岩男「出雲・隱岐地域」『弥生土器の様式と編年』1992年



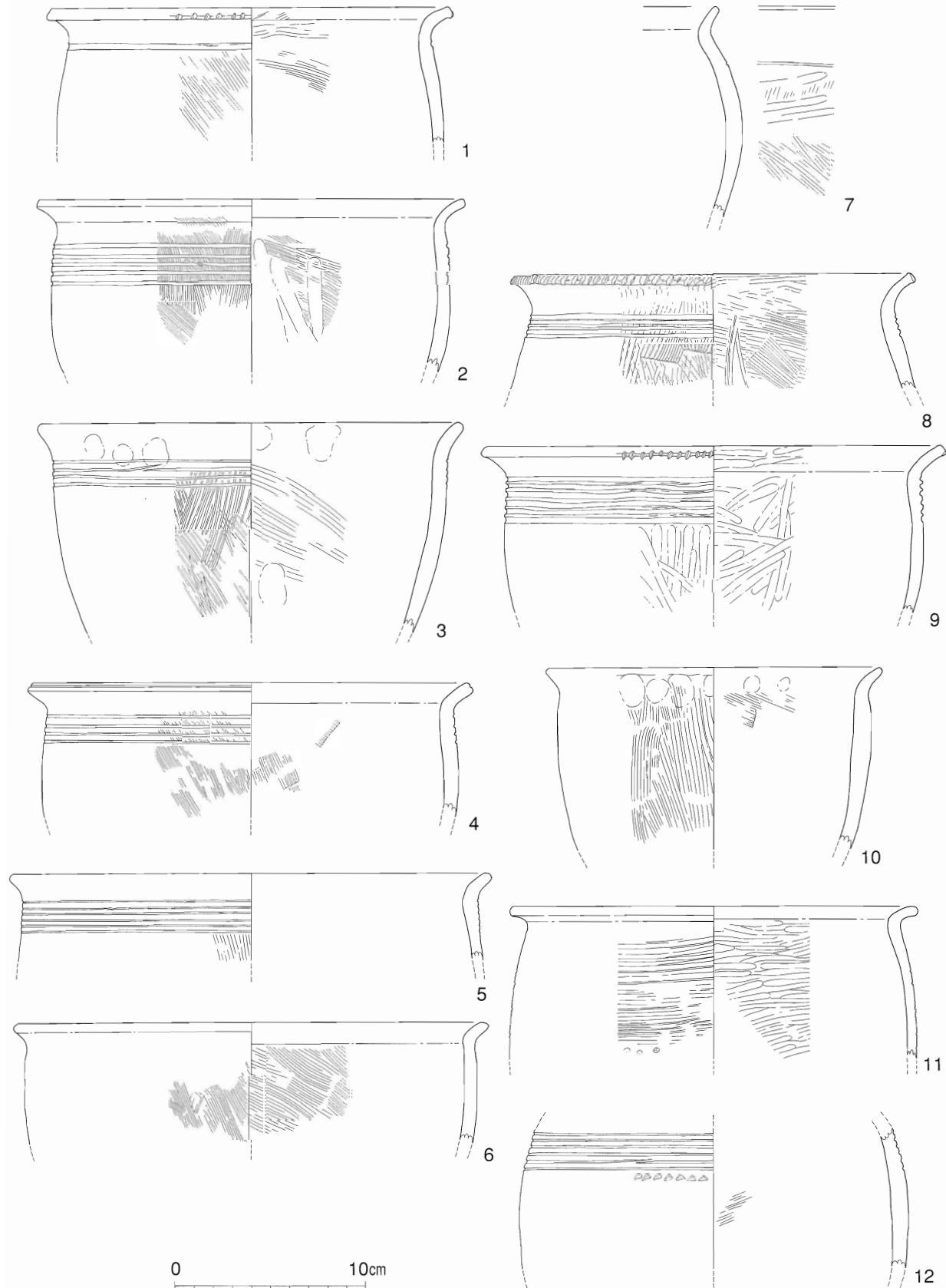
第22図 弥生土器実測図（1）



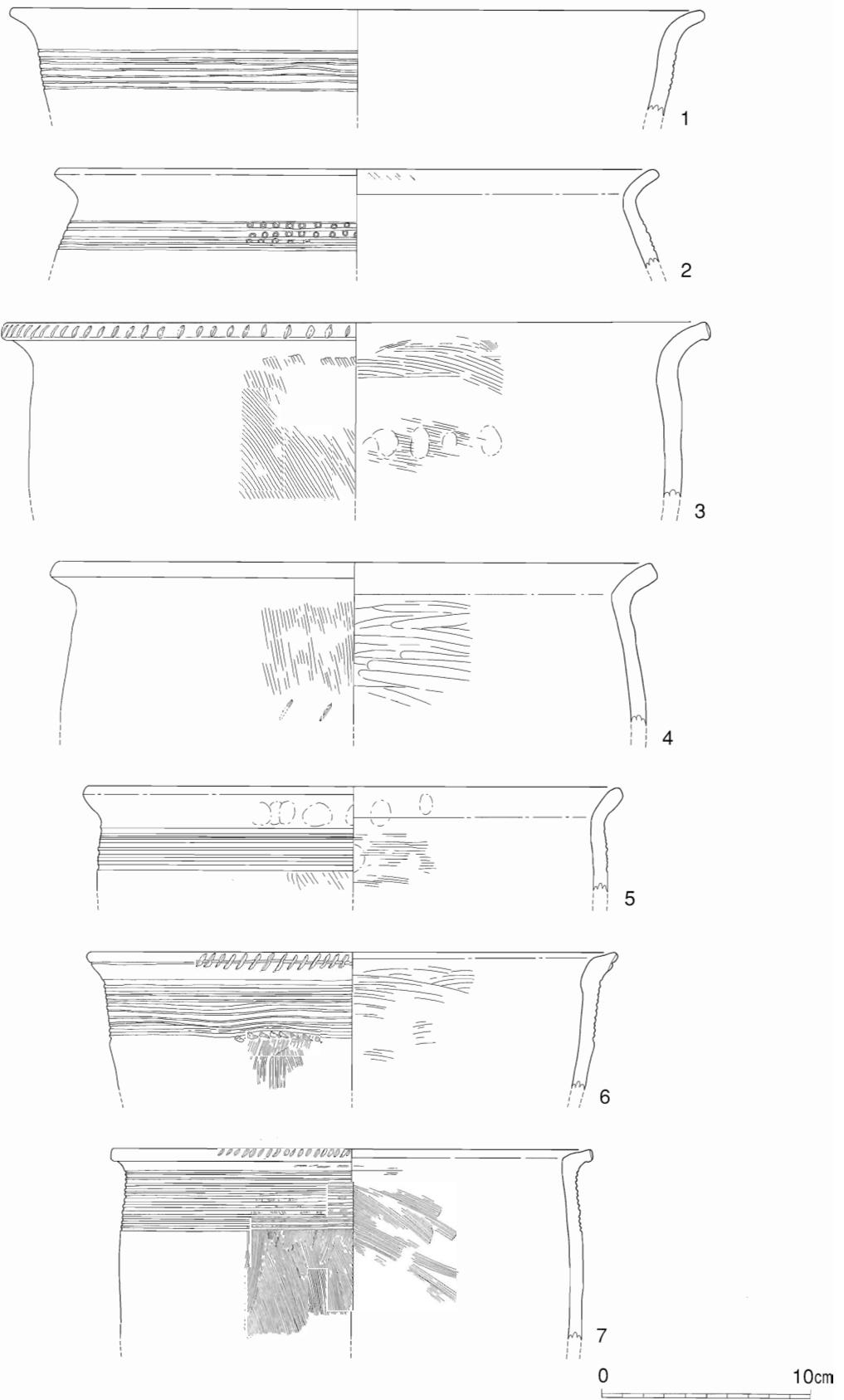
第23図 弥生土器実測図（2）



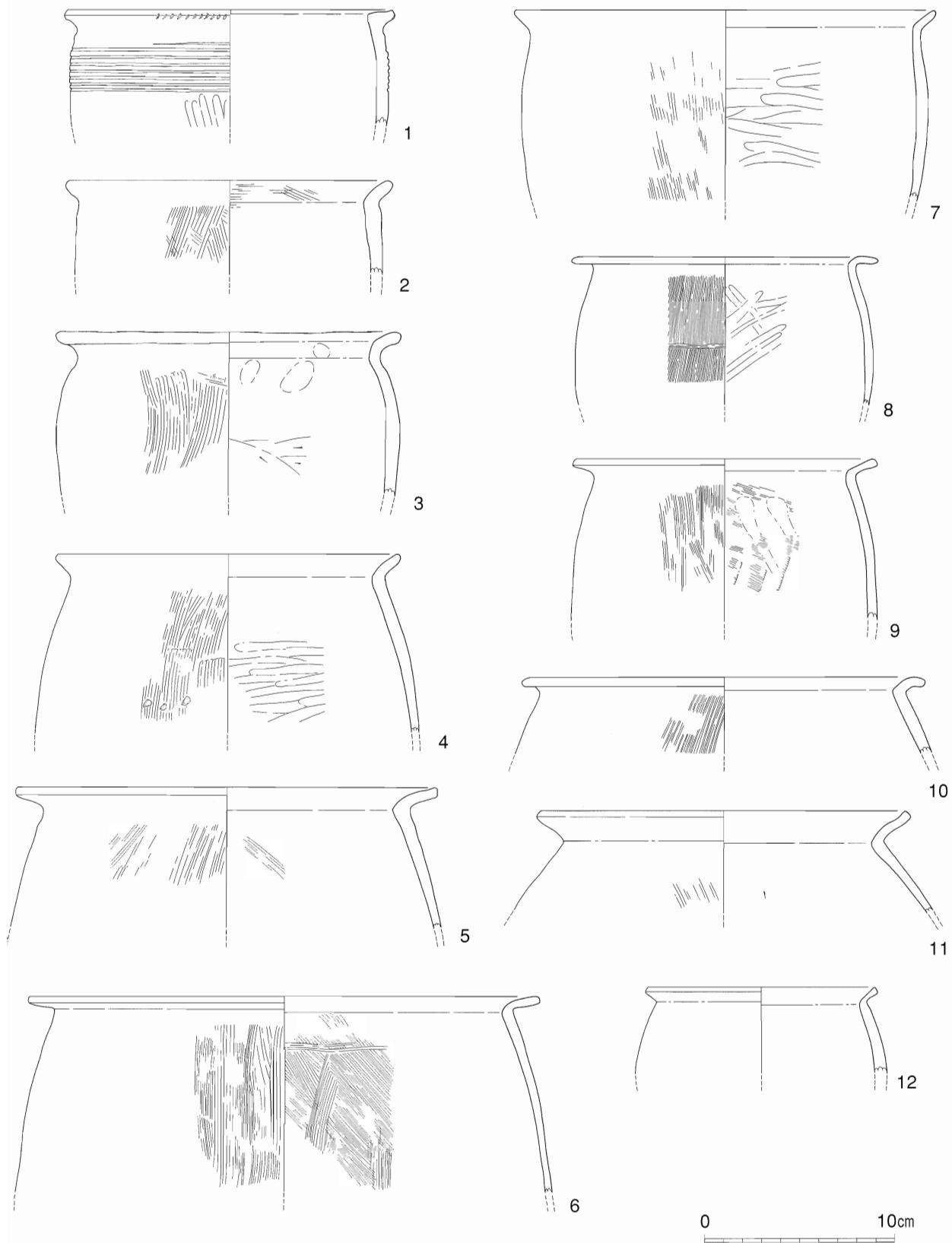
第24図 弥生土器実測図（3）



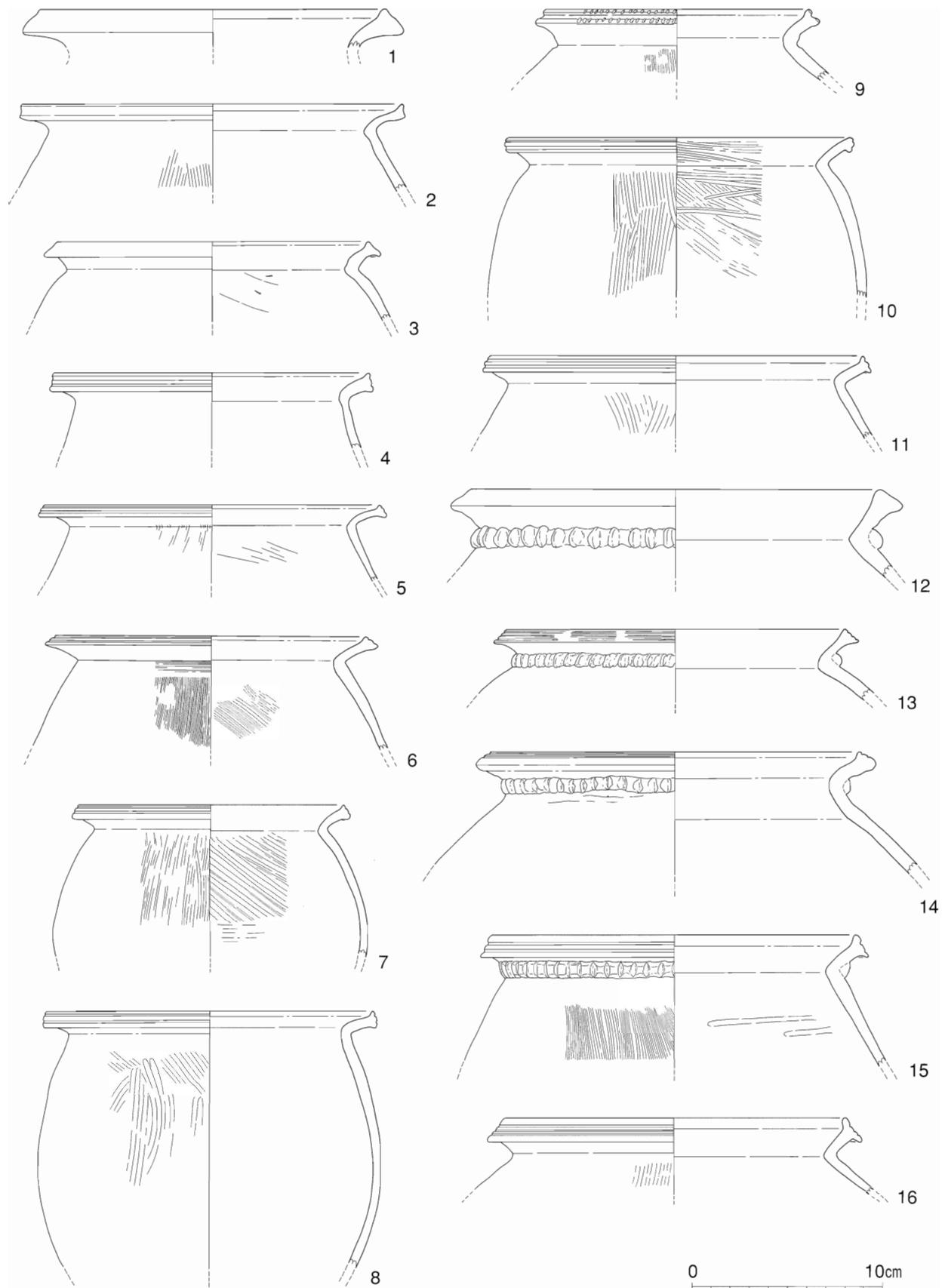
第25図 弥生土器実測図（4）



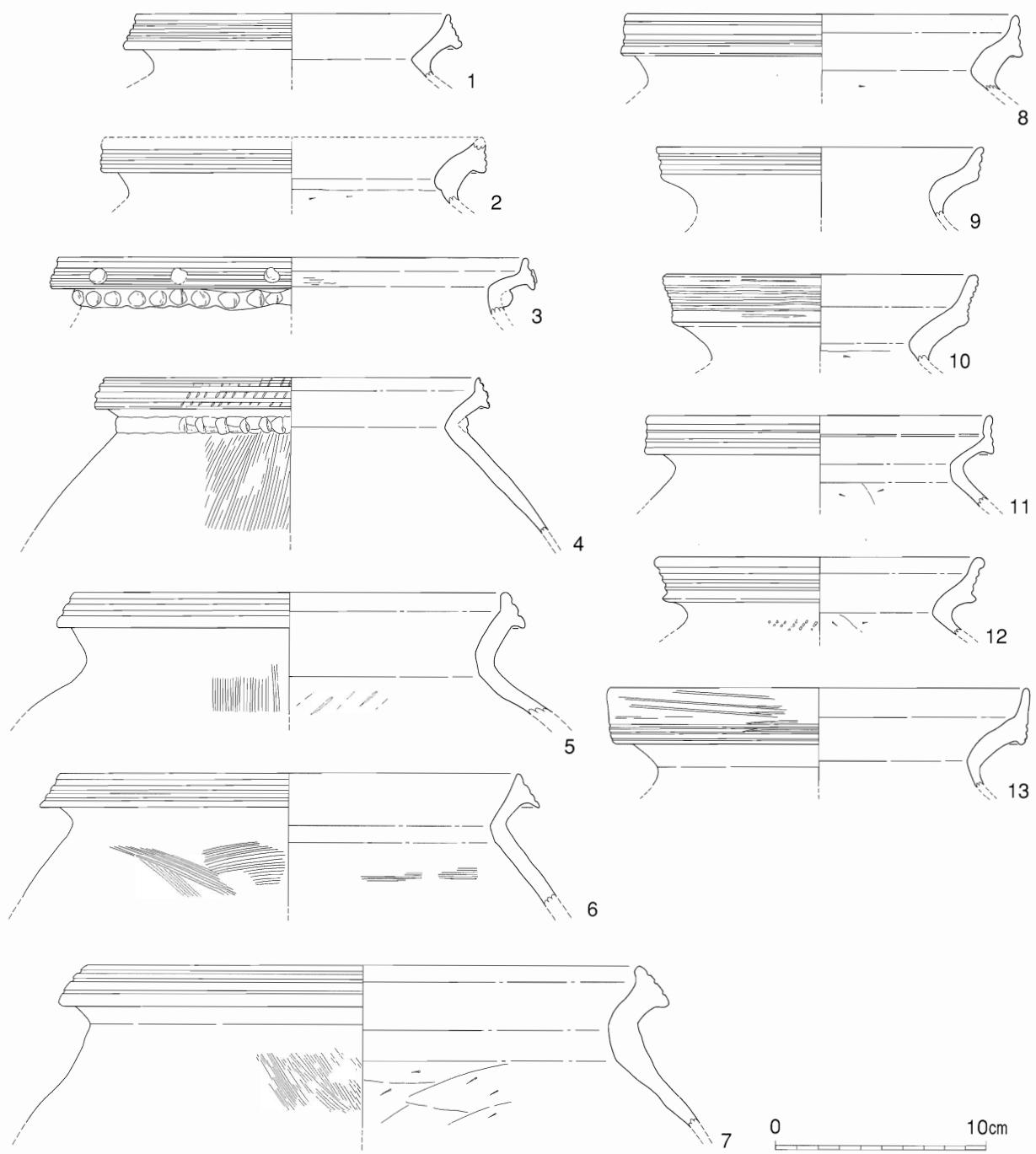
第26図 弥生土器実測図（5）



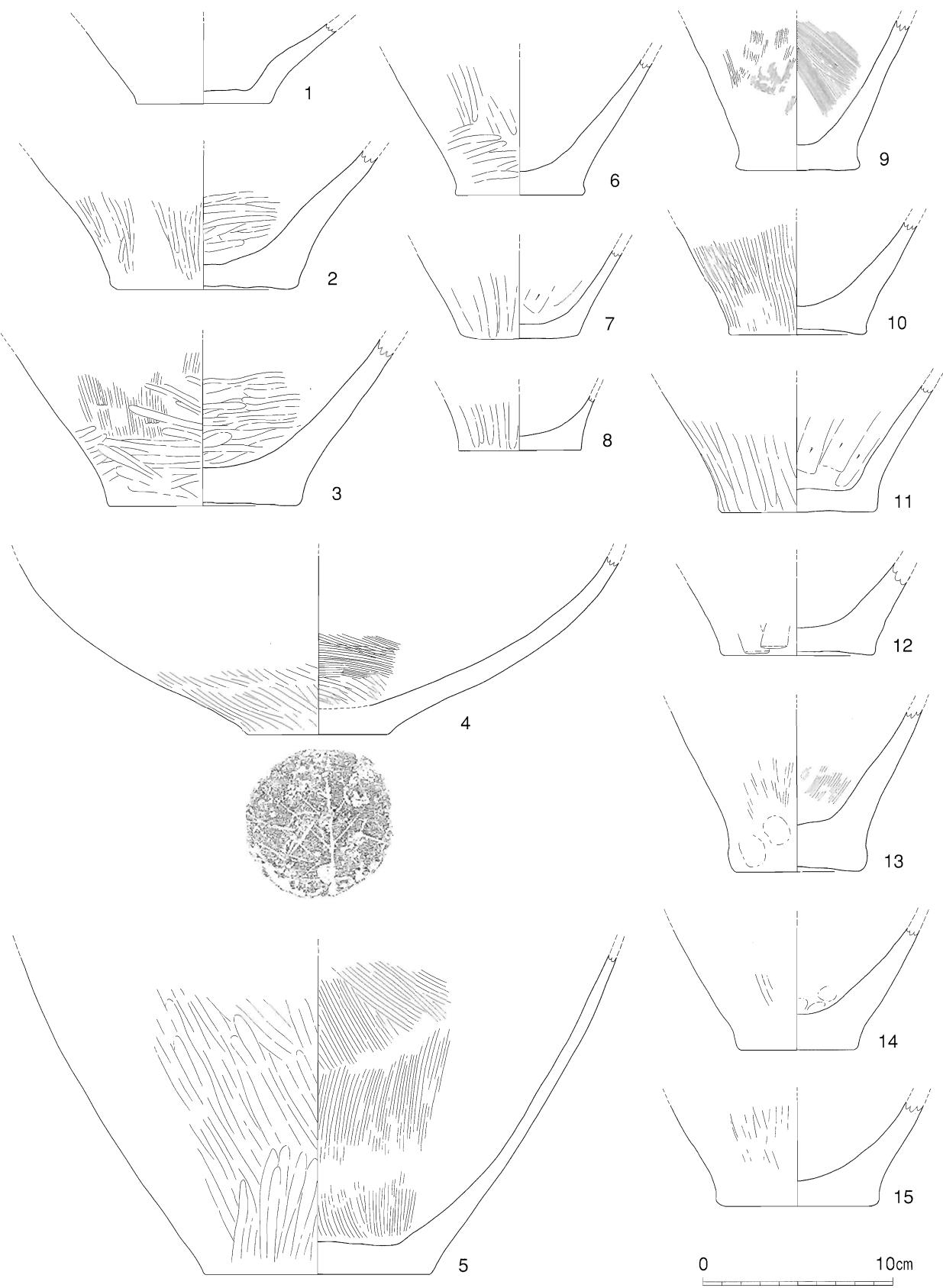
第27図 弥生土器実測図（6）



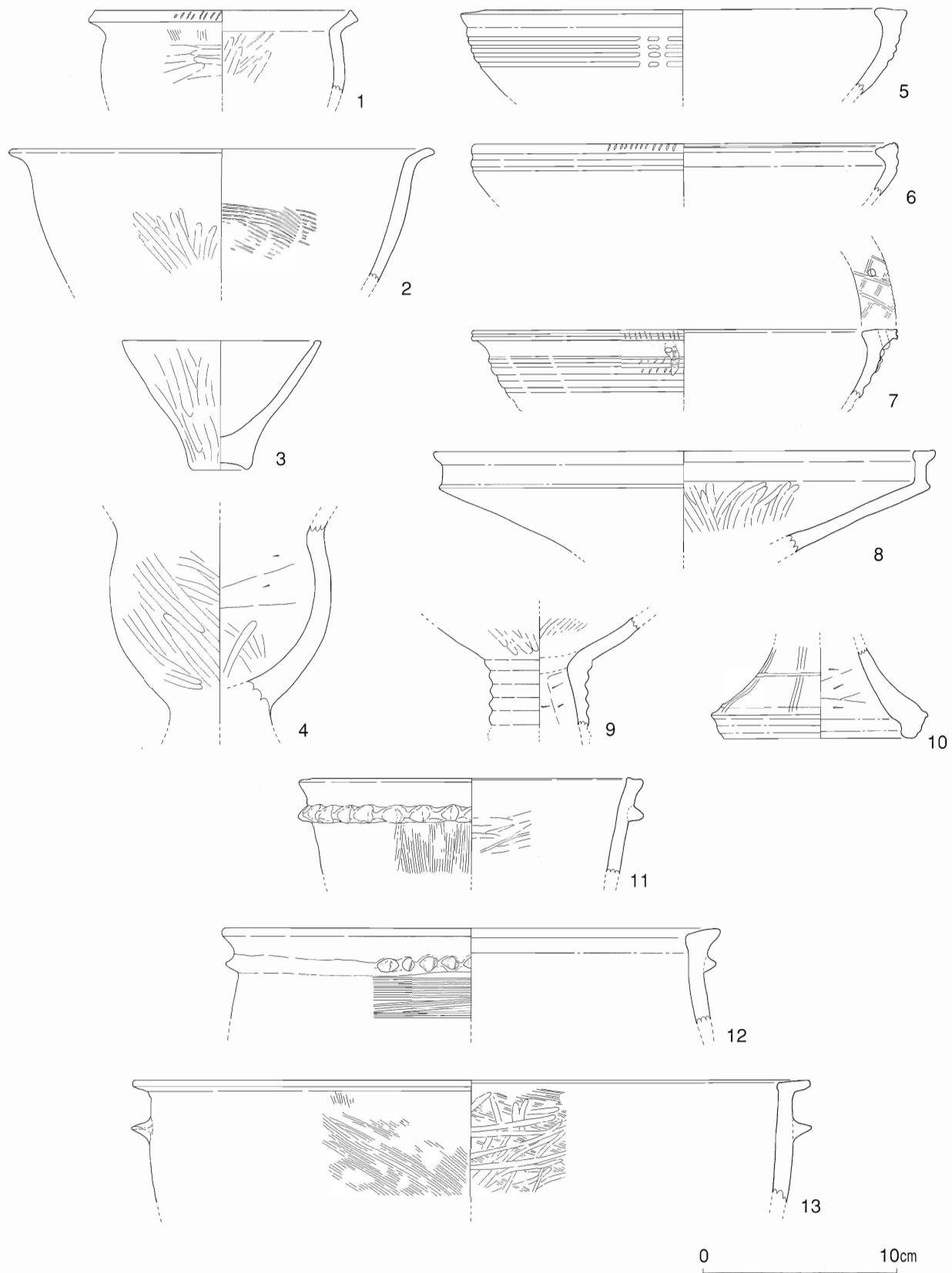
第28図 弥生土器実測図（7）



第29図 弥生土器実測図（8）



第30図 弥生土器実測図（9）



第31図 弥生土器実測図 (10)

(3) 土師器

夫手遺跡から出土した土師器の器種は、壺、甕、直口壺、鼓形器台、低脚壺、壺、小型丸底壺、高壺、甑型土器、甌がある。

非常に大量の壺甕類の破片に混じって、比較的残存状況の良い小型丸底壺、高壺が数多く出土しているのに対し、直口壺や鼓形器台、低脚壺、壺、甌の出土数は少ない。この器種構成の比率と以下で記す土師器の形態から、夫手遺跡は古墳時代前期後半から中期にかけての遺物を中心とする遺跡ということができよう。

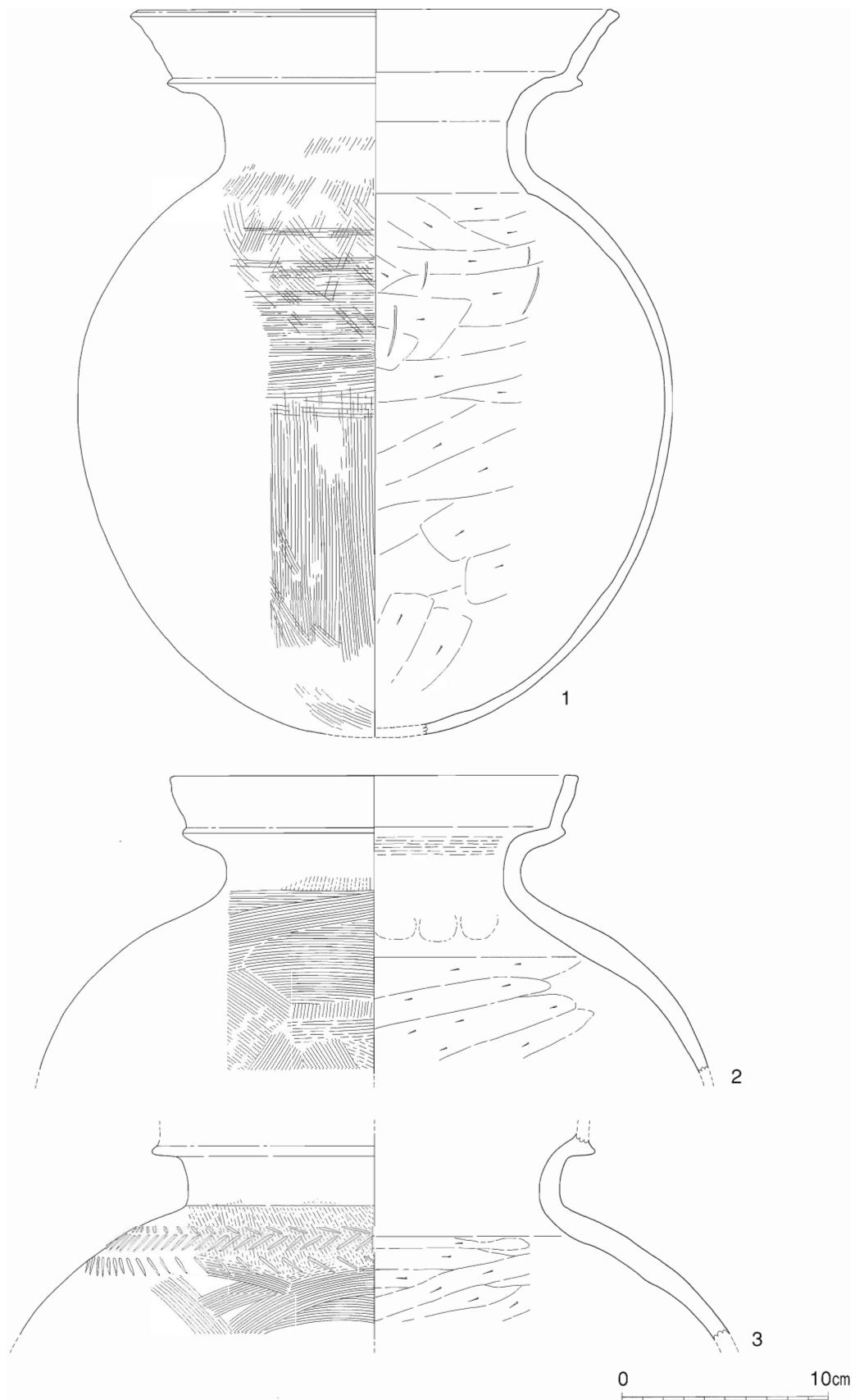
壺甕類と高壺の破片はあまりにも出土数が多くてため、残存状況の良好なものと特徴的なものを選択して図面化し、その他の出土数が少ないものについては可能な限り図面化をおこなった。以下で器種ごとに概略を記す。

1. 壺

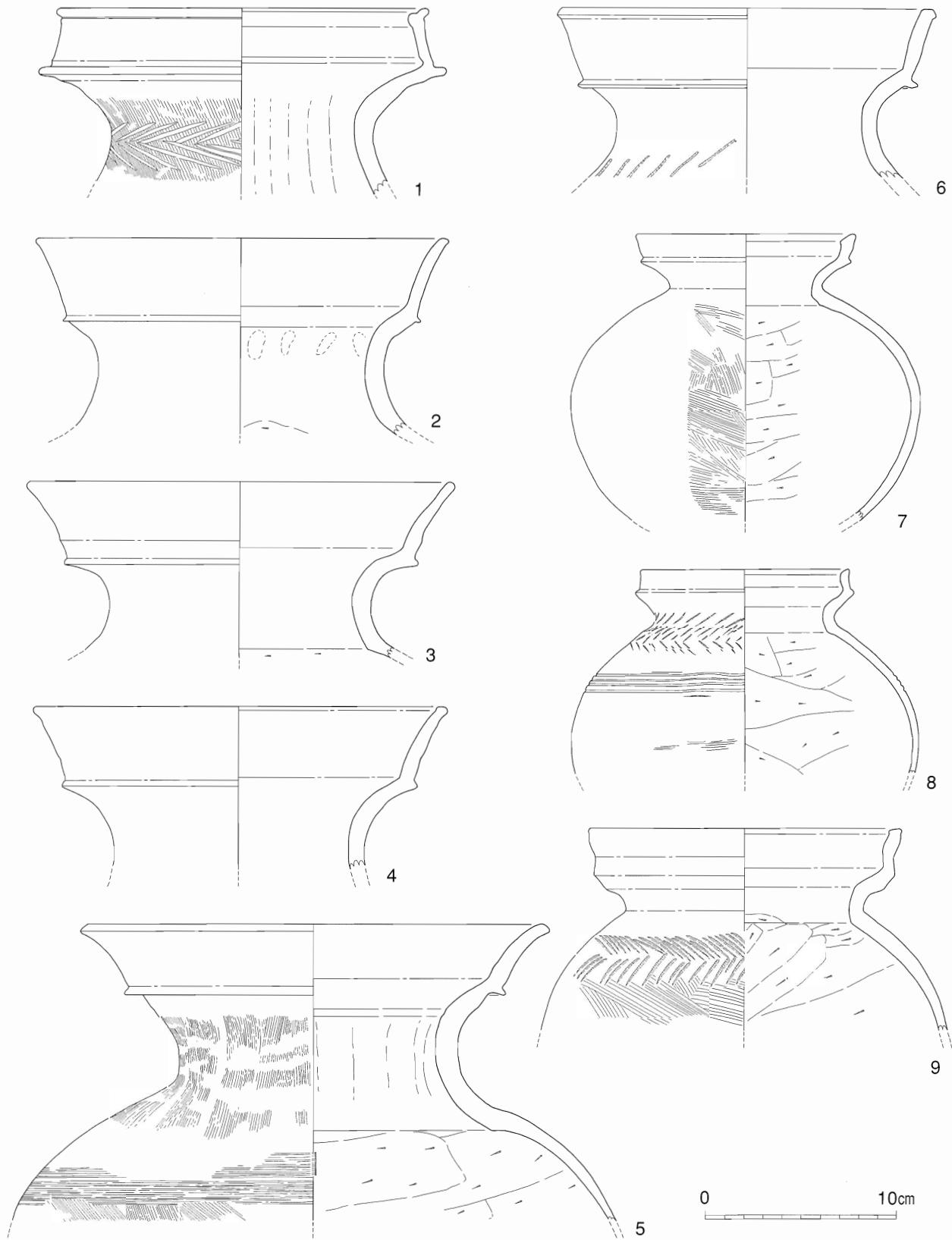
壺と甕の境界がわかりにくい時期であるが、ここでは頸部が比較的長いもの、頸部を長く作ろうとした意図が感じられるものを壺とし、第32図から第37図に示した。口縁の形状はすべて複合口縁で、シャープなものから非常に退化が進んだものまである。その時期幅はほぼ古墳時代前期から中期とらえてよい。

第32図から第35図は、一般的な複合口縁を持つ壺である。第32図1は、夫手遺跡の中では古い範疇に入る壺で、胴部は丸く、頸部は長く、複合口縁はシャープに外反している。器面調整は、外面が主として縦方向のハケメの後に肩部から胴部中央にかけての横方向のハケメ、内面は頸部から上がナデで胴部はケズリである。胴部の器壁は非常に薄く作られている。口径23.7cm、頸径14.6cm、胴部最大径28.8cm、器高は約36cmを測る。第33図1は複合口縁が内傾する壺である。口縁の厚さが先端に近づくほど肥厚し、端部には凹線が巡らされている。器面調整は口縁の内外面は横ナデ、頸部外面は縦方向のハケメ、内面は縦方向の指ナデである。頸部外面には羽状文がヘラ描きされている。口径19.5cm、頸径14cmを測る。第33図7、8は小型の壺である。複合口縁の立ち上がりは厚くて短く、胴部は底付近を欠損しているが、球形に近い形状を呈すると思われる。7は口縁端部に拡張された平坦面が作られており、口径11.6cm、頸径8.1cm、胴部最大径18.5cmを測る。8は複合口縁がやや内傾するもので、頸部から肩部にかけて貝殻による変形羽状文、肩部には4条の凹線が描かれている。口径11.1cm、頸径9.5cm、胴部最大径18.3cmを測る。第34図11、第35図2は、夫手遺跡では新しい範疇に入る壺で、器面調整は古いタイプと変わりはないが、外形的には複合口縁が最も退化した形状を呈している。

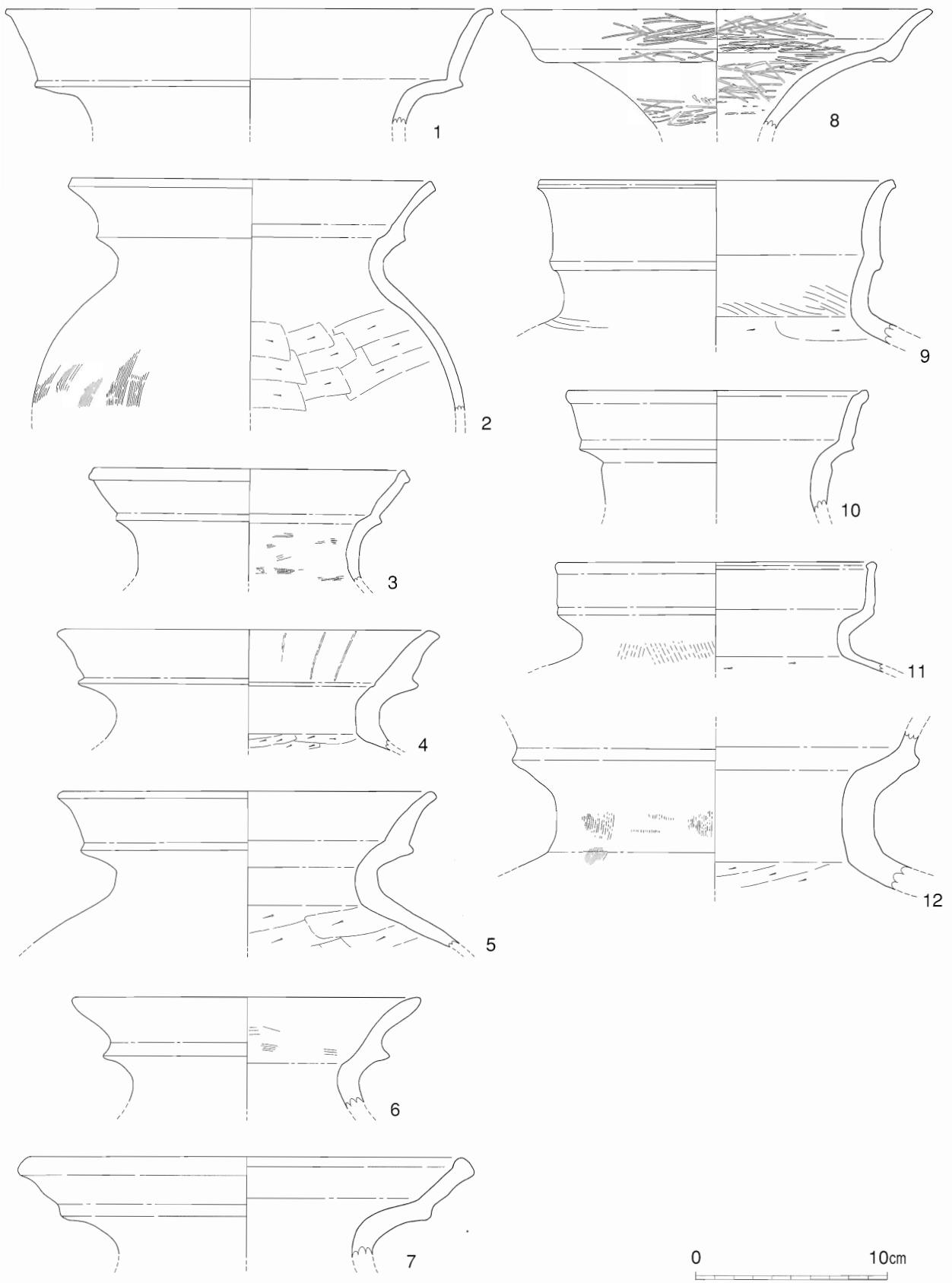
第36、37図は、特異な複合口縁を持つ壺である。これらの壺は、口縁の器壁が厚く、口縁端部はさらに厚く拡張された平坦面となる点が共通の特徴といえる。口縁は内傾するものが多く、口縁端部の平坦面には浅い凹線が巡らされているものが多い。胴部は第36図3と第37図1、2にわずかに残っているだけで、全体の形状は不明である。大きさは、最小のものが第36図1で口径15.3cmを測り、最大のものは第37図5で口径38.1cmを測る。このタイプの壺は他の遺跡で単独に出土することははあるが、



第32図 土師器実測図（1）

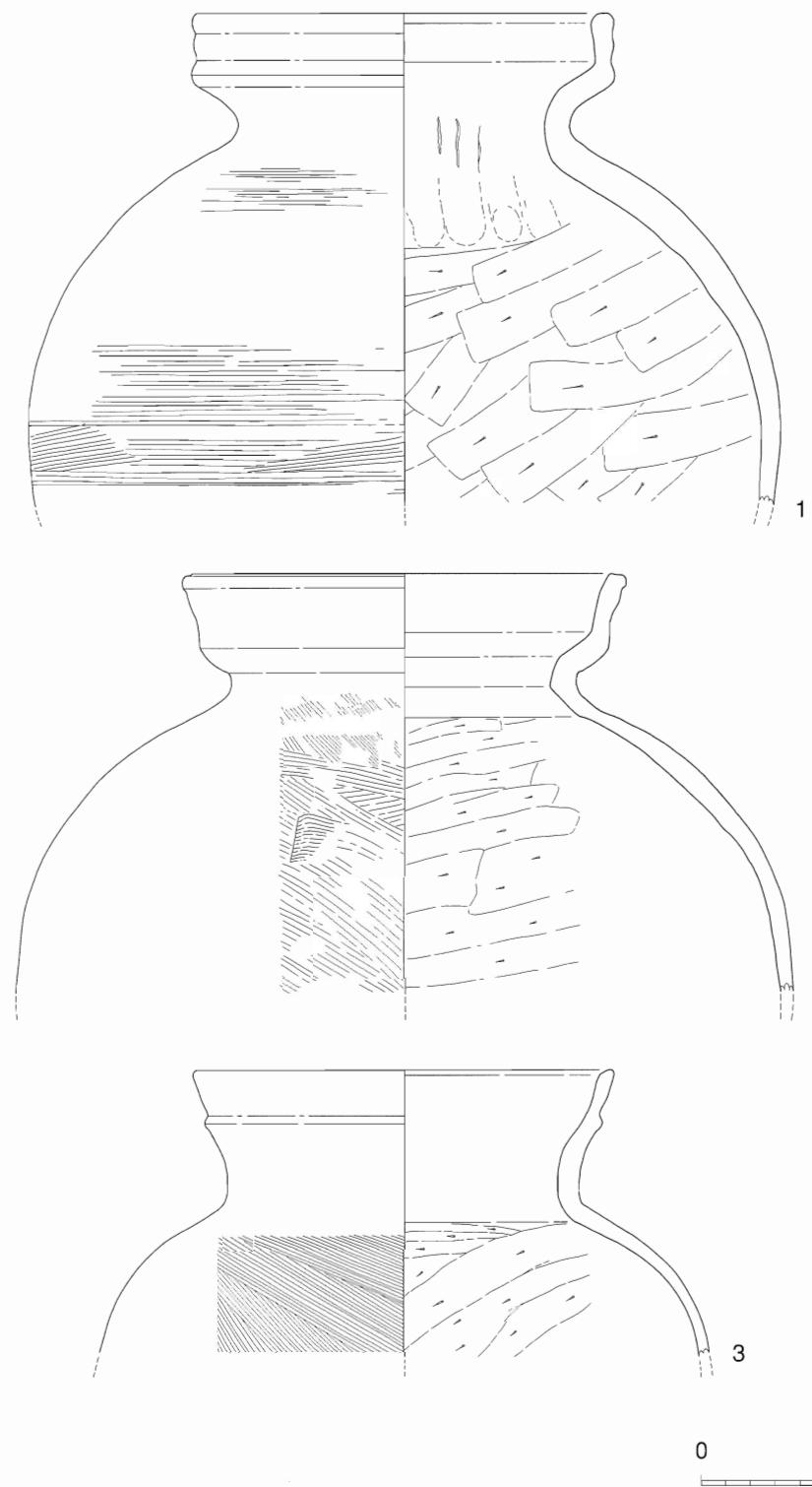


第33図 土師器実測図（2）



第34図 土師器実測図（3）

夫手遺跡からはまとまった数量が出土したこと、夫手遺跡のやや上流に位置する杉戸遺跡からも、採集品としてこのタイプの壺の出土が報告されていることから、このタイプの壺を長海川流域というきわめて狭い地域の地域色と見ることができないであろうか。今後の類例の増加を待ってさらに検討していきたい興味深い壺である。

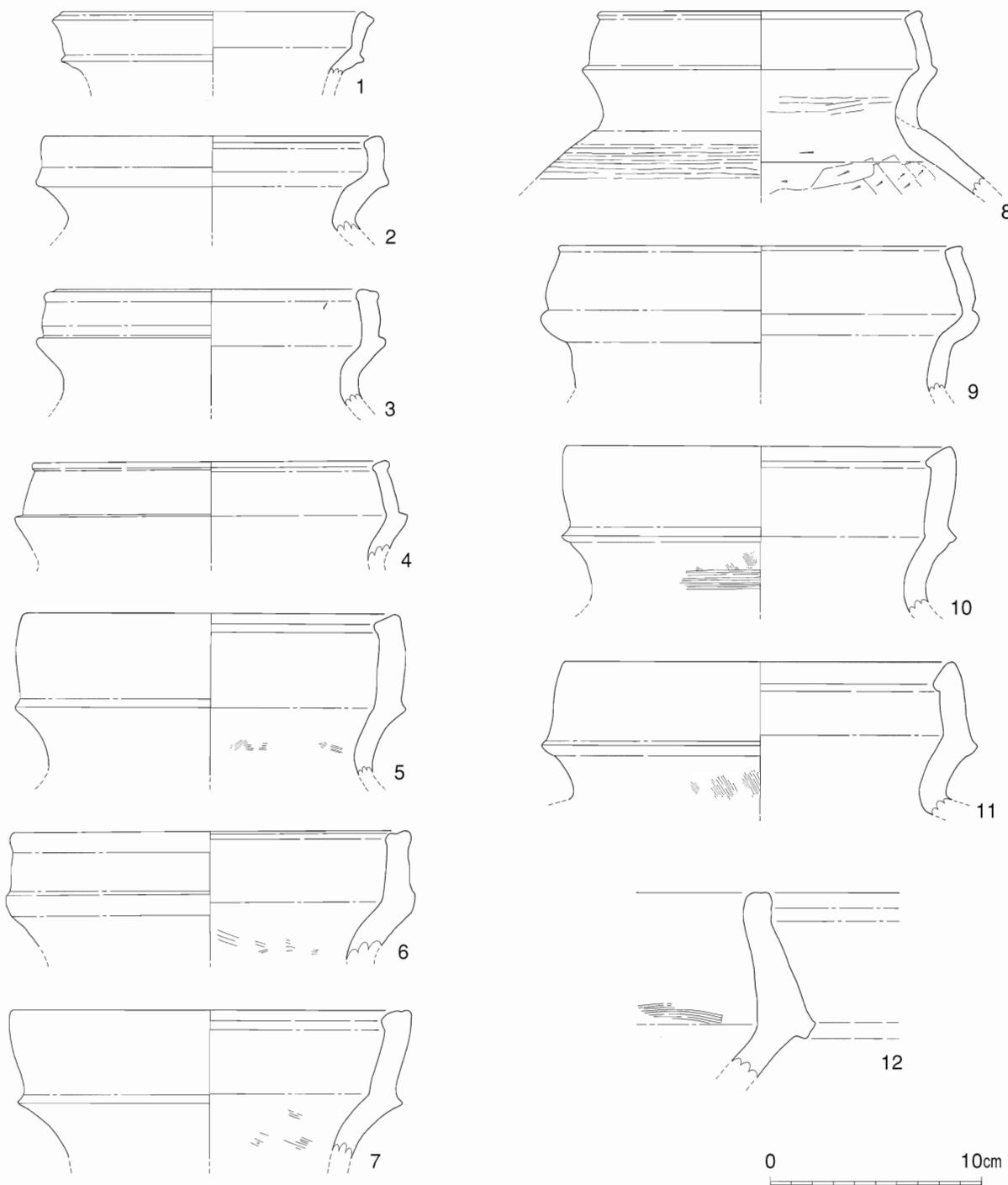


第35図 土師器実測図（4）

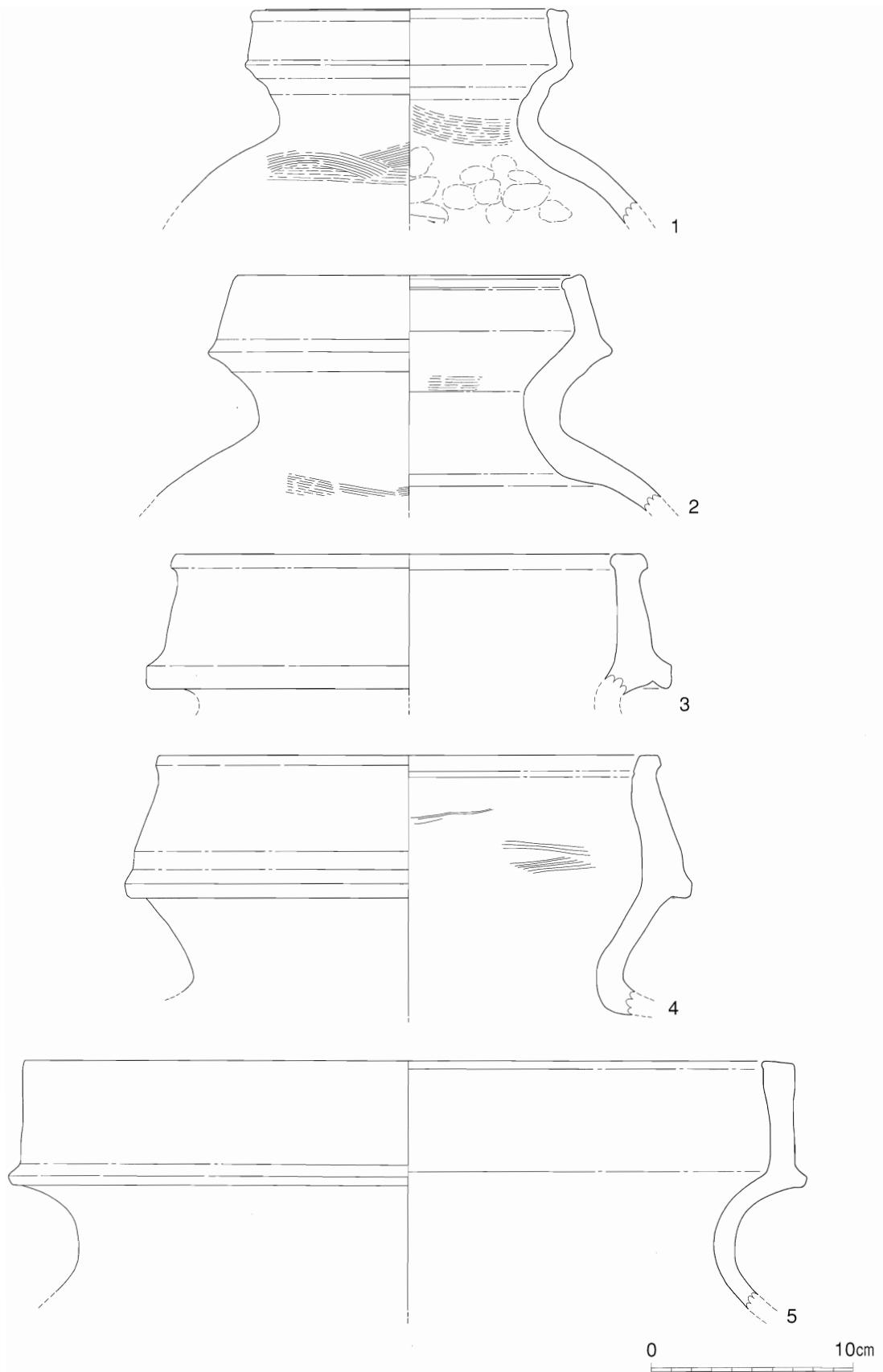
2. 瓢

甕は、複合口縁のものと単純口縁のものの2種類が出土している。

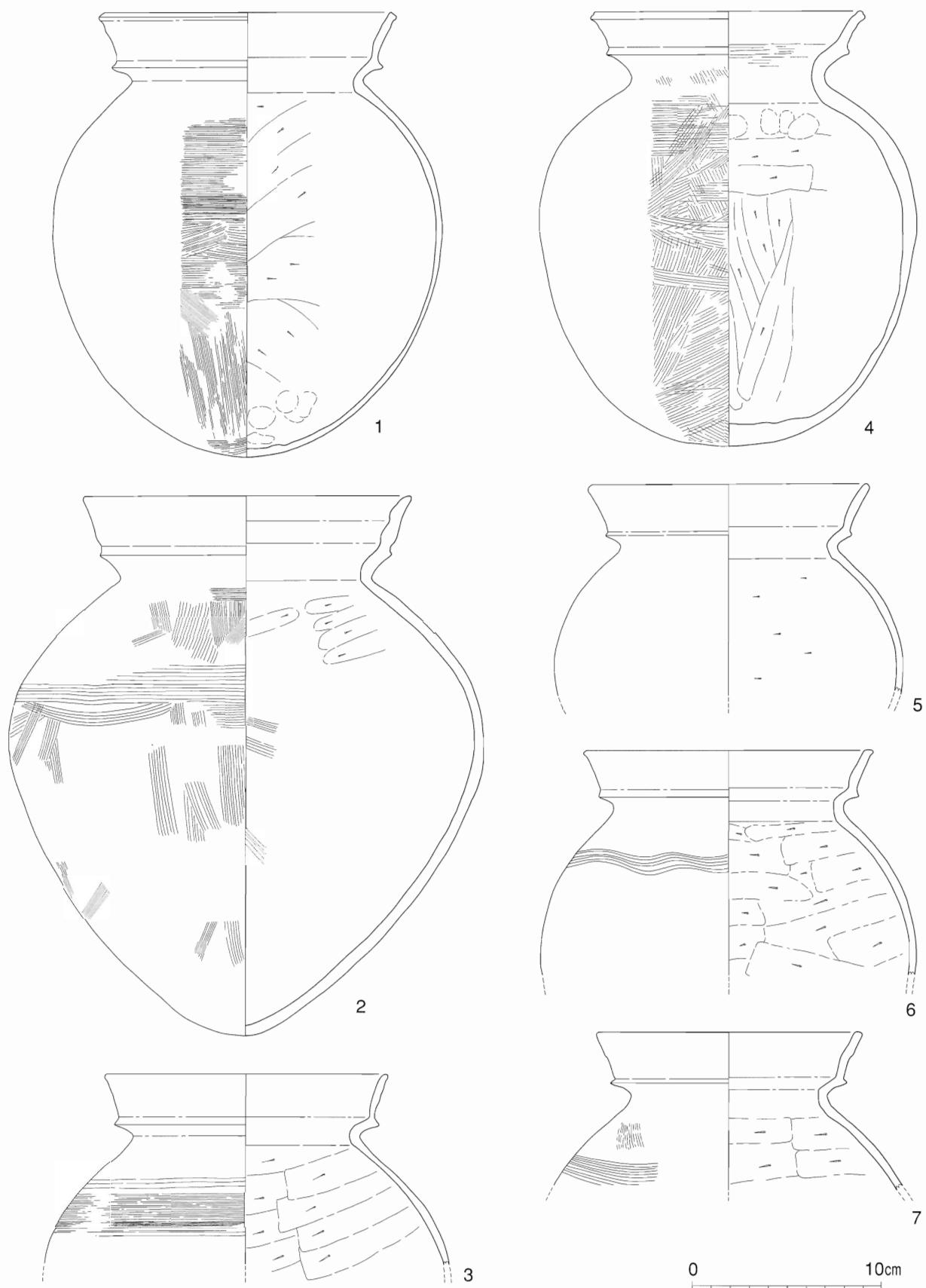
第38図から第44図は複合口縁の甕で、前記した壺と同様、比較的シャープな複合口縁から非常に退化が進んだ複合口縁までがあり、時期幅は古墳時代前期から中期と考えてよい。器面調整は口縁部内外面が横ナデ、胴部外面がハケメ、胴部内面がケズリで画一的である。



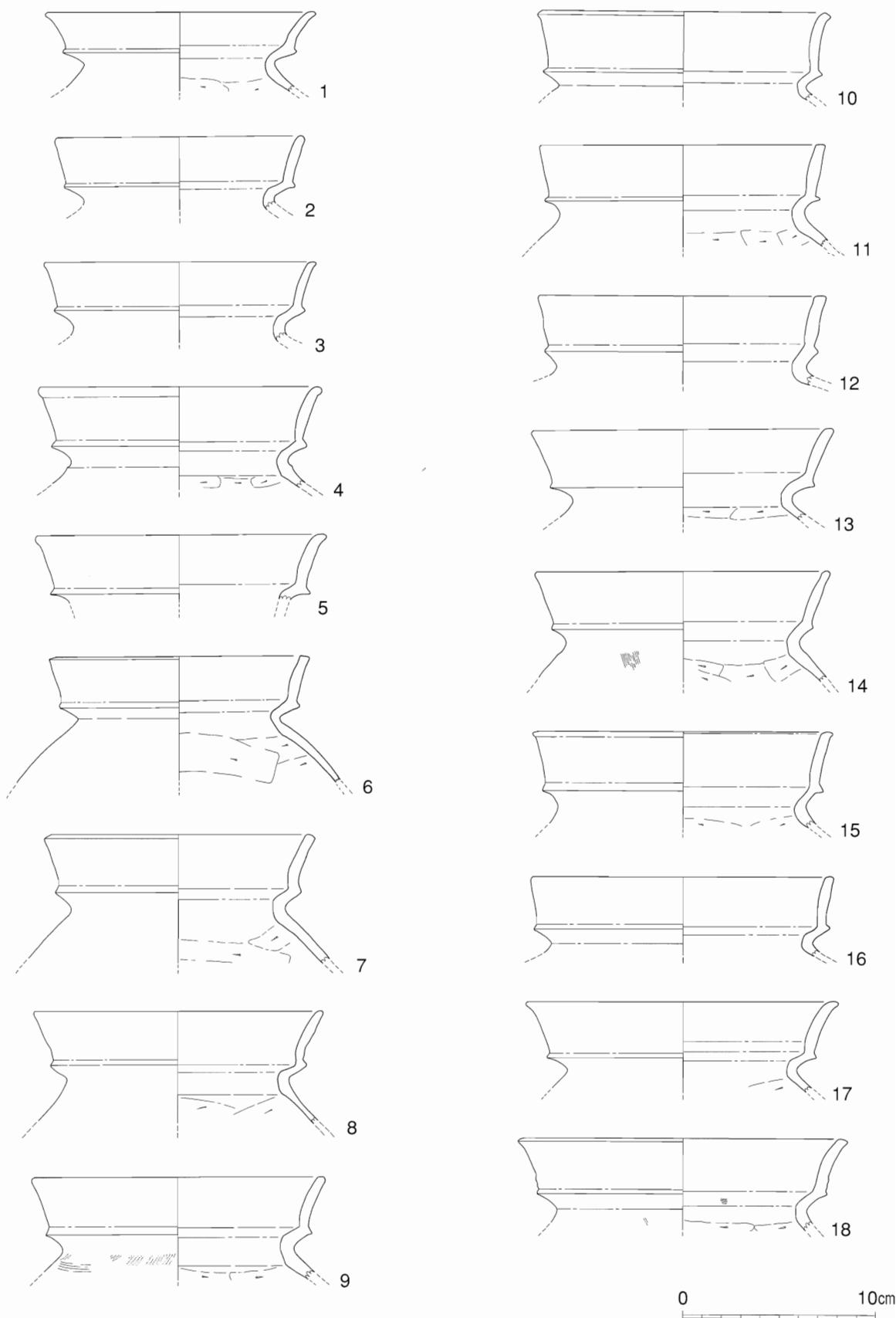
第36図 土師器実測図（5）



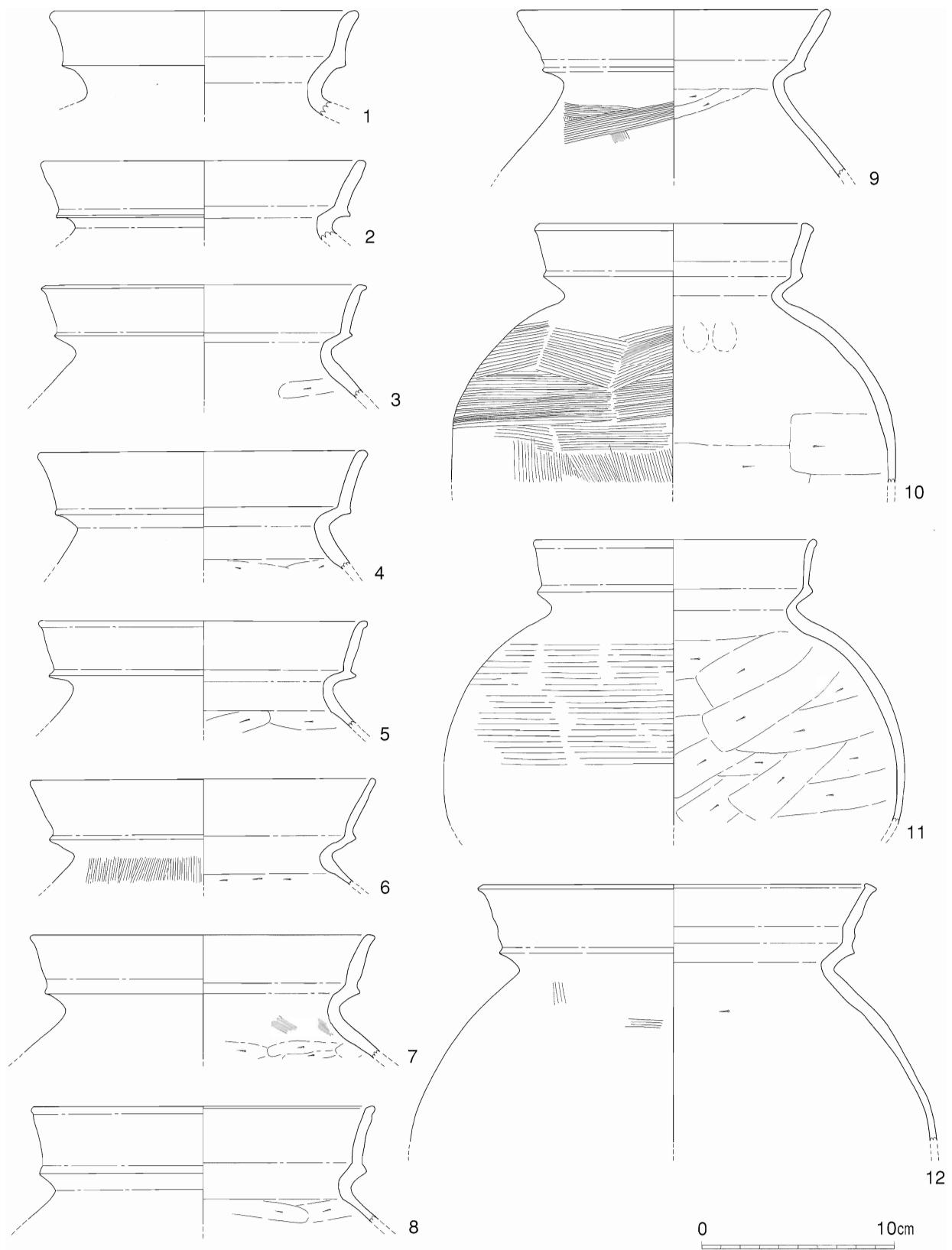
第37図 土師器実測図（6）



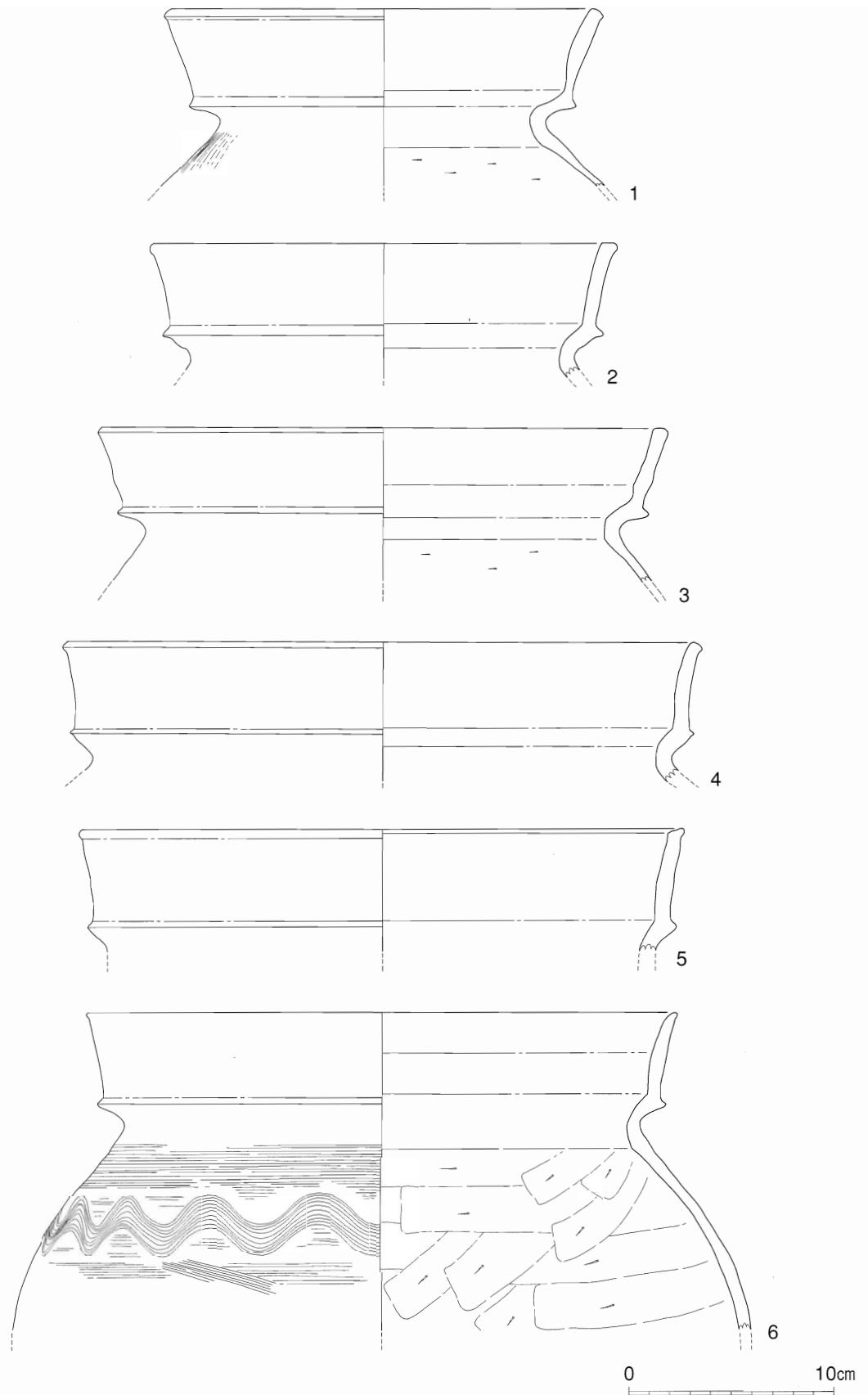
第38図 土師器実測図 (7)



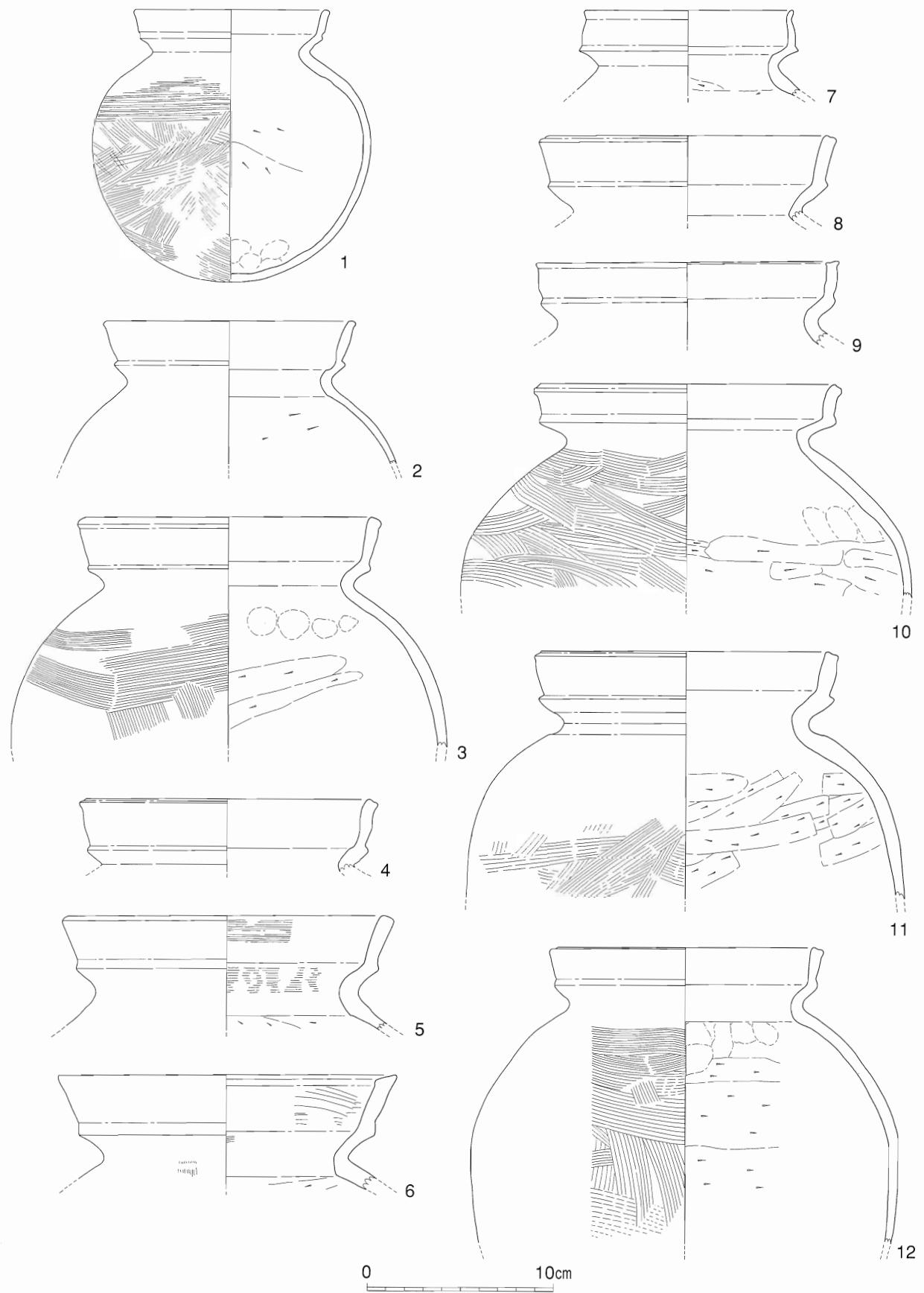
第39図 土師器実測図（8）



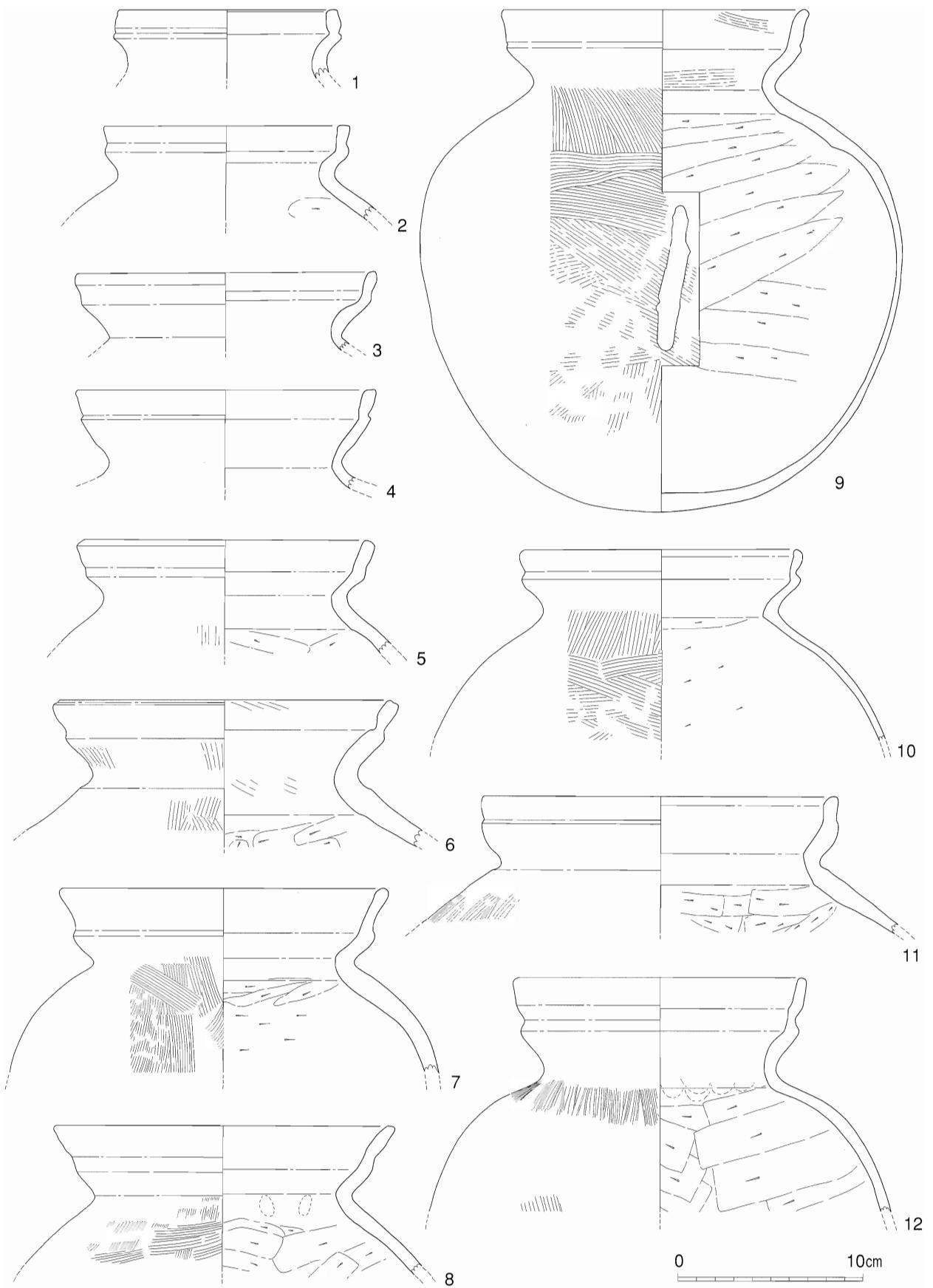
第40図 土師器実測図 (9)



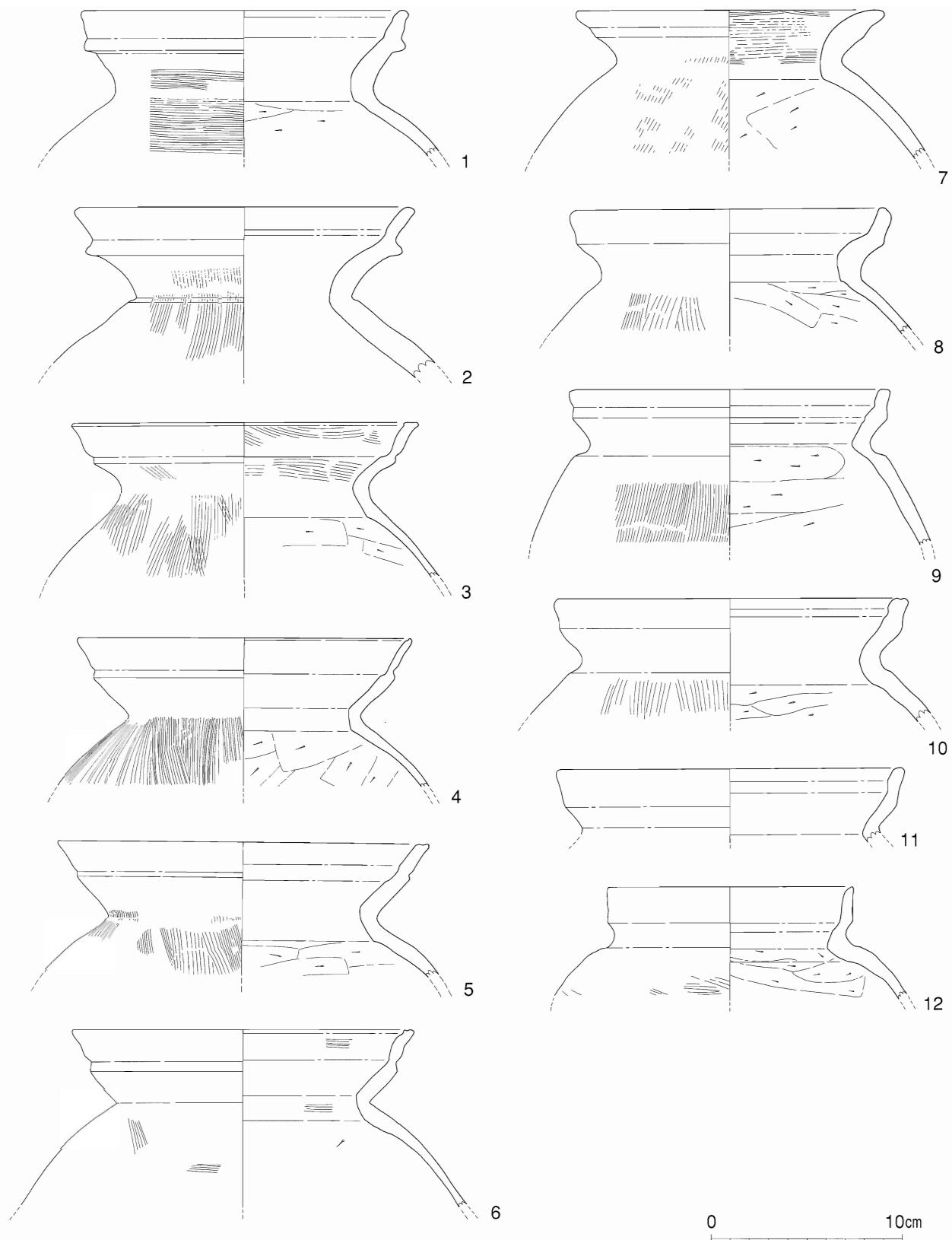
第41図 土師器実測図 (10)



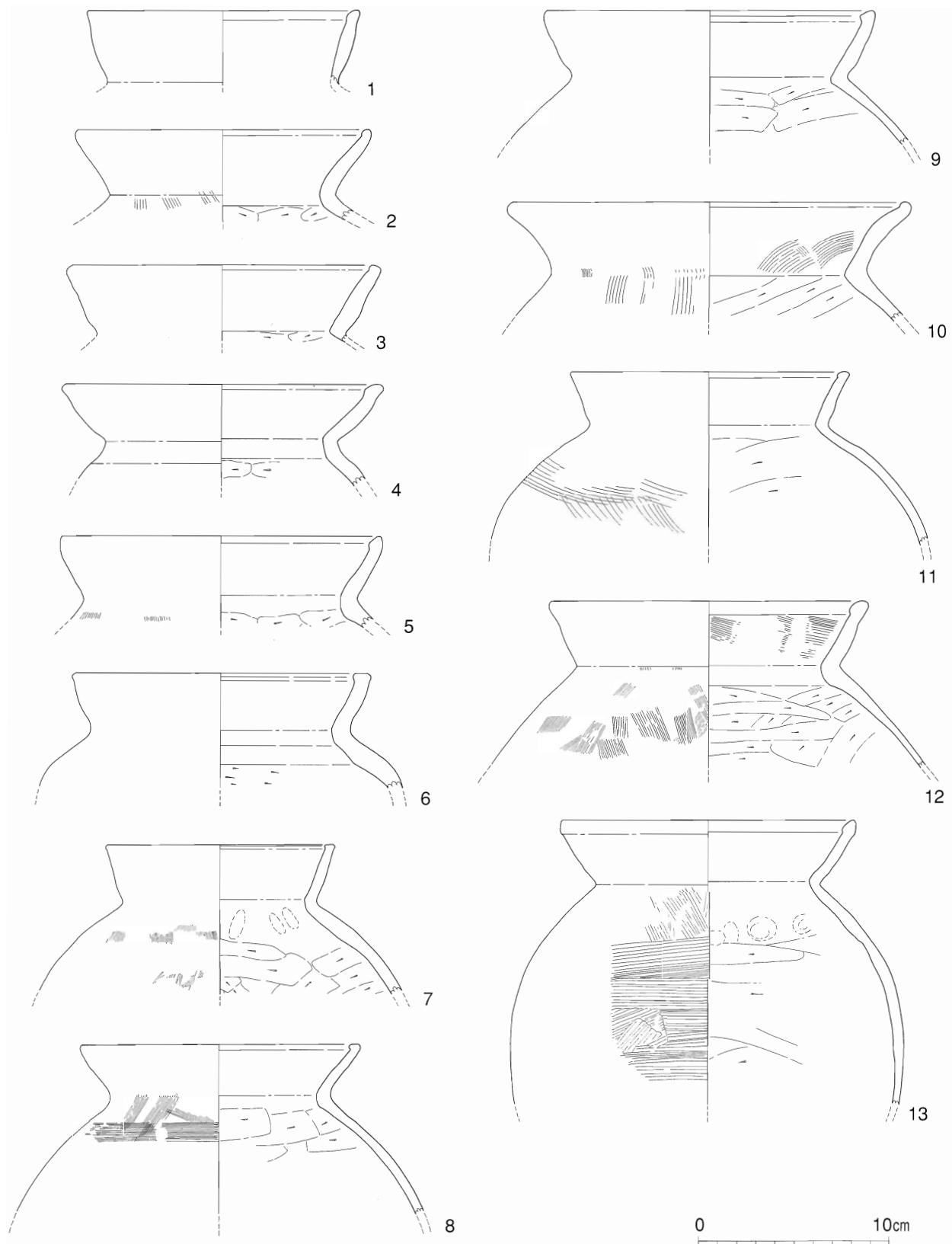
第42図 土師器実測図 (11)



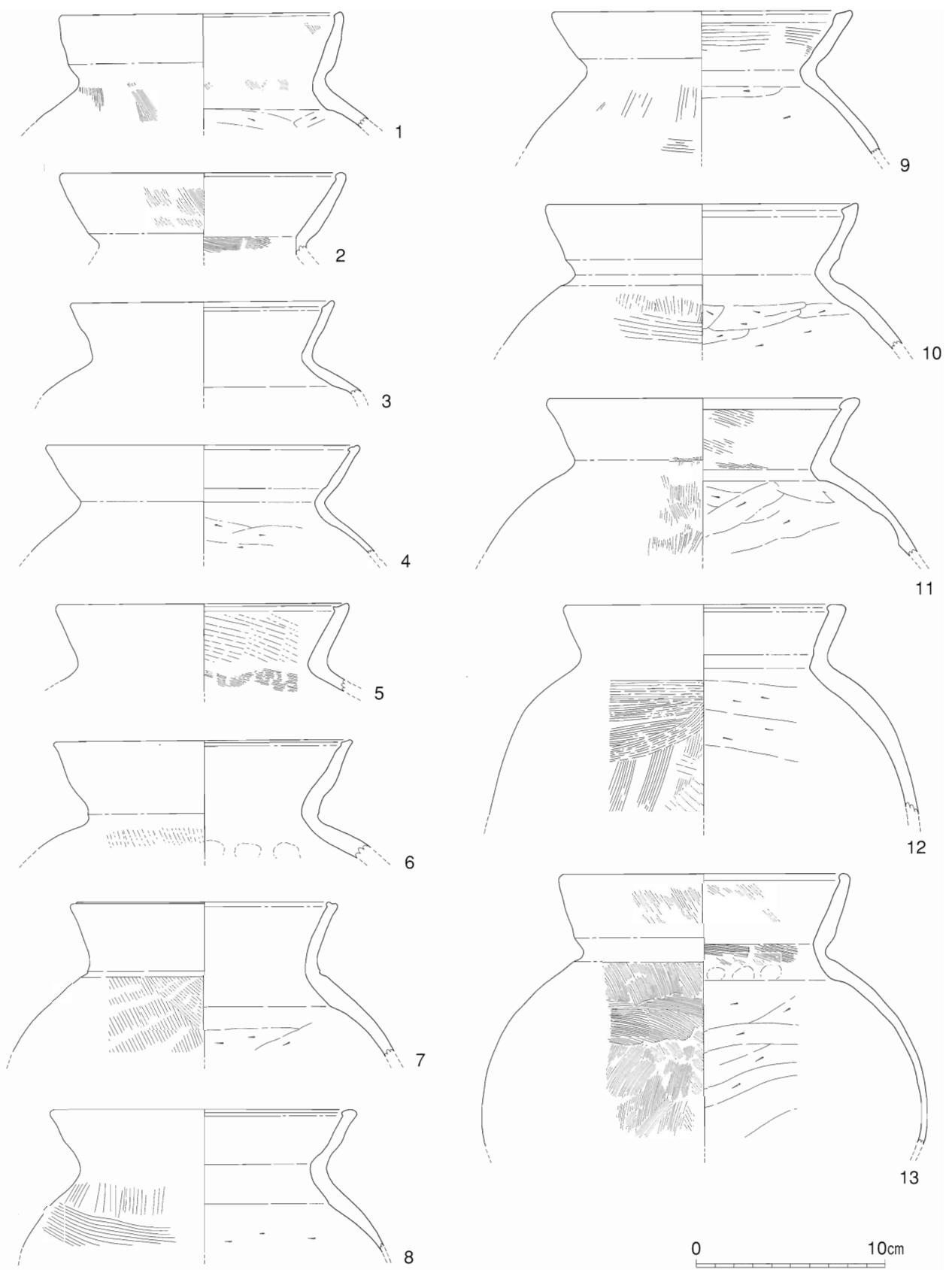
第43図 土師器実測図 (12)



第44図 土師器実測図 (13)



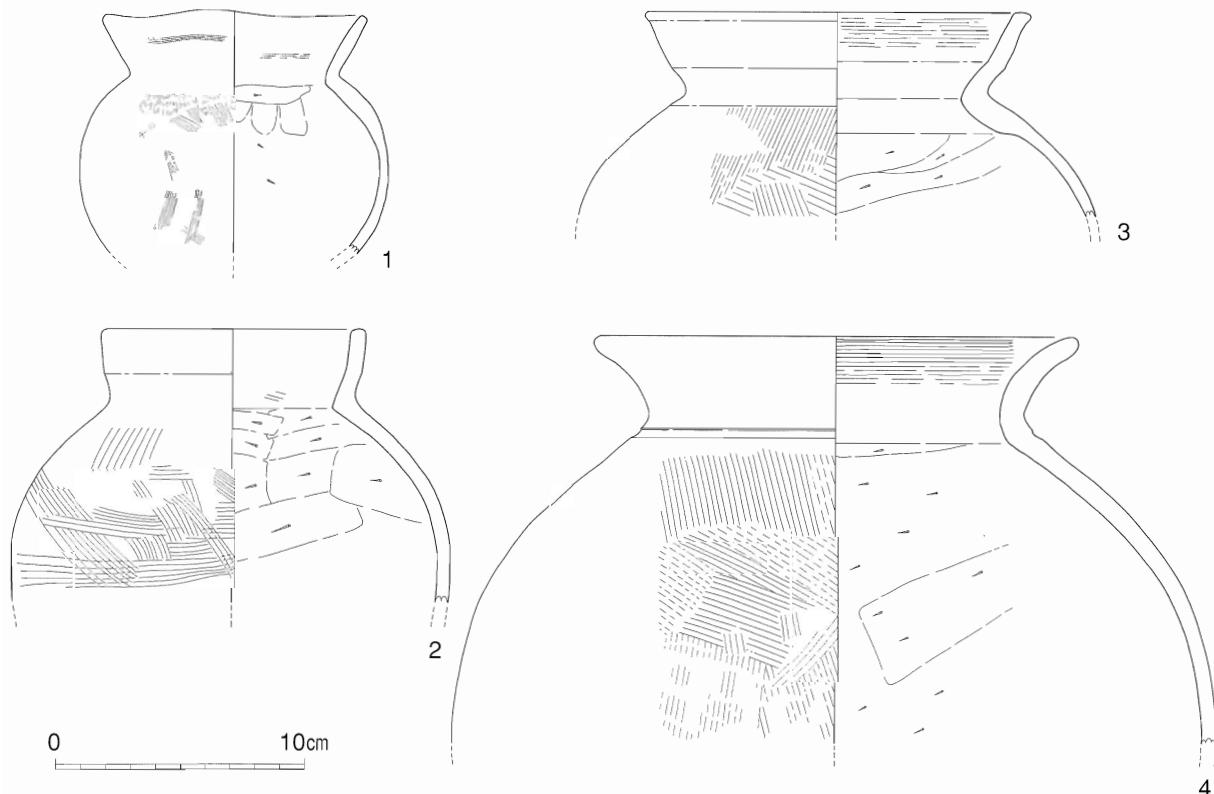
第45図 土師器実測図 (14)



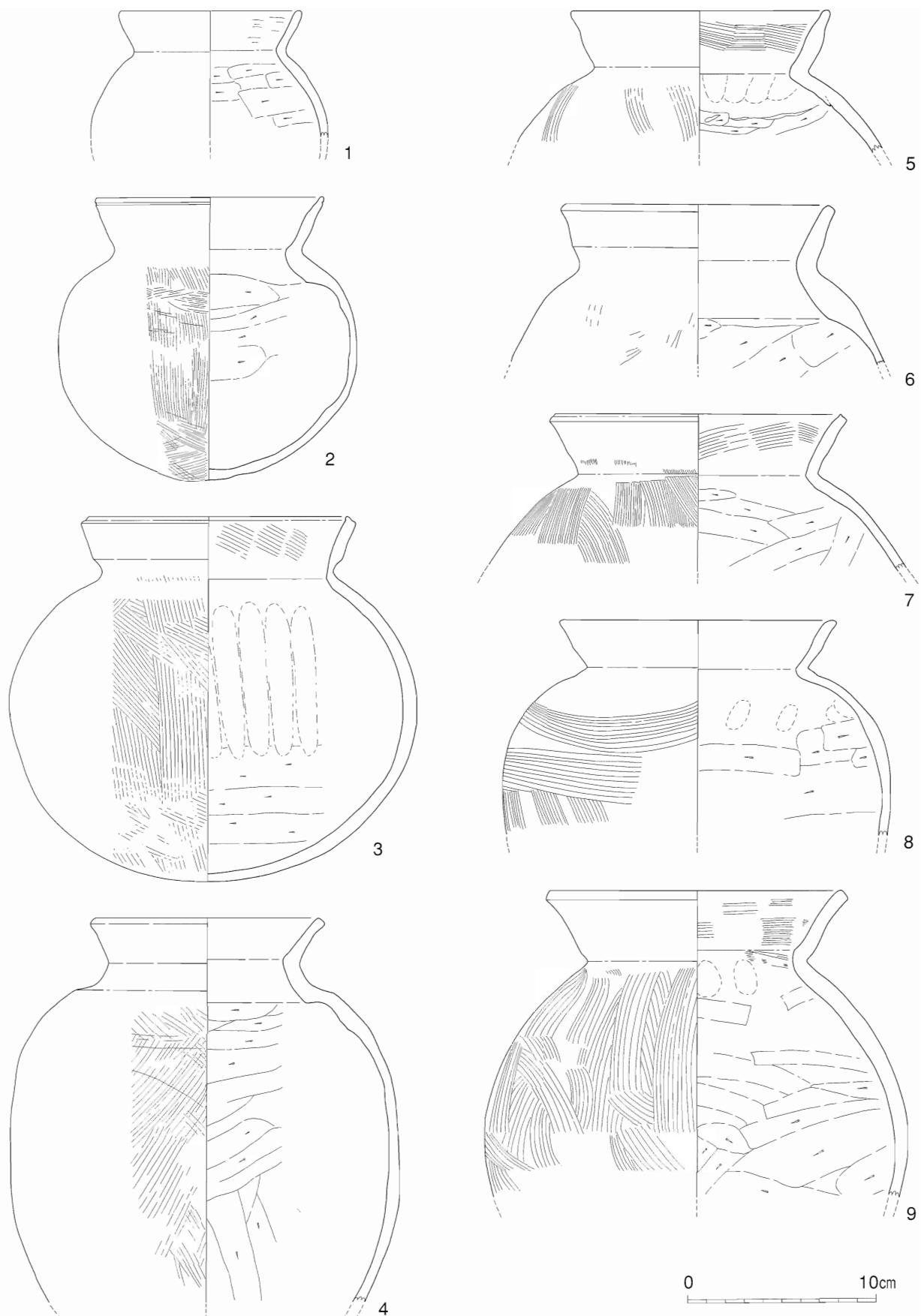
第46図 土師器実測図 (15)

第38図～第41図は比較的シャープな複合口縁と、シャープさはやや失われているがまだ口縁の立ち上がりが高い甕である。第38図1は複合口縁がシャープで、胴部は器壁が薄く、外形は卵倒形を呈している。口径15.8cm、頸径12.3cm、胴部最大径20.7cm、器高24cmを測る。4は複合口縁がやや厚みを帯びてやや退化しており、胴部は器壁が厚めで、底部は丸味を増している。口径14.6cm、頸径9.8cm、胴部最大径14.1cm、器高23.4cmを測る。第38図1、2、3、4、第40図11は、器面調整の最終段階で肩部に横方向のハケメが巡らされている。また、第38図6と第41図6は、肩部にハケ状工具による波状文が巡らされている。第42～第43図の上半部は、複合口縁の立ち上がりが低くなった段階の甕である。低くなった立ち上がりは厚みを増し、口縁先端が平坦面となるものがあり、第42図4、7～12のように口縁先端に凹線が施されているものもある。これは先の壺のところで指摘した、長海川流域の地方色の強い技法に共通するものと思われる。甕では壺のような口縁の内傾は見られないが、口縁端部にその特徴が見いだせる。この段階以降になると、口縁部内面のナデの下にハケメの痕跡が残る、調整の粗いものが目立ってくる。第43図9は、焼成後に胴中央部へ縦8.1cm、横1.2cm前後の細長い孔が穿たれた、祭祀的要素がうかがえる甕である。口径16.7cm、頸径12.8cm、胴部最大径26.3cm、器高27.5cmを測る。第43図の下半、第44図は、複合口縁の形状が著しく変化した段階の甕である。特に第44図4～7の口縁は、単純口縁が多少波打っただけのような形状を呈している。

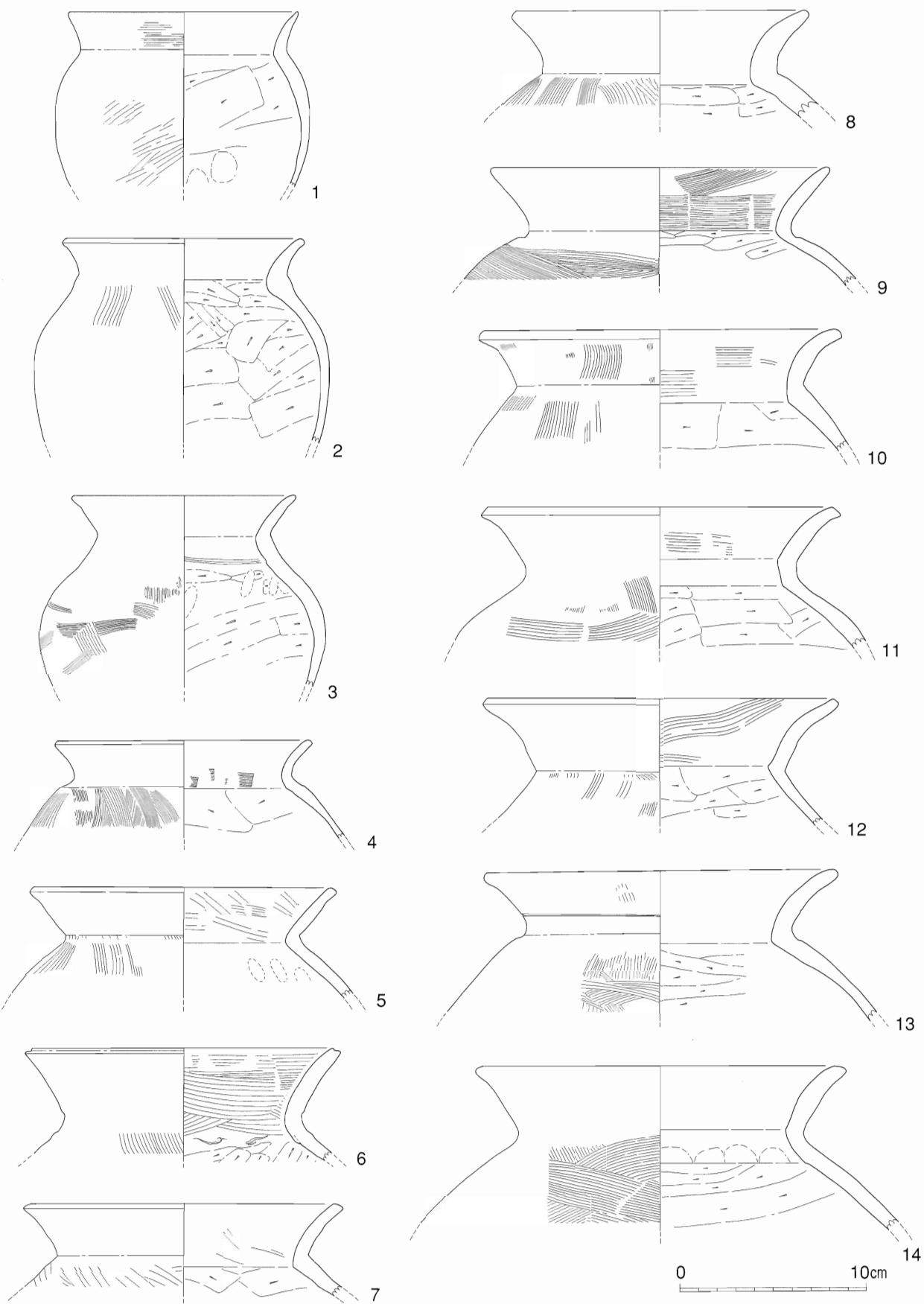
第45図から第52図は、単純口縁の甕である。布留系の甕の口縁が多数出土し、明らかに古墳時代後期と言える甕が出土していないことから、時期幅は古墳時代前期から中期と考えてよいであろう。器面調整は、口縁の内外面はハケメ後粗いナデ、胴部外面はハケメ、胴部内面はケズリである。



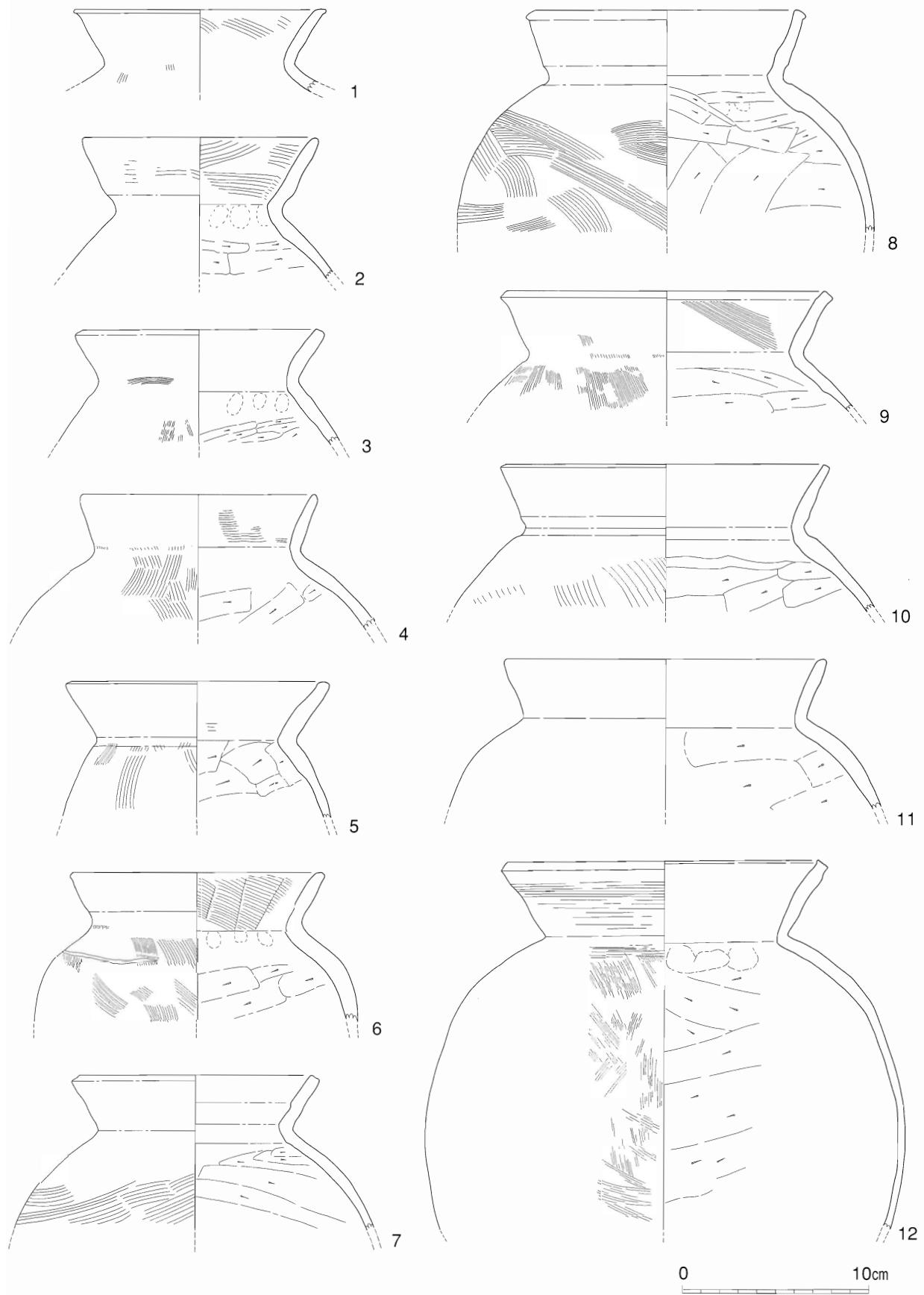
第47図 土師器実測図 (16)



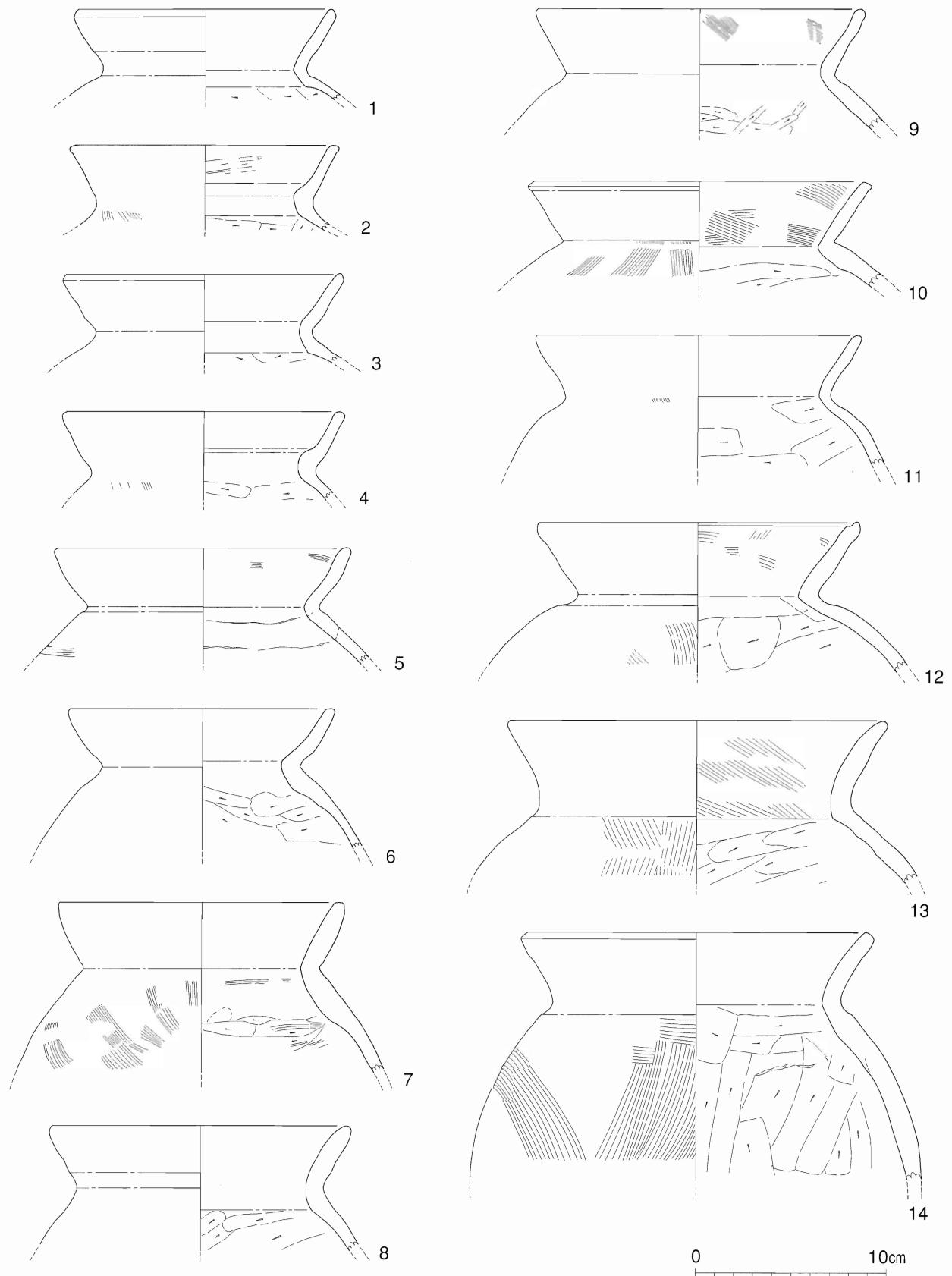
第48図 土師器実測図 (17)



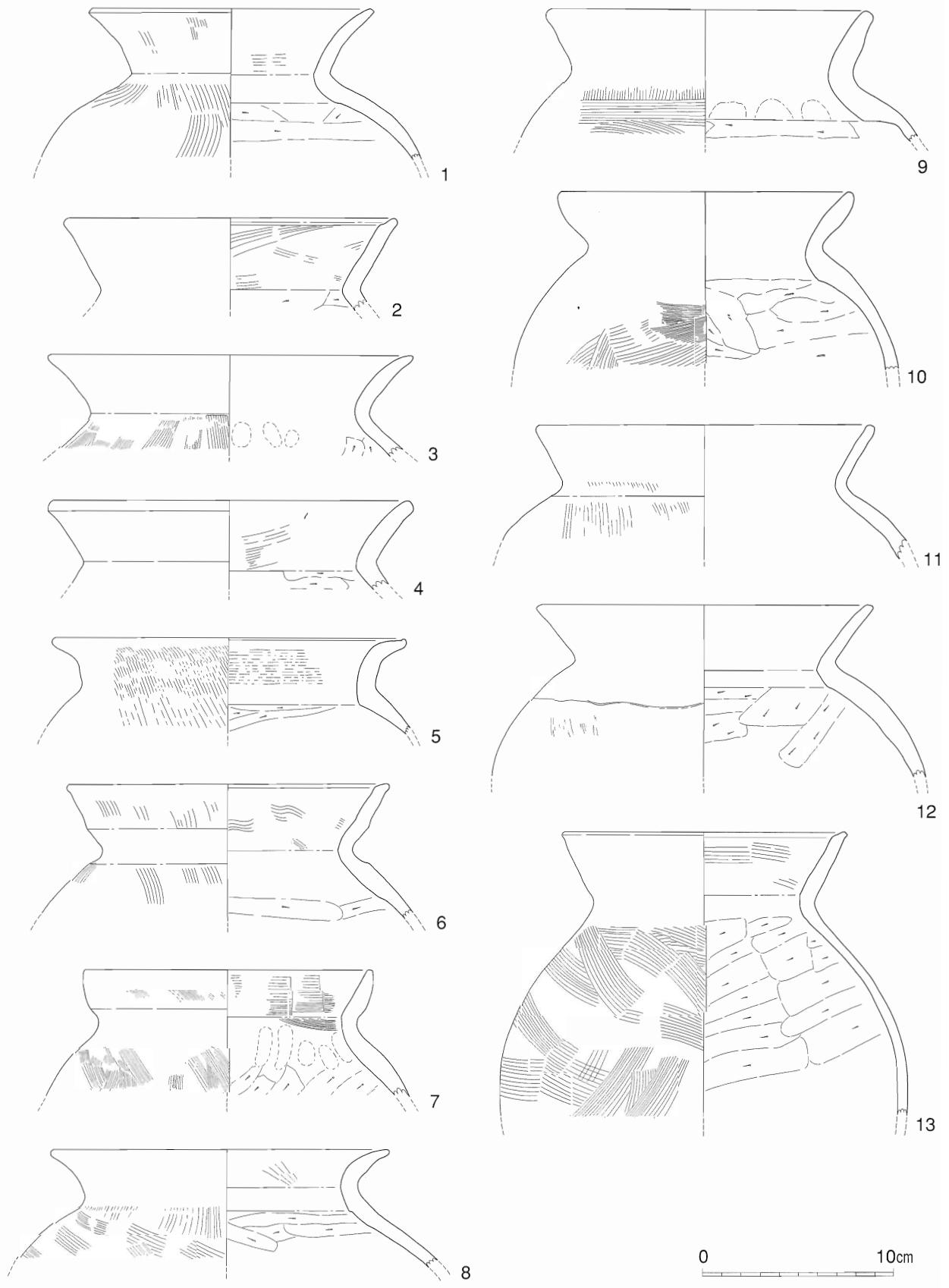
第49図 土師器実測図 (18)



第50図 土師器実測図 (19)

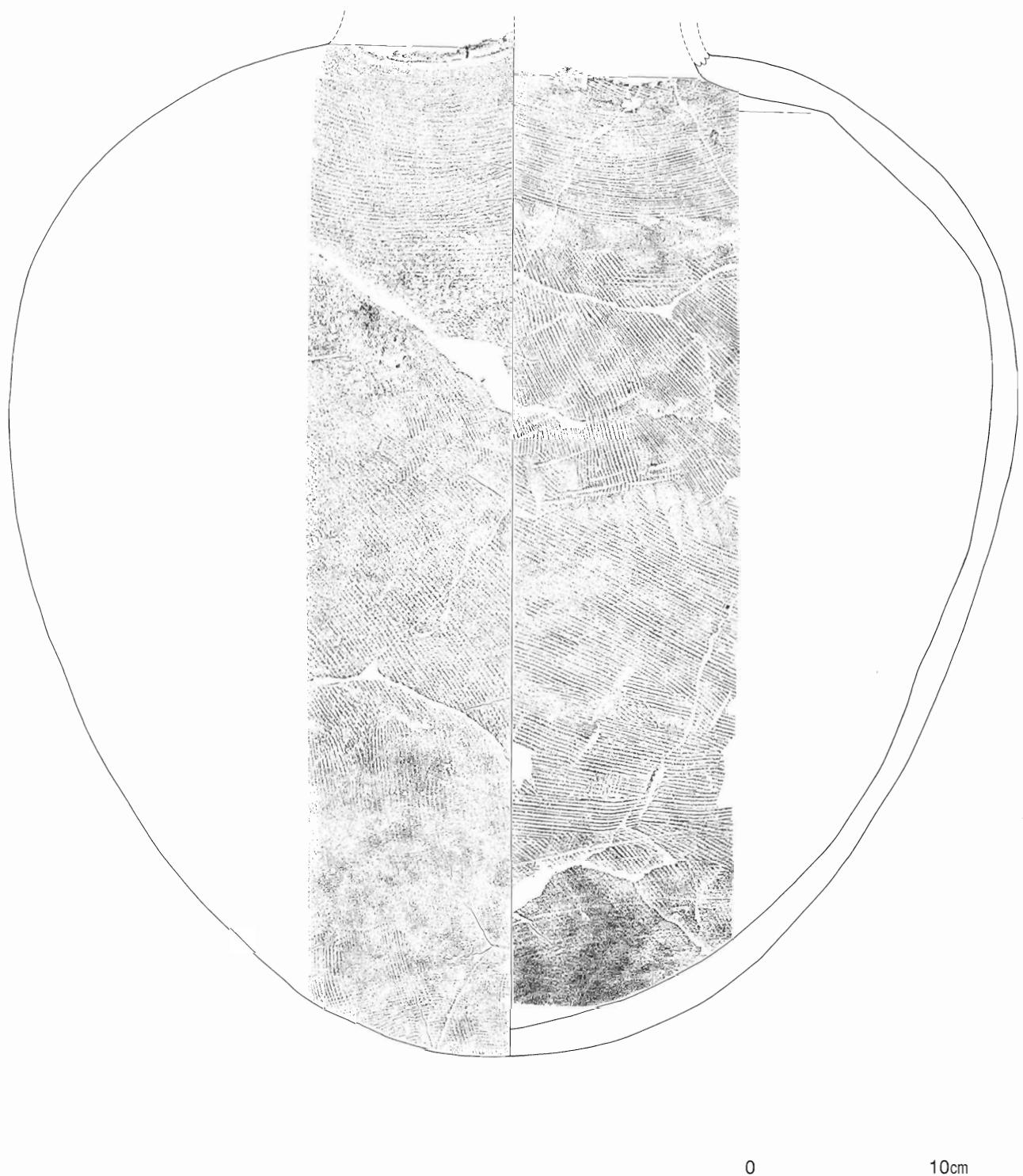


第51図 土師器実測図 (20)



第52図 土師器実測図 (21)

第45、46図は布留系の甕である。口縁が内湾気味に立ち上がり、端部は内側で突起状に肥厚し、外側は丸くおさまっている。単純口縁の甕としては古く位置づけられているものである。第47図～第52図は布留系以外の甕である。口縁部の形態は大きく分けて、内湾するもの、直線的なもの、外反するものの3種類が見られるが、これらはいずれも共伴関係が見られるため細分はしていない。胴部はすべて頸から大きく張り出す形態である。



第53図 土師器実測図 (22)

第53図は器種不明の胴部である。この胴部は倒卵形を呈する丸底で、器面調整は内外面ともハケメである。胴部最大径53.1cm、胴部高51.6cmを測る巨大なものであるが、口縁部が残っていないため壺か甕かについては不明である。

3. 直口壺・器台

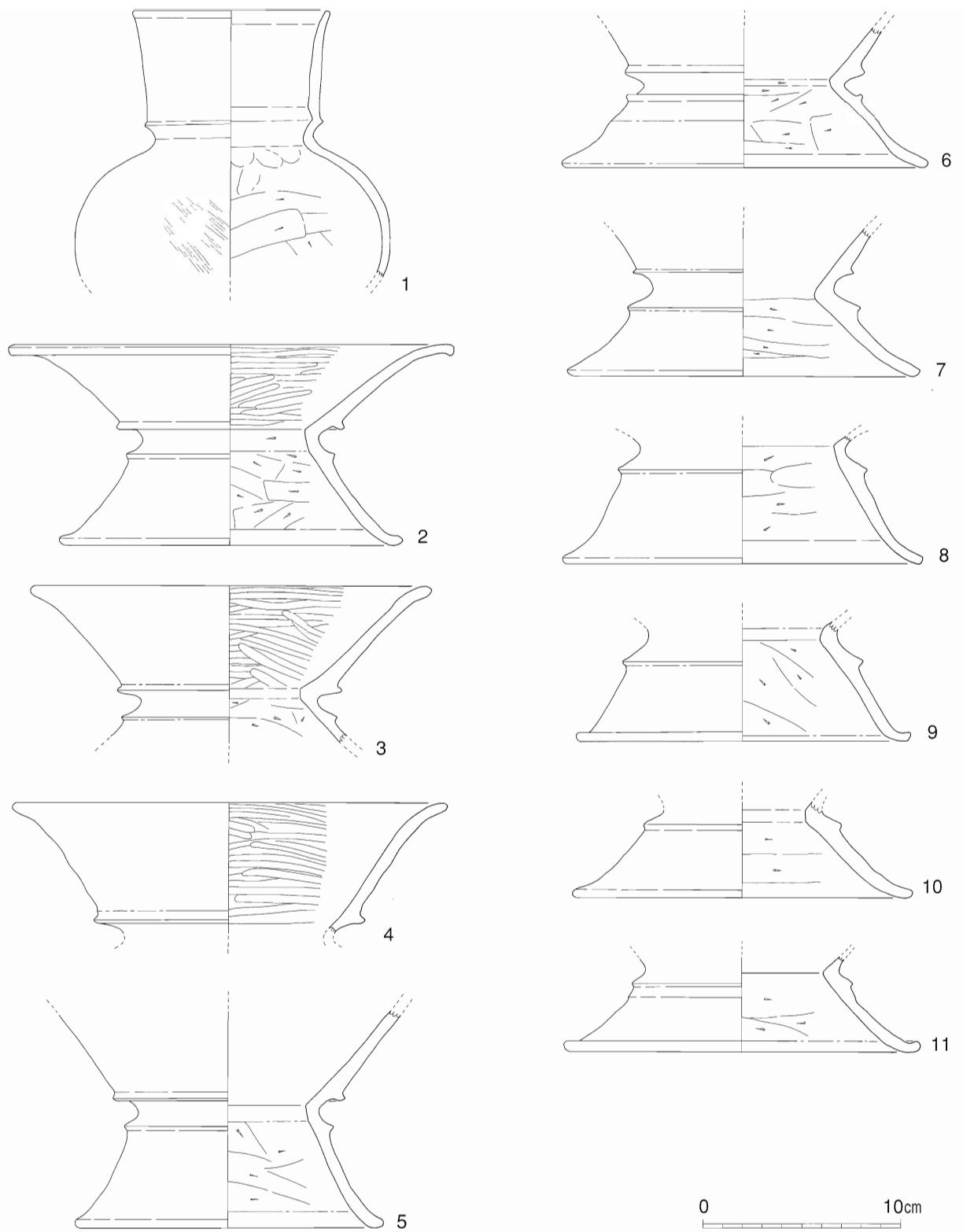
第54図1は直口壺である。直口壺は1点だけ出土した。器面調整は口縁部内外面が横ナデ、胴部外面がハケメ後ナデ、胴部内面はケズリである。外面全体に赤色顔料が塗布されている。口径9.9cm、頸径6.3cm、胴部最大径16cmを測る。

鼓形器台の図面化できる破片は10点のみで、すべて第54図2～11で掲載した。器面調整は、外面が横ナデ、受け部内面がミガキ、筒部と台脚部内面がケズリで画一的である。2は唯一完形に復原できた個体で、受け部は大きく開いて先端は反り返り、筒部は非常に短く作られている。受け部径22.5cm、筒部径9cm、裾部径17.4cm、器高10.5cmを測る。10点のうち5はやや器高が高く、6、7、9、10、11の台脚は極端に偏平な形状を呈しているが、筒部の形状から判断してほぼ同時期におさまるものと思われる。

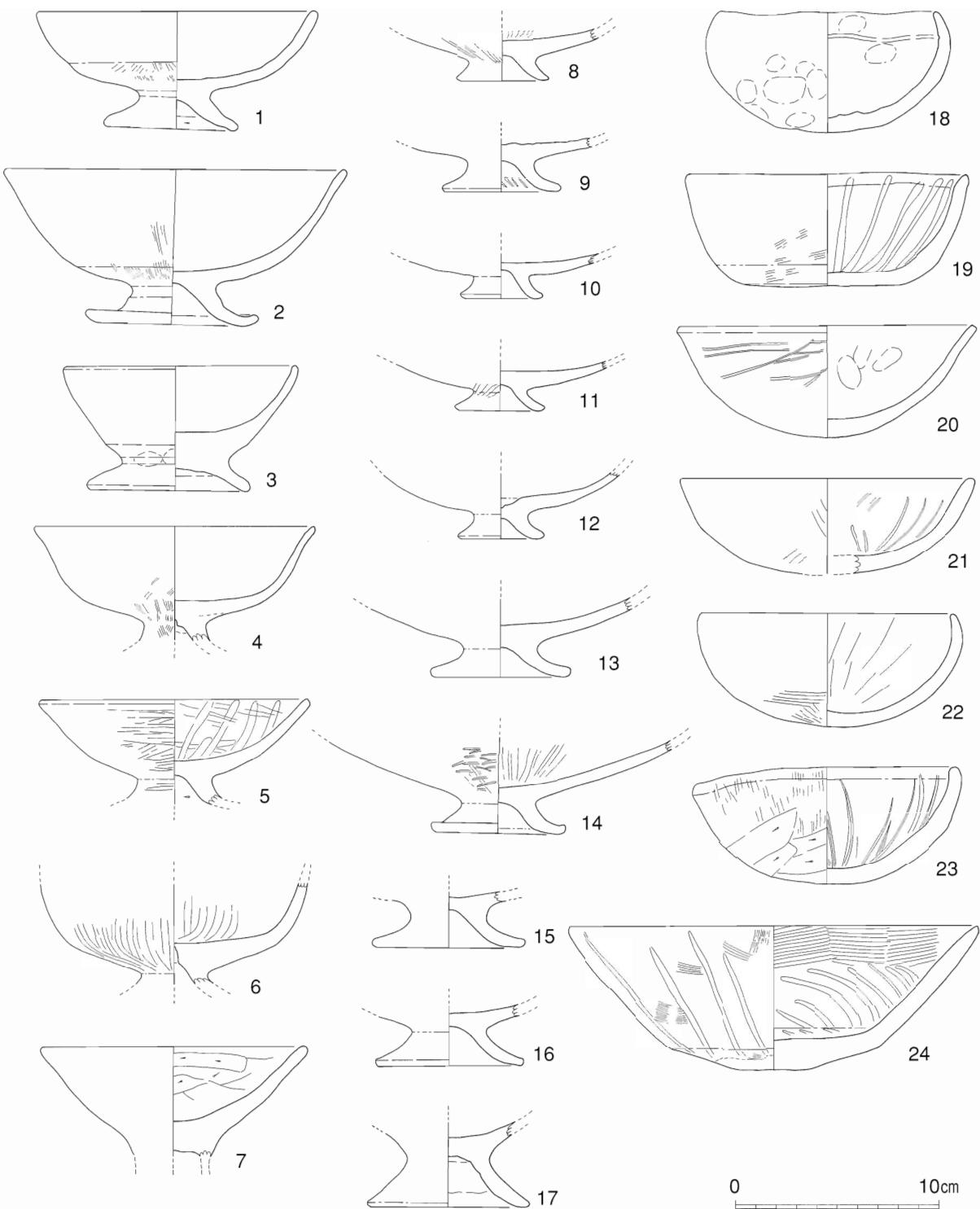
4. 低脚壺・壺

第55図1～17は低脚壺である。8～14は壺部が低いタイプで、口縁まで残存しているものは出土していない。器面調整は、壺部内面はすべてミガキ、外面は風化が著しいが12はミガキ、14はハケメの痕跡を残している。1～7、15～17は壺部が深い低脚壺で、前記した低脚壺よりも新しい形式と理解されている。1の器面調整は、壺部外面がハケメ後ナデ、内面は丁寧なナデ、脚部外面は横ナデ、内面はナデ後一部ケズリである。口径13.7cm、底径6.5cm、器高5.9cmを測る。2はやや大型品で、器面調整は脚部内面のケズリが無い点を除けば1と同じである。3は全体的に歪んでおり、低脚壺にしては口径に対する底径が大きい。器面調整は風化のため不明である。口径11.5cm、底径7.5cm、器高6.2cmを測る。4は2に似た形状を呈しているが、口縁先端が若干外反している。5は器面調整が変わっており、壺部脚部とも外面は粗いハケメ、壺部内面は粗いハケメ後放射状の暗文、脚部内面はケズリである。6は口縁があまり開かないタイプで、脚部側から壺部に向けた深い刺突が見られる。器面調整は壺部内外面ともミガキである。7は器面調整が変わっており、壺部外面がナデ、内面がケズリである。15～17は、大きさや形状から判断して、壺部が深いタイプの低脚壺の脚部と思われる。

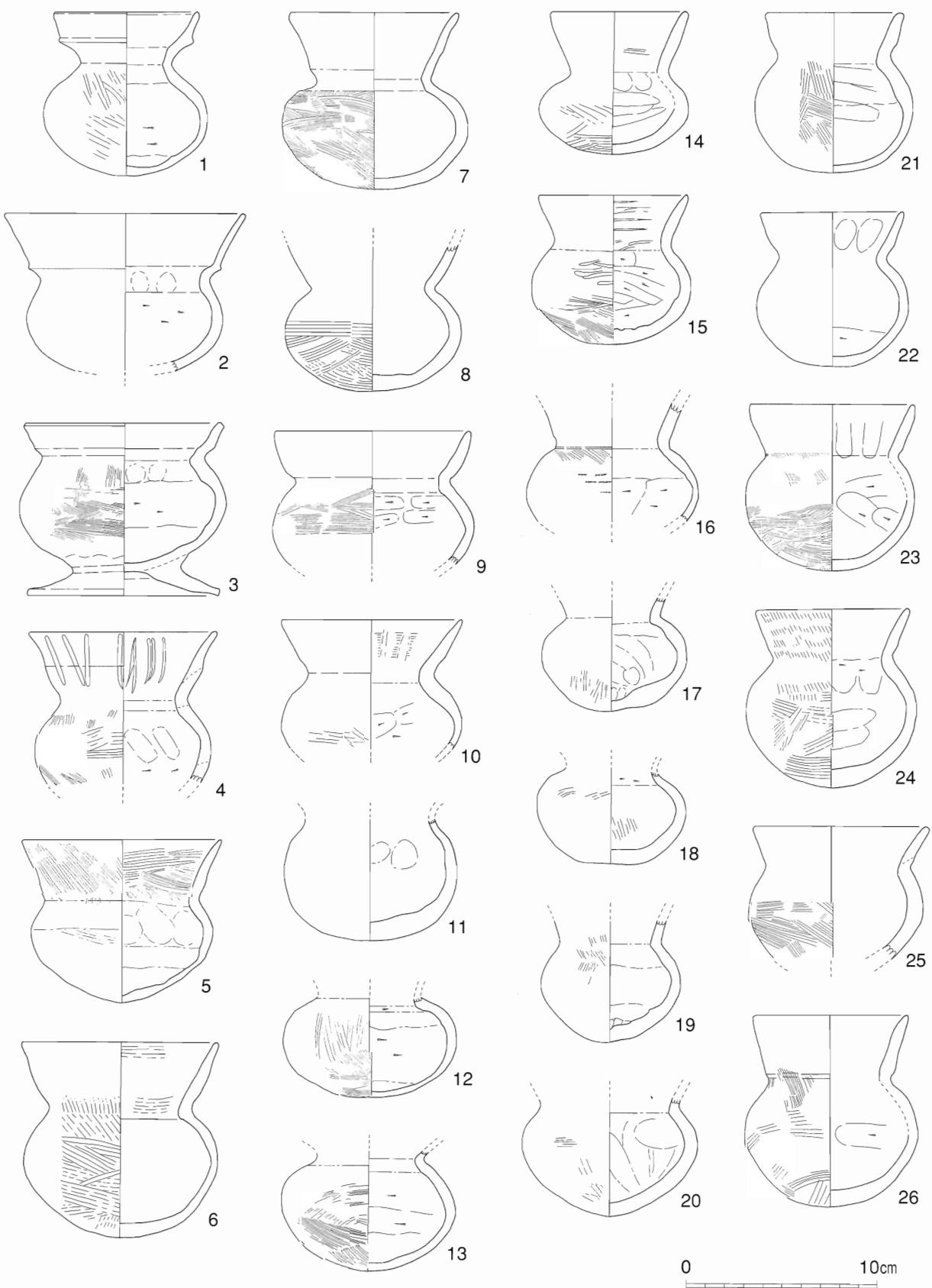
18～24は壺である。18は手づくね状の壺で、口縁の歪みが著しい。器面調整は外面が指頭圧痕、内面が指頭圧痕およびナデである。口径10.6cm、器高6cmを測る。19は底の接地面積が広い壺で、内面には放射状に暗文が描かれている。20は口縁端部が若干外反するものである。21は内面に放射状の暗文が描かれている。23は底部外面の仕上げに手持ちのケズリが施されている。内面には暗文ではなく、ヘラによる放射状の文様が描かれている。24は脚が無い高壺の壺部である。本来は脚が付くべきはずの中央部に粘土を充填して壺となしている。内面には放射状に弧の暗文、外面には斜線状の暗文が描かれている。口径20cm、器高5.8cmを測る。



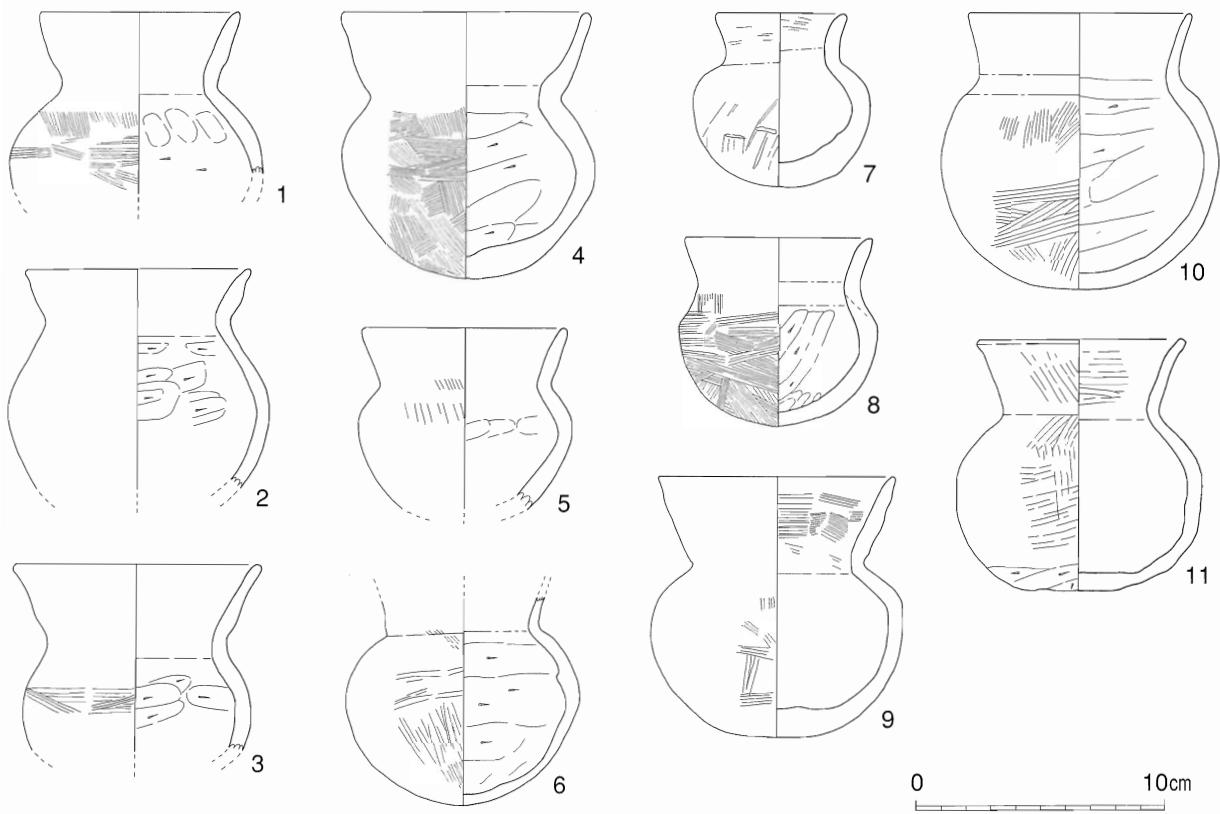
第54図 土師器実測図 (23)



第55図 土師器実測図 (24)



第56図 土師器実測図 (25)



第57図 土師器実測図 (26)

5. 小型丸底壺

第56、57図は小型丸底壺である。小型丸底壺は完形に近いものが多数出土したため、残存状況の良いものと特徴のあるものを選んで図面化した。これらの個体間には多少の時期幅は見られるが、口径が胴部最大径を大きく上回る古いタイプのものは認められない。器面調整はどれも似かよっており、口縁部内外面がナデまたはハケメ後軽いナデ、胴部外面はハケメまたはハケメ後ナデ、胴部内面はケズリおよび指ナデである。

第56図1、2は複合口縁を持つ小型丸底壺で、夫手遺跡では古い範疇に入ると思われる。1はやや丸味を帯びた複合口縁を持ち、全体のプロポーションは壺のミニチュア品といった印象を受ける。口径7.6cm、頸径4.8cm、胴部最大径8.5cm、器高8.6cmを測る。2はまだ立ち上がりの高い複合口縁を持ち、口径が胴部最大径を上回るものである。口径14.1cm、頸径8.85cm、胴部最大径10.2cmを測る。3は複合口縁が非常に退化した形状の口縁を持ち、脚台が付けられた珍しいものである。口径10.4cm、頸径8.4cm、胴部最大径10.7cm、底径10cm、器高9.1cmを測る。5は口径が胴部最大径を上回り、底部はやや尖り気味の丸底を呈している。口径10.4cm、頸径8.1cm、胴部最大径9.5cm、器高8.6cmを測る。6～20は、胴部断面形が横長の楕円形を呈するものである。6、7、14は口縁の立ち上がりが比較的高く、20の底部はやや尖り気味の丸底を呈している。第56図21～第57図は、胴部がほぼ球形を呈するものである。第57図11は口縁端部が若干外反し、底部外面の仕上げに手持ちのヘラケズリが施されている。ここでは最も新しい範疇にはいるものである。口径8.4cm、頸径6.3cm、胴部最大径9.9cm、器高10.1cmを測る。

6. 高 坯

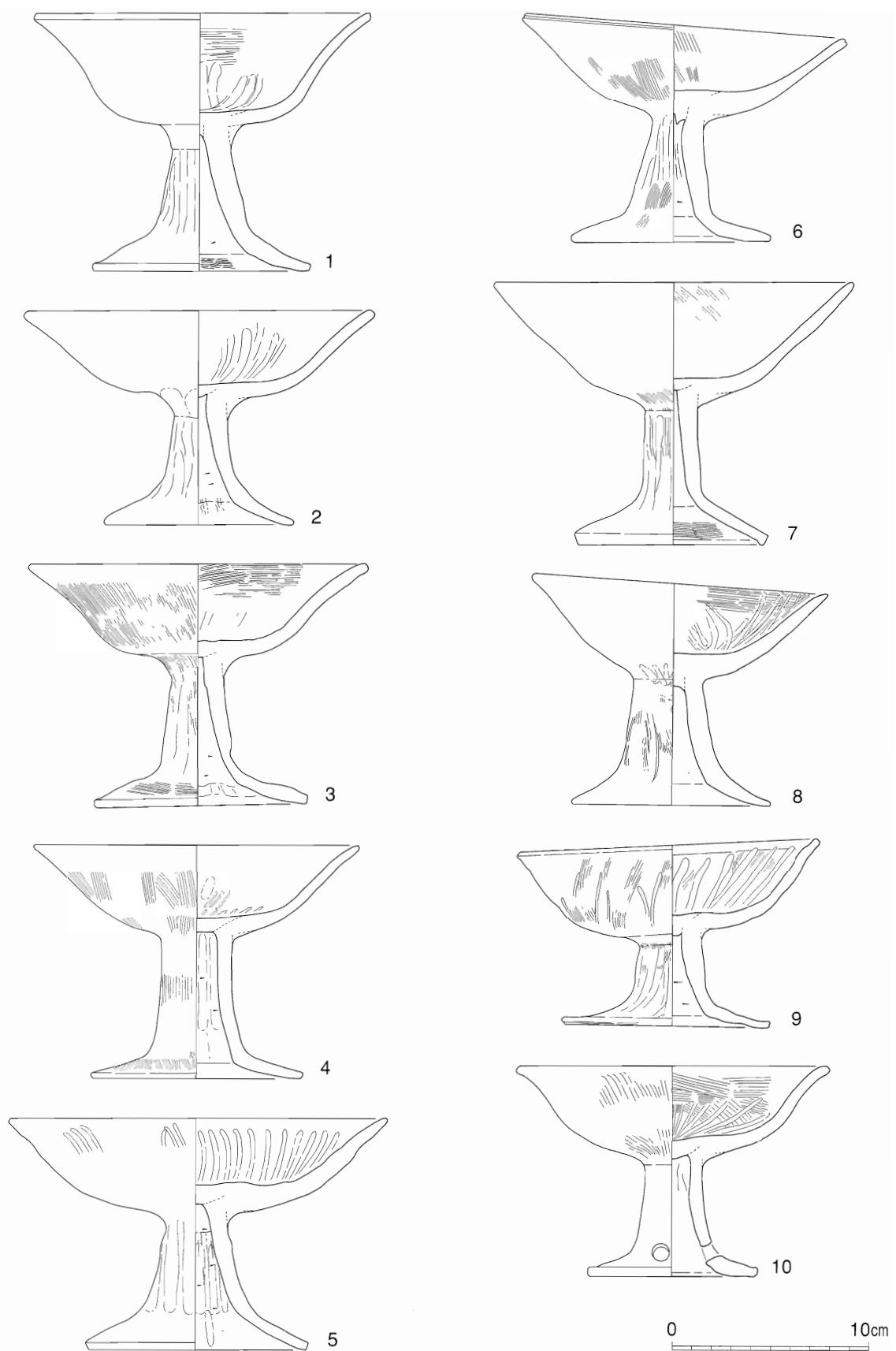
多量の高坯が出土し、土師器全体の出土量における高坯の割合は非常に高い。しかし、残念ながら高坯はその構造上坯部と脚部の境で割れ易く、完形に復原できたものは少ない。ほとんどのものが坯部と脚部で別々に図面化せざるを得なかったが、高坯は外形や器面調整のほかに坯と脚の接合方法による時期編年が語れており、それを観察するためには上下に分かれた破片はむしろ役立つ資料となつた。夫手遺跡では、坯部が丸いものと有段のものが出土したが、前者の数が圧倒的に多い。

第58図、第59図1～3は、完形に復原できた坯部が丸い高坯である。これらを観察していくと、形状、器面調整とも個体差が著しいようであるが、坯部の形状については、浅くて口縁が外反気味に立ち上がるという点で共通点が見られる。器面調整については、脚筒部の内面調整が横方向のケズリという点で共通性を見いだすことができる。ただし、例外もあり、第59図2は絞り痕、3はハケメおよびナデである。第58図2と第59図1は脚の3カ所に円形の透かしが穿たれている。第58図5、8～10、第59図2は、坯部内面に放射状の暗文が描かれている。第59図2は口縁端部に凹線が巡らされ、全面に赤色顔料が塗布されている。坯と脚の接合方法はわかりにくいが、坯部側から粘土を充填しており、第58図6と第59図2については脚側からの刺突が見られる。59図3は変わったタイプで、脚筒部の半分以上に粘土が充填されており、手に取るとずっしり重たい。

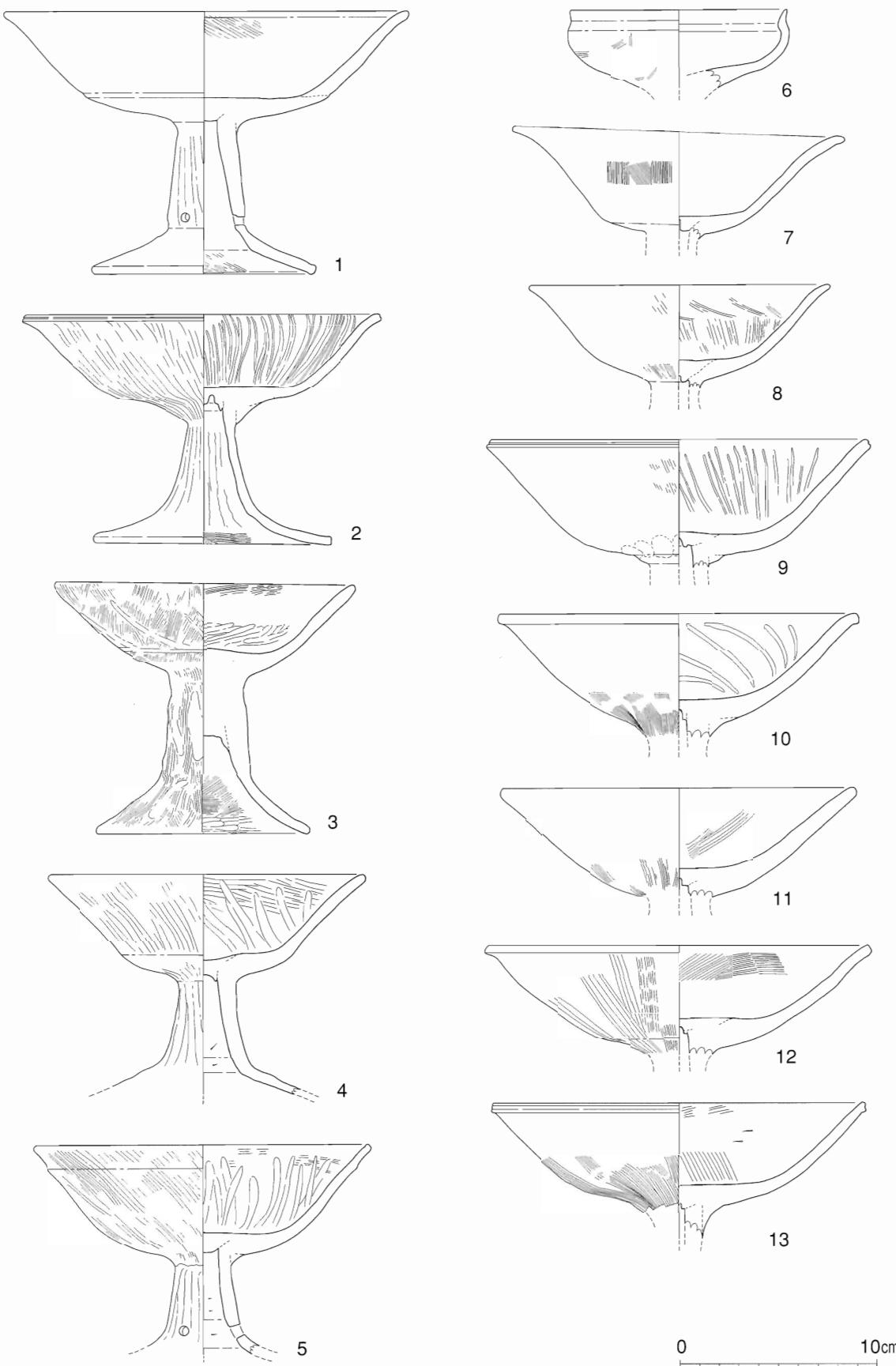
第59図4～第61図は丸い坯部だけが残存したものである。外形は、坯が浅くて口縁が外反気味に開くものがほとんどを占めている。第61図11、12は口縁端が内湾しており、口径がやや小さく作られている。夫手遺跡の中ではやや新しいタイプの高坯である。第61図13は坯内面がケズリによる調整で、器壁は非常に厚い。第59図9、13、第60図9、12は、口縁端部に凹線が巡らされたもので、長海川流域で多く見られる、壺や甕の口縁端部の凹線に通じるものであるかもしれない。坯内面に放射状に暗文が描かれたものは多く、第59図9、10、第60図1、4、6、7、9、10、12、14、第61図5、10で認められる。第60図12は内外面に赤色顔料が塗布されている。脚の接合方法は、坯側からの粘土の充填のみが観察でき、第59図7～第60図3では脚側からの刺突が見られる。第60図4～8は、脚側から無数の刺突が施されており、脚側の表面がでこぼこしている。9は充填粘土が非常に薄いものである。第61図3～9は充填粘土が厚いもので脚側に丸く大きく張り出している。

第62図1～3は、完形に復原できた坯部に段を持つ高坯である。また、第62図～第63図8は、段を持つ坯部のみが残存したものである。これらを観察すると外形、器面調整とも個体差が著しいようであるが、外形的には、坯部が浅くて口縁の立ち上がりが短く外反するという点で共通点が見られる。第62図1は坯の段部が若干下垂し、4は坯部が極端に小さい珍しいものである。13は、口縁端部に軽い凹線が巡らされている。放射状に暗文が描かれたものは多く、第62図3、8、第63図3、7は内面に、第61図6、10、12、第62図1、4、8は内外面に認められる。脚の接合方法はすべて坯側からの粘土の充填である。第62図4は薄い充填粘土に脚側からの刺突痕が見られる。第62図5～8は充填粘土が比較的薄めであるが、その他については厚い粘土の充填がおこなわれており、脚側に丸く張り出している。

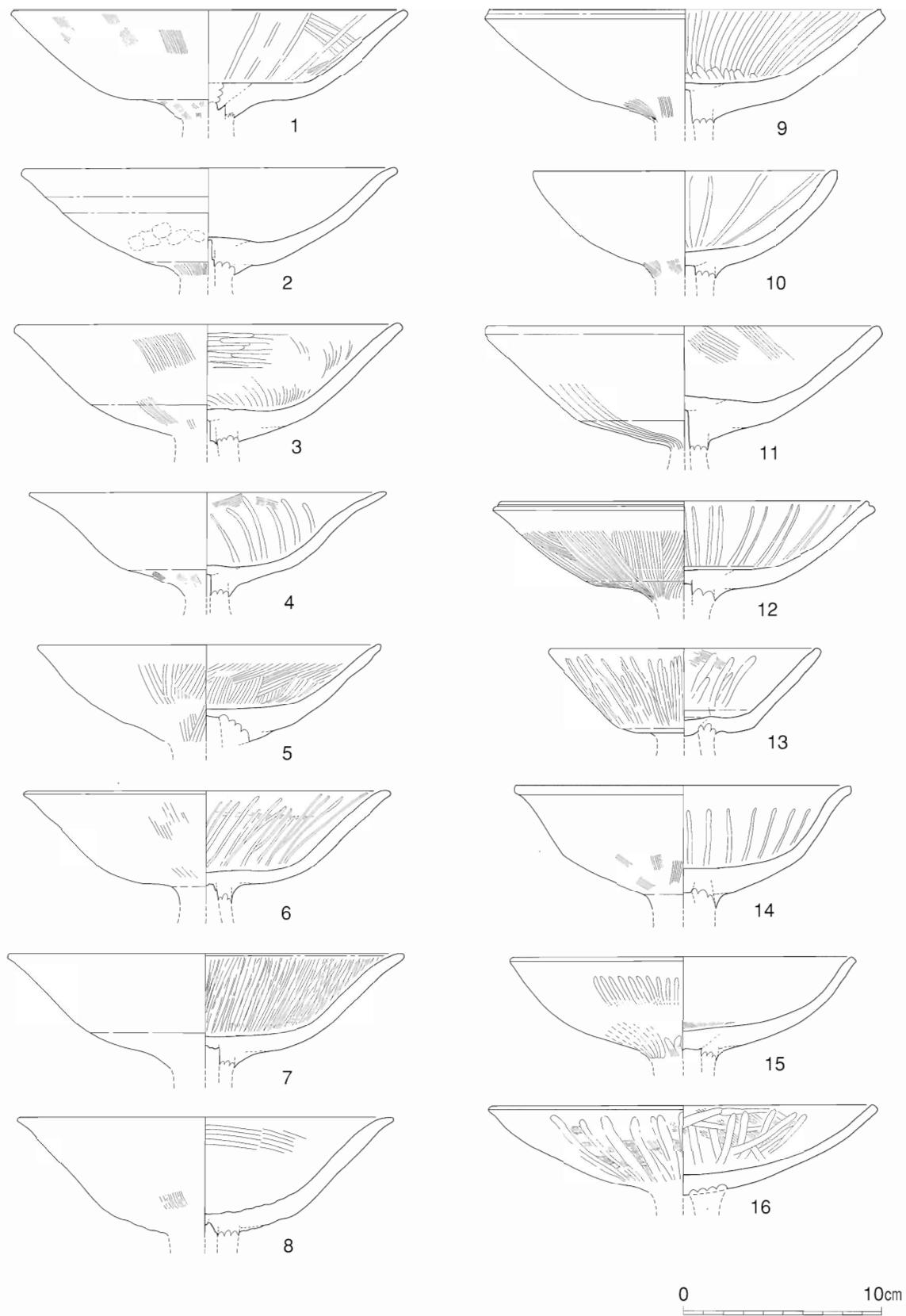
9は高坯と一緒に掲載したが、巨大な有段坯にやや低めの脚がついた特殊な形状を呈するものである。器面調整は、坯部外面が軽いハケメ、内面は風化、脚部外面はナデ、内面はケズリおよびナデで



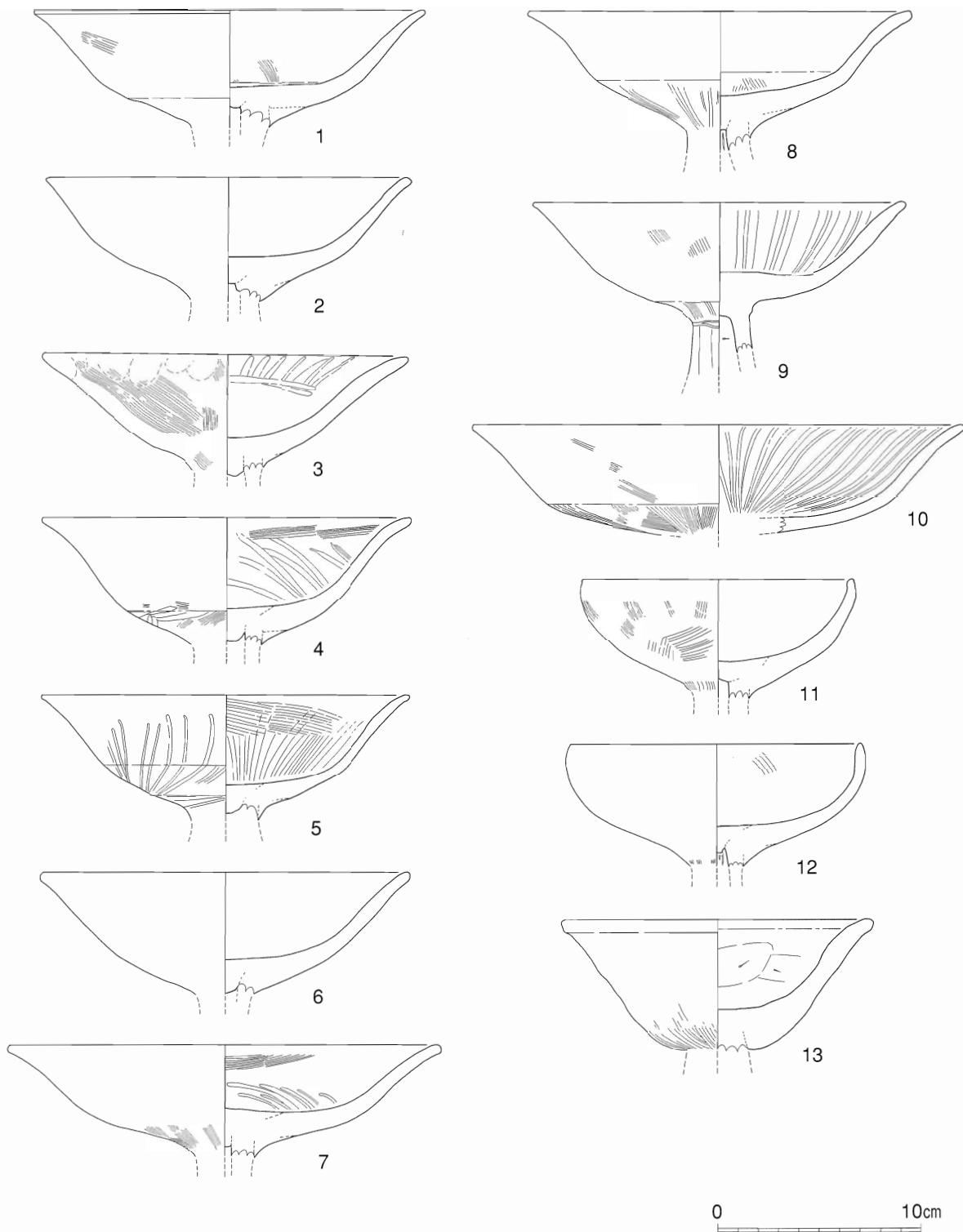
第58図 土師器実測図 (27)



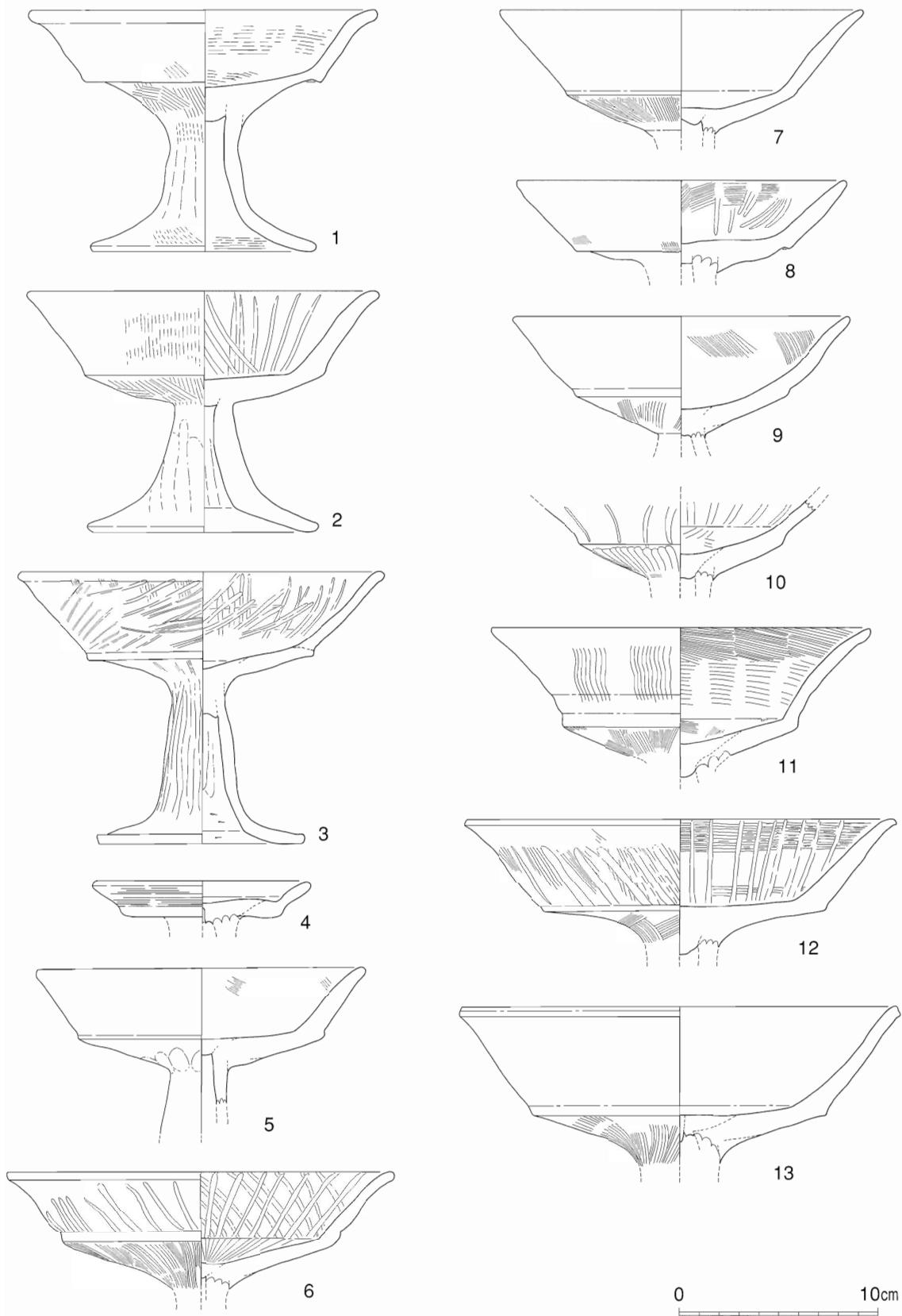
第59図 土師器実測図（28）



第60図 土師器実測図 (29)



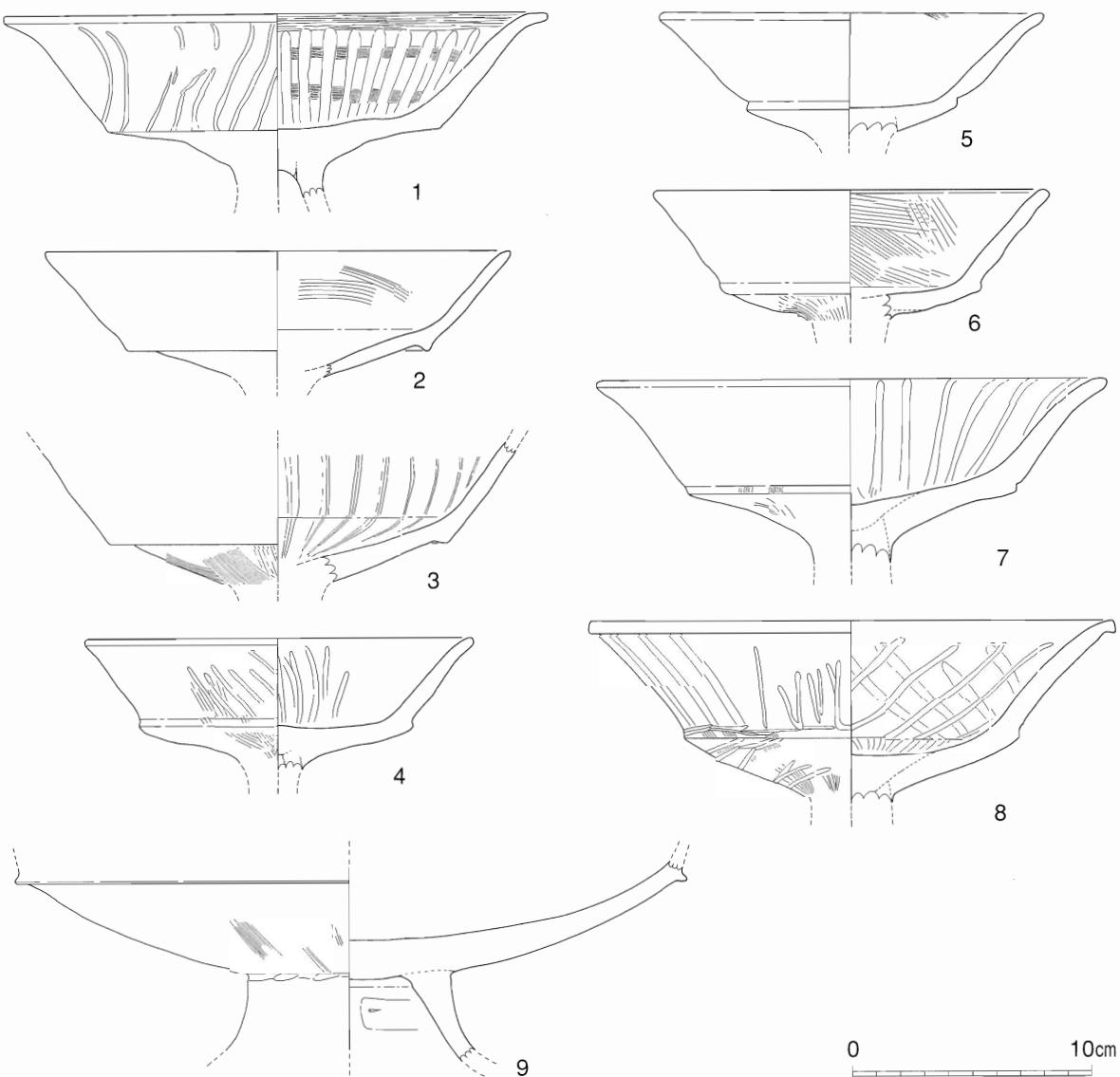
第61図 土師器実測図（30）



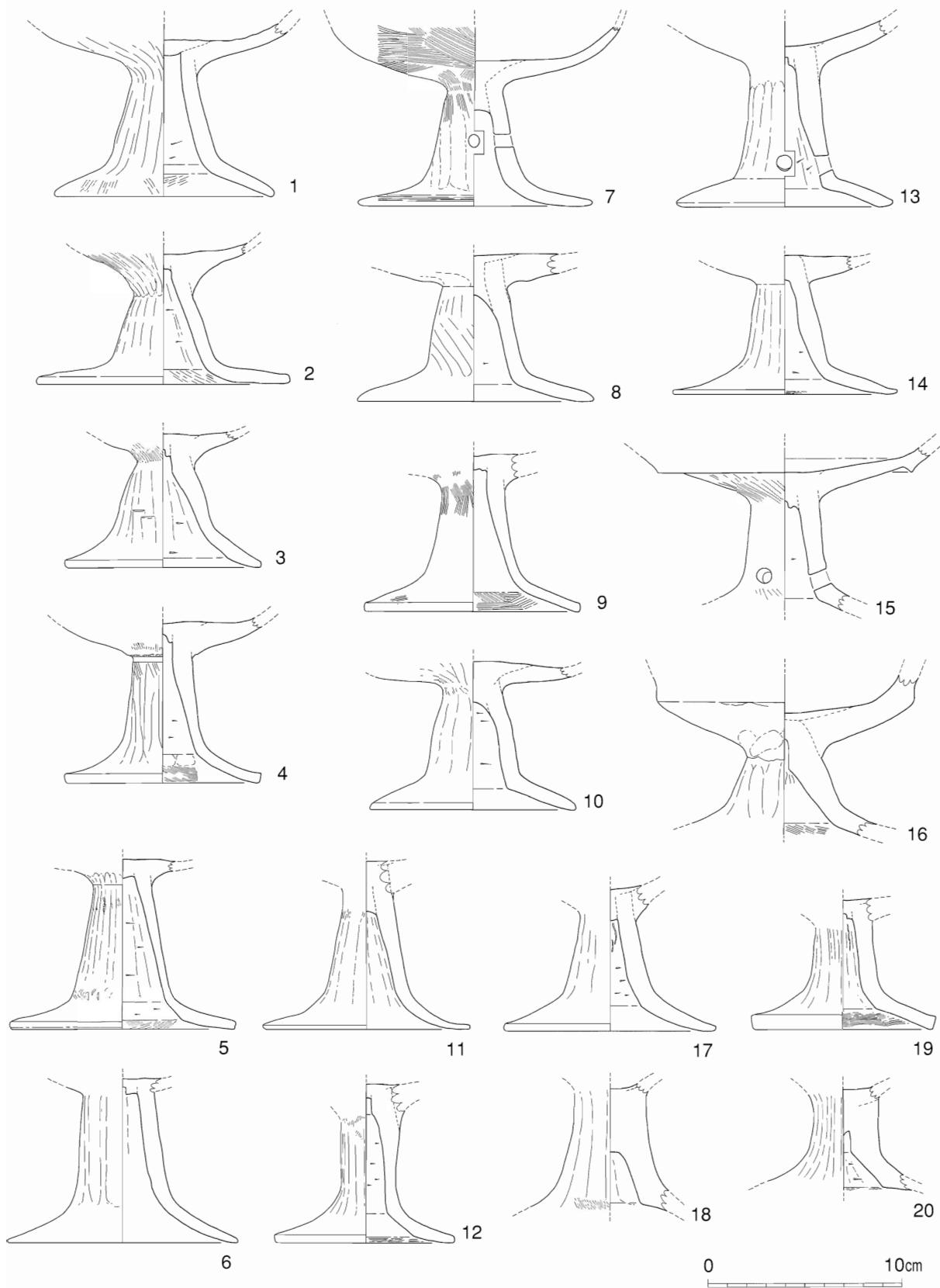
第62図 土師器実測図（31）

ある。壊段部の直径は28cm、脚部付け根の直径は8.4cmを測る。

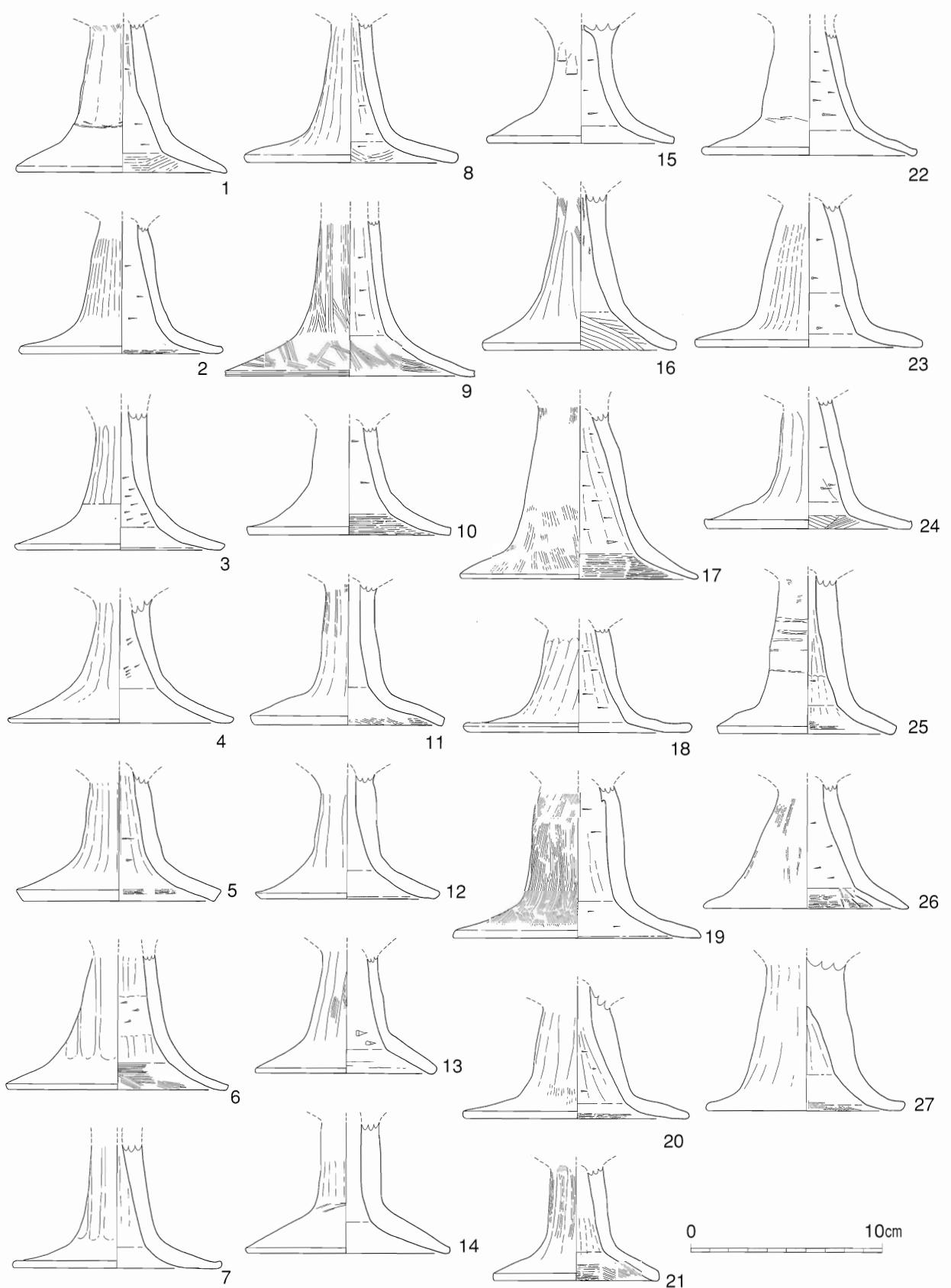
第64図～第67図は、壊部をほとんど欠損、または壊部をすべて欠損した高壊の脚部である。脚の外形は、筒部から裾部へかけて緩やかに開くもの、筒部から裾部への移行部分の主として内面に稜がついて急激に開くもの、その中間的なものと3種類が見られる。器面調整は、外面についてはミガキ、ハケメ、ナデとバラエティーに富んでいるが、内面は筒部が横方向のケズリ、裾部はハケメまたはナデであり、筒部の丁寧な横方向のケズリは大部分の個体に共通している。脚部の破片は壊と脚の接合方法が観察しやすい。第64図1、8、13、17、19を見ると、まずラッパ状の脚を作り、やや乾燥させた時点で壊部を立ち上げ、最後に壊側から粘土を充填して完成させた様子がわかる。充填粘土は、薄いもの、薄い上に脚側から刺突が加えられたもの、厚いものの3種類がある。変わった脚をあげておくと、第67図18は筒部の約半分、第66図24は筒部の全てに粘土が充填されたものである。また、第66図25は筒部内面に粘土紐の痕跡が顕著に残っており、絞りやその後の横方向のケズリが施されていないものである。筒部はふっくらと丸みを帯びており、絞り工程がおこなわれていない段階の状況をう



第63図 土師器実測図 (32)

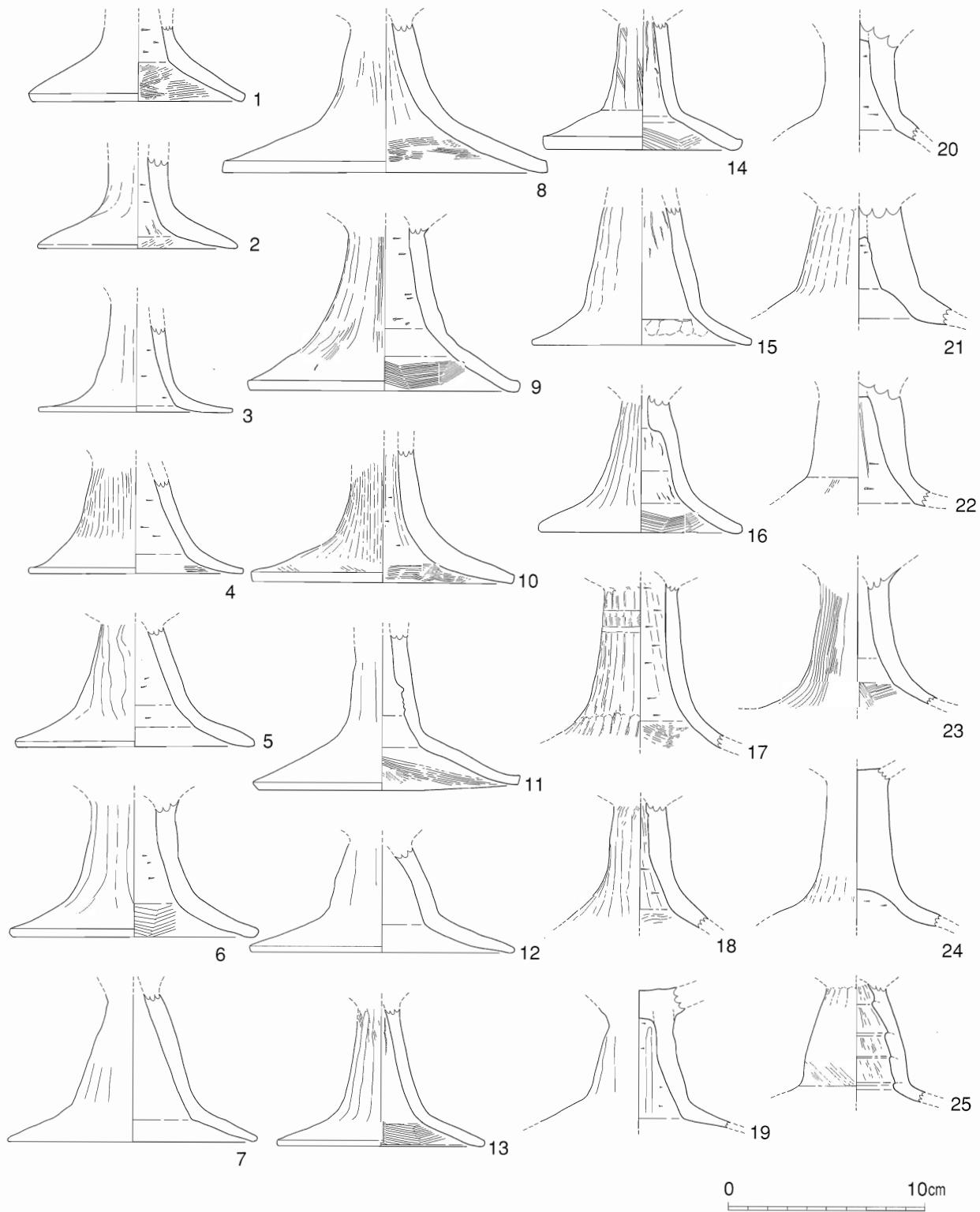


第64図 土師器実測図 (33)



第65図 土師器実測図 (34)

かがえる興味深い資料である。第67図は、円形の透かしが穿たれた脚である。4、15は2カ所、14は5カ所、その他はすべて3カ所に透かしが穿たれており、夫手遺跡では3カ所の透かしが流行っていたようである。なお、15は脚が極端に広がる高環で、環部は小さな半球状を呈するものと推察される。



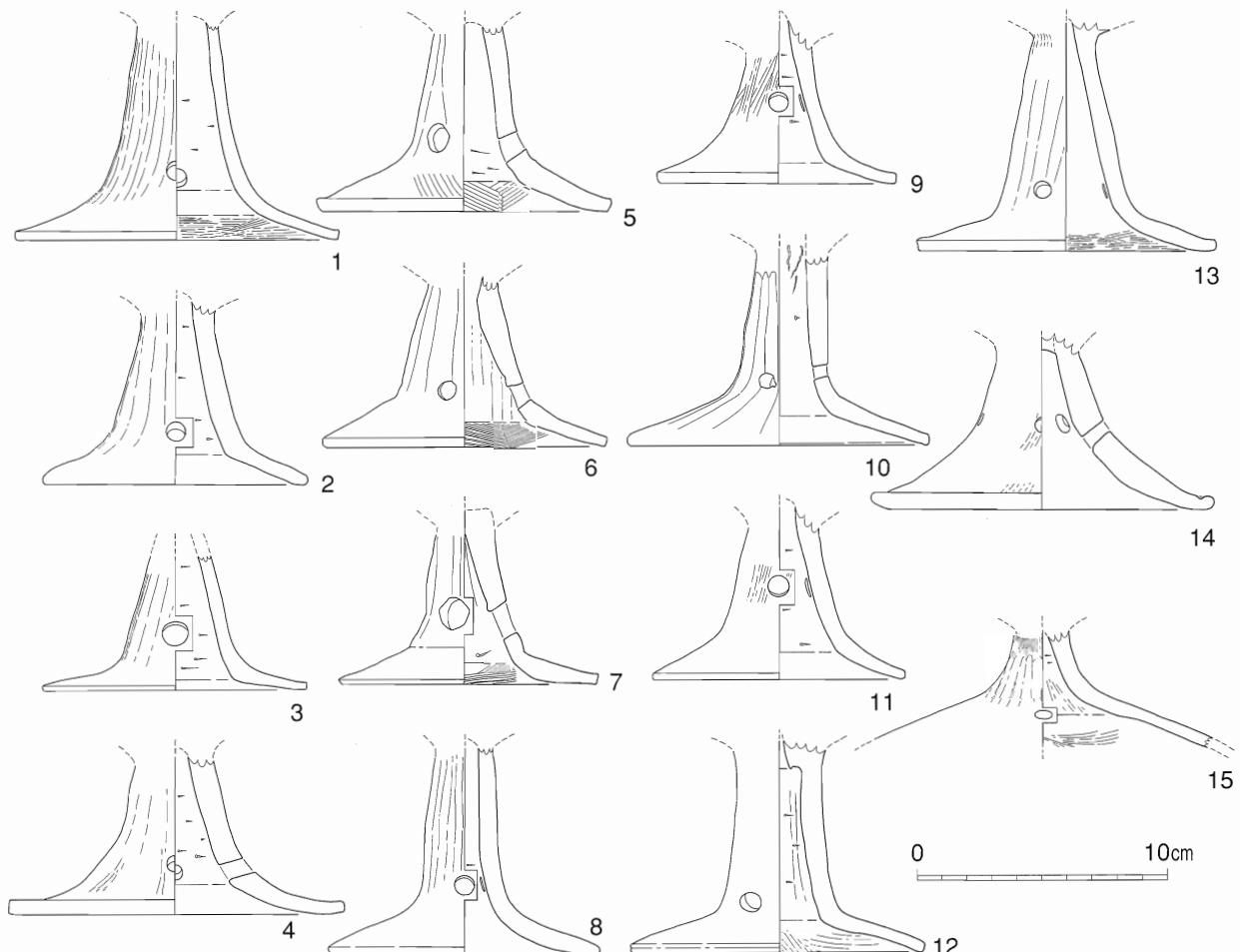
第66図 土師器実測図 (35)

最後になるが、以上に記した高坏の時期については、坏部が浅くて口縁が緩やかに外反することや、
坏と脚の接合部の充填粘土の状態から、松山編年^{註1)}のⅡ期古および新段階に含まれると思われる。壺や
甕はもっと古い時期のものがたくさん出土しているが、高坏においてはこの時期を中心としている。
それは、この時期において、土師器全体の出土量に対する高坏の出土割合が急激に増えるという、器
種に関する大きな流れの変化があったためである。

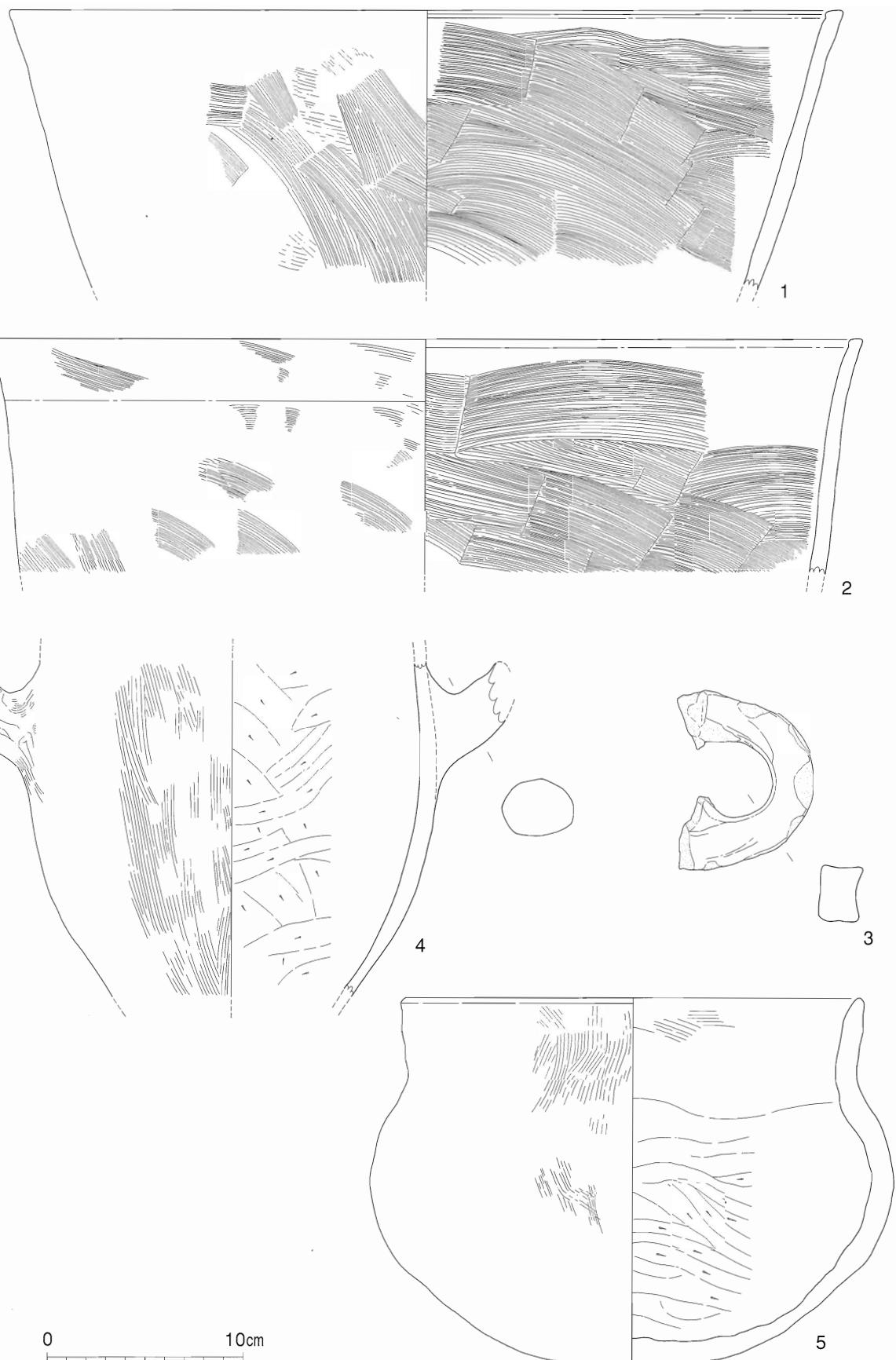
7. その他の器種

第68図 1、2 は甕形土器の口縁部である。器面調整は内外面ともハケメで、口縁端部には煤が付着
している。1 は口径42.3cm、2 は口径44.4cmを測る。3 は甕形土器の把手である。断面は方形で、上
下長は9.3cmを測る。4 は甕の胴部である。器壁調整は外面がハケメ、内面はケズリである。胴部最
大径は21cmを測る。5 は回転台を使用していない壺である。器面調整は外面と口縁部内面がハケメ、
胴部内面がケズリである。口径23.4cm、胴部最大径26.7cm、器高18.6cmを測る。

註 1) 松山智弘「出雲における古墳時代前半期の土器の様相」『島根考古学会誌第8集』1991年



第67図 土師器実測図（36）

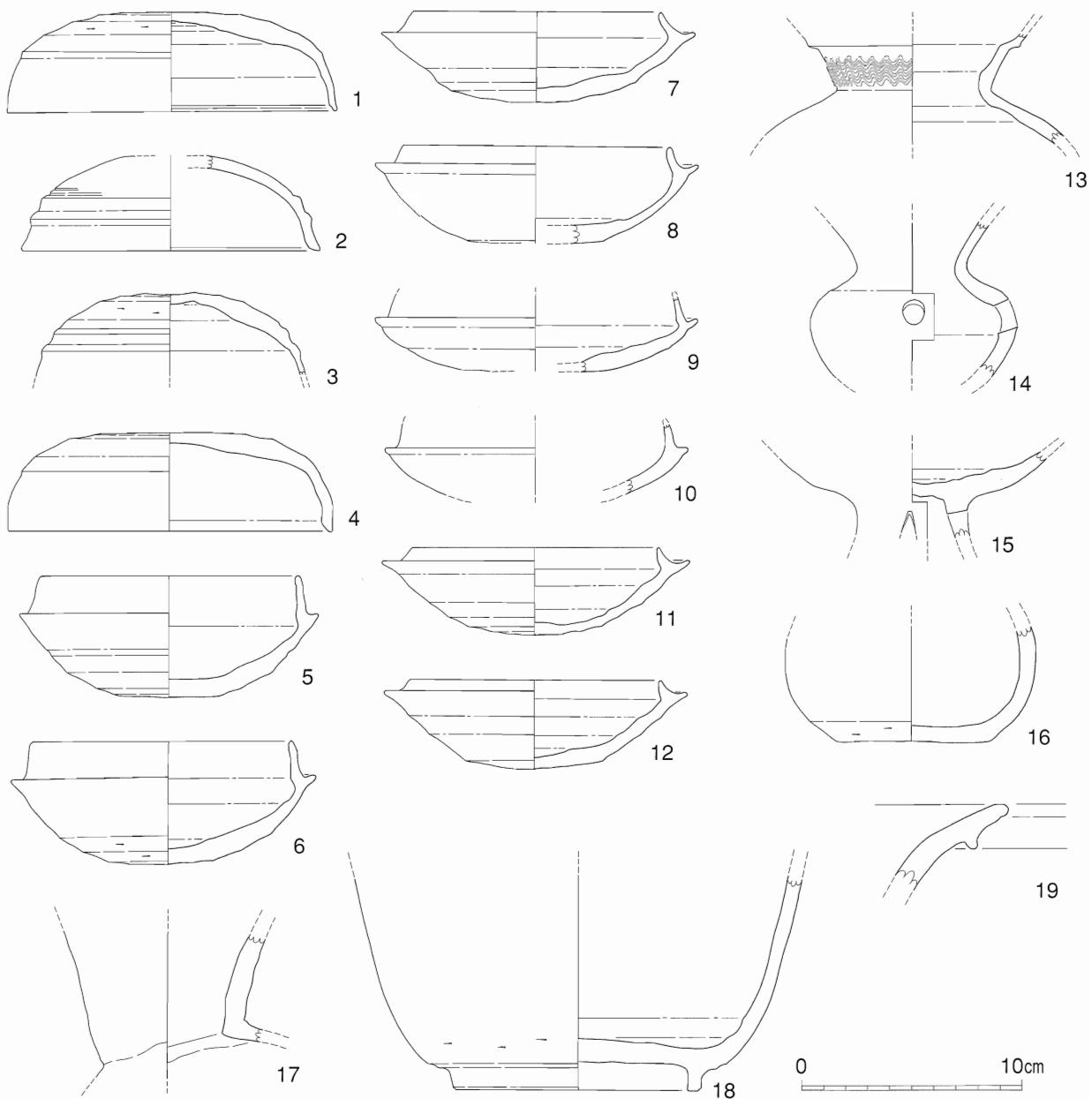


第68図 土師器実測図 (37)

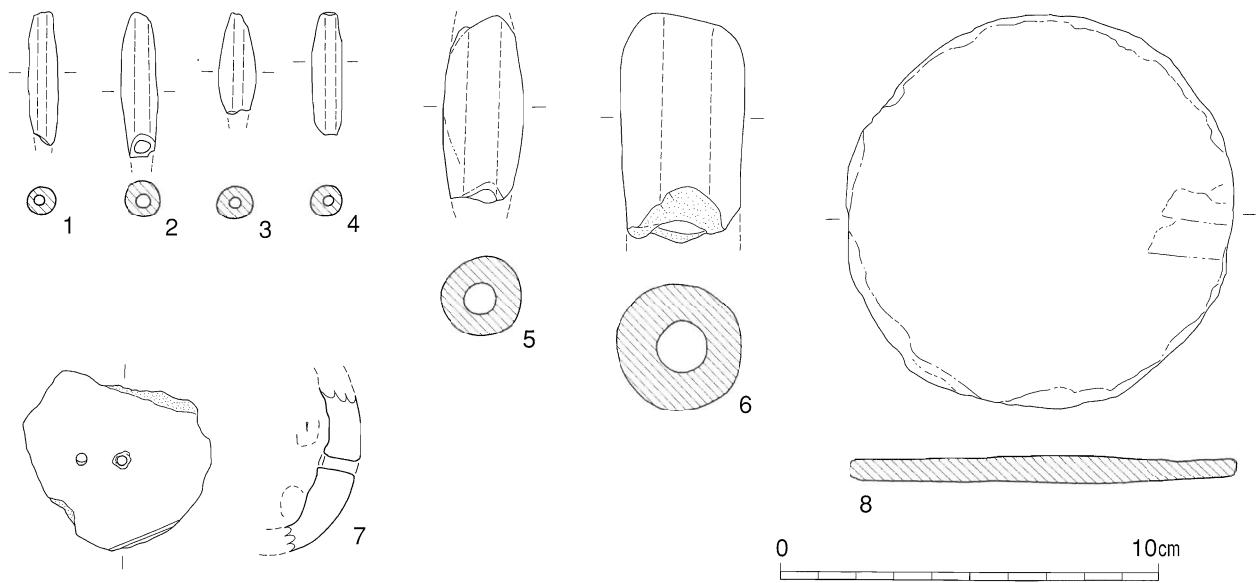
(4) 須恵器

今回の調査における須恵器の出土数は非常に少なく、図面化できるものは第69図にすべて掲載した。ただし、その内の4点（11・12・15・18）は昭和35年に表採されていたものである。

1～4は壺蓋、5～12は壺身である。時期的には5・6の壺身がやや古いタイプであるが、その他はすべて古墳時代後期後葉の内におさまるものである。13は初期須恵器の頸で、頸径4.7cm（推定）を測り、頸部は短くて胴部が大きく張っている。14は古墳時代後期後葉の頸である。15は高壺のくびれ部周辺、16は小型壺の底部、17は平瓶の頸部周辺、18は長頸壺の胴部より下の部分、19は甕の口縁端付近である。13は別として、蓋壺以外の器種も時期的には古墳時代後期後葉におさまるものと思われる。



第69図 須恵器実測図



第70図 土製品実測図

(5) 土製品

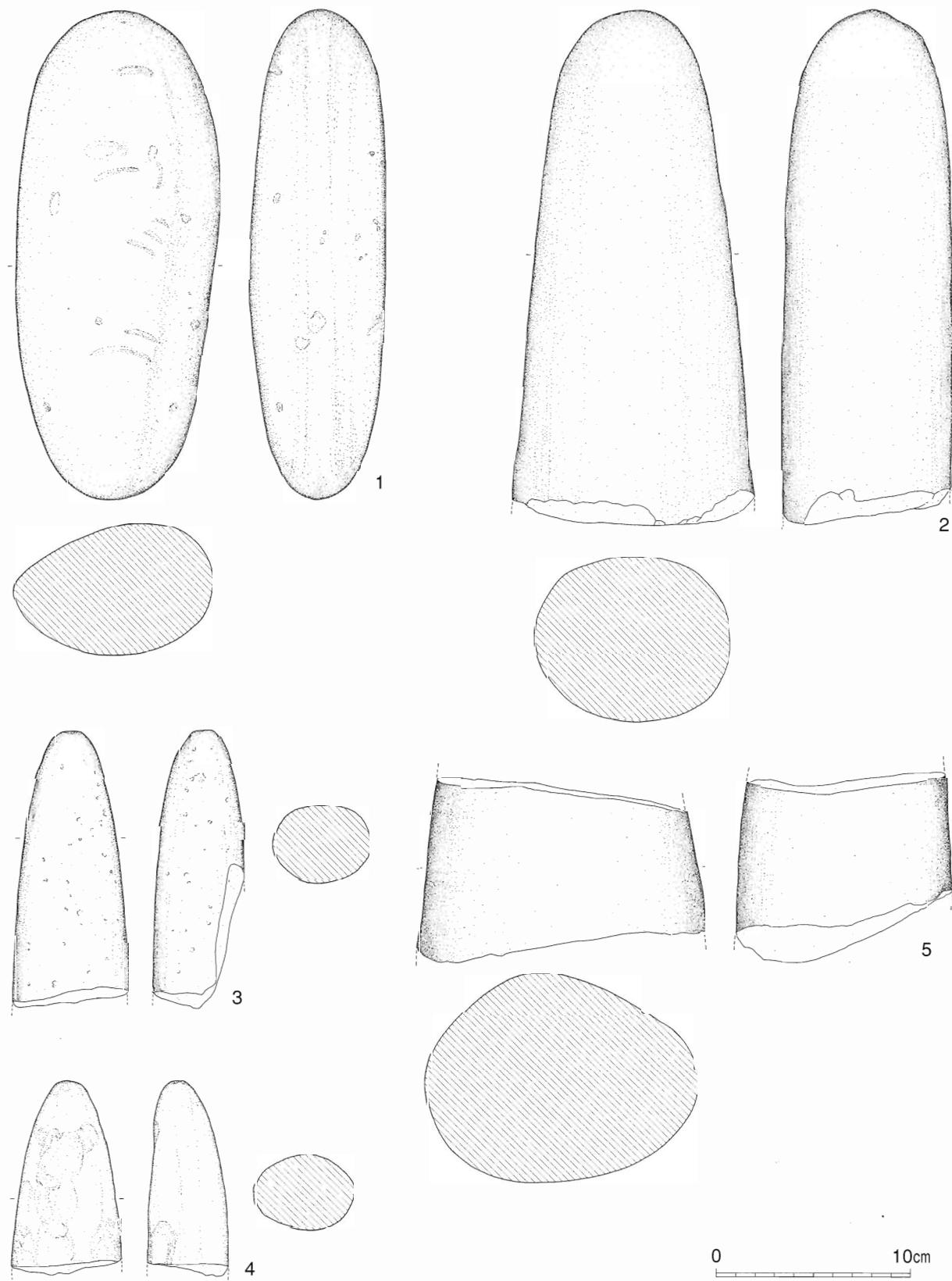
土製品の数は調査面積のわりには少なく、第70図で掲載したものがすべてで、土錘 6 点、土笛 1 点、円盤状土製品 1 点の合計 8 点である。いずれも時期は不明である。

1 ~ 4 は小型の土錘である。法量は、1 は最大径 0.8cm、2 は最大径 1 cm、3 は最大径 1 cm、4 のみ完形品で長さ 3.2cm、最大径 8.5cm を測る。孔径はいずれも 0.3cm 前後である。5 はやや大きめの土錘で、最大径 2.2cm、孔径 0.85cm を測る。6 は大型の土錘で、最大径 3.4cm、孔径 1.3cm を測る。7 は土笛である。前面下部の 2 カ所の音孔付近しか残っていない。残存部の底付近から上方に 2 条のヘラ描き沈線が引かれていることから、全体像を復原すると、底部中央を中心に 2 条のヘラ描き沈線が放射状に施されていたと思われる。音孔の径は約 0.3cm と小さい。8 は用途不明の円盤状土製品である。形状は偏平な円形を呈しており、焼成前に成形されたものである。法量は直径 10.4cm、厚さ 0.7cm を測る。表裏面には漆状の付着物がかすかに残っているが、分析をおこなっていないため正確な物質名は不明である。

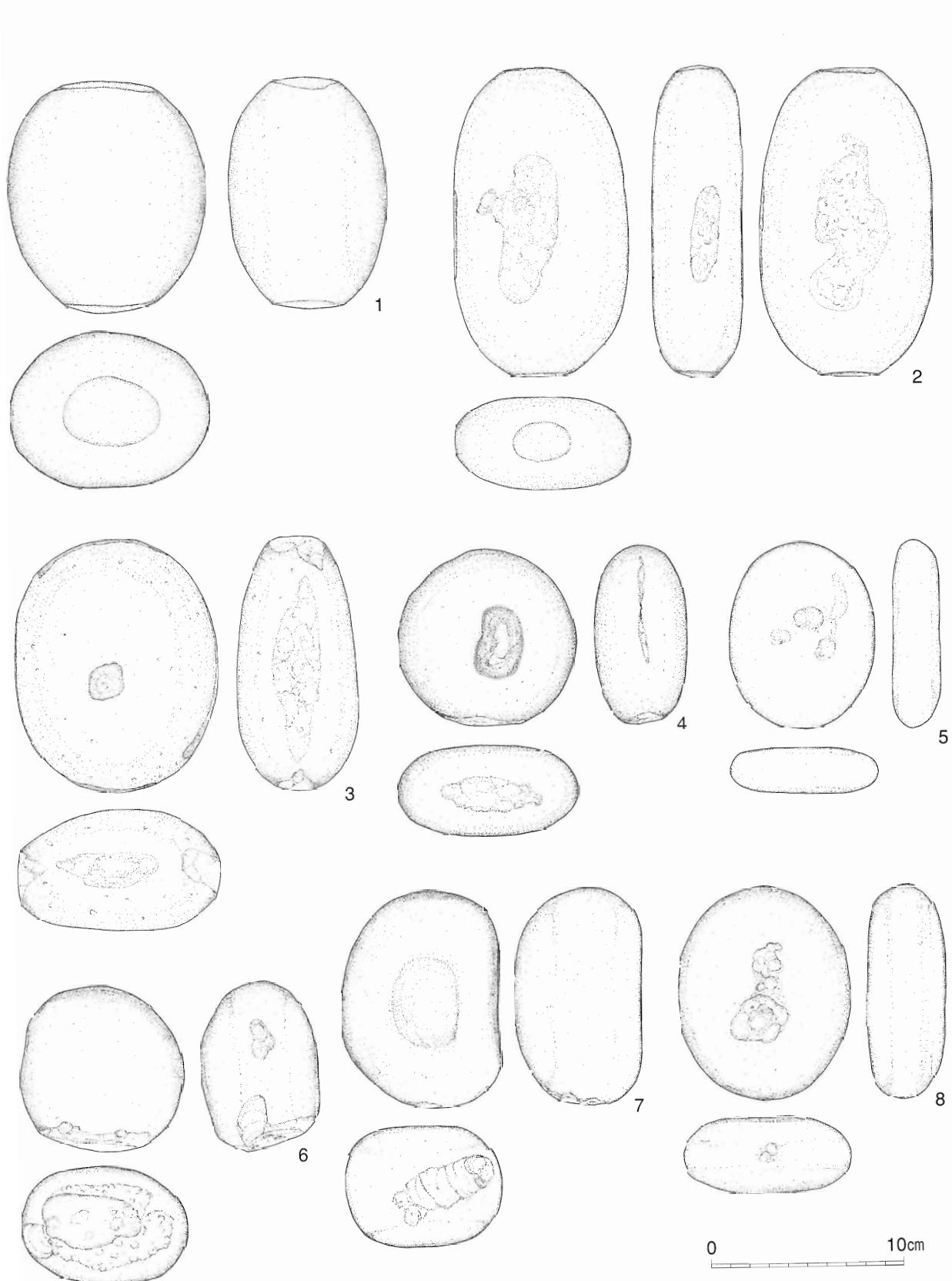
(6) 石 器

第71図は、縄文時代の石棒である。1 は完形品で、全体に丁寧な研磨が施されている。法量は高さ 25cm、幅 9.9cm、厚さ 5.7cm、重さ 2360g を測る。2 は欠損品であるが大型のものである。3 は丁寧な研磨が施されている。欠損しているため原型は不明であるが、小型品または細長いタイプのものと思われる。4 は表面の研磨が粗い。石斧の基部の可能性も考えられる。5 は大型の石棒の一部である。夫手遺跡から出土した石棒の数は 5 点しかないが、しいてその特徴をあげるとすれば、太くて短いことであろう。

第72図は擦り石、敲石の類である。1 は重さ 1520g を測る重量感のある擦り石で、上・下端部には明瞭な使用痕が見られる。2 は擦り石兼敲石で、やや偏平な形状を呈している。上・下端部には擦り



第71図 石器実測図（1）

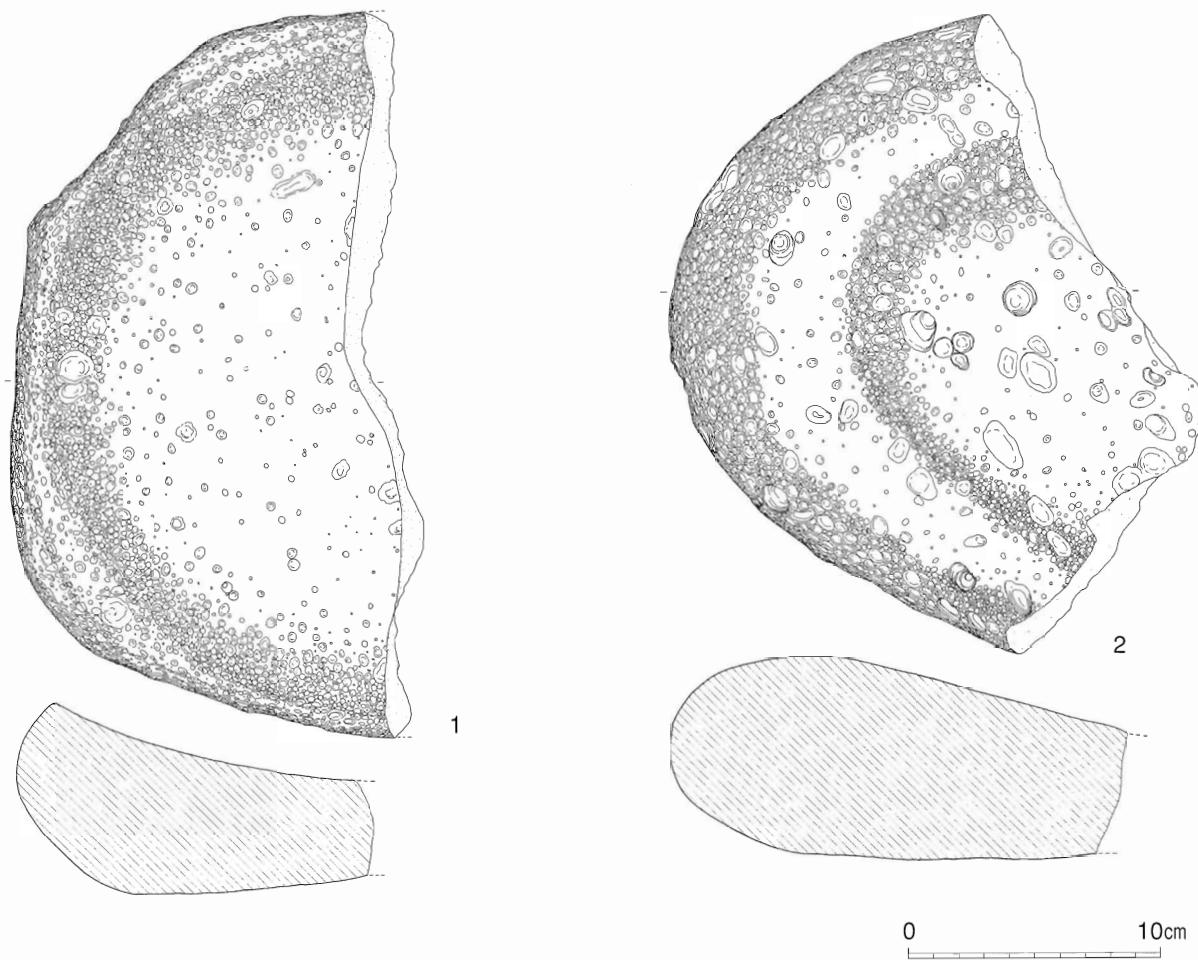


第72図 石器実測図（2）

石として使用した痕跡が残り、中央部には敲石として使用した痕跡が4カ所に見られる。3も2と同様の擦り石兼敲石である。4は敲石で、広い面の中央部には滑らかで不整形なくぼみが見られる。5は敲石である。6はやや小型の擦り石兼敲石である。下端部にのみ擦り石として利用した痕跡が見られる。7は敲石で、下端部に使用痕が見られるほか、広い面の中央部に滑らかで橢円形を呈するくぼみが見られる。8は敲石である。

第73図は石皿である。1は約半分が残る欠損品であるが、上面のほぼ全面を使用しており、断面は中央部にかけて滑らかにくぼんでいる。石材は中海に浮かぶ大根島産出の火山岩で、表面には気泡孔が密に分布している。2も約半分が残る欠損品で、上面の使用面積は1よりもやや狭い。石材は1と同じであるが、1cmを越える気泡孔が多く、1よりも凹凸がはげしい。1・2を敲石や擦り石に対応する石皿と考えると、従来考えられているようなどんぐり等の木の実を処理する際には目詰まりが著しかったと思われるが、あえてこの石材が利用されていたようである。

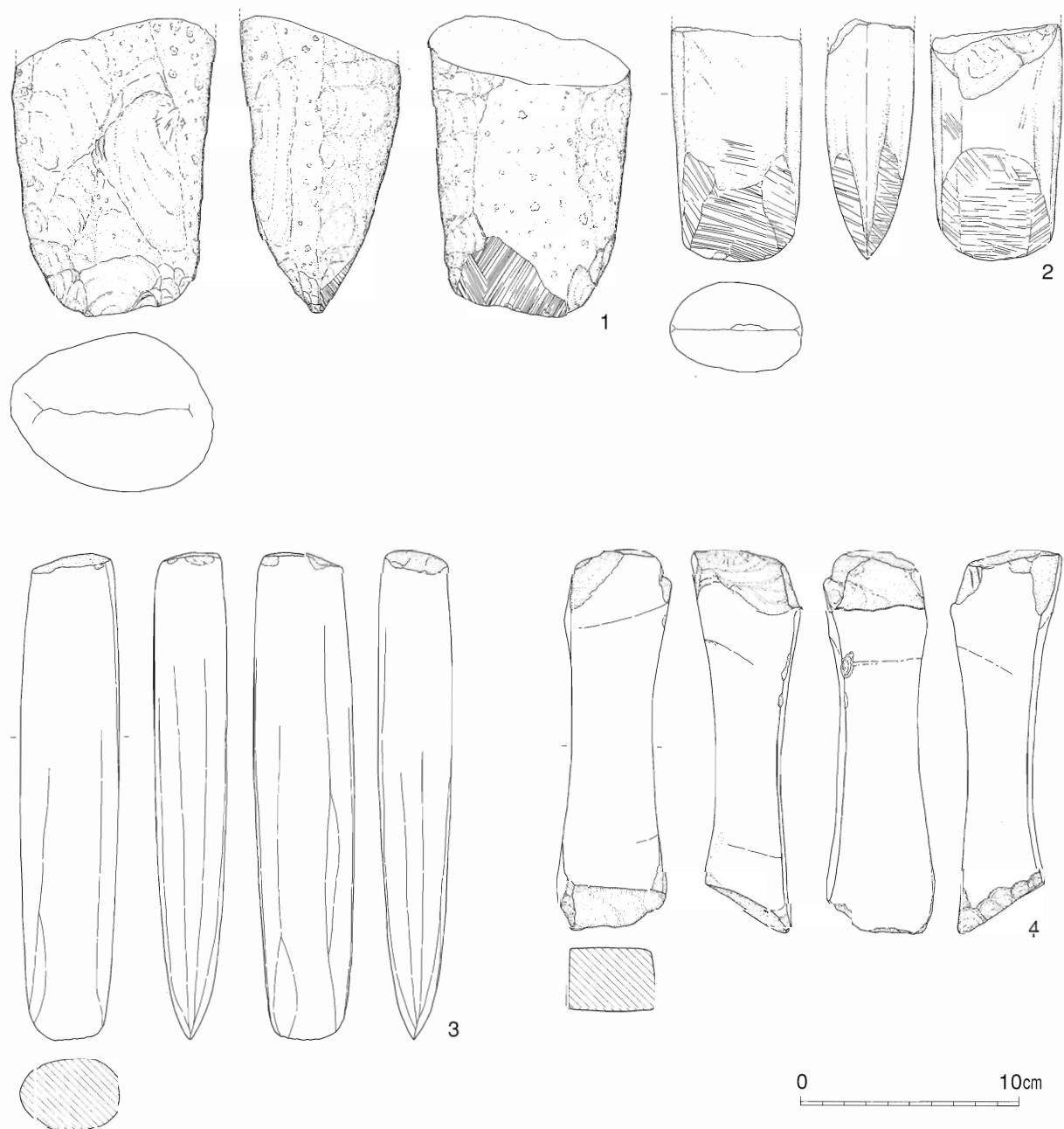
第74図1は一部磨製の石斧である。基部を欠損しているが、使用後に欠損したものか、製作途中に欠損した未製品であるのか明確でない。2は磨製蛤刃石斧である。刃部には若干の刃こぼれ状の使用痕が認められる。基部は欠損している。3は完形の磨製蛤刃石斧である。基部以外は非常に丁寧な研



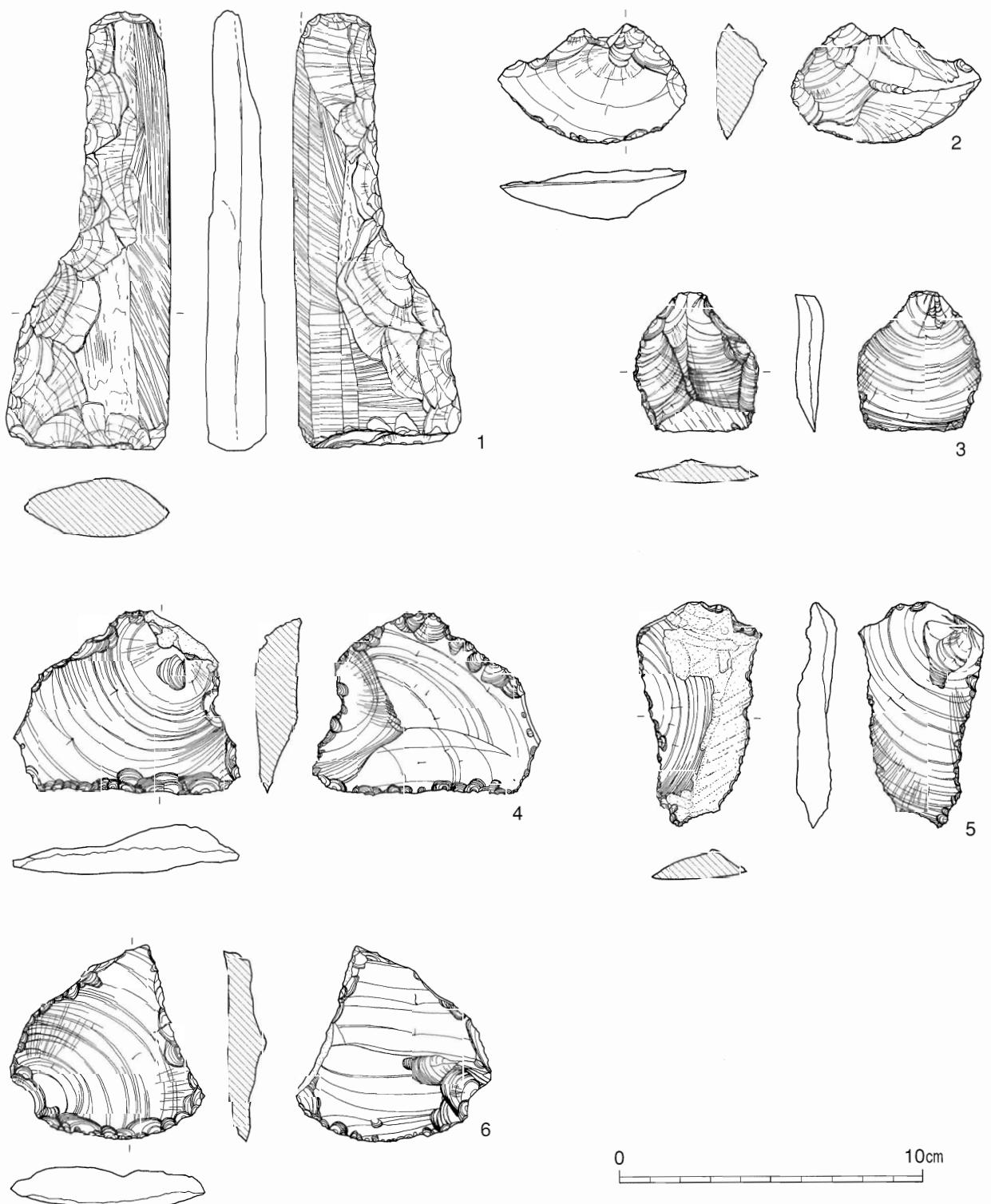
第73図 石器実測図（3）

磨で仕上げられている。法量は長さ22.3cm、最大幅4.5cm、4.5cm、最大厚3.4cm、重さ610gを測り、狭長な形状を呈している。使用痕は認められない。4は砥石である。角柱状の石材で、両端を除く4側面は使いこまれて断面が弓なり状を呈している。砥面には砥ぎ止めの痕が認められ、幅の広い刃先、例えば蛤刃石斧の刃先等を砥いたものと推察される。

第75図1は、片端には丁寧な研磨による直線の刃がつけられ、他方の端には研磨面を打ち欠いて内湾した刃がつけられている。おそらく当初は全面磨製の石劍状の製品であったものが、何らかの理由によって欠損が生じた際に打製による刃をつけて石鎌としたものと思われる。2～6はスクレイパーである。2、4、6は下面に、3、5は両サイドに刃がつけられている。



第74図 石器実測図（4）



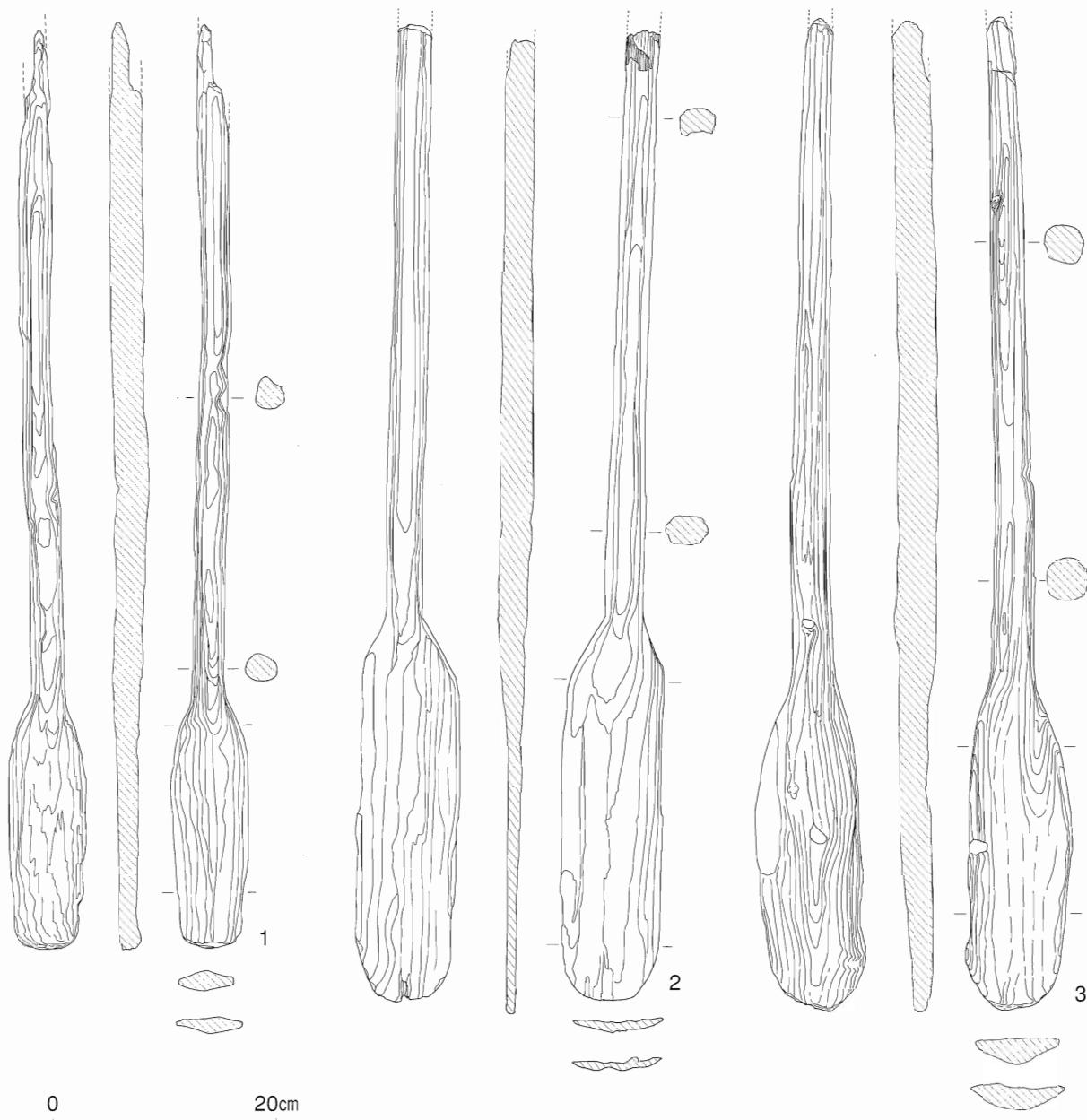
第75図 石器実測図（5）

(7) 木製品

夫手遺跡の遺物包含層は標高が低くて湿地状であったため、多数の木製品および木材が出土したが、加工痕が顕著なものについてのみ図面化して掲載した。

木製品の時期は層位上では明確にできなかったが、遺物包含層の最下層から出土した一部については放射性炭素年代測定法により縄文時代前期という結果を得た。その他の木製品については包含層のレベルがやや高いこと、種類・形状から縄文時代にはさかのぼり得ないこと、古墳時代中期の大量の遺物に混じって出土していることから、古墳時代中期頃の遺物と推察することができよう。

第76、77図は櫂である。第76図1～3、第77図1は、柄の先端を欠損していて全長は不明であるが、水掻き部分はほぼ完形で残っており、残存状況は非常に良い。樹種はすべてスギである。4点には大きさや形状の点で微妙な差異が認められ、第76図1は、柄の径は3cmを測り、断面は円形、水掻き

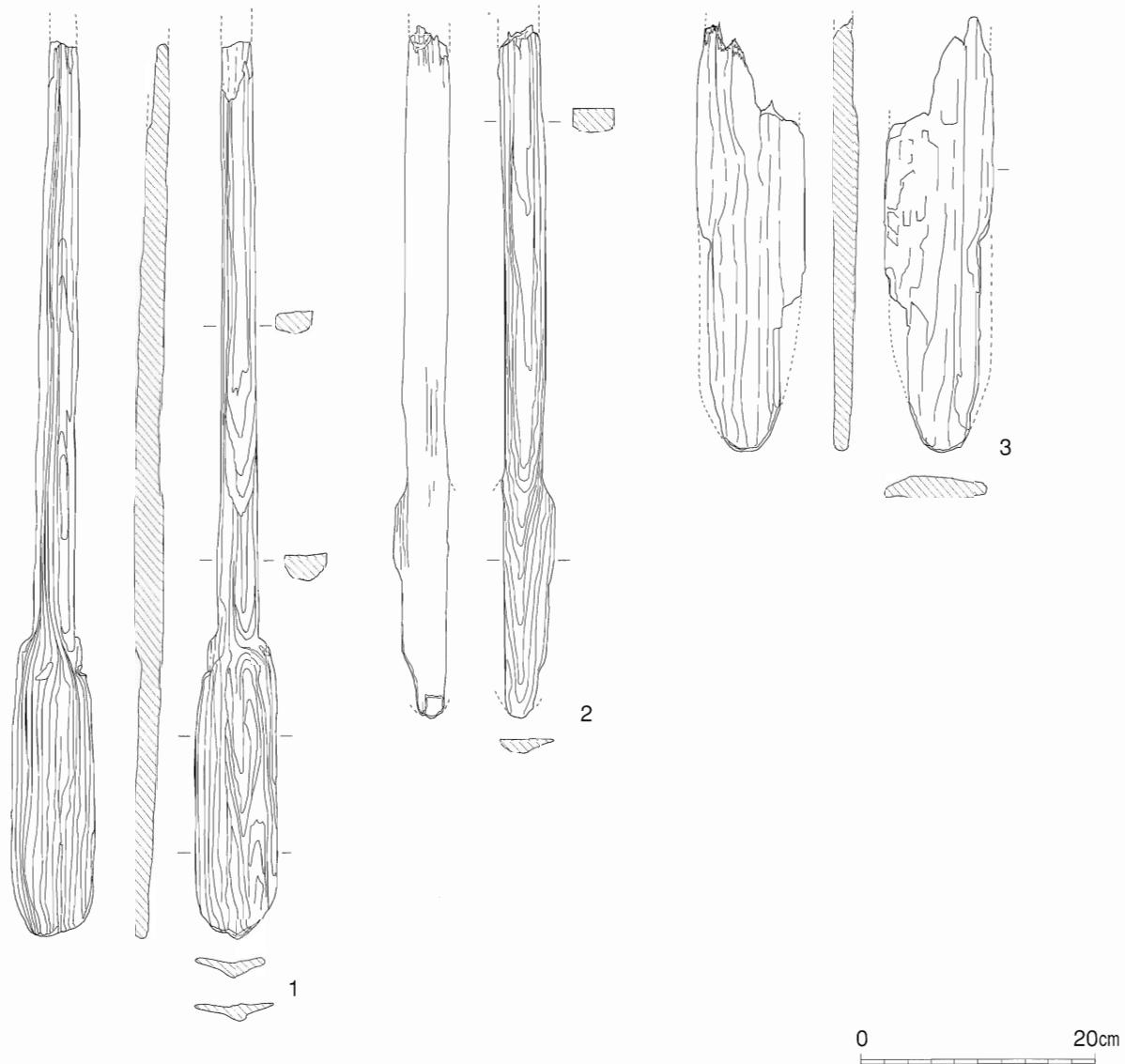


第76図 木製品実測図（1）

は長さ22.2cm、幅7.2cm、中央の厚さ1.8cmを測り、断面は中央がやや高い菱形を呈している。2は、柄の径は3.4cmを測り、断面は角張った楕円形、水搔きは長さ43cm、幅9cm、中央の厚さ1.3cmを測り、断面形は直線に近いが、非常に薄い両端が若干内湾している。3は、柄の径は3.6cmを測り、断面は円形、水搔きは長さ30.3cm、幅9cm、中央の厚さ2.7cmを測り、断面は片面が直線で反対側の面が中央でやや高い形状を呈している。第77図1は、柄の幅は3.2cmを測り、断面は方形から半円形、水搔きは長さ25.7cm、幅7.2cm、中央の厚さ1.6cmを測り、断面は片面の中央がくぼんで反対側の面が中央でやや高くなる「く」の字状を呈している。

以上に記した4点の櫂の年代については、放射性炭素年代測定法による調査依頼をおこなった。その結果、1950年A.D.を基準として、第76図1が 6030 ± 50 年前、2が 5990 ± 50 年前、3が 5900 ± 50 年前、第77図1が 5910 ± 50 年前のものであるとの回答を得た。個体間に若干の誤差はあるが、4点の櫂は紀元前約4000年、つまり縄文時代前期半ば頃に使用されていたものと断定できる。

第77図2は、本来は櫂として利用されていたものと思われるが、検出面に垂直に突き刺さった状態



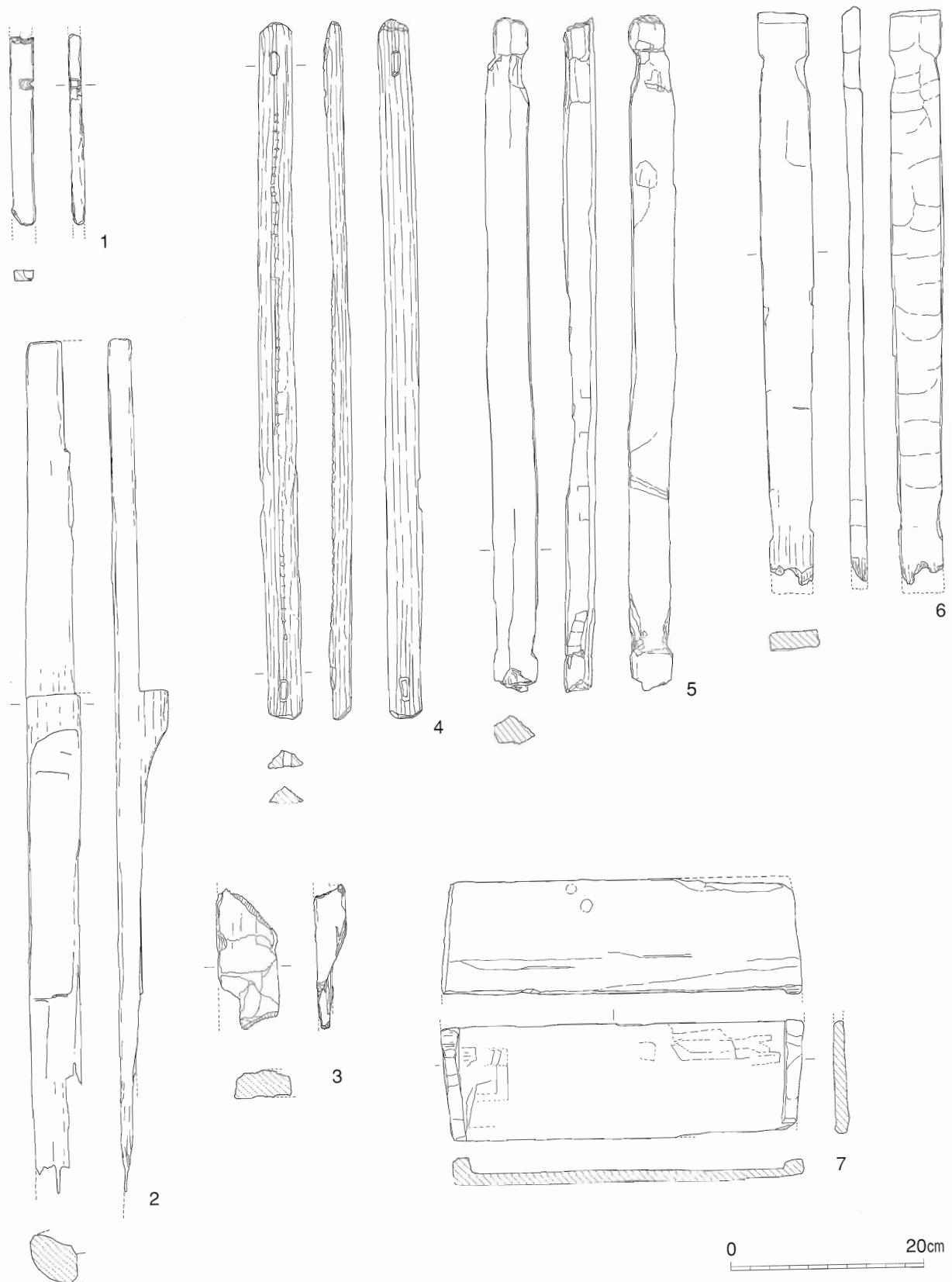
第77図 木製品実測図（2）

で出土した立ち杭の内の一点である。櫂が何らかの理由によって機能できない状態になった後、杭として再利用されたと思われる。3は櫂の水搔きの一部と思われるが残存状況が非常に悪い。

第78図1は火鑽臼で、樹種はスギである。両端を欠損しているが、2.4cm×1.2cmの角棒状で、直径1.1cmの焼け焦げた半円錐形の使用痕が2カ所残っている。2は梯子で、樹種はスギである。上端と足掛け一段の左側約半分が残っているが、右側約半分と下部を欠損している。足掛けの奥行きは3cmで、足掛けから上段までの長さは36.6cmを測る。3も梯子の一部と思われるが、残存状況は極めて悪い。4は編台目盛板で、樹種はスギである。完形で非常に残存状況が良い。法量は全長72cm、幅3.6cm前後を測り、断面は上面中央がとがった三角形を呈し、最大厚は2.1cmを測る。とがった部分には0.9～1cm間隔で幅の狭い刻み目がつけられており、両端には方形の孔が穿たれている。類例より脚を取り付けるためのものと思われる。5は明確ではないが、粗雑な作りの経（布）巻具と考えられる。樹種はスギである。両端は端部手前で少し削り込み、径を小さくしたものである。断面は中央部分を中心に若干のくぼみが見られる。法量は全長69.7cm、幅3.6cm、端部付近の厚さ3.1cm、中央付近の厚さ2.4cmを測る。6は中筒で、樹種はスギである。薄手の板材で、両端の手前を少々削りこんで幅狭にしている。法量は一端を欠損しているため全長は不明であるが、幅5.4cm、厚さ1.5cmを測る。7は欠損品であるが、蓋の一部と思われる。両端には約2.5cm前後の突帯が削り出されている。法量は残存部の最大幅36.9cm、厚さ1.2cmを測る。

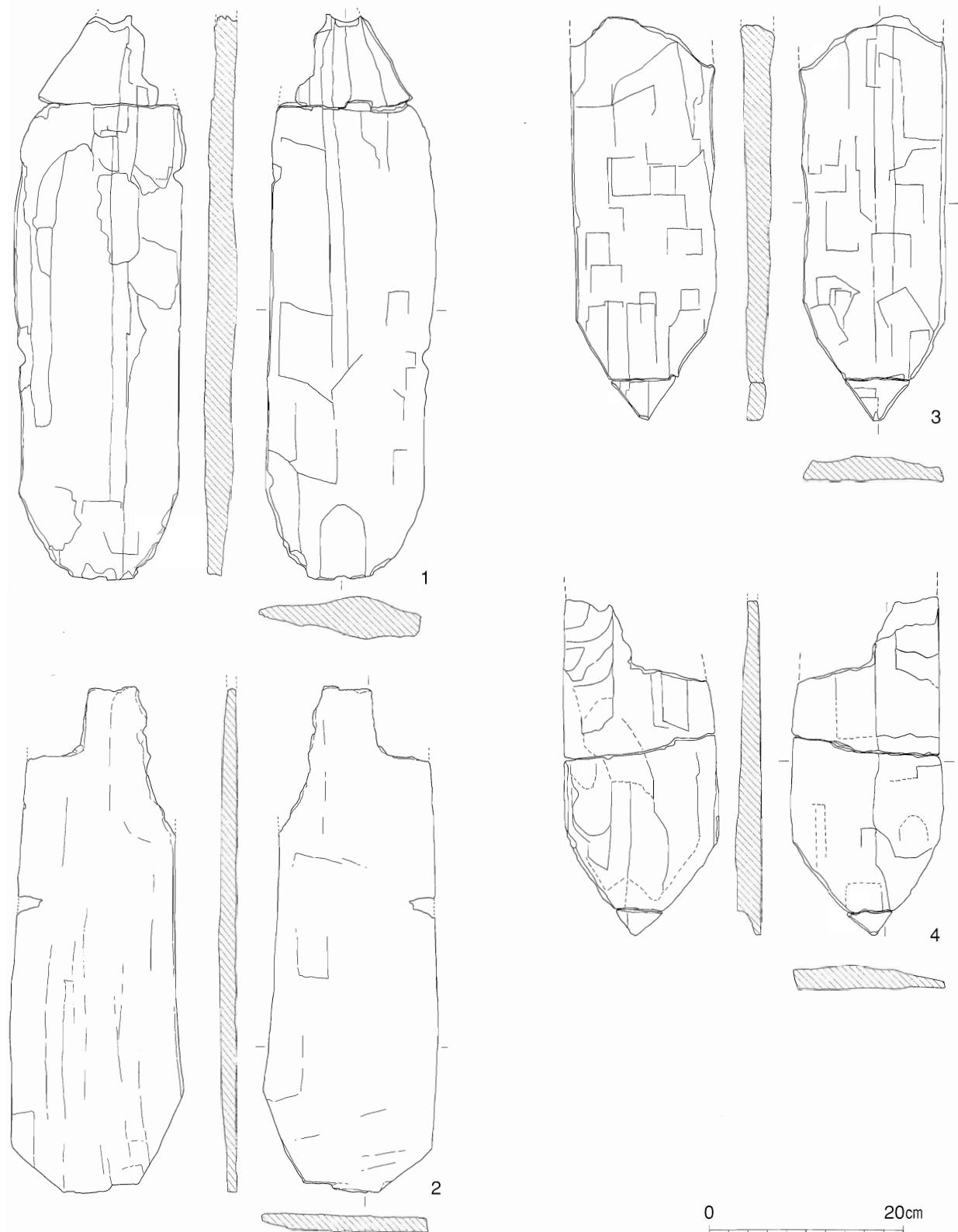
第79図1は鋤の未製品で、樹種はアカガシである。先端部のみ残存している。刃部先端は丸く加工されているが、中央付近は横断面の厚さが均一でない。法量は刃部長58.4cm、幅16.5cm、中央付近での厚さ3.0cmを測る。2も鋤の未製品と思われる。刃部先端は丸く加工しようとした意図が感じられるが、角張った形状を呈している。先端の一部しか残っていない欠損品であるため、刃部の全長は不明、幅17.4cm、厚さはほぼ均一で1.9cmを測る。3・4も鋤の未製品と思われ、樹種はアカガシである。両者とも欠損品であるが、形状は近似しており、刃部先端は尖ったままである。両面には工具による加工痕が顕著に残っている。法量については、3が幅14.4cm、中央付近の厚さ2.5cm、4が幅15.6cm、中央付近の厚さ2.1cmを測る。

第80図1は当初鋤状農具の類と考えていたが、樹種鑑定の結果スギを利用していることが判明し、農耕具以外の用途に用いられていた可能性が高いと思われる。先端は丸く仕上げてあったと推察されるが、破損が著しい。片面は工具の痕跡が顕著である。先端から約38cmのところには中心よりやや端に寄せて直径1.5cmの円形の孔が1カ所穿たれており、その孔から先は欠損のため残存していない。全長は欠損のため不明であるが、幅13.2cm、厚さ1.6cmを測る。2は田船もしくは丸木船の舳先か船尾と考えられる。かなり厚みがあるので後者の可能性が高い。樹種はヒノキである。大部分が欠損しているため全体の形状および法量は不明だが、端部の幅は40.2cmを測る。3・4は盾形木製品と称されているものである。報告書によつては上下を逆にレイアウトしたものがあるが、両者とも上部の先端が鈍によって斜めに丁寧に削り落とされていることから、ここではそちらを上に考えたい。3は装飾性が高いタイプで、樹種はスギである。4と共に上部両端の孔の他に4カ所の装飾用と思われる孔が穿たれているほか、脚部は滑らかな曲線でデザインされている。法量は高さ29.1cm、幅



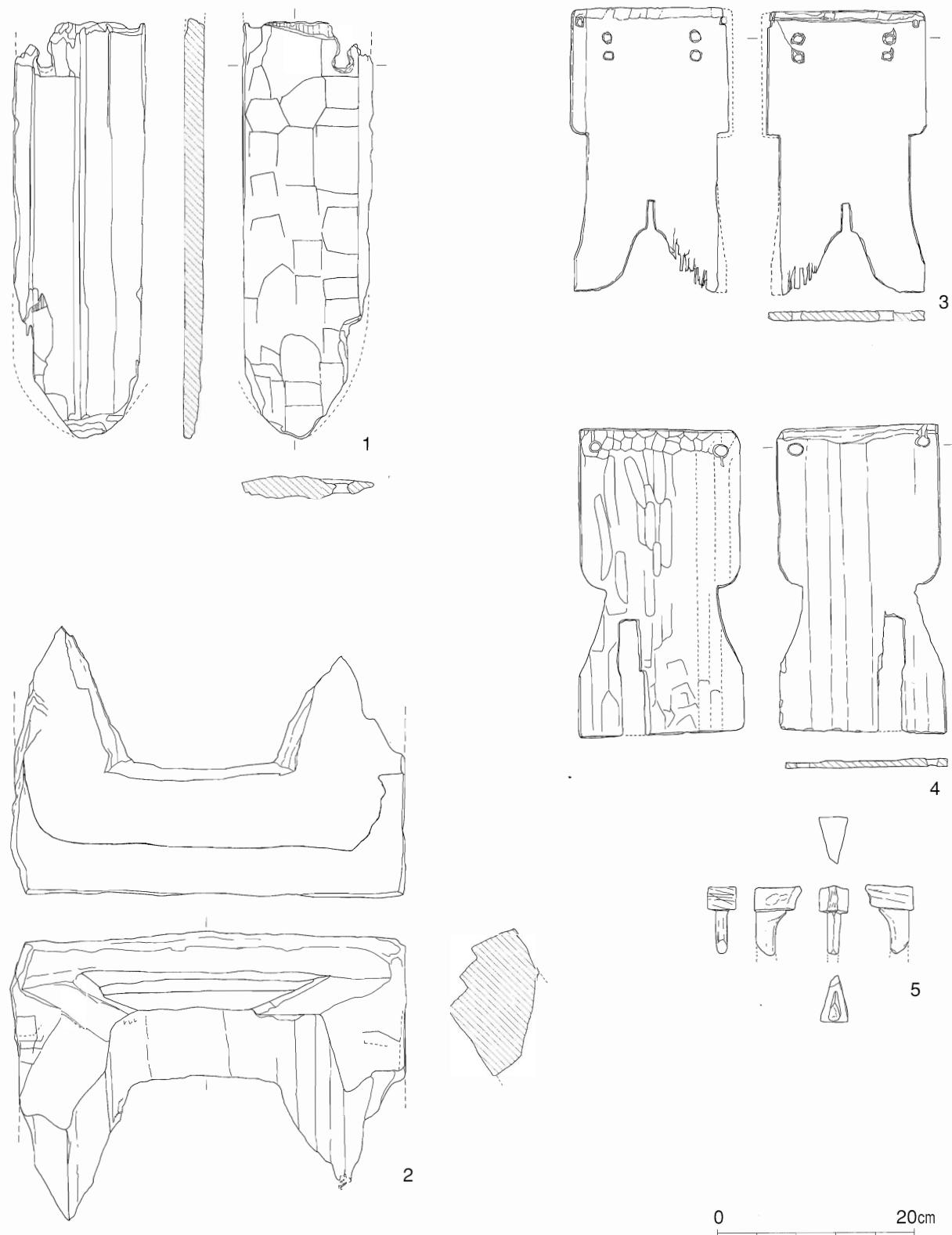
第78図 木製品実測図（3）

16.8cm（推定）、厚さ0.6cmを測る。4は3と同じものでも装飾性に欠けるタイプである。穿孔は必要最小限と考えられる上部両端の2カ所のみで、脚部は直線にカットされている。幅1.2cm前後の鉗の痕跡が顕著である。法量は高さ31.2cm、幅16.8cm、厚さ0.8cmを測る。5は把頭と把間の一部と思わ

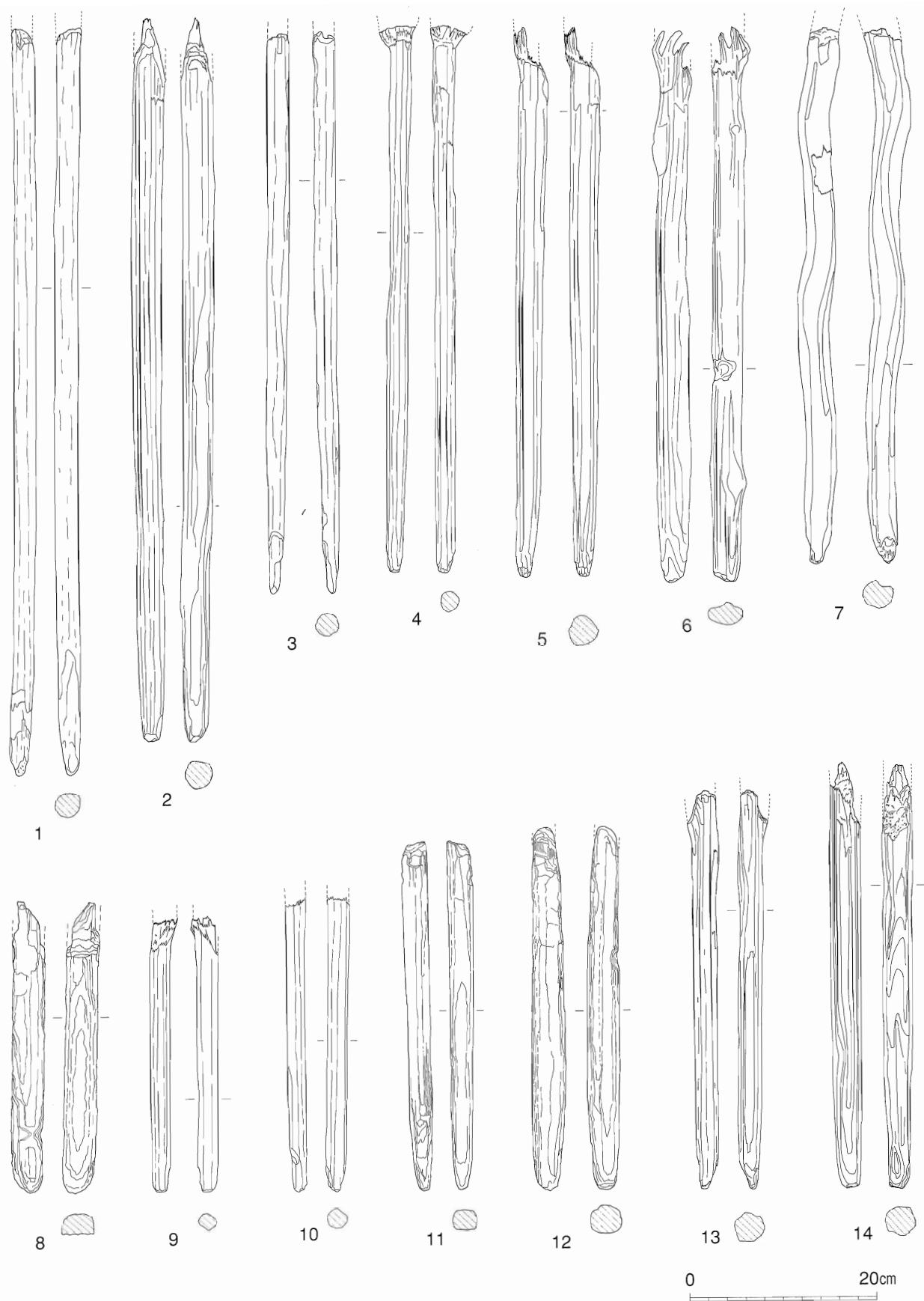


第79図 木製品実測図 (4)

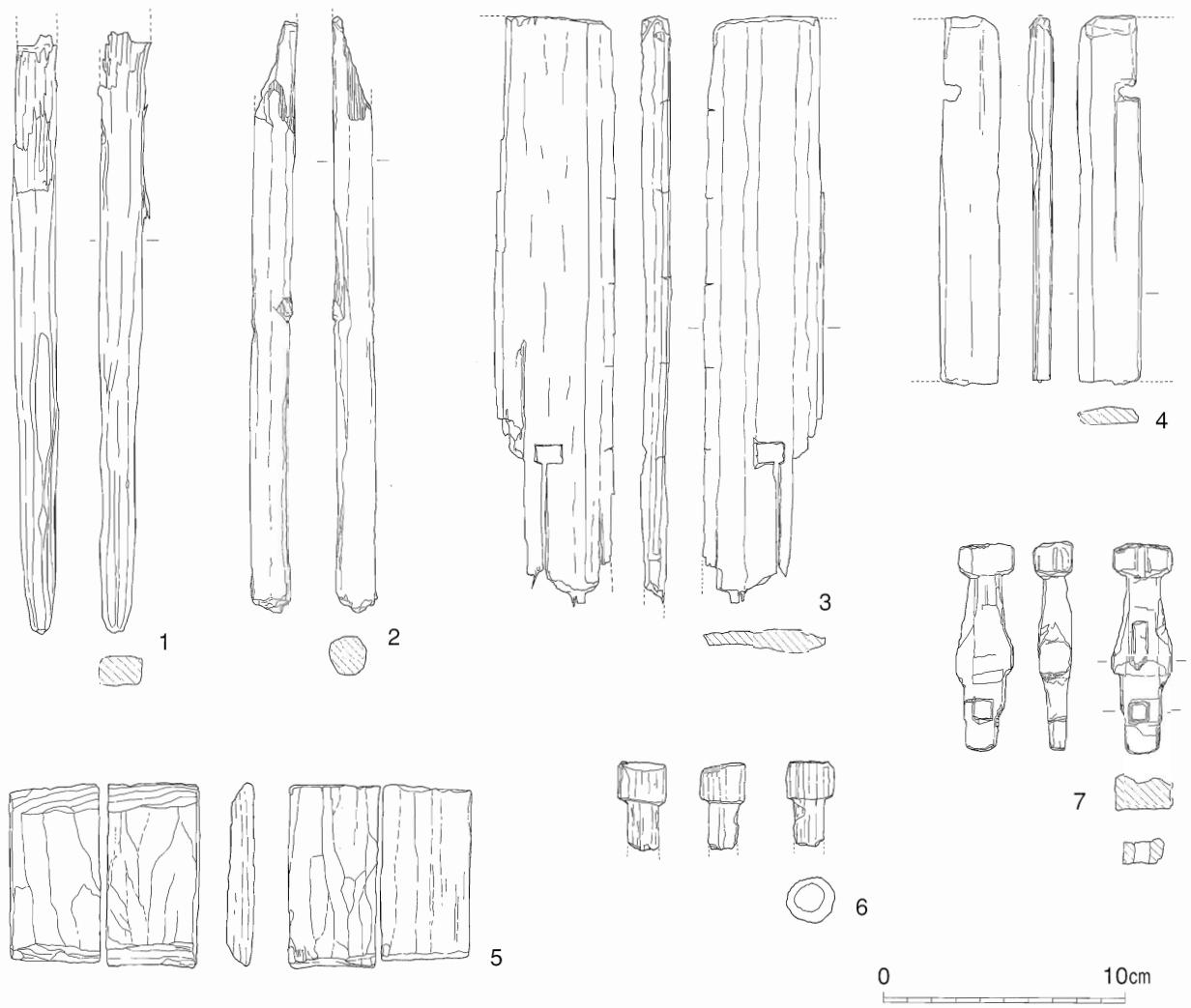
れる。樹種はアカガシである。把頭の上端面は平坦な三角形で、高さは2.1cmを測り、そのまま把間に続いている。把間は背側が直線で、腹側が内湾しているが、背側に茎を差し込むための溝が見られないことから、祭祀用の模造品として作られた可能性が高い。



第80図 木製品実測図（5）



第81図 木製品実測図（6）



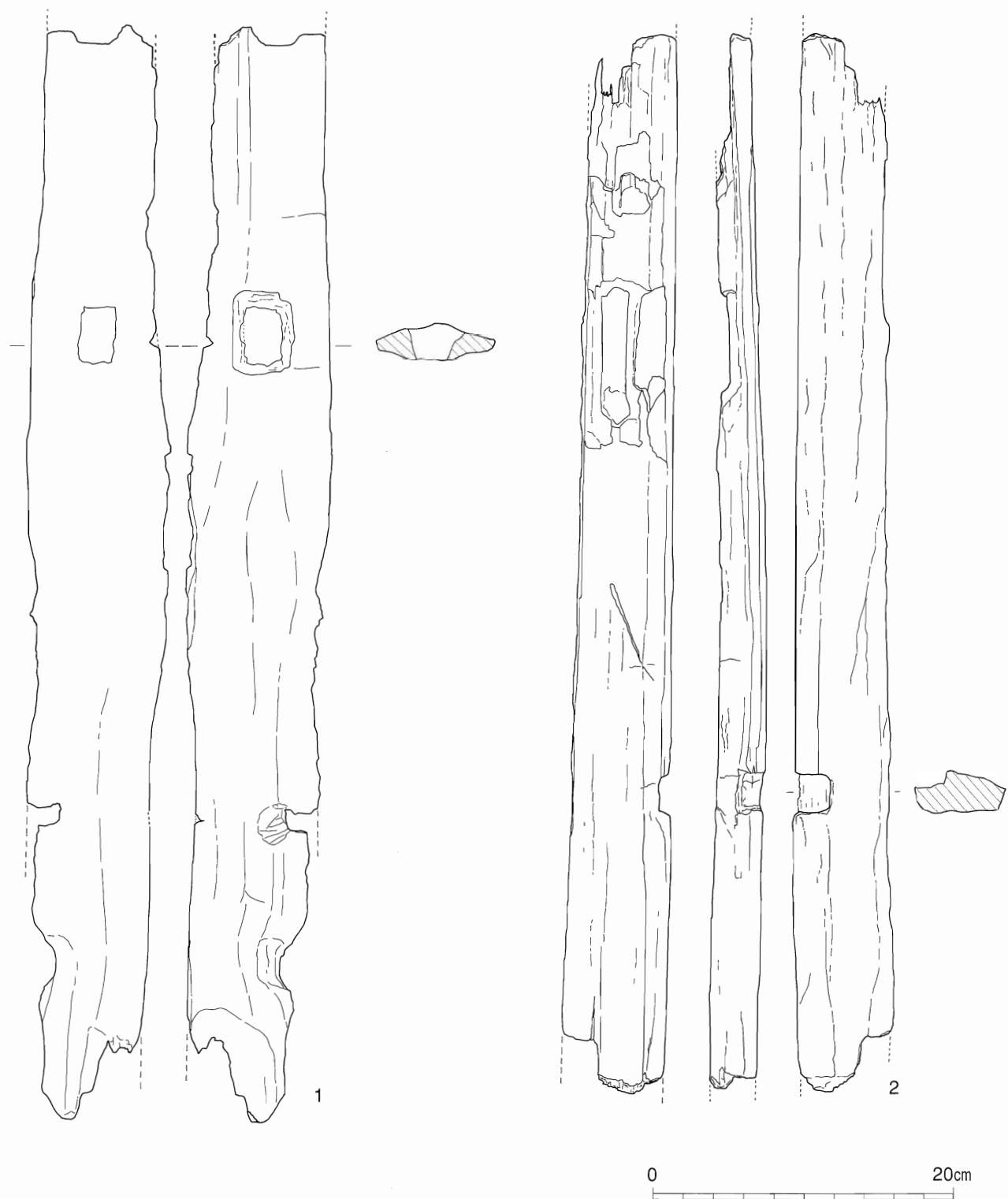
第82図 木製品実測図（7）

第81図は杭である。いずれも現地で垂直に突き刺された状態で出土した。1や3など先端部分の加工が丁寧なものが見られることから、ヤス等の再利用品も少なからず混じっているものと思われる。

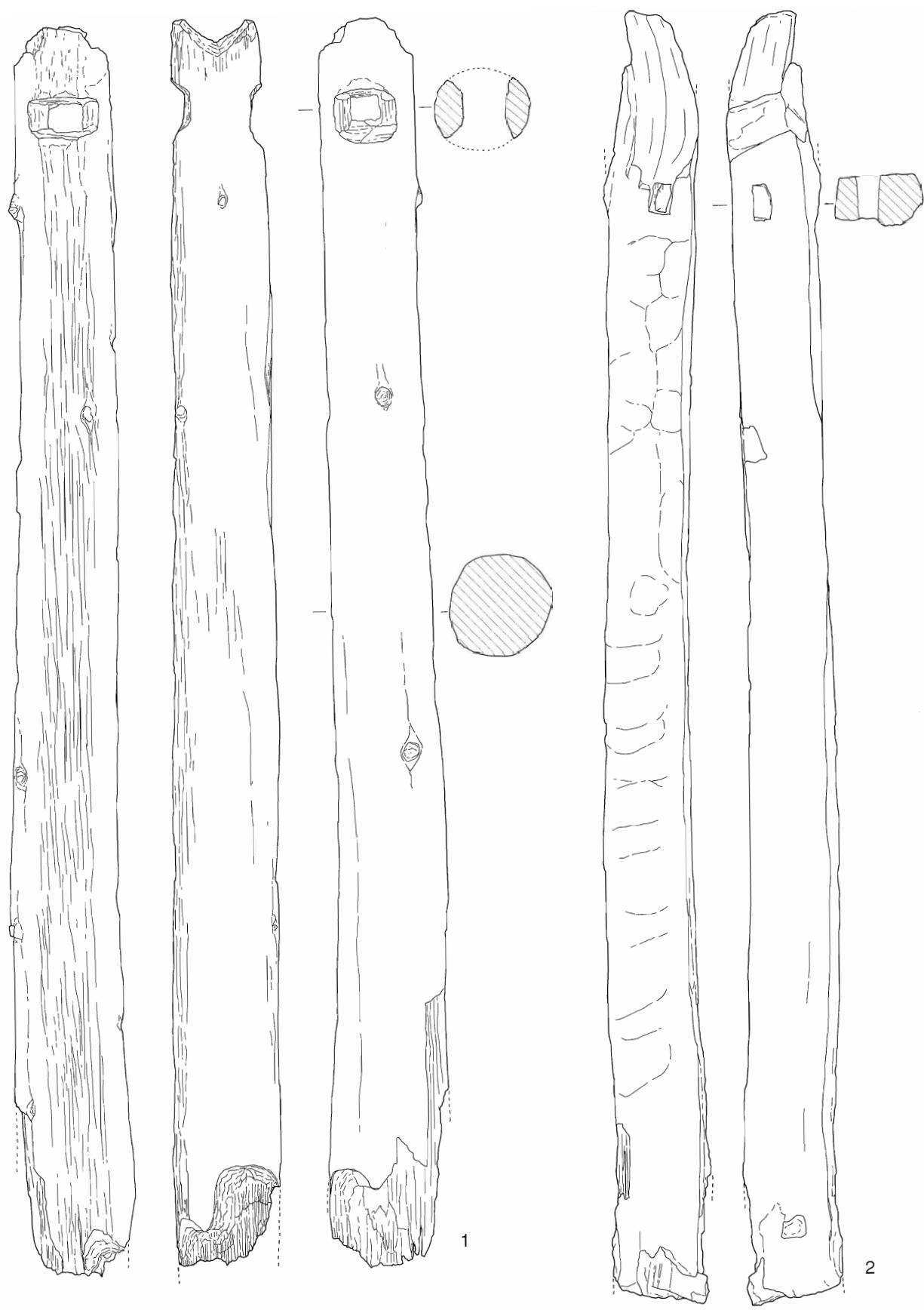
第82図1・2は杭である。3・4は用途不明の板状木製品である。どちらにも方形の孔が穿たれているが、欠損品であるため全体形は不明である。5は用途不明の板状木製品である。両端を斜めに削った後、ほぼ中央を切り離して2枚にしている。法量は高さ15cm、厚さ2.1cm、幅は1片が7.4cm、もう1片が7.8cmを測る。6・7は木栓の一種と思われる。6は栓の先端を欠損しており全長は不明であるが、栓の直径は2.7cmを測る。7は完形品である。ほぼ中央に貫通しない長方形のほぞ穴があり、下端部近くには方形の孔が穿たれている。丁寧な作りで何かの部品である可能性も考えられる。法量は高さ17.1cm、最大幅4.2cm、厚さ2.7cmを測る。

第83、84図は、建材である。84図1は掘立柱の柱である。柱根部を欠損するが、上部の残存状況は良好で、上端には桁を受けるためのVの字状の削り込みが見られるほか、すぐ下には梁を受ける孔が穿たれている。

第85図は、1～3が掘立柱建物SB-01の柱根で、断面は円形である。1は直径12cm、2は直径16.5cm、3は直径14.4cmを測る。4～7は掘立柱建物SB-02の柱根で、断面は円形である。4は直径12.3cm、5は直径12cm、6は直径13.2cm、7は直径11.7cmを測る。樹種は4・5・7がクリ、6がモミである。

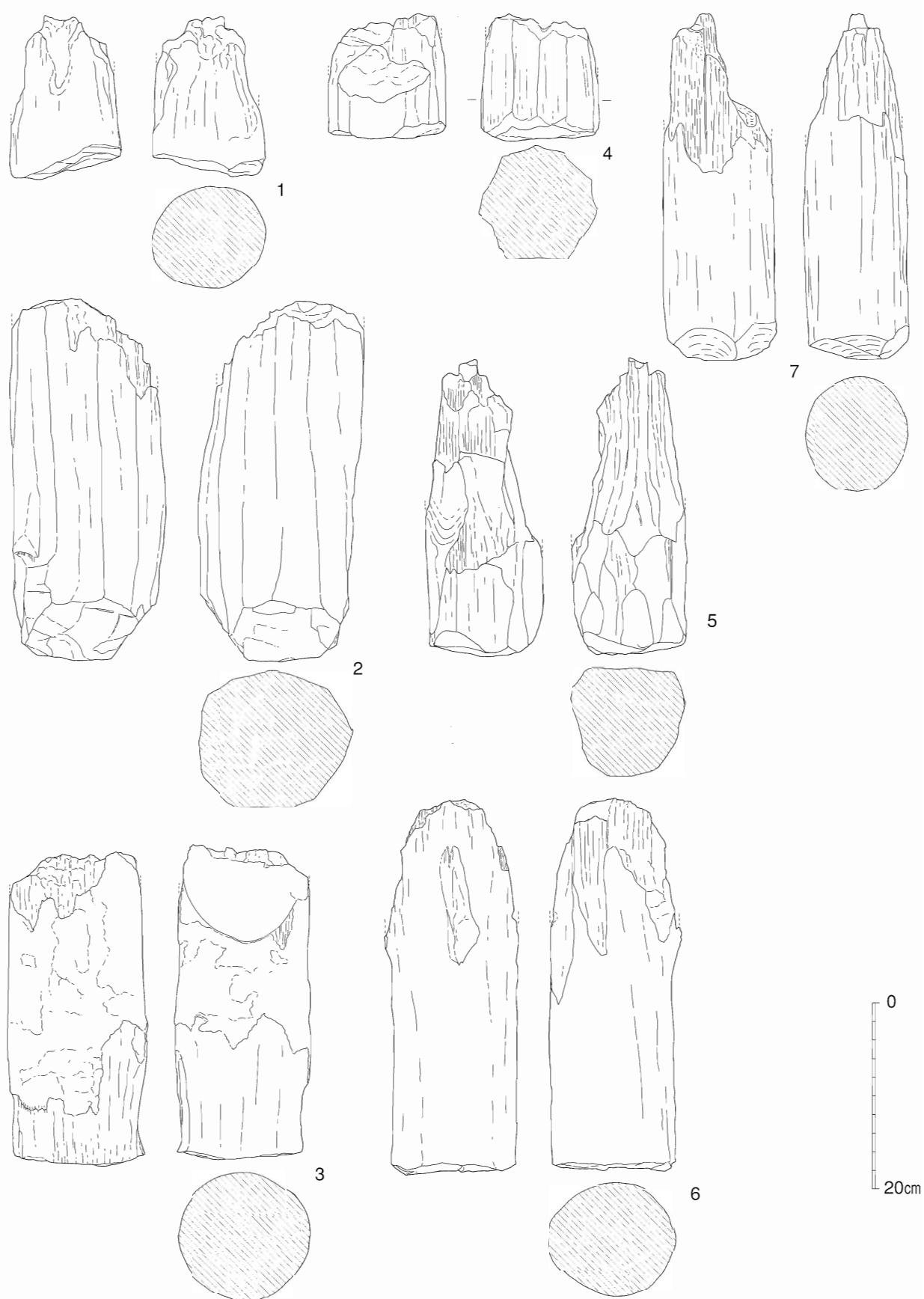


第83図 木製品実測図（8）



第84図 木製品実測図（9）

0 20cm



第85図 木製品実測図 (10)

第4章 結語

夫手遺跡は長海川の河口に位置しており、主として長海川の氾濫にともない上流から大量の遺物が運ばれて埋没した低湿地の遺跡である。

部分的には縄文時代前期の自然地形を検出した。

5区の最下層では、縄文時代前期の泥土層を確認し、泥土の状況から、そこは水の流れがほとんど無い沼地状の地形であったことがわかった。その泥土の中に打ち込まれた状態で、約30本の杭を検出したが、その性格については不明である。泥土中からはほかに4本の櫂が出土しており、そこは長海川もしくは中海に通じる船着き場に利用されていた場所であったことが推察された。櫂はすべてスギ材で作られたもので、炭素14年代測定ではいずれも現在より概ね6000年前のものであるとの結果を得た。これらの櫂は全て柄が折れているため全長は不明であるが、水掻き部分が幅、長さとともに小さい点を共通の特徴とし、ほぼ同時期の櫂と較べても小さく、ましてや日本海の外洋へ漕ぎ出すにはあまりにも心許ない印象を受けるものであった。

また、3区では図面としては把握できていないが、幅が狭く浅い小川を確認し、その砂層中からは小型の縄文土器1点が出土した。この縄文土器は西川津式の小型の鉢で、内面には漆が厚い層をなし付着しており、外面にも多少の付着が認められ、漆液容器として利用されていたことがわかった。この漆を分析したところクロメ漆の状態であることがわかり、接着剤としてではなく、すでに漆塗りの材料として使用されていた可能性が高くなった。さらに、漆の中に少量の赤色顔料が混入していたことから、同時に別の容器で赤色漆が作られていたことも推測された。この漆の一片で炭素14年代測定を実施したところ、現在より概ね6800年前のものであるとの結果を得た。この年代は全国的な視野から見ても、時期判定がおこなわれた漆液としては最古級の範疇に入る資料とのことである。¹⁾夫手遺跡においても縄文時代前期からすでに高度な漆工技術、漆文化が存在していたことが明確となり、また西川津式土器に実年代を当てはめることができたことにおいて、実に貴重な発見であったと考える。

最下層である縄文時代前期層の上には、薄い無遺物層をはさんで大量の遺物を含む青灰色砂礫層の堆積が見られた。この層に含まれた遺物は上流に立地する遺跡に付随する遺物が土石流によっていつきに流されてきたものであり、上流に存在する遺跡の時期や性格を反映しているものと思われる。したがって、これらの遺物を観察することによって長海平野に存在する遺跡の一端をかいま見ることができるであろう。

青灰色砂礫層に含まれていた大量の遺物は、時期的には縄文時代早期から古墳時代中期までの幅広い時期のものが認められた。しかし、出土点数の割合を見ると縄文時代から弥生時代にかけての遺物はきわめて少量で、大部分は古墳時代前期後半から中期にかけての比較的残存状況が良い遺物で占められていた。種別では大量の土器の他に木製品が多数含まれており、機織り具や火鑽臼、農具未製品など生活に直結した道具が多く見られた。このことから、長海川流域では縄文時代から細々とではあるが継続的な生活が営まれており、古墳時代前期末から中期にかけて大規模な集落が存在していた様

子がうかがえる。

そこで改めて長海川上流の周知の遺跡分布状況を眺めてみると、長海平野の特に中海側に近い低丘陵上には中規模クラスの古墳を含む多くの古墳群、渕切古墳群、藤田古墳群、藤田南古墳群、堀越古墳群が立地している。渕切古墳群を例にとると、全長33.1mの前方後円墳1基、全長20.5mの前方後方墳1基、直径20mの円墳1基のほか陪塚とも考えられる小規模古墳も多数築かれている。これらの古墳は調査されていないため時期は不明だが、後期という積極的な理由が無いことから、前期から中期にかけての古墳と考えて良いのではないかとする説がある。²⁾ 出雲地方における中規模クラスの古墳の数および分布地は非常に限られており、中海沿岸の島根半島側での分布は現時点では長海川流域しか知られていない。中海を見おろすように複数の中規模クラスの古墳が密集して築かれている点から、長海平野に拠点を置いた豪族は、長海平野だけではなく、中海沿岸一帯をも支配した一大勢力であったと思われる。

では、この大古墳群を築いた人々の生活の場所はどこにあったのであろうか。長海平野の集落遺跡としては、渕切古墳群が立地する丘陵の北東側裾部の緩傾斜地で採砂工事中に杉戸遺跡が発見されている。この遺跡は調査されずに工事が進められており、現在はほぼ消滅状態にあるため詳細は不明であるが、わずかに古墳時代中期の土器や炭化米の採集が伝えられている。もし、大古墳群を築いた人々の集落跡がこの杉戸遺跡周辺に存在していたと仮定すると、現在推定されている杉戸遺跡の範囲だけではとてもおさまりきれないであろうから、遺跡はもっと長海平野の低地部分にも広範囲に広がっていた可能性が高いと思われる。そうであったとすると、低い場所に営まれていた集落の一部が、長海川の氾濫に巻き込まれて下流の夫手遺跡一帯まで遺構ごと押し流されたとは考えられないであろうか。杉戸遺跡で採集された土器を観察すると、夫手遺跡でまとまって出土した、口唇部に軽い凹線が入る厚い器壁の二重口縁を呈する特徴的な土師器と近似するものがあり、遺跡間の関連性を示していると思われる。

古墳時代後期になると長海平野の遺跡数は激減し、南西の本庄町に遺跡分布の集中が見られるようになる。夫手遺跡では古墳時代後期の遺物は表土直下の比較的浅いレベルから若干の須恵器が出土しているにすぎない。古墳時代中期に中規模古墳を築造するほど栄えていた長海平野の豪族は、後期に継続することなく忽然とこの地から消え去っているのである。その原因としては、夫手遺跡を形成するほどの大きな自然災害にみまわれたことも一因かもしれないが、後に島根郡家が設置される本庄町において遺跡数が急増していることから、時代の大きな流れの中で長海平野を拠点としていた豪族が新たな支配体制に組み込まれていったと考える方が自然であろう。

最後に、夫手遺跡で検出された遺構について触れておく。明確に遺構とよべるものは、古墳時代中期末の土石流堆積土層の上に建てられた、古墳時代中期よりも新しい時代の掘立柱建物2棟のみである。1棟は最低1間×1間、もう1棟は最低1間×2間の規模で、柱間距離は約1.5mを測る。これらの掘立柱建物は柱根が残存しており、その平均的直径は約15cm前後を測る太いものであった。樹種は腐朽に強いクリ材を使用しているものが多いことから、建てられた当時でも湿地状の地盤であった可能性が高いが、船小屋程度のものではなく居住にも十分耐え得るようなしっかりした建物であった

と考えられる。この建物にともなう遺物は出土しておらず、時期や性格は不明である。

註 1) 永嶋正春氏のご教示による。

2) 松本岩雄「原始から古代へ」『郷土誌ふるさと本庄』本庄地区町内連合会・本庄公民館

第5章 自然科学分析

松江市夫手遺跡出土縄文時代前期初頭の漆液容器(土器)について

国立歴史民俗博物館情報資料研究部 永嶋正春

はじめに

本稿は、標記の遺跡から出土した漆の入った小型鉢形土器（縄文時代前期初頭）1点について、漆工技術史的立場から検討した結果を報告するものである。

対象となる資料は、担当者が本遺跡からの出土品を整理している途中において、漆の付着に気がついたものであり、その後筆者に、漆であることの妥当性を含めて本資料の内容調査に関する相談があったため、その資料的な重要性から実物調査に踏み切ったものである。

筆者はかつて、長野県御代田町に所在する下弥堂遺跡から出土した縄文時代前期初頭の土器小片に漆の存在を見出しており、¹⁾これが日本で最も古い漆資料のひとつになる。夫手遺跡の漆液容器はこれとほぼ同時期のものと考えられるが、土器の形態、型式がきちんと把握できる資料としても貴重な存在である。残存する漆についても、それが有している様々な情報を十分に引き出すことができれば、この地における漆文化さらには縄文時代前期初頭の文化的諸状況を考究していく上で大いに役立つものと考えられる。

以上のこととを前提として、次のような調査を実施した。すなわち、

1. 資料の外観についての細部観察と記録
2. 漆試料を採取しての層断面観察
3. 漆試料による炭素14年代測定

以下に、上記調査の結果を報告する。ただし項目3については、採取部位の決定と試料の採取を筆者の責任で実施し、それ以降の試料操作については当館（国立歴史民俗博物館）の今村峯雄、坂本稔の両氏が行っている。炭素14年代測定の結果と実年代についての議論は、本資料にとって大変重要であり、また大きな情報でもある。これらの詳細に関しては別項が掲載されているので、是非とも参照されたい。

調査結果

資料の外観、漆試料の層断面

漆様付着物は、土器の内面を中心に残存しており（図版31の2～31の5）、外面には僅かに認められるに過ぎない（図版31の1）。やや光沢を有する暗赤褐色～褐黒色の色調や、全体的には比較的薄

手の膜状を呈しながらも、しかしながら若干厚手に付着している個所では縮み皺を生じているような外観性状は、その硬質さや抜群の質的保存状況をも考慮した場合、漆以外の素材で説明のつくものではない（図版31の6～32の2）。すなわち、一見してまさしく漆そのものと判断できるのであり、なかでもクロメ漆（黒目漆）の状態と理解するのに何ら不都合はない。当然ながら、漆工工程上における漆液容器である。

光学顕微鏡（金属顕微鏡）で観察した漆様付着物表面の微視的外観（図版32の3～32の5）も、上記の観察内容を積極的に支持するものであり、良質な赤色顔料の付着が認められるのも（図版32の4）、クロメ漆の場合にはよくある現象といえる。なお内底面の漆面を中心に広く認められる白色物は、粒状性の整った無色透明な石英様砂状微粒子であることが顕微鏡によって確認されており、資料埋没時における二次的付着物と考えて問題はない。

土器の内面からごく微小に採取した漆様付着物を、ポリエステル樹脂で埋包固定した上で層断面薄片試料に調製したものが図版32の6～32の8であるが、全体としては均質化の良く進んだクロメ漆としての層断面を示しており、典型的な生漆のように内容成分が極端に分離したような性状は観察されない。なお、ごく一部に赤色漆の層が認められるが（図版32の7）、これは漆作業工程上では発生しうる積極的な汚れと解釈すべきである。赤色漆中に存在する赤色顔料は、いわゆる典型的なパイプ状ベンガラ（赤色酸化鉄）であり（図版32の8）、ベンガラ顔料としては最も発色が良好なものひとつである。

漆による実年代

漆は、炭素14年代測定にとって最良の試料のひとつとなる。³⁾ 今回は図版31の8の右下部に示した漆膜、約68mg程を採取し測定に供した。量的には十分すぎる量である。実年代に補正された数値は、今から概ね6,800年ほど前となり、これが漆並びに土器が示す縄文時代前期初頭の実年代となる。

おわりに

本資料が漆液容器であること、付着していた漆がクロメ漆であること、良質なベンガラ顔料が存在したことは重要な知見であり、この事実をもって漆文化並びに関連する諸文化が高度に存在したことを確実に推定できることになる。それが今から6,800年ほど前のこの地の文化的状況であると言えるのであるが、他地域での漆資料の方からすれば、ほぼ同様な状況が日本のあちこちに広く出現していたものと考えられるのである。

- 註 1) 永嶋正春「川原田遺跡・下弥堂遺跡出土の赤彩資料、漆資料について」『川原田遺跡』（御代田町埋蔵文化財発掘調査報告書第23集）御代田町教育委員会 1997年3月
2) 漆資料の考古学的有用性については、拙著「漆から見た縄文・弥生時代」『考古学ジャーナル』401、1996年、などを参照されたい。
3) 永嶋正春「変わる弥生時代の実年代」『新弥生紀行北の森から南の海へ』（国立歴史民俗博物館企画展示図録）1999年3月

松江市・夫手遺跡出土縄文時代前期土器(漆液容器)の実年代

国立歴史民俗博物館情報資料研究部 今村峯雄・坂本 稔・永嶋正春

はじめに

本稿では、松江市教育委員会・財団法人松江市教育文化振興事業団が1998年に発掘調査を行った標記遺跡より出土した小型鉢形土器（西川津式）内面の漆資料の実年代について報告する。小型鉢形土器の時代区分は、土器型式に基づくと縄文時代前期初頭とみられ、永嶋の調査によれば、この土器内面を覆って暗赤褐色～黒褐色の漆の固形物が付着している。¹⁾この漆資料、約68mgの漆片試料を採取した。今回この漆片試料の一部を用いてAMS法による炭素14年代測定を行い、曆年補正を行って実年代へ変換した。これらの結果について報告する。

調査結果

測定試料の観察

採取漆片は、径6～8mm厚み1mm前後の小片である。漆は三次元的な化学結合で結ばれた樹脂であり、物理的にも化学的にも強固なために、長い風月に耐えて残存するとみられている。本試料断面の顕微鏡写真から、ところどころ気泡と見られる空孔が存在するものの、全体は緻密な層を成していることが読み取れた。固化面は滑らかな曲面となっており、ピンセットなどによっても容易に傷がつくことはないことから、この漆が固化してから腐食、カビなどの影響を受けていないことが推測された。これらの観察は永嶋による資料全体の観察結果とも一致する。

AMS法による炭素14年代測定

漆片から、その一部の約18mgを切り出し、炭素14測定の民間機関である米国Beta Analytic社に送り、加速器質量分析（AMS）による高精度炭素14測定の依頼分析を行った。Beta Analytic社は、世界の有力AMS施設（大学、研究所）と契約を結び、施設のマシンタイムの一定割合を、依頼分析のための時間として確保し、AMSによる¹⁴C測定を行っている。また、特殊な前処理を必要としないものについては、試料の前処理を含めて測定を引き受けている。本試料は非常に保存状態がよいことから、試料の前処理も含めて炭素14年代測定を依頼した。前処理は、最も標準的な酸-アルカリ-酸処理（AAA処理）による。

¹³Cによる同位体効果 ($\delta^{13}\text{C} = -29.4 \text{ permil}$) を補正して得られる炭素14年代（モデル年代）は次の通りである。

炭素14年代： 5910 ± 30 ¹⁴CBP (Beta-136904)

なお、¹⁴CBPという表示は、西暦1950年を基点にして計算した炭素14年代（モデル年代）であることを示し、近年定着してきた表示法である。

夫手遺跡出土木製品樹種鑑定調査報告書

島根大学総合理工学部 古野 裕

夫手遺跡から出土した主要木製品20点について光学顕微鏡による樹種鑑定を行った。それぞれの木製品の解剖学性質とそれに基づいて樹種を同定した結果を下記に記載する。また、横断面（木口）、放射断面（柾目）および接線断面（板目）の光学顕微鏡写真を別掲する（図版33～39）。なお、木製品の樹種鑑定結果および出土年代を文末に一覧表として示す。

樹種構成をみると、20点のうちスギが11点と多く、過半数を占めた。次いでカシ類（アカガシ亜属）4点、クリ3点であった。モミ属とヒノキ属は各1点で、少なかった。製品別では、櫂4点、紡織具（編台目盛板、布巻具）3点はすべてスギであった。柱根は4点のうち3点がクリで、モミ属が1点あった。農具（鋤）ではカシ類（3点）以外にスギ（1点）があった。祭祀具（盾形、把頭）2点はスギとカシ類であった。火鑽臼1点と田船1点はそれぞれスギ、ヒノキ属であった。

なお、顕微鏡観察に用いた出土木製品の3断面の永久プレパラートは、江川幸子氏および松下剛氏（財団法人松江市教育文化振興事業団）の作製によるものであり、ここに両氏に謝意を表する。

No. 1 (櫂)

スギ [*Cryptomeria japonica* D. Don (スギ科)]

構成細胞は仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。

年輪幅は狭く、早材から晩材への移行は急で、晩材幅はやや広い。樹脂細胞が多く、目立ち、早・晩材の移行部から晩材部に分布し、時に接線方向に配列する。分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に通常2個存在する。

以上の組織的特徴からスギと同定した。

No. 2 (櫂)

スギ [*Cryptomeria japonica* D. Don (スギ科)]

構成細胞は仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。

年輪幅は広く、早材から晩材への移行は急で、晩材幅はやや広い。樹脂細胞が特に早・晩材の移行部に多く、接線方向に配列するのが目立つ。分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に通常2個存在する。

以上の組織的特徴からスギと同定した。

No. 3 (櫂)

スギ [*Cryptomeria japonica* D. Don (スギ科)]

構成細胞は仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。

年輪幅は狭く、早材から晩材への移行は急で、晩材幅は狭いものから広いものまである。樹脂細胞が早・晩材の移行部から晩材部に分布し、接線方向に配列する傾向がある。分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に通常2個存在する。

以上の組織的特徴からスギと同定した。

No. 4 (欅) キシ [Cryptomeria japonica D. Don (スギ科)]

構成細胞は仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。

年輪幅は狭く、早材から晩材への移行は急で、晩材幅はやや狭い。樹脂細胞が早材後半部から晩材部に分布し、特に早・晩材の移行部に多く、目立つ。分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に通常2個存在する。

以上の組織的特徴からスギと同定した。

No. 5 (柱根) クリ [Castanea crenata Sieb. et Zucc. (ブナ科)]

構成細胞は道管要素、周囲仮道管、木部纖維、軸方向柔細胞、放射柔細胞からなる。

非常に大きい道管がほとんど単独で年輪の内側に多列（3～5列）に配列する環孔材である。孔圈部の幅はかなり広く、孔圈外では急に道管の径を減じていき、薄壁で角張った小道管が放射状ないし火炎状に配列している。道管せん孔は单せん孔で、チロースが非常によく発達している。孔圈道管のまわりに周囲仮道管が存在している。孔圈外に短接線状柔組織が見られる。放射組織は同性で、すべて單列放射組織となっている。

以上の組織的特徴からクリと同定した。

No. 6 (柱根) クリ [Castanea crenata Sieb. et Zucc. (ブナ科)]

構成細胞は道管要素、周囲仮道管、木部纖維、軸方向柔細胞、放射柔細胞からなる。

非常に大きい道管がほとんど単独で年輪の内側に多列（3～5列かそれ以上）に配列する環孔材である。孔圈部の幅はかなり広く、孔圈外では急に道管の径を減じていき、薄壁で角張った小道管が火炎状に配列している。道管せん孔は单せん孔で、チロースが発達している。孔圈道管のまわりに周囲仮道管が存在している。孔圈外に軸方向柔細胞が多く、短接線状配列を示す。放射組織は同性で、すべて單列放射組織となっている。

以上の組織的特徴からクリと同定した。

No. 7 (柱根) モミ属 [Abies sp. (マツ科)]

構成細胞は仮道管、放射柔細胞からなる。

年輪幅は広く、早材から晩材への移行は緩やかで、晩材幅はやや狭い。分野壁孔は不明瞭であるが、スギ型で1分野に1～4個存在する。放射柔細胞は厚壁であり、典型的なじゅず状末端壁をもっている。

以上の組織的特徴からモミ属と同定した。

No. 8 (柱根) クリ [Castanea crenata Sieb. et Zucc. (ブナ科)]

構成細胞は道管要素、周囲仮道管、木部纖維、軸方向柔細胞、放射柔細胞からなる。

非常に大きい道管がほとんど単独で年輪の内側に2～4列に配列する環孔材である。年輪の幅が狭く（1～2mm）、孔圈部が大部分を占めるので、孔圈外は狭いが、薄壁で角張った小道管がやや火炎

漆の実年代

炭素14年代の数字は、縄文時代前期初頭でみると、実年代と比べ800～900年の開きがある。実年代を知るには、年輪年代と炭素14年代との対応関係を示す暦年較正曲線によって実年代に変換する必要がある。本調査では、1998年に発表されたINTCAL98²⁾をデータベースとして用いて、ペイズ統計に基づいて解析した。³⁾ INTCAL98のデータベースは欧米の樹木を対象に得られたものであり、日本の樹木には日本のデータベースが必要との意見もあるが、最近の国立歴史民俗博物館での研究では日本の樹木の暦年較正曲線はINTCAL98とよく一致しており、INTCAL98に基づいて解析して問題ないことが指摘されている。⁴⁾ 解析結果を第86図に示す。

この図では、年代を確率分布で示してあり、全体の確率が1になるように規格化してある。確率分布曲線が複雑であるのは、暦年較正曲線自体が、過去の大気の¹⁴Cの変動に加えて¹⁴Cの測定誤差も重なり複雑であるためである。この解析をもとに具体的な数字で年代の範囲を推定すると

実年代：4785±40 cal BC (68% range)

4790±60 cal BC (95% range)

ここでcal BCという表示は、暦年較正を行った年代（この場合紀元前）であることを示す。このようにこの漆資料の年代は、概ね現在より6,800年前という年代であり、実年代が得られている漆資料では日本では最も古いものであることが明らかとなった。

なお、縄文早期と前期を画する目安となる鬼界ーアカホヤ火山灰（K-Ah）の実年代は約5350cal BCに相当する⁵⁾ので、ここで得られた年代は調和的である。

ま と め

夫手遺跡より出土した小型鉢形土器内面の漆資料の実年代を測定したところ、現在より6,800年前という年代が得られ、実年代が得られている漆資料では日本最古のものであることが明かとなった。

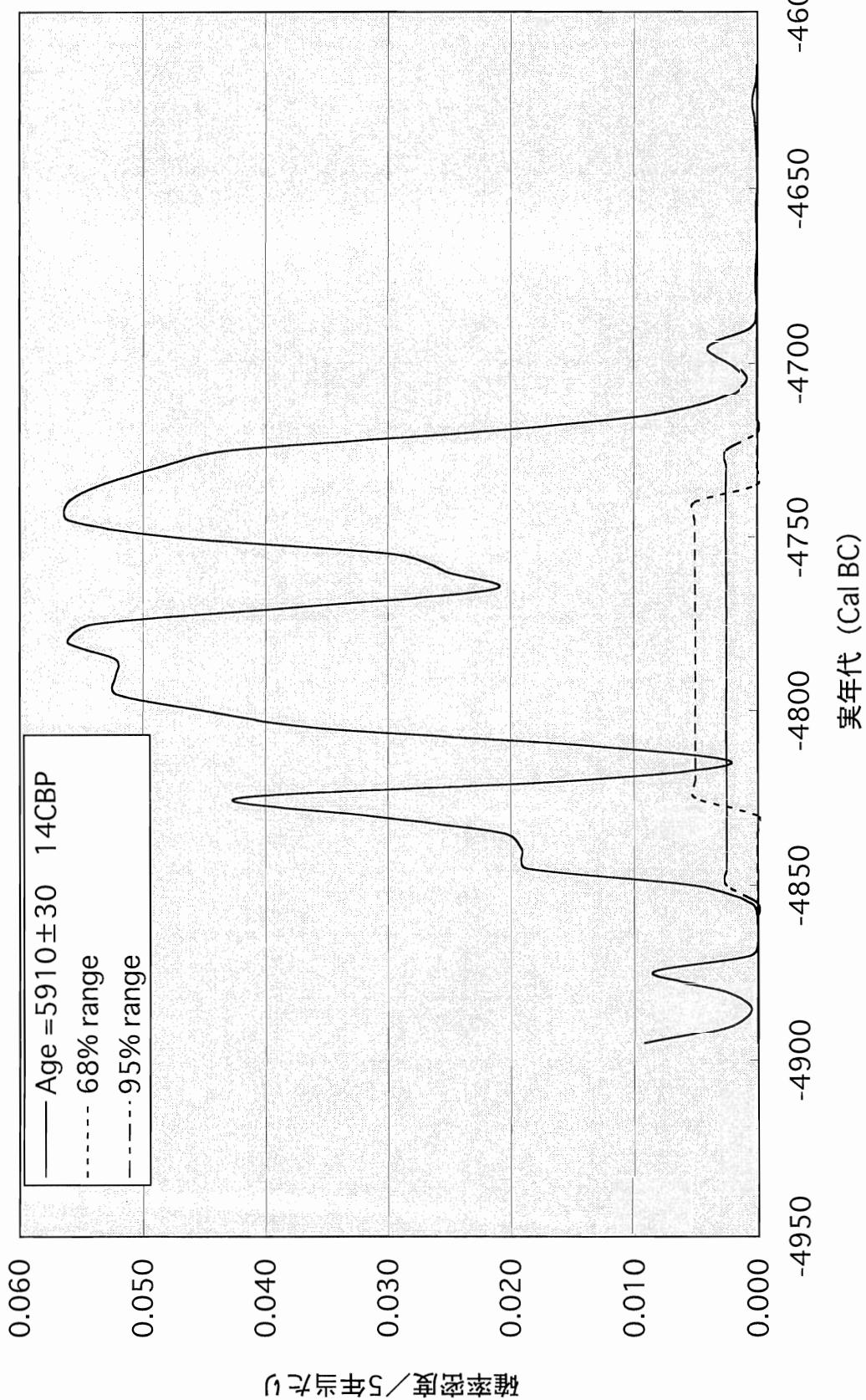
註 1) 永嶋正春、本報告書。

2) Stuiver, M. et al. : INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24,000–0 cal BP, Radiocarbon, 40, 1041–1083 (1998)

3) 今村峯雄「考古学における¹⁴C年代測定とその問題点」『考古学と化学をむすぶ』（東京大学出版会）、2000年3月（予定）

4) 坂本稔ほか「箱根埋没スギの年輪年代と炭素14年代との比較—日本産樹木による炭素14年代修正に向けて」『日本文化財科学会第15回大会要旨集』76–77 (1998)

5) Kitagawa, H. et al. : AMS ¹⁴C Dating of Varved Sediments from Lake Suigetsu, Central Japan and Atmospheric ¹⁴C Change during the Late Pleistocene, Radiocarbon, 37, 371–378 (1995)



第86図 暦年較正曲線図：INTCAL98に基づいて解析した漆試料の実年代。確率密度の累積値が68%と95%の範囲も同時に示している。

状に配列している。道管せん孔は単せん孔で、チロースが発達している。孔圈道管のまわりに周囲仮道管が存在している。孔圈外に短接線状柔組織が見られる。放射組織は同性で、すべて単列放射組織となっている。

以上の組織的特徴からクリと同定した。

No.9 (梯子)

スギ [*Cryptomeria japonica* D. Don (スギ科)]

構成細胞は仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。

年輪幅は広く、早材から晩材への移行はやや急で、晩材幅はやや広い。樹脂細胞が早材後半部から晩材部に分布し、特に早材後半部で多く集中して、接線状配列の出現が目立つ。分野壁孔はスギ型で1分野に通常2個存在する。

以上の組織的特徴からスギと同定した。

No.10 (火鑽臼)

スギ [*Cryptomeria japonica* D. Don (スギ科)]

構成細胞は仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。

年輪幅はやや広く、早材から晩材への移行は急で、晩材幅はやや狭い。樹脂細胞が早・晩材の移行部から晩材部に分布している。分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に通常2個存在する。

以上の組織的特徴からスギと同定した。

No.11 (編台目盛板)

スギ [*Cryptomeria japonica* D. Don (スギ科)]

構成細胞は仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。

年輪幅は非常に広く、早材から晩材への移行はやや急で、晩材幅は狭い。樹脂細胞が早・晩材の移行部から晩材部に分布し、比較的多い。分野壁孔はスギ型で1分野に通常2個存在する。

以上の組織的特徴からスギと同定した。

No.12 (布巻具)

スギ [*Cryptomeria japonica* D. Don (スギ科)]

構成細胞は仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。

年輪幅は非常に広く、早材から晩材への移行はやや急で、晩材幅は狭い。樹脂細胞が早材後半部から晩材部に分布している。分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に通常2個存在する。

以上の組織的特徴からスギと同定した。

No.13 (布巻具)

スギ [*Cryptomeria japonica* D. Don (スギ科)]

構成細胞は仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。

年輪幅はやや広く、早材から晩材への移行は急で、晩材幅は狭い。樹脂細胞が早・晩材の移行部から晩材部に分布している。分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に通常2個存在する。

以上の組織的特徴からスギと同定した。

No.14 (鋤未製品) コナラ属アカガシ亜属 [*Ouercus* (sub. *Cyclobalanopsis*) sp. (ブナ科)]

構成細胞は道管要素、周囲仮道管、木部纖維、軸方向柔細胞、放射柔細胞からなる。

円形ないし楕円形の道管が単独で放射方向に配列する放射孔材である。道管せん孔は单せん孔である。道管にチロースが認められる。軸方向柔細胞は接線方向に1~3細胞幅の帯状柔組織を形成し、顕著である。放射組織は同性で、単列放射組織と極めて幅の広い広放射組織（複合型）がある。周囲仮道管が存在する。道管放射組織間壁孔は典型的な柵状を示す。

以上の組織的特徴からコナラ属アカガシ亜属（カシ類）と同定した。

No.15 (鋤未製品) スギ [*Cryptomeria japonica* D. Don (スギ科)]

構成細胞は仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。

年輪幅は非常に広く、早材から晩材への移行はやや急で、晩材幅はやや広い。樹脂細胞が早・晩材の移行部から晩材部に分布し、接線方向に配列する傾向がある。分野壁孔は不明瞭であるが、スギ型で1分野に通常2個存在する。

以上の組織的特徴からスギと同定した。

No.16 (鋤未製品) コナラ属アカガシ亜属 [*Ouercus* (sub. *Cyclobalanopsis*) sp. (ブナ科)]

構成細胞は道管要素、周囲仮道管、木部纖維、軸方向柔細胞、放射柔細胞からなる。

円形ないし楕円形の道管が単独で放射方向に配列する放射孔材である。道管せん孔は单せん孔である。道管にチロースがよく発達している。軸方向柔細胞は接線方向に1~3細胞幅の帯状柔組織を形成し、非常に目立つ。放射組織は同性で、単列放射組織と極めて幅の広い広放射組織（複合型）がある。周囲仮道管が存在する。

以上の組織的特徴からコナラ属アカガシ亜属（カシ類）と同定した。

No.17 (鋤未製品) コナラ属アカガシ亜属 [*Ouercus* (sub. *Cyclobalanopsis*) sp. (ブナ科)]

構成細胞は道管要素、周囲仮道管、木部纖維、軸方向柔細胞、放射柔細胞からなる。

円形ないし楕円形の道管が単独で放射方向に配列する放射孔材である。道管せん孔は单せん孔である。道管にチロースが認められる。軸方向柔細胞は接線方向に1~3細胞幅の帯状柔組織を形成し、非常に目立つ。放射組織は同性で、単列放射組織と極めて幅の広い広放射組織（複合型）がある。周囲仮道管が存在する。道管放射組織間壁孔は典型的な柵状を示す。

以上の組織的特徴からコナラ属アカガシ亜属（カシ類）と同定した。

No.18 (田船?) ヒノキ属 [*Chamaecyparis* sp. (ヒノキ科)]

構成細胞は仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。

年輪幅はやや狭く、早材から晩材への移行は緩やかで、晩材幅は非常に狭い。樹脂細胞は年輪内に均等に分布しているが、接線状配列の傾向のものがある。分野壁孔は典型的なヒノキ型で1分野に通

常2個存在する。

以上の組織的特徴からヒノキ属と同定した。

No.19 (盾形祭祀具?)

スギ [*Cryptomeria japonica* D. Don (スギ科)]

構成細胞は仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。

年輪幅は非常に広く、早材から晩材への移行は急で、晩材幅はやや広い。樹脂細胞が早・晩材の移行部から晩材部に分布し、やや接線方向に配列する傾向がある。分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に通常2個存在する。

以上の組織的特徴からスギと同定した。

No.20 (把頭祭祀具?)

コナラ属アカガシ亜属 [*Ouercus* (sub. *Cyclobalanopsis*) sp. (ブナ科)]

構成細胞は道管要素、周囲仮道管、木部纖維、軸方向柔細胞、放射柔細胞からなる。

円形ないし楕円形の道管が単独で放射方向に配列する放射孔材である。道管せん孔は单せん孔である。軸方向柔細胞は接線方向に1~3細胞幅の帯状柔組織を形成し、目立つ。放射組織は同性で、單列放射組織と極めて幅の広い広放射組織(複合型)がある。周囲仮道管が存在する。

以上の組織的特徴からコナラ属アカガシ亜属(カシ類)と同定した。

木製品樹種鑑定試料一覧

No.	試料の種類	樹種	備 考	時 期	本文中の 挿図番号
1	櫂	スギ	C14年代測定では、6030±50年前のもの	縄文時代前期	第76図 1
2	櫂	スギ	〃 5990±50年前のもの	縄文時代前期	第76図 2
3	櫂	スギ	〃 5900±50年前のもの	縄文時代前期	第76図 3
4	櫂	スギ	〃 5910±50年前のもの	縄文時代前期	第77図 1
5	柱根	クリ	掘立柱建物を構成	古墳時代中期以降	第85図 1
6	柱根	クリ	掘立柱建物を構成	古墳時代中期以降	第85図 2
7	柱根	モミ属	掘立柱建物を構成	古墳時代中期以降	第85図 6
8	柱根	クリ	掘立柱建物を構成	古墳時代中期以降	第85図 3
9	梯子	スギ		古墳時代前半期（推定）	第78図 2
10	火鑽臼	スギ	使用痕 2箇所残存	古墳時代前半期（推定）	第78図 1
11	編台目盛板	スギ	完形	古墳時代前半期（推定）	第78図 4
12	布巻具	スギ	完形	古墳時代前半期（推定）	第78図 5
13	布巻具	スギ	完形	古墳時代前半期（推定）	第78図 6
14	農具（鋤）未製品	カシ類*		古墳時代前半期（推定）	第79図 1
15	農具（鋤）未製品	スギ		古墳時代前半期（推定）	第80図 1
16	農具（鋤）未製品	カシ類*		古墳時代前半期（推定）	第79図 2
17	農具（鋤）未製品	カシ類*		古墳時代前半期（推定）	第79図 3
18	田船？	ヒノキ属	端部の一部のみ残存、船の舳先の可能性あり	古墳時代前半期（推定）	第80図 2
19	盾形木製品	スギ	祭祀具か？	古墳時代前半期（推定）	第80図 3
20	把頭	カシ類*	祭祀具か？	古墳時代前半期（推定）	第80図 5

*カシ類：コナラ属アカガシ亜属

上記表の時期欄で「古墳時代前半期（推定）」と記した試料は、大量の古墳時代前・中期の土器とわずかな縄文・弥生時代の土器片を含んだ、土石流の痕跡と思われる堆積土層から出土したものである。

木製品放射性炭素年代測定結果報告

(株) 地球科学研究所

放射性炭素年代測定の依頼を受けました試料（櫂4本）について、結果を得ましたのでご報告申し上げます。

報告内容の説明

14Cage (y BP) : 14C年代測定値

試料の $^{14}\text{C} / ^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在（1950年AD）から何年前（BP）かを計算した年代。

半減期として5568年を用いた。

補正14cage : 補正14C年代値

(y BP) 試料の炭素安定同位体比（ $^{13}\text{C} / ^{12}\text{C}$ ）を測定して試料の炭素の同位体分別を知り $^{14}\text{C} / ^{12}\text{C}$ の測定値に補正值を加えた上で、算出した年代。

$\delta^{13}\text{C}$ (permil) : 試料の測定 $^{14}\text{C} / ^{12}\text{C}$ 比を補正するための $^{13}\text{C} / ^{12}\text{C}$ 比。

この安定同位体比は、下式のように標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（0/00）で表現する。

$$\delta^{13}\text{C} (0/00) = \frac{(^{13}\text{C} / ^{12}\text{C}) [\text{試料}] - (^{13}\text{C} / ^{12}\text{C}) [\text{標準}]}{(^{13}\text{C} / ^{12}\text{C}) [\text{標準}]} \times 1000$$

ここで、 $^{13}\text{C} / ^{12}\text{C}$ [標準] = 0.0112372である。

暦 年 代 : 過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。具体的には年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。（Stuiver et al.1933 ; Vogel et al.1933 ; Talma and Vogel,1933）ただし、この補正是約10,000yBPより古い試料には適用できない。

測定方法などに関するデータ

測定方法 AMS : 加速器質量分析

Radiometric : 液体シンチレーションカウンタによる β -線計数法

処理・調整・その他：試料の前処理、調整などの情報

前処理 acid—alcali—acid : 酸—アルカリ—酸洗浄

分析機関 : BETA ANALYTIC INC.

4985 SW74 Court, Miami, Fl. 33155, U.S.A

C14年代測定結果

試料データ	C14年代 (y BP) (Measured C14 age)	$\delta^{13}\text{C}$ (permil)	補正 C14年代 (y BP) (Conventional C14 age)
-------	------------------------------------	--------------------------------	---

Beta-130021 6010±50 -23.7 6030±50

試料名 (11662) NO.1

測定方法、期間 Standard-AMS

試料種、前処理など wood acid-alcali-acid

Beta-130022 5970±50 -23.7 5990±50

試料名 (11663) NO.2

測定方法、期間 Standard-AMS

試料種、前処理など wood acid-alcali-acid

Beta-130023 5920±50 -25.8 5900±50

試料名 (11664) NO.3

測定方法、期間 Standard-AMS

試料種、前処理など wood acid-alcali-acid

Beta-130024 5910±50 -24.8 5910±50

試料名 (11665) NO.4

測定方法、期間 Standard-AMS

試料種、前処理など wood acid-alcali-acid

年代値はRCYBP (1950年A.D.を0年とする) で表記。モダン リファレンス スタンダードは、国際的な慣例として、NBS Oxalic AcidのC14濃度の95%を使用し、半減期はリバーの5568年を使用した。エラーは1シグマ (68%確率) である。

*編者注：試料名と本文中挿図との関連については、試料名NO. 1 が第76図-1、NO. 2 が第76図-2、NO. 3 が第76図-3、NO. 4 が第77図-1である。

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables : C 13 / C 12 = -23.7 : lab mult. = 1)

Laboratory Number : Beta-130021

Conventional radiocarbon age : 6030 ± 50 BP

Calibrated results : cal BC 5045 to 4790 (Cal BP 6995 to 6740)

(2 sigma, 95% probability)

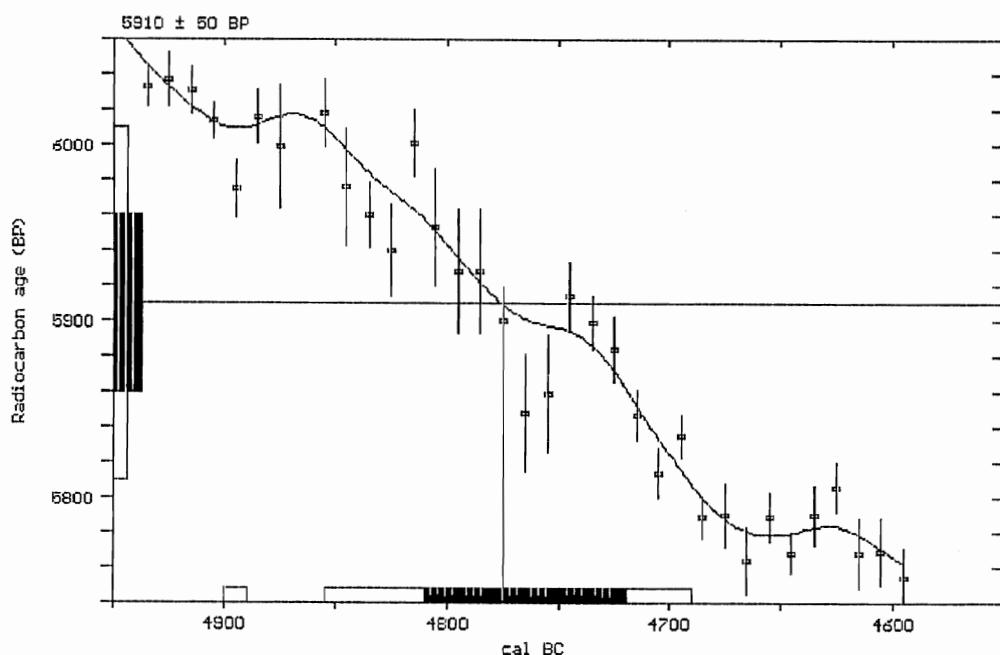
Intercept data :

Intercept of radiocarbon age

with calibration curve : cal BC 4920 (Cal BP 6870)

1 sigma calibrated results : cal BC 4965 to 4830 (Cal BP 6915 to 6780)

(68% probability)



References :

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver,M., van der Plicht,H.,1998,Radiocarbon 40 (3) ,pxii—xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stiver,M.,et.al.,1998,Radiocarbon 40 (3) ,p1041—1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma,A.S.,Vogel,J.C.,1993,Radiocarbon 35 (2) ,p317—322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables : C 13 / C 12 = -23.7 : lab mult.=1)

Laboratory Number : Beta-130022

Conventional radiocarbon age : 5990 ± 50BP

Calibrated results : cal BC4985 to 4740 (Cal BP6935 to 6690)

(2 sigma, 95% probability)

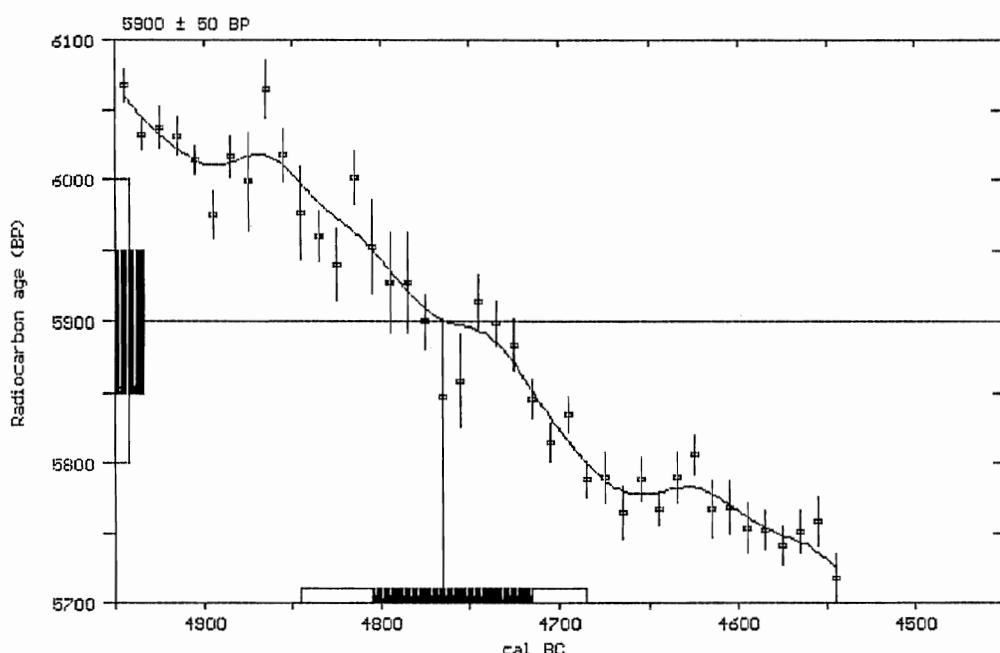
Intercept data :

Intercept of radiocarbon age

with calibration curve : cal BC4840 (Cal BP6790)

1 sigma calibrated results : cal BC4930 to 4800 (Cal BP6880 to 6750)

(68% probability)



References :

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver,M., van der Plicht,H.,1998,Radiocarbon 40 (3) ,pxii—xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stiver,M.,et.al.,1998,Radiocarbon 40 (3) ,p1041—1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma,A.S.,Vogel,J.C.,1993,Radiocarbon 35 (2) ,p317—322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables : C 13 / C 12 = -23.7 : lab mult. = 1)

Laboratory Number : Beta-130023

Conventional radiocarbon age : 5900 ± 50 BP

Calibrated results : cal BC4845 to 4685 (Cal BP6795 to 6635)

(2 sigma, 95% probability)

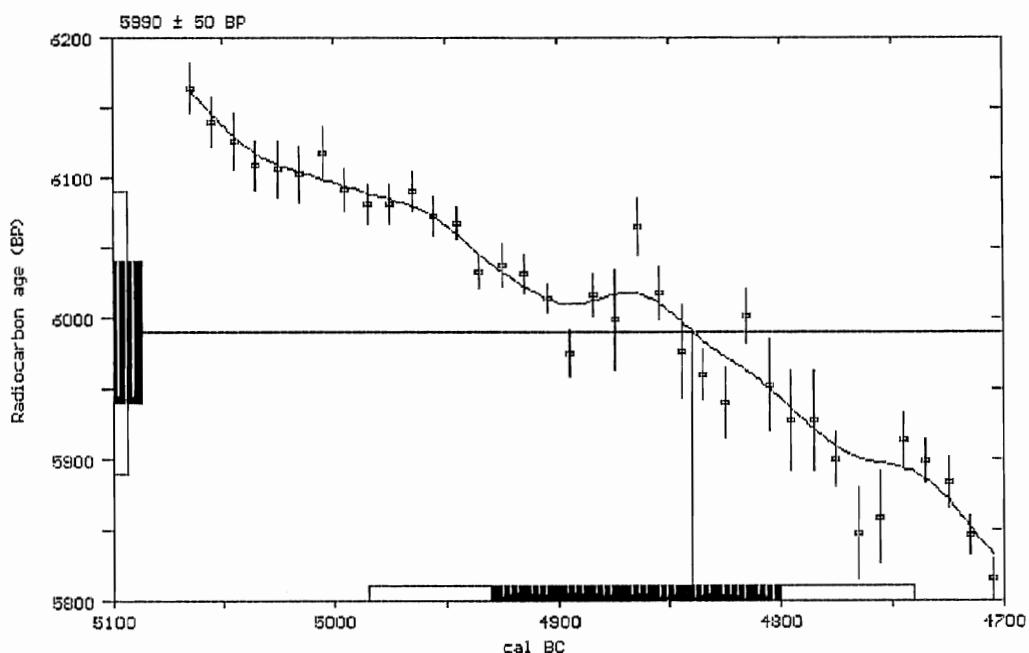
Intercept data :

Intercept of radiocarbon age

with calibration curve : cal BC4765 (Cal BP6715)

1 sigma calibrated results : cal BC4805 to 4715 (Cal BP6755 to 6665)

(68% probability)



References :

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver,M., van der Plicht,H.,1998,Radiocarbon 40 (3) ,pxii-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stiver,M.,et.al.,1998,Radiocarbon 40 (3) ,p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma,A.S.,Vogel,J.C.,1993,Radiocarbon 35 (2) ,p317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables : C13/C12 = -23.7 : lab mult. = 1)

Laboratory Number : Beta-130024

Conventional radiocarbon age : 5910 ± 50 BP

Calibrated results : cal BC4900 to 4890 (Cal BP6850 to 6840)

(2 sigma, 95% probability)

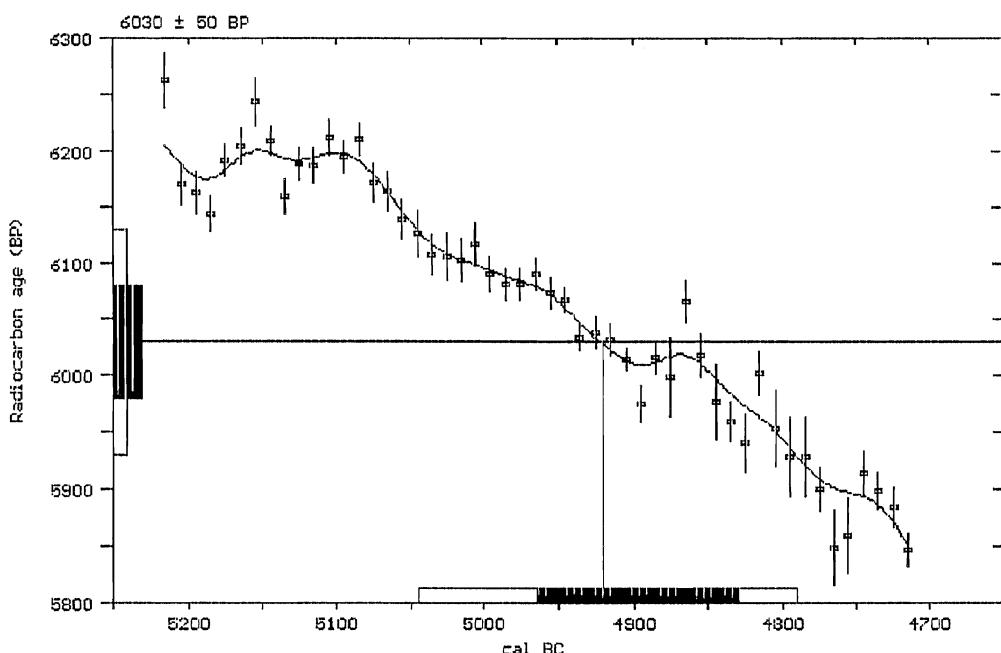
Intercept data :

Intercept of radiocarbon age

with calibration curve : cal BC4775 (Cal BP6725)

1 sigma calibrated results : cal BC4810 to 4720 (Cal BP6760 to 6670)

(68% probability)



References :

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver,M., van der Plicht,H.,1998,Radiocarbon 40 (3) ,pxii—xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stiver,M.,et.al.,1998,Radiocarbon 40 (3) ,p1041—1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma,A.S.,Vogel,J.C.,1993,Radiocarbon 35 (2) ,p317—322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

土 器 觀 察 表

捕団番号	種類	器 種	法量(cm)	胎 土	焼成	色 調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
9図- 1	縄文	鉢		長石、石英粒多く含む。金色雲母を若干含む。	良	(外) 淡灰褐色 (内) 黒色	(外) 風化 (内) ナデ 織維の痕跡多い	2区青灰色 砂礫層
9図- 2	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む。	良好	(外) 黒褐色	(外) 条痕 (内) 条痕 織維の痕跡	2区青灰色 砂礫層
9図- 3	縄文	深鉢		長石、石英粒少々含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 灰色	(外) 縄文 (内) ナデ (削りに近い)	3区暗灰色粘質土砂礫混入
10図- 1	縄文	深鉢	口径 (28.8)	石英微粒多く含む	良	(外) 黒～濁褐色 (内) 黒～濁褐色	(外) 条痕 (内) 条痕 ナデ 炭化物付着著しい	5区暗茶褐色
10図- 2	縄文	深鉢	口径 (31.0)	長石、石英粒多く含む	良	(外) 黒褐色 (内) 褐色	(内) ナデ 炭化物付着著しい	3区砂礫層
10図- 3	縄文	深鉢	口径 (34.4)	長石、石英微粒多く含む	良好	(外) 黒～黒褐色 (内) 黒～濁褐色	(外) 条痕 (内) ナデ 炭化物付着接合孔	4区暗茶色 粘質土
10図- 4	縄文	深鉢		長石、石英微粒多く含む	良好	(外) 黒褐色 (内) 濁褐色	(外) ナデ (雜) (内) ナデ 炭化物付着著しい	5区青灰色 砂礫層
10図- 5	縄文	深鉢		長石、石英粒少々含む	良好	(外) 黒色 (内) 褐色	(外) まばらな条痕 (内) 条痕 下方炭化物付着、接合孔あり	4区
10図- 6	縄文	深鉢		長石、石英微粒少々含む	良	(外) 淡褐色 (内) 黒褐色	(外) 風化 (内) ナデ	1区青灰色 砂礫層
10図- 7	縄文	深鉢		長石、石英粒密に含む	良好	(外) 淡赤褐色 (内) 淡赤褐色	(内) ナデ	
10図- 8	縄文	鉢	口径 (9.9) 器高 9.35	緻密、長石、石英微粒わずかに含む	良	(外) 濃灰色	(外) 条痕 (内) 不明 内面全面漆付着	3区砂礫層
10図- 9	縄文	深鉢		長石、石英微粒少々含む	良	(外) 黒色 (内) 黒褐色	(内) 条痕 炭化物付着著しい	4区
10図-10	縄文	深鉢		長石、石英微粒少々含む	良好	(外) 淡黒褐色 (内) 淡黒褐色	(外) 風化 (内) 条痕	4区青灰色 砂礫層
10図-11	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	悪	(外) 淡灰褐色 (内) 淡灰褐色	(外) 風化 (内) 風化	1区青灰色 砂礫層
10図-12	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) 条痕 (内) 条痕	2区青灰色 砂礫層
10図-13	縄文	深鉢		長石、石英微粒少々含む	良好	(外) 黑褐色 (内) 褐色	(外) 条痕 (内) 条痕	5区青灰色 砂礫層
10図-14	縄文	深鉢		長石、石英、金雲母微粒若干含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) 条痕 (内) 条痕	1区青灰色 砂礫層
10図-15	縄文	深鉢		長石、石英粒含む	良好	(外) 黑褐色 (内) 淡灰褐色	(外) 条痕 (内) ナデ 風化著しい	3区暗灰色粘質土砂礫混入
10図-16	縄文	深鉢		長石、石英微粒密に含む	良好	(外) 黒色 (内) 黒色	(外) 条痕後ナデ (内) 条痕後軽くナデ	2区青灰色 砂礫層
11図	縄文	深鉢	口径 (42.0)	長石、石英微粒多く含む	良好	(外) 黑褐色 (内) 黒褐色	(外) 条痕 (内) 条痕 炭化物付着	5区青灰色 砂礫層
12図- 1	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良	(外) 淡濁褐色 (内) 褐色	(外) ナデ (内) ナデ	4区青灰色 砂礫層
12図- 2	縄文	深鉢		長石、石英粒少々含む	良	(外) 黑褐色 (内) 黒褐色	(外) 縄文 (内) ミガキ	3区青灰色 砂礫層
12図- 3	縄文	鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 黑褐色 (内) 黒～濁褐色	(外) 縄文 (内) ナデ	2区青灰色 砂礫層
12図- 4	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 黒色 (内) 黑褐色	(外) 縄文はりつけ突帯文 (内) 縄文、風化	1区青灰色 砂礫層
12図- 5	縄文	鉢		長石、石英粒少々含む	良好	(外) 淡黒褐色 (内) 淡黒褐色	(外) 縄文 (内) ナデ	3区暗灰色粘質土砂礫混入
12図- 6	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 黑灰色 (内) 黑灰色	(外) 風化 (ナデ?) (内) 風化 (ナデ?)	3区青灰色 砂礫層
12図- 7	縄文	鉢		長石、石英微粒少々含む	良好	(外) 黑褐色 (内) 黑褐色	(外) 縄文 (内) ナデ 炭化物付着	4区青灰色 砂礫層
12図- 8	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 黑褐色 (内) 黑褐色	(外) 縄文 (内) ナデ	3区暗灰色粘質土砂礫混入
12図- 9	縄文	深鉢		長石、石英粒わざかに含む	良好	(外) 黒色 (内) 黑褐色	(外) 縄文 (内) ナデ	4区青灰色 砂礫層
12図-10	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 黒色 (内) 濁褐色	(外) 縄文 (内) ナデ	3区暗灰色粘質土砂礫混入

挿図番号	種類	器種	法量(cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
13図- 1	縄文	深鉢		長石、石英粒少々含む	良	(外) 黒~淡褐色 (内) 黒~淡褐色	(外) 条痕後ナデ (内) 条痕後ナデ 炭化物付着	1区青灰色 砂礫層
13図- 2	縄文	深鉢		長石、石英微粒多く含む	良好	(外) 黒灰色~暗褐色 (内) 黑灰色~暗褐色	(外) 条痕後ナデ (内) 条痕	4区
13図- 3	縄文	深鉢	口径(24.0)	長石、石英粒多く含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 黑色	(内) ナデ 炭化物付着、接合孔	4区褐色粘質土層
13図- 4	縄文	深鉢		石英微粒密に含む	良	(外) 黑褐色 (内) 黑色	(外) 条痕後ナデ (内) 条痕後ナデ	3区暗灰色粘質土砂礫混入
13図- 5	縄文	深鉢		長石、石英粒密に含む	良好	(外) 黑灰色 (内) 黑灰色	(内) 条痕後ナデ消し 一部 炭化物付着	2区青灰色 砂礫層
13図- 6	縄文	深鉢		長石、石英の粒多く含む	良好	(外) 褐色 (内) 黑色	(外) ナデ (内) 条痕	3区暗灰色粘土上面、青灰色砂礫層
13図- 7	縄文	深鉢		長石、石英粒少々含む	良	(外) 淡灰~淡黒色 (内) 黑褐色	(外) 条痕 (内) 条痕 風化著しい	1区青灰色 砂礫層
13図- 8	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 黑褐色 (内) 濁褐色	(外) 条痕後ナデ (内) ナデ	3区暗灰色粘質土砂礫混入
13図- 9	縄文	深鉢		長石、石英粒密に含む	良	(外) 黑褐色 (内) 淡褐色	(外) ナデ (内) 条痕 風化著しい	3区暗灰色粘質土砂礫混入
13図-10	縄文	深鉢		長石、石英微粒多く含む	良	(外) 濃灰色 (内) 濃灰色	(外) 二枚貝爪形文 (内) 条痕	2区青灰色 砂礫層
13図-11	縄文	深鉢		長石、石英粒密に含む	良好	(外) 黑色 (内) 黑褐色	(外) ナデ (内) ナデ	青灰色砂礫層
13図-12	縄文	深鉢		長石、石英微粒多く含む	良好	(外) 黑色 (内) 褐色	(外) 条痕後ナデ (内) 条痕 炭化物付着	青灰色砂礫層
13図-13	縄文	深鉢		長石、石英粒密に含む	悪	(外) 淡黒色 (内) 淡黒色	(内) ナデ 風化著しい	1区青灰色 砂礫層
13図-14	縄文	深鉢		長石、石英微粒わずかに含む	良好	(外) 黑灰色 (内) 黑灰色	(内) 条痕	1区青灰色 砂礫層
14図- 1	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 淡灰褐色	(外) 幅広の条痕、ナデ (内) 幅広の条痕	3区暗灰色 粘質土
14図- 2	縄文	深鉢		長石、石英粒密に含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 濃灰色	(外) 条痕 (内) 条痕	5区東側溝中
14図- 3	縄文	鉢		長石微粒多く含み、若干石英粒を含む	良好	(外) 褐色 (内) 濃灰色	(外) ミガキ (内) ナデ	1区青灰色 砂礫層
14図- 4	縄文	深鉢		石英微粒多く含む	良	(外) 灰色 (内) 濁灰褐色	(外) ナデ (内) 条痕後ナデ 粘土紐痕顯著、炭化物付着著しい	5区青灰色 砂礫層
14図- 5	縄文	深鉢	口径(31.8)	長石、石英粒含む	良好	(外) 黑褐色 (内) 黑褐色	(外) 条痕 (内) 条痕	5区青灰色 砂礫層
14図- 6	縄文	深鉢		石英微粒多く含む	良好	(外) 淡黒色 (内) 褐色~濃褐色	(外) 条痕後軽くナデ (内) 条痕 炭化物付着	3区青灰色 砂礫層
14図- 7	縄文	深鉢		長石、石英、金雲母微粒少々含む	良好	(外) 黑色 (内) 黑色	(外) 条痕 炭化物付着著しい。一部火を受けて淡赤色	2区青灰色 砂礫層
14図- 8	縄文	深鉢		長石、石英微粒密に含む	良好	(外) 灰色 (内) 淡灰色	(外) 条痕 (内) 風化、ナデ 風化著しい	1区青灰色 砂礫層
14図- 9	縄文	深鉢		長石、石英微粒少々含む	良好	(外) 濁褐色 (内) 黑色	(外) 条痕後ナデ (内) 条痕	3区暗灰色粘質土砂礫混入
14図-10	縄文	鉢		長石、石英粒多く含む、纖維わずかに含む	良	(外) 淡黒褐色 (内) 淡黑褐色	(外) 条痕 (内) 条痕	3区暗灰色粘質土砂礫混入
14図-11	縄文	深鉢		長石、石英微粒含む	良好	(外) 黑褐色 (内) 黑色	(外) ナデ (内) ナデ	5区青灰色 砂礫層
14図-12	縄文	鉢		長石、石英粒少々含む	良好	(外) 黑褐色 (内) 淡褐灰色	(外) 条痕 (内) ナデ	
14図-13	縄文	鉢		長石、石英粒少々含む、纖維の痕跡がおおい	良好	(外) 褐色 (内) 黑色	(外) ナデ (内) 条痕	3区青灰色 粘質土
14図-14	縄文	鉢		長石、石英粒少々含む	良好	(外) 黑色 (内) 黑色	(外) 条痕 (内) 条痕	4区暗茶灰色
15図- 1	縄文	深鉢		長石、石英微粒わずかに含む	良好	(外) 黑褐色 (内) 黑褐色	(外) 縄文 (内) 縄文 炭化物付着著しい	4区青灰色 砂礫層
15図- 2	縄文	深鉢		長石、石英粒少々含む	良好	(外) 黑灰色 (内) 淡褐色~灰色	(外) 縄文 (内) 縄文、ナデ 炭化物付着著しい	4区青灰色 砂礫層
15図- 3	縄文	深鉢		長石、石英粒若干含む	良	(外) 黑色 (内) 黑色	(外) 縄文 (内) ナデ	1区青灰色 砂礫層
15図- 4	縄文	鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 黑褐色 (内) 褐色	(外) 縄文 (内) 風化	5区暗灰色 粘質土

捕団番号	種類	器種	法量(cm)	胎 土	焼成	色 調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
15図- 5	縄文	深鉢		長石、石英粒密に含む	良	(外) 淡黒褐色 (内) 淡黒褐色	(外) 縄文(風化) (内) ナデ(風化)	1区青灰色砂礫層
15図- 6	縄文	鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 黒褐色 (内) 淡褐色~黒褐色	(外) 条痕 (内) ナデ	5区青灰色砂礫層
15図- 7	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 淡黒褐色 (内) 濁褐色~濃灰色	(外) ナデ (内) ナデ後、雜なミガキ 一部炭化物付着	1区青灰色砂礫層
15図- 8	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良	(外) 淡褐色 (内) 黒褐色	(外) ナデ (内) 条痕後ナデ 接合孔	3区青灰色砂礫層
15図- 9	縄文	鉢		長石、石英粒多く含む	良	(外) 褐色 (内) 褐色	(内) ナデ	4区青灰色砂礫層
15図-10	縄文	深鉢		長石、石英微粒少々含む	良好	(外) 黒褐色 (内) 黒褐色	(外) 摱縄文 (内) ナデ	5区青灰色砂礫層
15図-11	縄文	深鉢		長石、石英微粒少々含む	良	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) 条痕後 (内) 風化(ナデ?)	4区青灰色砂礫層
15図-12	縄文	鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) 縄文(より糸) (内) ナデ	4区青灰色砂礫層
15図-13	縄文	鉢		長石、石英粒密に含む	良好	(外) 灰色 (内) 灰色	(外) 縄文(より糸) (内) ナデ	1区青灰色砂礫層
15図-14	縄文	鉢		石英粒少々含む	良	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(内) ナデ	1区青灰色砂礫層
15図-15	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	やや軟	(外) 白褐色 (内) 白褐色	(外) 条痕 (内) ナデ	
15図-16	縄文	深鉢		石英粒多く含む	軟	(外) 淡灰色 (内) 淡灰色	(外) 風化 (内) 風化	1区青灰色砂礫層
16図- 1	縄文	深鉢		長石、石英粒少々含む	良好	(外) 黒灰色 (内) 淡褐色	(内) 丁寧なナデ	1区青灰色砂礫層
16図- 2	縄文	深鉢		長石、石英粒少々含む	良好	(外) 黒灰色 (内) 黒灰色	(外) ナデ (内) ナデ	4区青灰色砂礫層
16図- 3	縄文	深鉢		長石、石英微粒若干含む	良	(外) 淡灰褐色 (内) 淡灰褐色	(内) 条痕	3区青灰色砂礫層
16図- 4	縄文	深鉢		長石、石英微粒わずかに含む	良好	(外) 黒色 (内) 黒褐色	(外) ナデ (内) 条痕後ナデ	4区青灰色砂礫層
16図- 5	縄文	深鉢		石英粒多く含む	良好	(外) 黒色 (内) 黒色	(外) 条痕後ナデ (内) 条痕後ナデ	4区青灰色砂礫層
16図- 6	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 黒色 (内) 濁褐色	(外) 条痕 (内) ナデ 炭化物付着著しい	2区青灰色砂礫層
16図- 7	縄文	深鉢		石英粒多く含む	良好	(外) 黒灰色 (内) 褐色	(外) ナデ (内) ナデ 粘土紐痕顯著	3区暗灰色粘土上面、青灰色砂礫層
16図- 8	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 淡黒褐色	(外) ナデ	4区青灰色砂礫層
17図- 1	縄文	深鉢		長石、石英微粒多く含む	良	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) 磨消縄文 (内) 風化	4区青灰色砂礫層
17図- 2	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良	(外) 灰色 (内) 淡灰色	(外) 磨消縄文 (内) 条痕後ナデ	3区青灰色砂礫層
17図- 3	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む、金雲母わずかに含む	良	(外) 淡灰色 (内) 淡灰色	(内) 風化 風化著しい	1区青灰色砂礫層
17図- 4	縄文	鉢		長石、石英粒密に含む、金雲母若干含む	良	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) 風化 (内) 風化	2区青灰色砂礫層
17図- 5	縄文	鉢		長石、石英粒多く含む	良	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) ナデ (内) 風化	3区暗灰色粘土上面、青灰色砂礫層
17図- 6	縄文	深鉢		長石、石英微粒密に含む	良	(外) 淡褐色 (内) 淡黑色	(外) 風化 (内) ミガキ	4区青灰色砂礫層
17図- 7	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 淡褐色~濃灰色 (内) 黒灰色	(外) 磨消縄文 (内) ナデ	1区青灰色砂礫層
17図- 8	縄文	深鉢		長石、石英微粒多く含む	良好	(外) 淡灰色 (内) 淡褐色	(外) 磨消縄文 (内) 風化 波状口縁	
17図- 9	縄文	深鉢	口径 (19.6)	長石、石英粒多く含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) 縄文、ミガキ (内) ナデ	2区青灰色砂礫層
17図-10	縄文	深鉢		長石、石英微粒密に含む	良	(外) 灰色 (内) 灰色	(外) 縄文 (内) 風化	1区青灰色砂礫層
17図-11	縄文	深鉢		長石、石英粒密に含む	良	(外) 黒灰色~淡褐色 (内) 黑灰色	(外) ミガキ (内) ナデ	1区青灰色砂礫層
17図-12	縄文	浅鉢		長石、石英粒密に含む	良	(外) 灰色 (内) 濁淡褐色~灰色	(外) 縄文、ナデ (内) ナデ	5区

挿図番号	種類	器種	法量(cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
17図-13	縄文	鉢		長石、石英微粒少々含む	良好	(外) 淡黒色 (内) 淡黒色	(外) 縄文、ナデ (内) ナデ	
17図-14	縄文	深鉢		長石、石英微粒多く含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 褐灰色	(外) ナデ (内) 条痕、ナデ 炭化物付着	1区青灰色 砂礫層
17図-15	縄文	注口土器		長石微粒密に含む	良好	(外) 黒灰色 (内) 黑灰色	(内) ナデ	4区青灰色 砂礫層
18図-1	縄文	深鉢	口径(20.6)	長石、石英粒少々含む	良	(外) 淡褐色~淡橙褐色 (内) 淡褐色~淡橙褐色	(外) ナデ (内) ナデ	1区青灰色 砂礫層
18図-2	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	やや軟	(外) 淡灰褐色 (内) 黑~灰色	(外) 風化 (内) ナデ	4区青灰色 砂礫層
18図-3	縄文	深鉢		長石、石英粒少々含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) ナデ (内) ナデ	1区青灰色 砂礫層
18図-4	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 淡褐色~淡橙色 (内) 淡褐色~淡橙色	(外) 風化 (ナデ?) (内) 風化	
18図-5	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 白褐色 (内) 白褐色	(外) 風化 (内) 風化	
18図-6	縄文	鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 褐色 (内) 褐色	(外) 風化 (内) 風化	1区青灰色 砂礫層
18図-7	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	軟	(外) 淡赤褐色 (内) 淡赤褐色	(外) 風化 (ナデ?) (内) 風化	1区青灰色 砂礫層
18図-8	縄文	鉢		石英粒多く含む	良	(外) 淡橙色 (内) 淡褐色	(外) 風化 (内) 風化	1区青灰色 砂礫層
18図-9	縄文	深鉢		長石、石英、金雲母密に含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 濁褐色	(外) ナデ (内) 風化	1区青灰色 砂礫層
18図-10	縄文	深鉢		長石、石英微粒密に含む	やや軟	(外) 淡褐色~淡赤色 (内) 淡褐色~淡赤色	(外) 風化 (内) 風化	1区青灰色 砂礫層
18図-11	縄文	深鉢		長石、石英粒密に含む、金雲母少々含む	良	(外) 淡赤色~淡褐色 (内) 淡赤色~淡褐色	(外) 風化 (内) 風化	1区青灰色 砂礫層
18図-12	縄文	深鉢		長石、石英微粒密に含む	良	(外) 灰色 (内) 灰色	(外) ナデ (内) ナデ	1区青灰色 砂礫層
18図-13	縄文	深鉢		長石、石英粒密に含む	やや軟	(外) 淡褐色 (内) 淡灰色	(外) 風化 (内) 風化、ナデ	
18図-14	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) 条痕 (内) 条痕 風化著しい	1区青灰色 砂礫層
18図-15	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む、金雲母若干含む	良好	(外) 淡褐色~黒褐色 (内) 淡褐色~黒褐色	(外) ナデ (内) ナデ 一部炭化物付着	2区青灰色 砂礫層
18図-16	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) ナデ (内) ナデ	1区青灰色 砂礫層
18図-17	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良	(外) 淡褐色 (内) 灰色	(外) 風化 (内) 風化	1区青灰色 砂礫層
18図-18	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	不良	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) 風化 (内) 条痕	2区青灰色 砂礫層
19図-1	縄文	深鉢	口径(21.0)	長石、石英粒多く含む	良好	(外) 黒褐色 (内) 淡褐色~濁褐色	(外) ナデ (内) ナデ 炭化物付着、風化著しい	1区青灰色 砂礫層
19図-2	縄文	深鉢	口径(26.2)	石英粒密に含む、金雲母少々含む	良好	(外) 淡赤色~淡褐色 (内) 淡赤色~淡褐色	(外) ナデ (内) ナデ	1区青灰色 砂礫層
19図-3	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良	(外) 灰色 (内) 淡褐色	(外) 風化 (内) 風化	1区青灰色 砂礫層
19図-4	縄文	深鉢		大きめの長石、石英粒多く含む	良	(外) 灰色 (内) 淡灰褐色	(外) ナデ (内) ナデ	1区青灰色 砂礫層
19図-5	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良	(外) 濁褐色 (内) 褐色	(外) ナデ (内) ナデ	3区青灰色 砂礫層
19図-6	縄文	深鉢		長石、石英微粒少々含む	良	(外) 淡橙褐色 (内) 淡白褐色	(外) ナデ (内) 風化	1区青灰色 砂礫層
19図-7	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	やや軟	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) 風化 (内) ナデ	青灰色砂礫層
19図-8	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 濁褐色	(外) ナデ (内) ナデ	2区青灰色 砂礫層
19図-9	縄文	深鉢		長石、石英微粒多く含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) ナデ (内) ナデ 一部炭化物付着	1区青灰色 砂礫層
19図-10	縄文	深鉢		長石、石英、金雲母微粒含む	良好	(外) 淡赤褐色 (内) 淡赤褐色	(外) ナデ (内) ナデ	1区青灰色 砂礫層
19図-11	縄文	深鉢		長石、石英細粒多く含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 淡灰色	(外) ナデ (内) ナデ	3区青灰色 砂礫層

捕団番号	種類	器種	法量(cm)	胎 土	焼成	色 調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
19図-12	縄文	深鉢		長石、石英粒密に含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) ナデ (内) ナデ	廃土中
19図-13	縄文	深鉢		長石、石英微粒多く含む	良好	(外) 黒灰色 (内) 黒灰色	(内) ミガキ 波状口縁	1区青灰色砂礫層
19図-14	縄文	鉢		長石、石英微粒少々含む	良好	(外) 褐色 (内) 褐色	(内) ナデ	2区青灰色砂礫層
19図-15	縄文	浅鉢		長石、石英微粒含む	良	(外) 黑灰色 (内) 黑灰色	(外) 風化 (内) ミガキ 若干炭化物付着	1区青灰色砂礫層
19図-16	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 灰色~淡褐色 (一部淡赤色)	(外) 風化 (内) ナデ 二次的に火を受けた痕跡	5区青灰色砂礫層
19図-17	縄文	深鉢		長石粒少々含む	良好	(外) 黑色 (内) 淡褐色	(内) 条痕 波状口縁	4区青灰色砂礫層
19図-18	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良	(外) 淡灰色 (内) 淡褐色	(内) ナデ	1区青灰色砂礫層
19図-19	縄文	鉢		長石、石英微粒多く含む	良	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) 縄文 (内) ナデ 風化著しい	1区青灰色砂礫層
20図- 1	縄文	鉢	口径 (15.2)	長石、石英粒多く含む	良	(外) 濁褐色 (内) 濁褐色	(外) ケズリ後ナデ (内) ナデ	4区青灰色砂礫層
20図- 2	縄文	深鉢	口径 (24.3)	長石、石英微粒多く含む	良好	(外) 淡褐色~灰色 (内) 淡褐色	(外) 条痕 (内) ナデ	1区青灰色砂礫層
20図- 3	縄文	深鉢	口径 (32.8)	石英粒密に含む	良	(外) 淡赤色~淡褐色 (内) 淡赤色~淡褐色	(外) 風化 (内) 風化 風化著しい	1区青灰色砂礫層
20図- 4	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) ナデ (内) ナデ	1区青灰色砂礫層
20図- 5	縄文	鉢		長石、石英微粒含む	良好	(外) 灰色 (内) 黑灰色	(外) ナデ (内) ナデ 炭化物付着	1区青灰色砂礫層
20図- 6	縄文	深鉢		長石、石英微粒多く含む	良好	(外) 黑灰色 (内) 濃灰色	(外) ケズリ (内) ケズリ	2区青灰色砂礫層
20図- 7	縄文	鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) ナデ (工具利用) (内) ナデ	1区青灰色砂礫層
20図- 8	縄文	鉢		長石、石英微粒多く含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) 条痕 (内) 条痕	
20図- 9	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	軟	(外) 黑灰色 (内) 黑灰色	(外) 風化 (内) 風化	
20図-10	縄文	浅鉢	口径 (22)	長石、石英微粒多く含む	良好	(外) 黑褐色 (内) 黑褐色	(外) ナデ、ケズリ (内) ナデ、ケズリ	1区青灰色砂礫層
20図-11	縄文	浅鉢		長石、石英微粒多く含む	良好	(外) 淡褐色~灰色 (内) 淡褐色~灰色	(外) 風化 (内) ミガキ 波状口縁	2区青灰色砂礫層
21図- 1	縄文	深鉢	口径 (28.2)	長石、石英粒少々含む	やや 軟	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) 風化 (内) 条痕後ナデ	1区青灰色砂礫層
21図- 2	縄文	深鉢	口径 (30.8)	長石、石英粒多く含む	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 淡灰褐色	(外) ナデ (内) 条痕、ナデ	1区青灰色砂礫層
21図- 3	縄文	深鉢		長石粒多く含む	良好	(外) 灰色 (内) 淡灰褐色	(外) ナデ (内) ケズリ	2区青灰色砂礫層
21図- 4	縄文	鉢		長石、石英微粒少々含む	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 淡灰褐色	(外) 風化 (内) ナデ	1区青灰色砂礫層
21図- 5	縄文	深鉢		長石、石英微粒多く含む	良	(外) 白灰色 (内) 濁褐色	(外) ナデ (内) ナデ (ケズリ状工具痕の跡)	1区青灰色砂礫層
21図- 6	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) ナデ (内) 風化、条痕後ナデ	4区青灰色砂礫層
21図- 7	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	悪	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) 風化 (内) 風化、指押え	4区青灰色砂礫層
21図- 8	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良好	(外) 濁褐色 (内) 濁褐色	(外) ナデ (内) ナデ 炭化物付着	1区青灰色砂礫層
21図- 9	縄文	鉢		長石、石英粒少々含む	良	(外) 褐色 (内) 黑褐色	(外) ナデ (内) 条痕 炭化物付着著しい	1区青灰色砂礫層
21図-10	縄文	深鉢		長石、石英微粒少々含む	良	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) ナデ (風化著しい) (内) ナデ 接合孔	1区青灰色砂礫層
21図-11	縄文	深鉢		石英粒密に含む	良	(外) 褐灰色 (内) 黑灰色	(外) 風化 (内) 風化著しい条痕	1区青灰色砂礫層
21図-12	縄文	深鉢		長石、石英粒多く含む	良	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) 条痕 (内) 条痕	暗灰色粘土 上面青灰色砂礫層
21図-13	縄文	深鉢		長石、石英粒少々含む	軟	(外) 淡灰色 (内) 淡灰色	(外) 風化 (内) 風化	

挿図番号	種類	器種	法量(cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
21図-14	縄文	深鉢		長石、石英微粒多く含む、金雲母若干含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 淡黒色	(外) 風化 (内) ナデ 接合孔	1区青灰色 砂礫層
22図- 1	弥生	壺	頸径 (14.0)	1mm大砂粒多く含む	良	(外) 灰茶色	(外) ヘラミガキ (内) 指頭圧痕	1区青灰色 砂礫層
22図- 2	弥生	壺		2~5mm砂粒含む	良	(外) 橙色をおびた淡茶色	(外) 頸ナデ (内) ナデ (指頭圧痕、ハケメ) 肩部外面に2条×3の横線、その間に貝殻による文様を施す	2区青灰色 砂礫層
22図- 3	弥生	壺	胴最大径 11.9	1mm内外砂粒含む	良	(外) 黄白茶色(かすかに黒斑あり)	(内) 指頭圧痕 胴部外面にハシゴ状の文様	3区青灰色 砂礫層
22図- 4	弥生	壺			良	(外) 白茶色 (内) 黒色	(外) ハケメ 外面に炭化物付着、ヘラによる三角文	3区青灰色 砂礫層
22図- 5	弥生	壺	胴最大径 (23.4)	1mm大砂粒含む	良	(外) 黒色 (内) 茶色	(外) ナデ 外面全体に炭化物付着、胴部外面に2本の凸部体帯を付けその凸部の先端に沈線	4区青灰色 砂礫層
22図- 6	弥生	壺	胴最大径 30.2	2mm大砂粒含む	良	(外) 淡黄茶色	(内) ヘラミガキ 胴部外面に4本の凸帶	青灰色砂礫層
22図- 7	弥生	壺	口径 (32.2) 頸径 (24.0)	2mm大砂粒含む	良	(外) 淡橙色	(内) ヘラミガキ 口縁端部と内、肩部に三角の連続刺突文、それによる口縁端部に鋸齒状の文、頸部外面に20本の横線	2区青灰色 砂礫層
22図- 8	弥生	壺	頸径 (13.8)		良	(外) 濃茶色 (内) 黄土色	(外) 頸上面ハケメ 頸部外面に3条の凸帶、刻み目を施す	4区~5区青 灰色砂礫層
22図- 9	弥生	壺	頸径 (9.8)	1mm大砂粒含む	良	(外) 淡茶色 (断面灰色)	(外) ハケメ 頸部下部に凸帶	3区青灰色 砂礫層
22図-10	弥生	壺	口径 (7.6)		良	(外) 濃茶色 (内) 淡茶色	(外) 口縁ナデ (内) 指頭圧痕 外面に6条のヘラによる横線、その下に連続した円形刺突文 (4ヶで1単位)	T~3青灰色 砂礫層
23図- 1	弥生	壺	口径 (26.4)		良	(外) 淡灰茶色 (内) 淡茶色 (断面灰色)	(外) ハケメ (内) ハケメ 頸部外面に3条の沈線、胴部外面に横線と波状文同じクシ状工具使用と思われる	3区青灰色 砂礫層
23図- 2	弥生	壺	口径 (33.2)	1mm大砂粒含む	良	(外) 灰色 (黑斑あり) (内) 淡茶色	(外) ハケメ (内) ハケメ 胴部外面にクシ状工具による横線→波状文→横線→連続刺突文	2区青灰色 砂礫層
23図- 3	弥生	短頸壺	口径 (42.5)	2~3mm砂粒含む	良	(外) 灰色がかった白茶色 (内) 黄色がかった白茶色	(外) ヘラミガキ (内) ハケメ 外面に大きな黒斑、口縁部上面に刻み目様痕跡、口縁部外面に3本×12条の横線	2区青灰色 砂礫層
23図- 4	弥生	壺	口径 (23.5)	細粒及び1~3mm白色砂粒含む	良	(外) 灰白茶色 (内) 灰黒色	口縁端部に刻み目、胴部外面、横線の下に3角形の連続刺突文	
23図- 5	弥生	壺	口径 (28.6)		良	(外) 灰白茶色 (内) 灰白茶色	(外) ナデ 口縁端部上面に3条の沈線	2区青灰色 砂礫層
23図- 6	弥生	壺	口径 (28.0)	1mm大砂粒多く含む(石英、長石)	良	(外) 淡茶色 (内) 淡茶色	(外) ナデ 口縁端部に4条の沈線、広がった口縁部の外面には5本の凸線	2区青灰色 砂礫層
23図- 7	弥生	壺	口径 (23.6)	1mm大砂粒多く含む	良好	(外) 淡澄色 (内) 淡澄色	口縁端部4本の沈線、頸部径に3本の沈線	5区青灰色 砂礫層上面
24図- 1	弥生	壺	口径 (26.4)		良	(外) 白黄茶色 (内) 白黄茶色	口縁部上面、外面に2条のクシ状工具による文様を施す、口縁部上面に2本の沈線	1区青灰色 砂礫層
24図- 2	弥生	壺	口径 (33.3)		良	(外) 淡灰茶色 (内) 淡灰茶色	(外) ナデ 口縁部上面、側面に円形浮文、斜格子文、口縁部最も外側に刻み目	3区青灰色 砂礫層
24図- 3	弥生	壺	口径 (48.6)	1mm大砂粒わずかに含む	良好		口縁部上面に斜線文、円形浮文、口縁端部に刻み目	暗灰色砂礫層
24図- 4	弥生	壺	口径 (27.4)		良		(外) ナデ	
25図- 1	弥生	甕	口径 (20.5)	1mm大砂粒多く含む	良	(外) 黒灰色 (内) 黄白茶色	(外) ハケメ (内) ハケメ 炭化物付着、外面に1本の沈線、口縁端部下に刻み目	3区青灰色 砂礫層
25図- 2	弥生	甕	口径 (22.2)	2mm大砂粒含む	良	(外) 濃茶色 (内) 農茶色	(外) ハケ後ミガキ (内) ハケ後ミガキ 外面に炭化物付着、6条のヘラによる沈線	3区青灰色 砂礫層
25図- 3	弥生	甕	口径 (22.2)	1mm大砂粒含む	良	(外) 農茶~黒色 (内) 淡茶色	(外) ハケメ (内) ハケメ、ナデ 外面に炭化物付着。4条のヘラ描き沈線、内面に指頭圧痕	2区青灰色 砂礫層
25図- 4	弥生	甕	口径 (22.4)	1~3mm白色砂粒含む	良	(外) 灰黒茶色 (内) 緑灰色	(外) ハケメ、ナデ (内) ハケメ 外面に炭化物付着。4条のヘラ描き沈線	
25図- 5	弥生	甕	口径 (24.6)	1mm大白色砂粒含む	良	(外) 黄白茶色 (内) 黄白茶色	(外) ハケメ (内) ナデ 外面に6条のヘラ描き沈線	3区青灰色 砂礫層
25図- 6	弥生	甕	口径 (24.6)	1~3mm砂粒含む	良	(外) 緑灰黑色 (内) 灰黒色	(外) ハケメ (内) ハケメ 外面の一部に炭化物付着	1区青灰色 砂礫層
25図- 7	弥生	甕		2mm大砂粒含む	良	(外) 黒色 (内) 淡橙灰色	(外) ハケ後ミガキ (内) ナデ 外面に1条ヘラ描き沈線	1区青灰色 砂礫層
25図- 8	弥生	甕	口径 (20.8)	白色砂粒含む	良	(内) 農茶色	(外) ハケメ (内) ハケメ 内面に炭化物付着。口縁端部に刻み目、頸部にヘラによる沈線4条	3区青灰色 砂礫層
25図- 9	弥生	甕	口径 (24.0)	1~3mm大砂粒含む	良		(外) ミガキ (内) ミガキ 外面にヘラ描き沈線6本。口縁端部に刻み目	3区青灰色 砂礫層
25図-10	弥生	甕	口径 (17.4)	1~2mm砂粒含む	良	(外) 淡濃茶色 (内) 黄茶色	(外) ハケメ (内) ハケメ 口縁部内外面に指頭圧痕	

挿図番号	種類	器種	法量(cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
25図-11	弥生	甕	口径 (20.6)	1mm大砂粒含む	良	(外) 橙~濃茶色 (内) 橙~濃茶色	(外) ハケメ (内) ミガキ 外面下部に連続刺突文	
25図-12	弥生	甕		1~5mm砂粒含む	良	(外) 橙色 (内) 灰色	(内) ハケメ 外面上部にヘラによる6条の沈線、その下に3角形の連続刺突文	1区青灰色砂礫層
26図- 1	弥生	甕	口径 (33.0)	1~2mm砂粒含む	良	(外) 灰白茶色 (内) 灰白茶色	(外) ナデ 外面に6条のヘラ描き沈線	2区青灰色砂礫層
26図- 2	弥生	甕	口径 (28.6)	1~3mm白色砂粒含む	良	(外) 淡灰茶色 (内) 淡灰茶色	(外) (内) 外面に5条のヘラ描き沈線、その間に管状の工具による連続刺突文	5区サブトレ中
26図- 3	弥生	甕	口径 (33.0)	1mm大白色砂粒含む	良	(外) 橙色をおびた濃褐色	(外) ハケメ (内) ハケメ 外面に炭化物付着。内面に指頭圧痕、口縁端部に刻み目	2区青灰色砂礫層
26図- 4	弥生	甕	口径 (28.2)	細かな砂粒含む	良	(外) 白茶色 (内) 白茶色	(外) ハケメ (内) ミガキ 外部下部に連続した斜の文様	2区青灰色砂礫層
26図- 5	弥生	甕	口径 (25.4)	2~3mm砂粒含む	良	(外) 黒褐色 (内) 黒~褐色	(外) ハケメ (内) ハケメ 外面に10条の沈線あり、口縁部内外面に指頭圧痕	5区青灰色砂礫層
26図- 6	弥生	甕	口径 (25.0)	1mm大砂粒含む (数カ所2~3mm大砂粒)	良	(外) 黄灰茶~灰黒茶色 (内) 黄灰茶色	(外) ハケメ (内) ハケメ 外面に横線、三角形の連続刺突文、口縁部外面に沈線、刻み目	3区青灰色砂礫層
26図- 7	弥生	甕	口径 (22.8)	1mm以下白色砂粒含む	良	(外) 淡灰茶色 (内) 淡灰茶色	(外) ハケメ (内) ミガキ 外面に炭化物付着	1区青灰色砂礫層
27図- 1	弥生	甕	口径 (16.0)	1mm大砂粒少々含む	良	(外) 濃茶色 (内) 黄茶色	(外) ハケメ (内) ミガキ及びナデ 外面に炭化物付着	4区青灰色砂礫層
27図- 2	弥生	甕	口径 (15.6)	1mm大細砂含む	良	(外) 黑茶色 (内) 黑茶色	(外) ハケメ (内) ハケメ 外面に炭化物付着。内面に指頭圧痕	2区青灰色砂礫層
27図- 3	弥生	甕	口径 (17.4)	細かな砂粒わずかに含む	良	(外) 黄茶色 (内) 黄茶色	(外) ハケメ、口縁ナデ (内) ケズリ	2区五段青灰色砂礫層(細砂混入)
27図- 4	弥生	甕	口径 (17.7)	1mm大白色雲母含む	良	(外) 濃茶色 (内) 黄茶~濃茶色	(外) ハケメ、口縁ナデ (内) ミガキ 外面に炭化物付着、下部には3角形の連続刺突文	
27図- 5	弥生	甕	口径 (22.0)	1mm大砂粒含む	良	(外) 白茶色 (内) 白茶色	(外) ハケメ、口縁ナデ (内) ハケメ 口縁部付近に黒斑	4区茶褐色粘質土層
27図- 6	弥生	甕	口径 (26.0)	1mm大砂粒含む	良	(外) 黄白茶色 (内) 黄白茶色	(外) ハケメ、口縁ナデ (内) ハケメ 外面下部に黒斑、炭化物付着	2区青灰色砂礫層
27図- 7	弥生	甕	口径 (21.8)	1mm大白色砂粒含む	良	(外) 淡灰茶色 (内) 淡灰茶色	(外) ハケメ、口縁ナデ (内) ミガキ 外面に炭化物付着	1区青灰色砂礫層
27図- 8	弥生	甕	口径 (16.0)	1mm大砂粒少し含む	良	(外) 濃茶色 (内) 黄茶色	(外) ハケメ (内) ミガキ及びナデ 外面に炭化物付着	4区青灰色砂礫層
27図- 9	弥生	甕	口径 (15.6)	1mm大細砂含む	良	(外) 黑茶色 (内) 黑茶色	(外) ハケメ (内) ハケメ 外面に炭化物付着。内面に指頭圧痕	2区青灰色砂礫層
27図-10	弥生	甕	口径 (21.1)	細砂含む	良	(外) 灰黒茶色 (内) 淡茶色	(外) ハケメ、ナデ	3区青灰色砂礫層
27図-11	弥生	甕	口径 (19.0)	1mm大砂粒含む	良	(外) 淡灰茶色 (内) 淡灰茶色	(外) ハケメ、ナデ (内) ケズリ、ナデ 口縁部外面に炭化物付着	1区青灰色砂礫層
27図-12	弥生	甕	口径 (11.8)	1~2mm砂粒含む	良	(外) 茶色 (内) 茶色		5区青灰色砂礫層
28図- 1	弥生	甕	口径 (18.2)	1mm大砂粒含む	良	(外) 灰色		1区青灰色砂礫層
28図- 2	弥生	甕	口径 (20.0)	1mm大砂粒含む	良	(外) 黑茶色 (内) 灰茶色	(外) ハケメ (内) ナデ	5区(T-3西)西側排水路;青灰色砂礫層
28図- 3	弥生	甕	口径 (16.4)	1mm大砂粒含む	良	(外) 黑色 (内) 灰茶色	(外) ナデ (内) ケズリ 外面に炭化物	5区南北サブトレ砂質粘土中砂礫上面
28図- 4	弥生	甕	口径 (16.6)	1mm大砂粒をわずかに含む	良	(外) 黄灰茶色	(外) ミガキ (内) ナデ 口縁部外側に浅い横線	4区青灰色砂礫層
28図- 5	弥生	甕	口径 (17.7)	1mm大砂粒及び細砂含む	良	(外) 灰茶色	(外) ハケメ (内) ハケメ 口縁部に浅い2本の横線	1区青灰色砂礫層
28図- 6	弥生	甕	口径 (16.3)		良	(外) 黑色	(外) ハケメ (内) ハケメ 外面に全体に炭化物付着	3区青灰色砂礫層
28図- 7	弥生	甕	口径 (13.9)	1mm大砂粒含む	良	(外) 茶黒色	(外) ハケメ (内) ハケメ 口縁端部に2条の沈線、黒斑	3区青灰色砂礫層
28図- 8	弥生	甕	口径 (17.2)	1mm大砂粒含む	良	(外) 黄茶色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ、ヘラミガキ (内) ナデ 口縁端部に2条の横線	2区青灰色砂礫層
28図- 9	弥生	甕	口径 (13.9)		良		(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) ナデ 口縁部外面に凹線を1本めぐらせ、その下に凸部に刻み目	4区黒灰色粘質土沙疊混入
28図-10	弥生	甕	口径 (18.0)	1mm大砂粒含む	良	(外) 淡灰茶色 (内) 黄茶色	(外) 胴ハケメ (内) ハケメ 口縁端部に2条の沈線!	4区青灰色砂礫層
28図-11	弥生	甕	口径 (19.1)		良	(外) 黄白茶色 (内) 灰茶色	(外) 胴ハケメ 口縁端部の色調、灰色、口縁端部に2条の沈線	1区青灰色砂礫層

挿図番号	種類	器種	法量(cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
28図-12	弥生	甕	口径(21.4)		良好	(外) 黄白色 (内) 灰色 (断面灰色)	頸部はりつけ粘土帯に指頭圧痕文(指でつまみ出したような突起)	3区青灰色 砂礫層
28図-13	弥生	甕	口径(17.8)		良好	(外) 白茶色	口縁部に3本の沈線、頸部はりつけ粘土帯に連続圧痕文	5区青灰色 砂礫層
28図-14	弥生	甕	口径(19.3)		良好	(外) 淡茶色 (内) (断面灰黑色)	表面に茶色の顔料、口縁端部に沈線、頸部はりつけ粘土帯に連続圧痕文	4区青灰色 砂礫層
28図-15	弥生	甕	口径(19.2)	密	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡橙色	(外) 胴ハケメ (内) 胴ミガキ 口縁端部に2本の沈線、頸部はりつけ粘土帯に連続圧痕文	4区青灰色 砂礫層
28図-16	弥生	甕	口径(17.8)		良好	(外) 白茶色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ 色調、口縁部に部分的に橙色を帯びる、口縁端部に3本の沈線	4区青灰色 砂礫層
29図-1	弥生	甕	口径 14.7	1mm大砂粒多く含む	良好	(外) 黒色をおびた淡褐色 (内) 黒色をおびた淡褐色	(外) ナデ (内) ナデ 口縁端部に4本の沈線	2区青灰色 砂礫層
29図-2	弥生	甕		1mm大砂粒含む	良好		(内) 口縁ナデ、胴ケズリ 口縁部に3条の横線	2区青灰色 砂礫層
29図-3	弥生	甕	口径(22.1)		良好	(外) 灰色がかかった白茶色	(内) ハケメ 口縁端部外面の4条の沈線の上に等間隔に円形浮文、頸部はりつけ粘土帯に連続圧痕文	4区青灰色 砂礫層
29図-4	弥生	甕	口径(17.6)		良好	(外) 黄土色 (内) 茶色 (断面灰黑色)	(外) 胴ハケメ (内) ナデ 口縁端部外面の3条の沈線の上に刻み目、頸部はりつけ粘土帯に連続圧痕文	4区青灰色 砂礫層
29図-5	弥生	甕	口径(20.3)	1mm大砂粒多く含む	良好		(外) 頸ナデ、胴ハケメ 口縁部外面に3本の沈線	3区青灰色 砂礫層
29図-6	弥生	甕	口径(21.6)	1mm大砂粒多く含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 淡橙褐色	(外) 胴ハケメ (内) 胴ハケメ 色調、内面に一部黒色をおびる、口縁部外面に3本の沈線	3区青灰色 砂礫層
29図-7	弥生	甕	口径(26.0)	/	良好	(外) 白茶色	(外) ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ヘラケズリ 口縁部外面に3条の沈線	4区青灰色 砂礫層
29図-8	弥生	甕	口径(18.4)	1mm大砂粒含む	良好	(外) 白茶色 (内) 灰茶色 (断面灰色)	(外) 口縁ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ 口縁部外面に3本の沈線	T~8青灰色 砂礫層
29図-9	弥生	甕	口径(18.4)	1mm大砂粒わずかに含む	良好	(外) 黒色をおびた淡褐色 (内) 橙褐色	(外) 口縁ナデ (内) ナデ 口縁部外面に3本の沈線	4区青灰色 砂礫層
29図-10	弥生	甕	口径(14.6)	1mm大砂粒含む	良好		(外) ナデ (内) 胴ケズリ 口縁部外面に7条の横線(上下2本は不明瞭)	2区青灰色 砂礫層
29図-11	弥生	甕	口径(16.1)	1mm大砂粒含む	良好	(外) 黑茶~黄茶色 (内) 黄茶色 (断面灰色)	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ 口縁部外面にわずかに炭化物付着、口縁部外面に浅い3本の横線	2区青灰色 砂礫層
29図-12	弥生	甕	口径(15.3)	1mm大砂粒多く含む	良好		(外) 口縁ナデ、胴ケズリ 外面に炭化物付着、口縁部外面に4本の沈線、片部にクシ状工具による連続削突文	3区青灰色 砂礫層
29図-13	弥生	甕	口径(19.6)	1mm大砂粒多く含む	良好		(外) ナデ (内) ナデ 外面に炭化物付着、口縁部外面に3本の横線	
30図-1	弥生	底部	底径 7.0	1mm大砂粒含む	良好	(外) 淡黃褐色		4区青灰色 砂礫層
30図-2	弥生	底部	底径 9.8	1mm大砂粒含む	良好	(外) 黄灰色 (内) 艶色を帯びた灰色 一部黒斑あり)	(外) ヘラミガキ (内) ヘラミガキ	1区青灰色 砂礫層
30図-3	弥生	底部	底径 10.1	1~2mm砂粒含む	良好	(外) 黄白茶色 (内) 灰茶色	(外) 上部ハケ目、下部ヘラミガキ (内) ヘラミガキ	4区青灰色 砂礫層
30図-4	弥生	底部	底径 7.4	1~2mm砂粒含む	良好	(外) 白茶色 (内) 白茶色	(外) ハケメ (内) ハケメ 底部外面に(黒斑)木の葉痕跡	3区青灰色 砂礫層
30図-5	弥生	底部	底径 11.9	1mm大砂粒多く含む	良好	(外) 茶色 (内) 白茶色	(外) ヘラミガキ (内) ハケメ	
30図-6	弥生	底部	底径 6.8	1~3mm白砂粒含む	良好	(外) 淡茶褐色 (黒斑あり)	(外) ヘラミガキ (内) ナデ	3区青灰色 砂礫層
30図-7	弥生	底部	底径 6.2	1mm大細砂含む	良好	(外) 黄茶色 (一部黒斑あり)	(外) ヘラミガキ (内) ヘラケズリ	5区青灰色 砂礫層
30図-8	弥生	底部	底径 6.4	細砂含む	良好	(外) 白茶~灰茶色 (内) 白茶~灰茶色	(外) ヘラミガキ (内) ナデ 外面色調は一部橙色を帯びる	4区青灰色 砂礫層
30図-9	弥生	底部	底径 6.5	1~2mm砂粒含む	良好	(外) 淡橙茶色 (内) 黒色	(外) 上部ハケメ、下部ナデ (内) 上部ハケメ、下部ナデ 底部外面は不定方向のヘラケズリ	4区青灰色 砂礫層
30図-10	弥生	底部	底径 7.3	1~3mm砂粒多く含む	良好	(外) 黄白茶色 (内) 灰色	(外) ハケメ (内) ナデ	2区青灰色 砂礫層
30図-11	弥生	底部	底径 8.4	1mm大砂粒多く含む	良好	(外) 淡茶色 (内) 灰黑色	(外) ヘラミガキ (内) ヘラケズリ	
30図-12	弥生	底部	底径 8.1	2mm大砂粒多く含む	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡黄茶色	外面に幅の広いヘラ状の工具をおしつけた跡あり	2区青灰色 砂礫層
30図-13	弥生	底部	底径 7.3	2mm大砂粒多く含む	良好	(外) 淡茶褐色 (内) 黑色	(外) 上部ハケメ、下部指頭圧痕 (内) ハケメ 内面に炭化物付着	2区青灰色 砂礫層
30図-14	弥生	底部	底径 6.4	1~2mm大砂粒多く含む	良好	(外) 登色 (内) 灰茶色	(外) ハケメ 内面付近に指頭圧痕	1区青灰色 砂礫層

挿図番号	種類	器種	法量(cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
30図-15	弥生	底部	底径 8.6	1~4mm砂粒含む	良好	(外) 茶褐色	(外) ハケメ (内) ナデ 外面に炭化物付着	
31図- 1	弥生	鉢	口径 (13.3)		良好	(外) 黄茶色	(外) 頸ハケメ、胴ヘラミガキ (内) 胴ハケ後ミガキ 口縁端部に刻み目	5区青灰色 砂礫層
31図- 2	弥生	鉢	口径 (22.0)	1~2mm白色砂粒含む	良好	(外) 黒色 (内) 白茶色	(外) ナデ、胴ヘラミガキ (内) ナデ、胴ハケメ 外面に炭化物付着	3区青灰色 砂礫層
31図- 3	弥生	鉢	口径 10.3	細やかな砂粒わずかに含む	良好	(外) 白茶~灰色 (黒斑あり)	(外) ヘラミガキ (内) ナデ	4区青灰色 砂礫層
31図- 4	弥生	台付鉢	胴最大径 (11.5)	1~2mm砂粒含む (白色、褐色)	良好	(外) 灰茶色 (内) 灰黒色 (断面茶色)	(外) ヘラミガキ (内) 上部ケズリ後ミガキ、 下部ヘラミガキ	1区青灰色 砂礫層
31図- 5	弥生	鉢	口径 (23.1)		良好	(外) 黄白茶色	外面に4条の深線を施す	1区青灰色 砂礫層
31図- 6	弥生	鉢	口径 (22.0)		良好	(外) 橙~灰黒色 (内) 淡橙色 (断面黑色)	(外) ナデ (内) ナデ 口縁部外面に刻み目、その下部に2本の凹線	4区溝中
31図- 7	弥生	鉢	口径 (22.0)	1mm大砂粒含む	良好		(内) ナデ 口縁部上面に斜格子文、円孔あり円孔の下部は突出しその下部に粘土のはりつけあり、口縁端部と胴部凸線部分に刻み目	4区青灰色 砂礫層
31図- 8	弥生	高坏	口径 (26.0)	1mm大砂粒含む	良好	(外) 淡灰茶色 (内) 淡灰茶色 (断面灰黑色)	(外) 口縁ナデ (内) 口縁ナデ、ヘラミガキ	4区青灰色 砂礫層
31図- 9	弥生	高坏	頸径 5.1cm		良好	(外) 黄白茶色 (内) (断面灰色)	(外) ヘラミガキ (内) ハケメ 脚部外面に5本の凸線	3区青灰色 砂礫層
31図-10	弥生	高坏	底径 (9.9)		良好	(外) 淡茶色 (内) 淡黄茶色 (断面灰黑色)	(外) ナデ (内) ヘラケズリ 脚部外面ナデ後格子状に文様を施す (タテ方向3本→ヨコ方向2本)	4区青灰色 砂礫層
31図-11	弥生	鉢	口径 17.7		良好	(外) 濃茶色 (内) 黑灰色	(外) 胴ハケメ (内) 胴ミガキ 口縁部より少し下がった所にはりつけ粘土帶に連続圧痕	4区青灰色 砂礫層
31図-12	弥生	鉢	口径 (25.7)		良好	(外) 茶がかかった灰黒色	(外) 口縁上面ヘラミガキ、胴ハケメ 外面のはりつけ粘土帶に連続圧痕 (指によるもの)	1区青灰色 砂礫層
31図-13	弥生	鉢	口径 (34.9)	1~2mm白色砂粒多く含む	良好	(外) 灰色 (内) 黑色	(外) 口縁上面ヘラミガキ、ハケメ (内) ハケ後ミガキ	
32図- 1	土師器	壺	口径 23.0 頸径 14.5 胴最大径 28.9 高さ (35.5)		良好		(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ヘラケズリ 口縁端部黒斑、底部炭化物付着	4区茶灰色 粘質土
32図- 2	土師器	壺	口径 19.5 頸径 14.2	1mm前後砂粒多く含む	良好	(外) 淡橙茶色(一部黒色) (内) 淡橙茶色(一部黒色)	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 頸ナデ、ハケメ、胴ヘラケズリ	4区灰色粘質土
32図- 3	土師器	壺	頸径 (17.8)	1mm以下砂粒多く含む、緻密	良好	(外) 橙茶色 (内) 橙茶色、黒色	(外) 胴ナデ、ハケメ、羽状文 (内) 頸ナデ、 胴ケズリ	3区暗灰色 粘質土
33図- 1	土師器	壺	口径 19.2 頸径 13.8	1mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 淡橙茶色(黒色) (内) 淡橙茶色	(外) 口縁ナデ、頸ハケ後、羽状文 (内) 口縁ナデ 頸部内面に絞り痕	
33図- 2	土師器	壺	口径 (21.6) 頸径 (15.0)	密	良好	(外) 淡灰白色(一部黒色) (内) 淡灰白色(一部黒色)	(外) 口縁~頸ナデ (内) 口縁ナデ、胴ナデ、ケズリ 内面、外面炭化物付着	4区東排水 路砂礫層
33図- 3	土師器	壺	口径 (21.9) 頸径 (13.7)	1mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 淡橙茶色 (内) 淡橙茶色	(外) 口縁ナデ (内) 口縁ナデ、頸ケズリ	2区五段目青 灰色砂礫層 (細砂混入)
33図- 4	土師器	壺	口径 (21.7) 頸径 (13.3)	1mm大長石、石英多く含む	良好	(外) 淡灰白色(一部灰色) (内) 淡灰白色(一部灰色)	(外) 口縁~頸ナデ (内) 口縁~頸ナデ	4区青灰色 砂礫層
33図- 5	土師器	壺	口径 (24.6) 頸径 (14.6)	0.5mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 淡橙色(一部黒色) (内) 淡橙色(一部黒色)	(外) 口縁ナデ、頸~胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナデ、 頸沈線、胴ケズリ 頸部内面に絞り痕	2区青灰色 砂礫層
33図- 6	土師器	壺	口径 (19.8) 頸径 (13.6)	0.5mm以下砂粒わずかに含む	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡橙色	(外) 口縁ナデ、頸ナデ後羽状文 (内) 口縁~ 頸ナデ	4区青灰色 砂礫層
33図- 7	土師器	壺	口径 (11.5) 頸径 8.0 胴最大径 18.3		良好		(外) 口縁~頸ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁~頸ナデ、 胴ケズリ 胴部外面肩部より下炭化物付着	4区青灰色 粘質土
33図- 8	土師器	壺	口径 (11.8) 頸径 9.4 胴最大径 18.2		良好		(外) 頸目盤による羽状文、胴ハケメ、沈線 (内) 胴ケズリ	4区青灰色 粘質土
33図- 9	土師器	壺	口径 (16.4) 頸径 (12.4)	長石、石英、金色 雲母微粒少々含む、密	良好	(外) 淡灰白色(一部黒色) (内) 灰色	(外) 口縁~頸ナデ、胴ハケメ、羽状文 (内) 口縁~頸ナデ、胴ケズリ	I区青灰色 砂礫層
34図- 1	土師器	壺	口径 (25.5) 頸径 (16.5)	微粒の長石、石英含む、密	良好	(外) 暗灰色 (内) 暗灰色	(外) 口縁~頸ナデ (内) 口縁~頸ナデ	2区青灰色 砂礫層
34図- 2	土師器	壺	口径 (19.3) 頸径 (13.8)	2mm前後砂粒多く含む	良好	(外) 淡褐色(一部黒色) (内) 淡橙褐色	(外) 胴ハケメ (内) 胴ケズリ 胴外面炭化物付着	2区青灰色 砂礫層
34図- 3	土師器	壺	口径 (16.8) 頸径 (11.5)	微粒の長石、石英少々含む、密	良好	(外) 灰橙色 (内) 灰橙色	(外) 口縁~頸ナデ (内) 口縁ナデ、頸ハケ 後ナデ	青灰色砂礫層
34図- 4	土師器	壺	口径 (20.0) 頸径 (13.8)	1mm前後砂粒多く含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 淡橙褐色	(外) 口縁~頸ナデ (内) 口縁~頸ナデ、胴 ケズリ	4区灰色粘質土
34図- 5	土師器	壺	口径 19.8 頸径 13.5	1mm大長石粒含む	良好	(外) 淡赤褐色 (内) 灰褐色	(外) 口縁~胴ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	4区 (T-3) 灰色粘質土
34図- 6	土師器	壺	口径 (18.2) 頸径 (11.8)	1mm大長石、石英少々含む、密	良好	(外) ナデ	(外) ナデ (内) ハケ後ナデ	2区青灰色 砂礫層

挿図番号	種類	器種	法量(cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
34図-7	土師器	壺	口径(23.9) 頸径(13.2)	1mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 淡灰茶褐色 (内) 淡茶褐色	(外) ナデ (内) ナデ	2区青灰色 砂礫層
34図-8	土師器	壺	口径(23.6)	1mm前後砂粒わずかに含む	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡橙色	(外) ミガキ (内) ミガキ	4区青灰色 砂礫層
34図-9	土師器	壺	口径(18.8) 頸径(15.9)	1~2mm大長石、 石英少々含む	良好	(外) 橙茶色 (一部黒色)	(外) 口縁~頸ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口 縁ナデ、頸ハケ後ナデ、胴ケズリ	5区青灰色 砂礫層
34図-10	土師器	壺	口径(15.8)	白色細砂含む	良好	(外) 茶灰色	(外) ナデ (内) ナデ	1区
34図-11	土師器	壺	口径(16.9)	0.5mm大砂粒含む、緻密	良好	(外) 淡黄褐色	(外) 口縁ナデ、底ハケ後ナデ (内) 口縁ナ デ、胴ケズリ	3区青灰色 粘質土
34図-12	土師器	壺	頸径(16.6)	1mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 淡灰茶色	(外) 口縁ナデ、頸ハケメ (内) 口縁~頸ナ デ、胴ケズリ	2区青灰色 砂礫層
35図-1	土師器	壺	口径17.0 頸径13.3 胴最大径30.4	1~2mm大長石 粒含む	良好	(外) 黒~黒褐色 (内) 淡黄褐色	(外) 口縁~頸ナデ、胴上ハケ後ナデ、胴下ハ ケメ (内) 口縁ナデ、頸指頸圧痕、胴ケズリ	
35図-2	土師器	壺	口径17.9 頸径13.8	1~3mm大砂粒 含む	良好	(外) 淡黄茶褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ 口縁端部は平坦で凹線に入る	2区青灰色 砂礫層
35図-3	土師器	壺	口径(17.0) 頸径(14.1)	1mm以下砂粒含 む	良好	(外) 黒色 (内) 淡橙茶色	(外) 口縁~頸ナデ、胴ハケメ (内) 口縁~ 頸ナデ、胴ケズリ	4区青灰色 粘質土
36図-1	土師器	壺	口径(15.1)	微粒の長石、石 英少々含む、密	良好	(外) 黒色	(外) ナデ (内) ナデ	
36図-2	土師器	壺	口径(16.0) 頸径(13.5)	密	良好	(外) 淡灰茶色 (一部黒色) (内) 黒色	(外) ナデ (内) ナデ 内面、外面炭化物付着	2区青灰色 砂礫層
36図-3	土師器	壺	口径(15.3) 頸径(14.0)	1mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 淡橙茶色	(外) ナデ (内) ナデ	
36図-4	土師器	壺	口径(15.8)	0.5mm以下砂粒わずかに含む	良好	(外) 黒色~橙色 (内) 橙褐色	(外) ナデ (内) ナデ	
36図-5	土師器	壺	口径(17.7)	0.5mm以下砂粒わずかに含む	良好	(外) 暗灰色 (内) 黒色 (断面灰色)	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、頸ハケメ 口縁部内面炭化物付着	3区暗灰色 粘質土
36図-6	土師器	壺	口径19.0	白色、黒色細粒 含む	良好	(外) 淡褐色~淡黑色 (内) 淡褐色~黒色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、頸ハケメ	I区青灰色 砂礫層
36図-7	土師器	壺	口径(19.0)	微粒の長石、石英 わずかに含む、密	良好	(外) 淡灰白色 (一部暗灰色)	(外) ナデ (内) ハケ後ナデ 口縁部内面炭化物付着	2区青灰色 砂礫層
36図-8	土師器	壺	口径(15.4) 頸径(14.8)	0.5mm以下砂粒 わずかに含む	良好	(外) 淡橙色 (一部 黒色をおびる) (内) 淡褐色	(外) 口縁~頸ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナ デ、頸ハケメ、胴ケズリ	
36図-9	土師器	壺	口径(19.2)	白色、黒色の粒子、 長石、石英含む	良好	(外) 淡黄灰色~淡灰褐色 (内) 淡黃褐色~淡灰褐色	(外) ナデ (内) ナデ	4区茶褐色 粘質土
36図-10	土師器	壺	口径(18.5)	微粒の長石、石英 わずかに含む、密	良好	(外) 淡褐色~淡黄褐色 (内) 淡褐色~黒褐色	(外) 口縁ナデ、頸ナデ、ハケメ (内) ナデ 口縁部内面炭化物付着	3区青灰色 砂礫層
36図-11	土師器	壺	口径(18.5)	白色の粒子、石英 の粒子少々含む	良好	(外) 淡灰茶色 (一部黒色) (内) 淡灰茶色	(外) 口縁ナデ、頸ハケメナデ (内) ナデ	3区青灰色 粘質土
36図-12	土師器	壺		石英など細粒含 む	良好	(外) 淡褐色~淡褐色 (内) 淡茶灰色	(外) 口縁~頸ナデ (内) 口縁~頸ハケ後ナ デ	青灰色砂礫層
37図-1	土師器	壺	口径(15.3) 頸径12.6	1mm以下砂粒多く含む、緻密	良好	(外) 淡橙茶色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ、ナデ (内) 口縁ナ デ、頸ハケメ、胴ケズリ、胴指頸圧痕 口縁部凹線	
37図-2	土師器	壺	口径(16.9) 頸径(14.8)	1mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 淡黄灰色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) ナデ 口縁端部沈穢	4区青灰色 砂礫層
37図-3	土師器	壺	口径(23.5)	長石、石英など 砂粒含む	良好	(外) 淡褐色~淡灰褐色 (内) 黒色	(外) ナデ (内) ナデ	5区青灰色 粘質土
37図-4	土師器	壺	口径(25.0) 頸径(21.2)	0.5mm以下砂粒 多く含む	良好	(外) 暗灰色 (内) 暗橙色 (断面白灰色)	(外) ナデ (内) ハケ後ナデ	I区青灰色 砂礫層
37図-5	土師器	壺	口径38.0 頸径32.3	1~3mm大細粒 含む	良好	(外) 黒色~淡黒綠色 (内) 黒色	(外) ナデ (内) ナデ	2区礫層 (溝中)
38図-1	土師器	甕	口径15.8 頸径12.3 胴量大径26.6 高さ23.5		良好	(外) 淡黄茶色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ヘラケ 口縁部に黒斑、底部に炭化物付着	4区茶灰色 粘質土
38図-2	土師器	甕	口径(17.3) 頸径13.3 胴量最大径23.0 高さ23.7	1mm前後砂粒多 く含む	良好	(外) 黑色 (内) 暗茶褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴上ケ ズリ、胴下ハケメ 外面炭化物付着	4区暗青灰 色粘質土
38図-3	土師器	甕	口径(15.0) 頸径(12.0)	1mm前後長石粒 多く含む	良好	(外) 黑色~淡黄褐色 (内) 淡黃褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、 胴ケズリ	5区暗灰色 粘質土
38図-4	土師器	甕	口径14.5 頸径10.2 胴量大径23.1 高さ20.8		良好	(外) 淡茶色	(外) 胴ハケメ (内) 胴ケズリ 胴部外面炭化物付着	4区青灰色 砂礫層
38図-5	土師器	甕	口径(14.8) 頸径(11.4) 胴量大径(18.3)	0.5mm大砂粒多 く含む	良好	(外) 淡灰茶色	(外) 口縁ナデ (内) 口縁ナデ、ケズリ	5区暗灰色 粘質土
38図-6	土師器	甕	口径(15.2) 頸径(12.1) 胴量大径(19.8)	1~2mm大長石、 石英多く含む	良好		(外) 口縁~デ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ハケメ 胴部外面に炭化物付着	5区暗灰色 粘質土

挿図番号	種類	器種	法量(cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
38図- 7	土師器	甕	口径(14.0) 頸径(10.4)	長石、石英微粒 多く含む	良好	(外) 暗灰色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	5区溝中
39図- 1	土師器	甕	口径(13.9) 頸径(9.8)	微粒の長石、石英少々含む、密	良好	(外) 淡灰白橙色	(外) 口縁ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	3区青灰色 砂礫層
39図- 2	土師器	甕	口径(12.8) 頸径(9.8)	微粒の長石、石英少々含む、密	良好	(外) 灰橙色	(外) ナデ (内) ナデ	
39図- 3	土師器	甕	口径(14.1) 頸径(10.9)	微粒の長石、石英、 金雲母少々含む	良好	(外) 暗灰橙色	(外) ナデ (内) ナデ	1区青灰色 砂礫層
39図- 4	土師器	甕	口径(14.7) 頸径(11.2)	微粒の長石、石英含む、密	良好	(外) 灰暗橙色	(外) 口縁ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層
39図- 5	土師器	甕	口径(15.1)	1mm大長石、石英多く含む	良好	(外) 淡灰橙色	(外) ナデ 外面炭化物付着	5区青灰色 粘質土
39図- 6	土師器	甕	口径(13.4) 頸径(10.4)	密	良好	(外) 黒色 (内) 灰橙色	(外) 口縁ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ 外面炭化物付着	2区青灰色 砂礫層
39図- 7	土師器	甕	口径(14.0) 頸径(11.0)	1mm大長石、石英わずかに含む	良好	(外) 淡灰橙色	(外) 口縁ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ 外面炭化物付着	4区暗灰色 粘質土
39図- 8	土師器	甕	口径(15.0) 頸径(11.4)	微粒の長石、石英含む、密	良好	(外) 淡灰橙色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	2区青灰色 砂礫層
39図- 9	土師器	甕	口径(15.2) 頸径(11.9)	長石、石英微粒 含む、密	良好	(外) 灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	4区青灰色 砂礫層
39図-10	土師器	甕	口径(15.1) 頸径(12.8)	1mm大長石、石英含む、密	良好	(外) 淡灰色橙色	(外) ナデ (内) ナデ	4区青灰色 砂礫層
39図-11	土師器	甕	口径(14.8) 頸径(12.1)	微粒の長石、石英含む、密	良好	(外) 淡灰橙色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	2区五段青灰 色砂礫層 (細砂混入)
39図-12	土師器	甕	口径(14.9) 頸径(12.9)	微粒の長石、石英 わずかに含む、密	良好	(外) 灰橙色	(外) ナデ (内) ナデ	2区青灰色 砂礫層
39図-13	土師器	甕	口径(15.7) 頸径(11.3)	微粒の長石、石英少々含む、密	良好	(外) 淡灰白橙色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	5区青灰色 砂礫層上面
39図-14	土師器	甕	口径(15.3) 頸径(12.0)	微粒の長石、石英少々含む、密	良好	(外) 淡灰橙色 (内) 一部暗灰黒色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	2区青灰色 砂礫層
39図-15	土師器	甕	口径(16.7) 頸径(12.8)	微粒の長石、石英 多く含む、密	良好	(外) 淡灰橙色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層
39図-16	土師器	甕	口径(15.6) 頸径(13.5)	微粒の長石、石英少々含む、密	良好	(外) 灰橙色		5区暗灰色 粘質土
39図-17	土師器	甕	口径(16.2) 頸径(11.8)	1~2mm大長石、 石英少々含む	良好	(外) 暗灰橙色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	5区青灰色 粘質土
39図-18	土師器	甕	口径(17.0) 頸径(12.9)	1mm大長石、石 英含む、密	良好	(外) 淡灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ハ ケ後ナデ、胴ケズリ	2区青灰色 砂礫層
40図- 1	土師器	甕	口径(16.1) 頸径(12.2)	微粒の長石、石 英多く含む、密	良好	(外) 暗灰橙色	(外) ナデ (内) ナデ	2区青灰色 砂礫層
40図- 2	土師器	甕	口径(16.9) 頸径(13.4)	1~2mm大長石、 石英わずかに含 む、密	良好	(外) 灰橙色	(外) ナデ (内) ナデ	2区青灰色 砂礫層
40図- 3	土師器	甕	口径(16.9) 頸径(13.3)	長石、石英微粒 多く含む、密	良好	(外) 淡灰白橙色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	5区青灰色 砂礫層
40図- 4	土師器	甕	口径(17.2) 頸径(13.1)	微粒の長石、石 英少々含む、密	良好	(外) 黒色 (内) 淡灰橙色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	4区青灰色 砂礫層上面
40図- 5	土師器	甕	口径(17.1) 頸径(13.6)	長石、石英微粒 多く含む、密	良好	(外) 淡灰白橙色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	3区青灰色 砂礫層
40図- 6	土師器	甕	口径(18.0) 頸径(13.4)	1mm以下砂粒含 む	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡黄茶色	(外) 口縁ナデ、胴部ハケメ (内) 口縁ナデ、 胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層
40図- 7	土師器	甕	口径(18.0) 頸径(14.3)	密	良好	(外) 淡灰橙色	(外) 口縁ナデ (内) 口縁ナデ、胴ハケ後ナ デ、ケズリ	4区暗青灰 色砂礫層
40図- 8	土師器	甕	口径(17.8) 頸径(15.4)	微粒の長石、石英 わずかに含む、密	良好	(外) 淡灰白橙色 (内) 灰橙色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層
40図- 9	土師器	甕	口径16.5 頸径(11.5)	1mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) 淡橙茶色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、 胴ケズリ、ナデ	5区暗灰色 粘質土 (砂 礫混入、流路中)
40図- 10	土師器	甕	口径(14.5) 頸径(11.4) 胴最大径(23.1)	0.5~1mm大長 石粒含む	良好	(外) 黒色~褐色 (内) 暗褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、 胴ケズリ	5区暗灰色 粘質土
40図- 11	土師器	甕	口径14.3 頸径(12.7) 胴最大径(24.0)	0.5~1mm大長 石粒含む	良好	(外) 黒色~灰褐色 (内) 褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、 胴ケズリ	4区青灰色 粘質土
40図- 12	土師器	甕	口径20.8 頸径16.4	白色砂粒多く含 む	良好	(外) 灰褐色 (内) 灰黄色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、 胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層
41図- 1	土師器	甕	口径(21.3) 頸径(15.8)	0.5mm以下砂粒 多く含む	良好	(外) 灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、 胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層

挿図番号	種類	器種	法量(cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
41図- 2	土師器	甕	口径 (22.8) 頸径 (18.7)	1~2mm大長石、 石英含む	良好	(外) 淡灰白橙色	(外) ナデ (内) ナデ	1区青灰色 砂礫層
41図- 3	土師器	甕	口径 (27.7) 頸径 (23.0)	0.5mm以下砂粒 わずかに含む	良好	(外) 橙褐色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	4区
41図- 4	土師器	甕	口径 (31.1) 頸径 (28.2)	1~2mm大長石、 石英多く含む、密	良好	(外) 淡灰白橙色	(外) ナデ (内) ナデ	2区青灰色 砂礫層
41図- 5	土師器	甕	口径 (29.5)	1mm大長石、石 英少々含む、密	良好	(外) 暗灰橙色	(外) ナデ (内) ナデ 外面炭化物付着	4区青灰色 砂礫層
41図- 6	土師器	甕	口径 (28.8) 頸径 (25.0)	1~2mm大長石 粒多く含む	良好	(外) 暗褐色~黒褐色 (内) 褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナ デ、胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層
42図- 1	土師器	小型甕	口径 10.5 頸径 8.4 胴最大径 14.9 蓋高 14.6		良好	(外) 茶褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ 外面炭化物付着	5区北側壁茶 褐色粘質土 (耕作土下)
42図- 2	土師器	甕	口径 (13.6) 頸径 (11.0)	石英など粒子含 む	良好	(外) 淡黄茶色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層
42図- 3	土師器	甕	口径 (16.2) 頸径 (13.3) 胴最大径 23.2	1mm以下砂粒含 む	良好	(外) 淡灰色~淡 橙色	(外) 口縁~頸ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナ デ、胴ケズリ	4区暗青灰 色粘質土
42図- 4	土師器	甕	口径 16.0	長石など細流含 む	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 淡灰褐色~淡 茶褐色	(外) ナデ (内) ナデ 炭化物付着	
42図- 5	土師器	甕	口径 17.7 頸径 14.0	1mm以下砂粒 少々含む	良好	(外) 淡灰色	(外) 口縁ハケメ、ナデ (内) 口縁ハケ後ナ デ、胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層
42図- 6	土師器	甕	口径 (18.1) 頸径 (13.1)	微粒の長石、石 英少々含む、密	良好	(内) 灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ハ ケ後ナデ、胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層
42図- 7	土師器	甕	口径 (11.1) 頸径 (9.6)	緻密	良好	(外) 淡灰色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	3区青灰色 砂礫層
42図- 8	土師器	甕	口径 (15.8) 頸径 (12.1)	微粒の長石、石 英少々含む、密	良好	(外) 灰橙色	(外) ナデ (内) ナデ	1区青灰色 砂礫層
42図- 9	土師器	甕	口径 16.2 頸径 13.9	長石、石英細粒 少々含む	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 淡灰綠色	(外) ナデ (内) ナデ	1区青灰色 砂礫層
42図-10	土師器	甕	口径 (16.4) 頸径 (12.9) 胴最大径 (24.0)	1mm大長石、石 英含む	良好	(外) 橙褐色 (内) 淡灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナ デ、胴ケズリ	4区暗灰色 粘質土
42図-11	土師器	甕	口径 16.2 頸径 13.0	0.5mm以下砂粒 多く含む	良好	(外) 淡橙茶色 (内) 淡橙灰色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、 胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層
42図-12	土師器	甕	口径 14.5 頸径 12.4	1mm前後砂粒多 く含む	良好	(外) 淡橙茶褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、 胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層
43図- 1	土師器	甕	口径 (11.8) 頸径 (10.7)	微粒の長石、石 英含む、密	良好	(外) 暗灰茶褐色	(外) ナデ (内) ナデ	2区青灰色 砂礫層
43図- 2	土師器	甕	口径 (13.2) 頸径 (11.6)	微粒の長石、石英 わずかに含む、密	良好	(外) 灰橙色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ 色調一部黒色	1区青灰色 砂礫層
43図- 3	土師器	甕	口径 (16.1) 頸径 (12.4)	微粒の長石、石 英少々含む、密	良好	(外) 淡灰橙色	(外) ナデ (内) ナデ	1区青灰色 砂礫層
43図- 4	土師器	甕	口径 (16.2) 頸径 (12.4)	1mm大長石、石 英わずかに含む	良好	(外) 淡灰色 (内) 暗灰色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層
43図- 5	土師器	甕	口径 (16.0) 頸径 (15.0cm)	密	良好	(外) 灰橙褐色 (内) 暗灰色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナ デ、胴ケズリ	2区青灰色 砂礫層
43図- 6	土師器	甕	口径 18.6 頸径 14.2	0.5~3mm白色、 黒色の粒子、石英 含む	良好	(外) 淡茶褐色~淡灰綠色 (内) 暗茶色~淡灰綠色	(外) 口縁ナデ、頸ハケメ、胴ハケメ (内) 口縁ハケ後ナデ、頸ハケ後ナデ、胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層
43図- 7	土師器	甕	口径 17.7 頸径 13.9	1mm以下砂粒 少々含む、緻密	良好	(外) 黒色を帯びた 橙褐色 (内) 淡灰色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、 胴ケズリ	5区青灰色 砂礫層
43図- 8	土師器	甕	口径 (18.4) 頸径 (13.9)	微粒の長石、石 英少々含む、密	良好	(外) 淡橙灰色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナ デ、胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層
43図- 9	土師器	甕	口径 16.6 頸径 12.9 胴最大径 26.0 蓋高 27.4	1mm前後砂粒含 む	良好	(外) 暗黃灰色	(外) 口縁ナデ、胴上ハケメ、胴下ハケ後ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、頸ナデ、胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層
43図- 10	土師器	甕	口径 15.2 頸径 12.6	1mm前後砂粒含 む	良好	(外) 淡黄褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナ デ、胴ケズリ	4区暗灰色 粘質土
43図- 11	土師器	甕	口径 (19.1) 頸径 (17.1)	0.5mm以下砂粒 わずかに含む	良好	(外) 淡橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、 胴ケズリ	2区青灰色 砂礫層
43図- 12	土師器	甕	口径 (15.2) 頸径 (12.4)	0.5~1mm大長 石粒含む	良好	(外) 暗褐色~淡赤 褐色 (内) 褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、 胴ケズリ	5区北側壁茶 褐色粘質土
44図- 1	土師器	甕	口径 (17.1) 頸径 (13.5)	1mm以下砂粒含 む	良好	(外) 淡灰黄色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、 胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層
44図- 2	土師器	甕	口径 (17.9) 頸径 (11.4)	1mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) 淡灰茶色	(外) ハケ後ナデ (内) ナデ	5区青灰色砂 礫層上面粘 質土中
44図- 3	土師器	甕	口径 (18.1) 頸径 (13.0)	0.5mm以下砂粒 含む	良好	(外) 黑色~橙色 (内) 淡橙灰色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ハケ目、 胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層

挿図番号	種類	器種	法量(cm)	胎 土	焼成	色 調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
44図- 4	土師器	甕	口径 (17.5) 頸径 (12.2)	1mm大長石、石英含む	良好	(外) 黒色～褐色 (内) 淡黄褐色～灰褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	2区溝中(疊層)
44図- 5	土師器	甕	口径 (19.4) 頸径 (14.1)	0.5mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 灰色	(外) 胴ハケメ (内) 胴ケズリ	4区青灰色砂疊層
44図- 6	土師器	甕	口径 18.0 頸径 13.2		良好	(外) 黒色 (内) 灰黄色	(外) 胴ハケメ (内) 胴ケズリ	
44図- 7	土師器	甕	口径 16.1 頸径 11.7	1mm前後砂粒多く含む	良好	(外) 暗橙褐色	(外) 口縁ハケ後ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ	1区青灰色砂疊層
44図- 8	土師器	甕	口径 16.8 頸径 13.6	0.5mm以下砂粒わずかに含む	良好	(外) 淡橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	1区青灰色砂疊層
44図- 9	土師器	甕	口径 16.7 頸径 14.6	1mm以下砂粒多く含む、緻密	良好	(外) 淡黄灰色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	1区青灰色砂疊層
44図-10	土師器	甕	口径 18.6 頸径 15.6	1mm以下砂粒含む	良好	(外) 茶褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ 外面炭化物付着、口縁上部沈線	1区青灰色砂疊層
44図-11	土師器	甕	口径 (18.2) 頸径 (15.5)	1～2mm大長石、石英含む	良好	(外) 灰橙色	(外) ナデ (内) ナデ	1区青灰色砂疊層
44図-12	土師器	甕	口径 12.8 頸径 12.0		良好	(外) 暗橙茶色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	1区青灰色砂疊層
45図- 1	土師器	布留式甕	口径 (14.3)	1mm大長石、石英わずかに含む	良好	(外) 暗灰橙色	(外) ナデ (内) ナデ	5区青灰色砂疊層
45図- 2	土師器	甕	口径 (15.5) 頸径 (11.9)	1～2mm大長石、石英少々含む	良好	(外) 黑色 (内) 灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	1区青灰色砂疊層
45図- 3	土師器	甕	口径 (16.5) 頸径 (13.0)	微粒の長石、石英少々含む、密	良好	(外) 暗灰橙色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	1区青灰色砂疊層
45図- 4	土師器	甕	口径 (16.8) 頸径 (12.1)	微粒の長石、石英少々含む、密	良好	(外) 暗茶橙色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	5区青灰色粘質土
45図- 5	土師器	甕	口径 (15.8) 頸径 (14.3)	微粒の長石、石英少々含む、密	良好	(外) 一部黒色 (内) 暗茶灰色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	1区青灰色砂疊層
45図- 6	土師器	甕	口径 (15.1) 頸径 (13.3)	細かい砂粒含む	良好	(外) 暗灰色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	5区青灰色砂疊層
45図- 7	土師器	甕	口径 (12.0) 頸径 (10.1)	微粒の長石、石英わずかに含む、密	良好	(外) 黑色 (内) 灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナデ、胴上指頭圧痕、胴下ケズリ	1区青灰色砂疊層
45図- 8	土師器	甕	口径 14.6 頸径 11.5	1mm前後砂粒多く含む	良好		(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	4区青灰色砂疊層
45図- 9	土師器	甕	口径 (17.3) 頸径 (14.4)	0.5mm以下砂粒わずかに含み	良好	(外) 一部黒色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	
45図-10	土師器	甕	口径 (21.1) 頸径 (16.4)	微粒の長石、石英含む、密	良好	(外) 暗灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	1区青灰色砂疊層
45図-11	土師器	甕	口径 (14.6) 頸径 (12.4)		良好	(外) 淡橙褐色一部黒色 (内) 淡橙褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	4区青灰色砂層
45図-12	土師器	甕	口径 16.7 頸径 13.7	微粒長石、石英含む、密	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 暗灰褐色一部淡灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ	5区青灰色粘質土
45図-13	土師器	甕	口径 (15.4) 頸径 (11.6)	1mm前後砂粒含む	良好	(外) 白茶色～黒色 (内) 灰白茶色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴上指頭圧痕、胴下ケズリ 外面炭化物付着、黒斑あり	5区青灰色粘質土
46図- 1	土師器	甕	口径 (15.1) 頸径 (13.0)	微粒の長石、石英少々含む、密	良好	(外) 灰橙色一部黒色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ 外面炭化物付着	1区青灰色砂疊層
46図- 2	土師器	甕	口径 (15.2) 頸径 (11.0)	1mm前後砂粒わずかに含む	良好	(外) 淡茶色 (内) 黒班あり	(外) ハケ後ナデ (内) 口縁ナデ、頸ハケメ 外面炭化物付着	
46図- 3	土師器	甕	口径 14.0 頸径 11.6	白色細粒含む	良好	(外) 白橙色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ後ナデ	5区青灰色砂疊層
46図- 4	土師器	甕	口径 (15.6) 頸径 (12.9)	1mm前後砂粒含む	良好	(外) 淡茶褐色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ 口縁外面炭化物付着	4区青灰色砂疊層
46図- 5	土師器	甕	口径 (15.6) 頸径 (13.2)	0.1mm大砂粒多く含む、密	良好	(外) 淡黄褐色 (内) 淡黄褐色	(外) ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴ハケ後ナデ	2区青灰色砂疊層
46図- 6	土師器	甕	口径 (15.8) 頸径 (12.1)	1mm以下砂粒含む	良好	(外) 淡橙褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナデ、胴指頭圧痕	3区青灰色砂疊層
46図- 7	土師器	甕	口径 14.1 頸径 12.0	1mm大砂粒多く含む	良好	(外) 淡黄褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ 口縁端部に沈線あり、頸部外面に工具痕	1区青灰色砂疊層
46図- 8	土師器	甕	口径 (16.2) 頸径 (13.0)	やや大きめ白色細砂粒含む	良好	(外) 白橙色 (内) 白橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	
46図- 9	土師器	甕	口径 (16.0) 頸径 (12.1)	密	良好	(外) 暗灰色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ	1区青灰色砂疊層
46図-10	土師器	甕	口径 (16.6) 頸径 (13.5)	長石、石英粒子少々含む	良好	(外) 黒褐色～黒色 (内) 淡褐色～淡灰褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	3区暗灰色粘質土

挿図番号	種類	器種	法量(cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
46図-11	土師器	甕	口径(16.6) 頸径(13.5)	長石、石英細粒 少々含む	良好	(外) 淡茶褐色 (内) 淡茶褐色～淡灰褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ	1区青灰色砂礫層
46図-12	土師器	甕	口径 14.9 頸径 13.0		良好	(外) 淡暗灰色	(外) 口縁ナデ、胴ケズリ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	5区青灰色粘質土(流路中)
46図-13	土師器	甕	口径 (15.4) 頸径 (12.8)	1~3mm大砂粒 含む	良好	(外) 白茶色～黒色 (内) 淡灰茶色～茶褐色	(外) 口縁ハケ後ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ハケ後ナデ、頸ハケメ、指頭圧痕、胴ケズリ 外面炭化物付着	5区青灰色砂礫層
47図-1	土師器	甕	口径 10.6 頸径 8.4 肩最大径 12.2	1mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 淡黄褐色～黒色	(外) 口縁ハケ後ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ	5区茶褐色粘質土
47図-2	土師器	甕	口径 (10.6) (9.8) 肩最大径 (17.4)	1~2mm大長石、 石英含む	良好	(外) 暗灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ	4区青灰色粘質土
47図-3	土師器	甕	口径 15.4 頸径 12.0	1mm以下砂粒 少々含む、緻密	良好	(外) 淡黄褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ	5区南北サブト レ砂質粘質土 中(砂礫上面)
47図-4	土師器	甕	口径 19.2 頸径 14.9	1mm前後砂粒多く含む	良好	(外) 淡黄灰色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁上ハケ目、口縁下ナデ、胴ケズリ 頸部外面に工具跡	2区青灰色砂礫層
48図-1	土師器	甕	口径 (9.7) 頸径 (8.0)	1mm大長石、石英含む、密	良好	(外) 淡灰橙色	(外) 口縁ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ	5~6段青灰色砂礫層
48図-2	土師器	甕	口径 12.1 頸径 9.9 肩最大径 15.3 高さ 15.2		良好		(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ 外面炭化物付着	4区青灰色粘質土
48図-3	土師器	甕	口径 14.6 頸径 12.2 肩最大径 21.6 高さ 19.4		良好	(外) 淡灰色～黒色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ 胸部外面炭化物付着	4区砂礫層
48図-4	土師器	甕	口径 12.4 頸径 10.1 肩最大径 20.7		良好		(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ 外面肩部より下炭化物付着	5区青灰色砂礫層
48図-5	土師器	甕	口径 13.8 頸径 11.5	密	良好	(外) 淡緑灰色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	5区溝中
48図-6	土師器	甕	口径 (14.5) 頸径 (12.7)	長石、石英微粒 少々含む、密	良好	(外) 淡灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	5区青灰色砂礫層
48図-7	土師器	甕	口径 (15.8) 頸径 (13.7)	密	良好	(外) 灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、頸ナデ、胴ケズリ 一部暗灰色	2区青灰色砂礫層
48図-8	土師器	甕	口径 (14.8) 頸径 (11.7)	1mm大長石、石英含む	良好	(外) 淡灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	4区青灰色砂礫層
48図-9	土師器	甕	口径 (15.9) (11.7) 肩最大径 (22.4)	1mm大長石、石英含む	良好	(外) 暗灰色 (内) 淡灰綠橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ	1区青灰色砂礫層
49図-1	土師器	甕	口径 12.4 頸径 11.1 肩最大径 13.6	1mm前後砂粒含む	良好	(外) 黒色 (内) 濃茶色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 脊ケズリ 胴部内面一部炭化物付着	
49図-2	土師器	甕	口径 12.9 頸径 11.2 肩最大径 15.8	微粒の長石、石英含む、密	良好	(外) 灰橙色 (内) 淡灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ 胴部外面炭化物付着	5区暗灰色粘質土
49図-3	土師器	甕	口径 (11.9) (9.2) 肩最大径 (15.2)	1~2mm大長石、石英含む	良好	(外) 淡灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ 胴部上内面に工具状の跡	2区青灰色砂礫層
49図-4	土師器	甕	口径 (13.8) 頸径 (11.7)	密	良好	(外) 淡灰色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ	1区青灰色砂礫層
49図-5	土師器	甕	口径 (16.3) 頸径 (12.5)	長石、石英微粒 少々含む、密	良好	(外) 淡灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ	3区青灰色砂礫層
49図-6	土師器	甕	口径 (16.8) 頸径 (12.7)	1mm大長石、石英含む、密	良好		(外) 口縁ナデ、ハケ後ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、 胴ケズリ 頸部内面によりつけ痕	4区青灰色砂礫層上面
49図-7	土師器	甕	口径 (17.0) 頸径 (13.5)	微粒の長石、石英含む、密	良好	(外) 淡灰橙色 (内) 暗灰橙色 (断面灰黑色)	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ	5区青灰色粘質土
49図-8	土師器	甕	口径 (16.0) 頸径 (12.6)	密	良好	(外) 暗灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ後ハケ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	3区北排水溝
49図-9	土師器	甕	口径 (18.2) 頸径 (14.0)	密	良好	(外) 暗灰茶褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ	1区青灰色砂礫層
49図-10	土師器	甕	口径 (19.4) 頸径 (15.3)	密	良好	(外) 灰橙色	(外) ハケ後ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ	
49図-11	土師器	甕	口径 (19.3) 頸径 (14.5)	密	良好	(外) 灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ	1区青灰色砂礫層
49図-12	土師器	甕	口径 (18.9) 頸径 (13.3)	密	良好	(外) 淡灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ	
49図-13	土師器	甕	口径 (18.9) 頸径 (14.2)	1~3mm砂粒多く含む	良好		(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、 胴ケズリ	3区青灰色砂礫層
49図-14	土師器	甕	口径 19.8 頸径 15.2	1mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 淡黄灰色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、 胴ケズリ	1区青灰色砂礫層
50図-1	土師器	甕	口径 (13.4) 頸径 (10.1)	微粒の長石、石英少々含む、密	不良	(外) 一部黒色 (内) 灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) ハケ後ナデ 外面炭化物付着	1区青灰色砂礫層
50図-2	土師器	甕	口径 (12.5) 頸径 (18.8)	微粒の長石、石英少々含む、密	良好	(外) 橙灰色	(外) 口縁ハケ後ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、 胴ケズリ	1区青灰色砂礫層

挿図番号	種類	器種	法量(cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
50図-3	土師器	甕	口径(13.2) 頸径(10.6)	長石、石英微粒 少々含む、密	良好	(外) 淡灰橙色	(外) ハケ後ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層
50図-4	土師器	甕	口径(12.6) 頸径(10.9)	密	良好	(外) 暗灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ハ ケ後ナデ、胴ケズリ	4区青灰色 砂礫層
50図-5	土師器	甕	口径 140 頸径 10.5	1mm大長石、石 英含む、密	良好	(外) 淡灰白色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁端 ナデ、口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層
50図-6	土師器	甕	口径(13.5) 頸径(11.2)	密	良好		(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ハ ケ後ナデ、胴ケズリ 頸部に指頭圧痕	1区青灰色 砂礫層
50図-7	土師器	甕	口径(13.1) 頸径(10.4)	1mm大長石、石 英含む、密	良好	(外) 淡灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナ デ、胴ケズリ	4区青灰色 砂礫層
50図-8	土師器	甕	口径(15.0) 頸径(12.5) 胴最大径(22.3)	密	良好	(外) 淡灰色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナデ、胴 ケズリ 一部黒色	1区青灰色 砂礫層
50図-9	土師器	甕	口径(17.7) 頸径 14.7	1mm前後砂粒多 く含む	良好	(内) 一部黒色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、 胴ケズリ	5区青灰色 砂礫層
50図-10	土師器	甕	口径(17.6) 頸径(14.9)	長石、石英微粒 含む、密	良好	(外) 暗灰茶色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナデ、胴 ケズリ 一部黒色	5区暗灰色 粘質土
50図-11	土師器	甕	口径(17.1) 頸径(15.1)	1~2mm大長石、 石英含む	良好	(外) 橙灰色	(外) 口縁ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	5区暗灰色粘 質土、青灰色 粘質土下
50図-12	土師器	甕	口径 17.4 頸径 12.9	2~3mm大砂粒 少々含む	良好	(外) 灰色	(外) ハケメ (内) ケズリ 外面肩炭化物付着、板状工具でナデ	3区北側壁茶 褐色粘質土
51図-1	土師器	甕	口径(13.7) 頸径(10.7)	密	良好	(外) 黒色 (内) 暗灰橙色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ 外面炭化物付着	2区青灰色 砂礫層
51図-2	土師器	甕	口径(14.0) 頸径(11.4)	長石、石英微粒 少々含む、密	良好	(外) 淡灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ハ ケ後ナデ、胴ケズリ	
51図-3	土師器	甕	口径(14.7) 頸径(11.4)	密	良好	(外) 暗灰橙茶色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ 外面炭化物付着	2区青灰色 砂礫層
51図-4	土師器	甕	口径(14.8) 頸径(11.8)	1mm大長石、石 英含む、密	良好	(外) 橙灰色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナ デ、胴ケズリ	
51図-5	土師器	甕	口径(15.5) 頸径(12.2)	密	良好	(外) 淡灰色 (内) 暗灰黑色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ハ ケ後ナデ、胴ナデ 外面一部黒色	
51図-6	土師器	甕	口径(14.0) 頸径(10.4)	微粒の長石、石 英含む、密	良好	(外) 黒色 (内) 灰橙色 (断面淡灰色)	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ 外面炭化物付着	4区青灰色 砂礫層
51図-7	土師器	甕	口径(14.9) 頸部径(12.4)	長石、石英含む、 密	良好	(外) 灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ハ ケ後ナデ、胴ケズリ 一部黒色、胴部上指頭圧痕	2区青灰色 砂礫層
51図-8	土師器	甕	口径(15.8) 頸径(12.9)	密	良好	(外) 暗灰黑色	(外) 口縁ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ 外面炭化物付着	4区青灰色 砂礫層
51図-9	土師器	甕	口径(17.4) 頸径(14.1)	微粒の長石、石 英多く含む、密	良好	(外) 淡灰橙色	(外) ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ	5区青灰色 砂礫層
51図-10	土師器	甕	口径(18.1) 頸径(14.2)	1~2mm大長石、 石英含む、密	良好	(外) 淡灰白橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ハ ケ後ナデ、頸ナデ、胴ケズリ 一部黒色	5区青灰色粘 質土、青灰色 砂礫層上面
51図-11	土師器	甕	口径(17.1) 頸径(13.9)	1~2mm大長石、 石英含む、密	良好	(外) 灰明澄色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナ デ、胴ケズリ	5区暗灰色粘 質土、青灰色 粘質土上面
51図-12	土師器	甕	口径(17.0) 頸径(12.6)	1~2mm大長石、 石英含む、密	良好	(外) 淡灰澄色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁部ナデ、 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ 外面一部黒色	1区青灰色 砂礫層
51図-13	土師器	甕	口径 20.0 頸径 16.3	1mm以下砂粒含 む	良好	(外) 暗褐色	(外) 胴ハケメ (内) 口縁ハケメ、胴ケズリ 口縁外面炭化物付着	1区青灰色 砂礫層
51図-14	土師器	甕	口径(18.5) 頸径(15.1)	1~3mm大長石、 石英含む、密	良好	(外) 淡灰橙色 (内) 淡灰白橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナデ、胴 ケズリ 外面炭化物付着	5区暗灰色 粘質土
52図-1	土師器	甕	口径(15.0) 頸径(10.5)	密	良好	(外) 淡灰白橙色	(外) ハケ後ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴 ケズリ	3区青灰色 砂礫層
52図-2	土師器	甕	口径 17.4 頸径 13.6	微粒の長石、石 英含む、密	良好	(外) 淡灰黄色	(外) ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ	5区青灰色砂 礫上面(粘質 土中)
52図-3	土師器	甕	口径(19.1) 頸径(14.6)	微粒の長石、石 英含む、密	良好	(外) 淡灰澄色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナデ、胴 ケズリ 指頭圧痕、ケズリ 外面炭化物付着	1区青灰色 砂礫層
52図-4	土師器	甕	口径(19.0) 頸径(15.4)	密	良好	(外) 淡灰橙色 一部黒色	(外) 風化 (内) 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層
52図-5	土師器	甕	口径 18.6 頸径 15.4	1mm以下砂粒多 く含む	良好	(外) 淡茶褐色	(外) ハケ後ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴 ケズリ	3区青灰色 砂礫層
52図-6	土師器	甕	口径(17.0) 頸径(13.2)	密	良好	(外) 淡青灰色	(外) ハケ後ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴 ケズリ 外面炭化物付着	1区青灰色 砂礫層
52図-7	土師器	甕	口径(15.2) 頸径(13.6)	1~2mm大長石、 石英少々含む	良好	(外) 淡灰橙色 一部黒色	(外) ハケ後ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴 ケズリ 指頭圧痕、ケズリ	3区青灰色 砂礫層
52図-8	土師器	甕	口径 17.8 頸径 14.5	1mm大長石、石 英含む	良好	(外) 緑暗灰色	(外) 口縁ナデ、順ハケ後ナデ (内) 口縁ハ ケ後ナデ、胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層

捕団番号	種類	器 種	法量(cm)	胎 土	焼成	色 調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
52団- 9	土師器	甕	口径 17.1 頸径 14.7	1mm大砂粒多く含む、2mm大砂粒多く含む	良好	(外) 淡黄灰色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴指頭圧痕、ケズリ	5区青灰色 砂礫層
52団-10	土師器	甕	口径 15.5 頸径 12.3	1mm大長石、石英わずかに含む	良好	(外) 淡灰橙色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	2区青灰色 砂礫層
52団-11	土師器	甕	口径 17.8 頸径 14.8	白色細粒多く含む	良好	(外) 灰橙茶色、口縁部黒色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ	1区青灰色 砂礫層
52団-12	土師器	甕	口径 (17.6) 頸径 (13.6)	大粒石英少々含む	良好	(外) 淡橙茶色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層
52団-13	土師器	甕	口径 (15.0) 頸径 (11.5)	密	良好	(外) 喰灰黒褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ	3区青灰色 砂礫層
53団	土師器		頸絶 19.0 胴最大径 50.8 残存高 51.3	1mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 淡灰茶色	(外) ハケメ (内) ハケメ	1区青灰色 砂礫層
54団- 1	土師器	直壺	口径 (10.3) 頸径 (8.1) 胸部最大径 (15.9)		良好		(外) ナデ、ハケメ (内) 上部ナデ、下部ケズリ	
54団- 2	土師器	鼓型器台	口径 (22.5) 筒部径 (9.5) 器高 (10.3) 底径 (17.4)	1mm前後砂粒含む	良好	(外) 黄白色 (断面灰色)	(外) ナデ (内) 上部ヘラミガキ、下部ヘラケズリ	3区青灰色 砂礫層
54団- 3	土師器	鼓型器台	口径 (20.3) 筒部径 (9.0)	1mm前後砂粒含む、雲母含む	良好	(外) 淡灰茶色	(外) ナデ (内) 上部ヘラミガキ、下部ヘラケズリ 内、外面とも一部炭化物付着	4区東排水 路砂礫層
54団- 4	土師器	鼓型器台	口径 (22.0)	2mm前後砂粒わずかに含む	良好	(外) 灰茶色～黒色 (黒班あり)	(外) ナデ (内) ヘラミガキ 炭化物付着	4区褐色粘 質土
54団- 5	土師器	鼓型器台	筒部径 (9.2) 底径 (15.7)	1mm前後砂粒含む	良好	(外) 黄白色 (断面灰色)	(外) ナデ (内) ヘラケズリ	
54団- 6	土師器	鼓型器台	筒部径 10.2 底径 (18.5)	1mm前後砂粒含む	良好	(外) 白橙色 (内) 白橙色 (一部黒班あり)	(外) ナデ (内) ヘラケズリ	2区青灰色 砂礫層
54団- 7	土師器	鼓型器台	筒部径 9.1 底径 17.9	1mm前後砂粒含む	良好	(外) 淡橙灰色	(外) ナデ (内) 口縁ナデ、裾部ヘラケズリ、 裾端部ナデ	2区青灰色砂 礫層(粘質土 混入)
54団- 8	土師器	鼓型器台	筒部径 (10.5) 底径 (18.2)	1mm前後砂粒含む	良好	(外) 白橙色 (内) 白橙色 (一部黒班あり)	(外) ナデ (内) ヘラケズリ	2区青灰色 砂礫層
54団- 9	土師器	鼓型器台	筒部径 (9.5) 底径 (16.9)	1mm前後砂粒含む	良好	(外) 白茶色 (内) 白茶色	(外) ナデ (内) ヘラケズリ	3区青灰色 粘質土
54団-10	土師器	鼓型器台	底径 17.2	1mm以下砂粒含む	良好	(外) 淡橙色	(外) ナデ (内) 裾部ヘラケズリ	4区青灰色 砂礫層
54団-11	土師器	鼓型器台	筒部径 (9.8) 底径 (18.0)	1mm前後砂粒含む	良好	(外) 白茶色	(内) 裾部ヘラケズリ、裾端部ナデ	3区青灰色 砂礫層
55団- 1	土師器	低脚坏	口径 13.7 底径 6.5 器高 5.9		良好	(外) 淡灰茶色 (内) 淡灰茶色、脚部に黒班	(外) 坏かすかなハケメ、他ナデ (内) 脚ヘラケズリ	4区暗灰色 粘質土
55団- 2	土師器	低脚坏	口径 16.7 底径 8.4 器高 7.9		良好		(外) 坏かすかなハケメ、他ナデ (内) ナデ	5区青灰色 粘質土
55団- 3	土師器	低脚坏	口径 11.5 底径 7.5 器高 6.2		良好	(外) 淡橙色 (内) 淡橙色	(外) 風化 (内) ナデ	2区青灰色 砂礫層
55団- 4	土師器	低脚坏	口径 13.7	1mm前後砂粒含む	良好	(外) 坏下部橙色 (内) 白茶	(外) かすかにハケメ (内) 風化	4区褐色粘 質土層
55団- 5	土師器	低脚坏	口径 13.2	1～2mm砂粒含む	良好	(外) 淡茶色 (内) 淡茶色	(外) 粗いハケメ (内) 放射状に暗文、ハケメ、ヘラケズリ	2区青灰色 砂礫層
55団- 6	土師器	低脚坏		1mm前後砂粒含む	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡橙色	(外) ヘラミガキ (内) ヘラミガキ	4区青灰色 砂礫層
55団- 7	土師器	低脚坏	口径 13.0		良好		(外) ナデ (内) ヘラケズリ	5区青灰色 細砂層
55団- 8	土師器	低脚坏	底径 4.5	1mm以下砂粒わずかに含む	良好	(外) 淡茶色 (内) 淡茶色	(外) ナデ、ヘラミガキ (内) ナデ、ヘラミガキ	4区茶褐色 砂質粘土層
55団- 9	土師器	低脚坏	底径 5.8	1mm前砂粒含む	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡橙色	(外) ナデ (内) ヘラで線刻 風化が著しい	5区暗灰色粘 質土(砂粒混 入)
55団-10	土師器	低脚坏	底径 4.0	1mm前後砂粒含む	良好	(外) 淡灰茶色 (内) 淡灰茶色	(外) 脚ナデ、坏風化 (内) 脚ナデ、坏風化	1区青灰色 砂礫層
55団-11	土師器	低脚坏	底径 4.4	1mm前後砂粒含む	良好	(外) 白茶色 (内) 白茶色	(外) 脚ナデ、坏風化 (内) 脚ナデ、坏ヘラミガキ	2区青灰色 砂礫層
55団-12	土師器	低脚坏	底径 4.2	1mm前後砂粒含む	良好	(外) 淡茶色 (内) 茶褐色	(外) 脚ナデ、坏ヘラミガキ (内) 脚ナデ、坏ヘラミガキ 坏部内面中央にくぼみ	5区青灰色 砂礫層
55団-13	土師器	低脚坏	底径 6.8	1mm前後砂粒含む	良好	(外) 灰茶色 (内) 橙色	(外) ナデ (内) 脚ナデ、坏ミガキ	3区青灰粘 質土
55団-14	土師器	低脚坏	底径 6.6	1mm前後砂粒わずかに含む	良好	(外) 黄灰色 (内) 黄褐色	(外) 脚ナデ、坏ハケメ (内) 脚ナデ、坏ヘラミガキ	4区青灰色 砂礫層
55団-15	土師器	低脚坏	底径 7.6	1mm前後砂粒含む	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡橙色	(外) ナデ (内) ナデ 坏部内面に炭化物付着	4区青灰色 砂礫層

捕図番号	種類	器種	法量(cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
55図-16	土師器	低脚壺	底形 7.3	1mm前後砂粒わずかに含む	良好	(外) 白橙茶色 (内) 白橙茶色	(外) ナデ (内) ナデ	4区青灰色 砂礫層
55図-17	土師器	低脚壺	底形 8.0	1~2mm砂粒含む	良好	(外) 橙色 (内) 橙色	(外) 脚ナデ	2区青灰色 砂礫層
55図-18	土師器	壺	口径 10.6 器高 6.0	1~3mm砂粒含む	良好	(外) 灰茶色 (内) 灰茶色	(外) 指頭圧痕 (内) ナデ 歪みが大きい	
55図-19	土師器	壺	口径 14.0 底径 7.8 器高 5.5	1mm前後砂粒含む	良好	(外) 茶~黒色 (内) 淡茶褐色	(外) かすかなハケメ (内) 放射状に暗文 炭化物付着	
55図-20	土師器	壺	口径 14.7 器高 5.5	1mm前後砂粒多く含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 淡橙褐色	(外) ハケメ、ヨコナデ (内) ヨコナデ	
55図-21	土師器	壺	口径 14.4	密	良好	(外) 橙茶褐色 (内) 檸檬茶褐色	(外) ハケ後ナデ (内) ハケ後ナデ、暗文	4区青灰色 砂礫層溝中
55図-22	土師器	壺	口径 12.2 器高 5.6	1mm以下砂粒含む	やや 風化	(外) 明茶褐色~暗褐色 (内) 明茶褐色~暗茶褐色	(外) 底のみハケメ	1区青灰色 砂礫層
55図-23	土師器	壺	口径 13.2 器高 5.8	1~4mm砂粒含む	良好	(外) 淡橙色 (内) 橙色	(外) ナデ、ハケメ、ケズリ (内) ヘラによる放射状の線	1区青灰色 砂礫層
55図-24	土師器	壺	口径 20.0 器高 5.8	1~4mm砂粒含む	良好	(外) 淡灰緑色 (内) 淡灰緑色	(外) ハケ後ナデ、ヘラミガキ (内) ハケ後ナデ、 ヘラミガキ 底部はりつけ痕	1区青灰色 砂礫層
56図-1	土師器	小型 丸底壺	口径 7.6 胴最大径 8.5 器台 8.6		良好	(外) 白茶色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ 胴部外面黒斑	1区青灰色 砂礫層
56図-2	土師器	小型 丸底壺		1mm以下砂粒含む	良好	(外) 黄茶色	(外) 口縁ナデ (内) 口縁ナデ	5区青灰色 砂礫層
56図-3	土師器	小型台付 丸底壺	口径 10.4 胴最大径 10.7 器台 9.1 底径 10.0		良好	(外) 淡茶色 (内) 茶褐色	(外) 口縁および台部ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、 胴ケズリ 高台あり	3区青灰色 砂礫層
56図-4	土師器	小型 丸底壺	口径 9.8 胴最大径 9.2	1mm以下砂粒含む	良好	(外) 淡黄褐色	(外) 口縁ナデ後ミガキ、胴上ハケ後ナデ、胴下ハケメ (内) 口縁ナデ後ミガキ、胴上指頭圧痕、胴下 ケズリ	4区青灰色 砂礫層上面
56図-5	土師器	小型 丸底壺	口径 10.4 胴最大径 9.5 器台 8.6		良好	(外) 灰黒茶色 (内) 灰黒色	(外) 口縁ハケメ、胴ハケ、ナデ (内) 口縁ハケメ、 胴上指頭圧痕、胴下ナデ 胴部外面、内面炭化物付着	2区青灰色 砂礫層
56図-6	土師器	小型 丸底壺	口径 (10.2) 胴最大径 10.1 底径 10.3	1mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 淡黄褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ハケ後ナデ、 胴指ナデ	4区青灰色 砂礫層
56図-7	土師器	小型 丸底壺	口径 8.8 胴最大径 9.8 底径 9.3	1mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 黒色~暗褐色	(外) 口縁ヨコナデ、胴ハケメ	青灰色砂礫層
56図-8	土師器	小型 丸底壺	胴最大径 9.2	1mm以下砂粒多く含む、緻密	良好	(外) 淡橙茶褐色 ~淡黒灰色	(外) 口縁ヨコナデ、胴ハケメ (内) 口縁ヨコナデ、 胴ナデ	4区
56図-9	土師器	小型 丸底壺		1mm以下砂粒わずかに含む	良好	(外) 暗茶褐色	(外) 口縁ナデ、胴部ハケメ (内) 口縁ナデ、 胴ケズリ	5区青灰色 砂礫層
56図-10	土師器	小型 丸底壺		1mm以下砂粒わずかに含む	良好	(外) 淡茶色	(外) 胴下に粗いハケメ (内) 口縁ハケ後ミガキ、 胴ケズリ	4区青灰色 砂礫層
56図-11	土師器	小型 丸底壺		1mm前後砂粒含む	良好	(外) 白橙色 (断面黒灰色)	(内) ナデ	2区青灰色 砂礫層
56図-12	土師器	小型 丸底壺	胴最大径 9.0	1~2mm前後砂粒含む	良好	(外) 淡橙色	(外) 胴ハケメ (内) 胴ケズリ	2区青灰色 砂礫層
56図-13	土師器	小型 丸底壺	胴最大径 9.1		良好	(外) 淡橙色	(外) 胴ハケメ (内) 胴ケズリ 胴部外面炭化物付着	5区青灰色 粘質土
56図-14	土師器	小型 丸底壺	口径 7.3 胴最大径 7.5 器台 7.9	1mm以下砂粒わずかに含む、緻密	良好	(外) 淡橙茶色	(外) 口縁~顎部ナデ、胴ハケメ (内) 口縁 ハケ後ナデ、胴ナデ	5区暗灰色 粘土
56図-15	土師器	小型 丸底壺	口径 7.9 胴最大径 8.5 器台 7.9	1mm前後砂粒含む	良好	(外) 黄茶褐色(一部橙色断面褐色)	(外) 胴下ハケメ (内) ヘラケズリ	4区青灰色 砂礫層
56図-16	土師器	小型 丸底壺		1~2mm砂粒含む	良好	(外) 灰茶色 (内) 淡茶色	(外) 胴上ハケメ (内) 胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層
56図-17	土師器	小型 丸底壺	胴最大径 7.5	細砂1~3mm大 砂粒含む	良好	(外) 橙色	(外) 胴ハケメ 外面炭化物付着	3区青灰色 砂礫層
56図-18	土師器	小型 丸底壺	胴最大径 7.9	1mm前後砂粒含む	良好	(外) 淡橙色	(外) 胴ハケメ (内) 胴上ナデ、胴下ハケ後 ナデ	3区青灰色 砂礫層
56図-19	土師器	小型 丸底壺			良好	(外) 灰白橙色	(外) 胴ハケメ (内) 胴ナデ	5区溝中
56図-20	土師器	小型 丸底壺	胴最大径 9.2	1mm前後砂粒含む	良好	(外) 淡灰茶色	(外) 胴ハケメ (内) 胴ナデ	3区青灰粘 質土
56図-21	土師器	小型 丸底壺	口径 7.2 胴最大径 8.2 器高 8.5	1mm以下砂粒含む	良好	(外) 暗褐色 (内) 暗褐色	(外) 胴ハケメ (内) 胴ケズリ 胴部外面炭化物付着	5区溝中
56図-22	土師器	小型 丸底壺	口径 7.5 胴最大径 7.8 器高 8.1	1mm以下砂粒少し含む、緻密	良好	(外) 淡橙褐色(部分的に黒茶褐色)	(外) 口縁ナデ、胴ナデ (内) 口縁ナデ、 胴ケズリ	5区暗灰色 粘土
56図-23	土師器	小型 丸底壺	口径 8.6 胴最大径 8.8 器台 8.8	1mm以下砂粒わずかに含む	良好	(外) 淡橙色~暗灰色 (内) 淡橙色	(外) 口縁ナデ、胴上ハケ後ナデ、胴下ハケメ (内) 胴ケズリ 表面にタール状の付着物	4区青灰色 砂礫層

挿図番号	種類	器 種	法量(cm)	胎 土	焼成	色 調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
56図-24	土師器	小型丸底壺	口径 8.0 胴最大径 8.9 器高 9.4	1mm以下砂粒少 し含む	良好	(外) 淡黄色	(外) 口縁ハケ後ナデ、胴上ナデ、胴下ハケ後一部ナデ (内) 口縁ナデ、胴下指ナデ	3区青灰色 砂礫層
56図-25	土師器	小型丸底壺		1mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外) 淡灰褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、 胴ナデ	4区暗灰色 粘質土
56図-26	土師器	小型丸底壺	口径 8.1 胴最大径 9.0 器高 10.1		良好	(外) 淡橙褐色 (内) 淡橙褐色	(外) 口縁ナデ、胴ナデ (内) 口縁ナデ、胴 ケズリ	5区青灰色砂 礫上面粘質土
57図- 1	土師器	小型丸底壺	口径 8.0 胴最大径 10.1	1mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外) 黒~褐色	(外) 口縁ナデ、顎部ハケ後ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	5区溝中
57図- 2	土師器	小型丸底壺	口径 9.0	1mm前後砂粒わ ずかに含む	良好	(外) 黒~暗灰褐色 (内) 暗褐色~淡褐色	(外) 口縁ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ	5区茶褐色粘 質土耕作土下
57図- 3	土師器	小型丸底壺		1mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 淡灰色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、 胴ケズリ	5区溝中
57図- 4	土師器	小型丸底壺	口径 10.0 胴最大径 10.2 器高 10.8	1mm以下砂粒含 む	良好	(外) 暗黄灰褐色 (内) 暗黃灰色	(外) 胴ハケメ (内) 胴ケズリ 外面炭化物付着	5区青灰色 砂礫層
57図- 5	土師器	小型丸底壺		1mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外) 黒~淡茶褐色 (内) 暗茶褐色	(外) 口縁ナデ、顎部ハケ後ナデ、胴ハケ後ナデ (内) 口縁ナデ、胴ケズリ 外面の胴部中央はやや凹凸	2区青灰色 砂礫層
57図- 6	土師器	小型丸底壺	胴最大径 9.3	1mm前後砂粒含 む	良好	(外) 白橙茶色	(外) 胴ハケメ (内) 胴ケズリ	5区青灰色砂 礫層流路中
57図- 7	土師器	小型丸底壺	口径 5.2 胴最大径 7.0 器高 7.0		良好	(外) 灰茶~黒色 (内) 灰茶色	(外) 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ後ナデ (内) 口縁 ハケ後ナデ、胴指ナデ 外面炭化物付着	5区茶褐色粘 質土耕作土下
57図- 8	土師器	小型丸底壺	口径 7.4 胴最大径 7.9 器高 7.6	1mm前後砂粒含 む	良好	(外) 淡褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ナデ、 胴ケズリ	1区青灰色 砂礫層
57図- 9	土師器	小型丸底壺	口径 9.4 胴最大径 10.5 器高 10.0	1mm以下砂粒わ ずかに含む、緻密	良好	(外) 淡褐色	(外) 口縁ナデ、胴ハケメ (内) 口縁ハケメ	5区溝中
57図-10	土師器	小型丸底壺	口径 9.0 胴最大径 11.1 器高 11.1	1~2mm以下砂 粒含む	やや 風化	(外) 橙~淡褐色 (内) 橙~淡褐色	(外) 胴ハケメ (内) 胴ケズリ 胴部外面炭化物付着	青灰色砂礫 層
57図-11	土師器	小型丸底壺	口径 8.4 胴最大径 9.9 器高 10.1		良好	(外) 淡赤橙色	(外) 口縁ハケ後ナデ、胴上ハケメ、胴底ケズリ (内) 口縁ハケ後ナデ、胴ケズリ 外面小さな黒斑	4区青灰色 砂礫層
58図- 1	土師器	高坏	口径 (17.0) 底径 11.0 器高 13.1		良好	(外) 黄褐色	(环部外) ナデ (环部内) ミガキ、ハケメ (脚部外) ミガキ (脚部内) 简部ケズリ、裾部ハケ メ	4区青灰色 砂礫層
58図- 2	土師器	高坏	口径 (17.7) 底径 9.6 器高 10.9	1~2mm砂粒含 む(白色、褐色)	良好	(外) 坏部淡橙色、 脚部淡茶色 (内) 断面灰褐色	(坏部内) ミガキ (脚部外) ミガキ (脚部 内) 简部ケズリ、裾部ナデ	T-7溝、青 灰色砂礫層
58図- 3	土師器	高坏	口径 17.1 底径 10.7 器高 11.9		良好	(外) 淡橙色	(坏部外) ハケメ (坏部内) ハケメ (脚部外) ハ ケ後ミガキ (脚部内) 简部ケズリ、裾部ナデ	2区青灰色 砂礫層
58図- 4	土師器	高坏	口径 (16.5) 底径 10.7 器高 11.9	1mm前後砂粒含 む、密	良好		(坏部外) ハケメ (坏部内) ナデ一部ミガキ (脚 部外) 简部上部ハケメ、简部下部ハケ後ナデ、裾部 ハケメ (脚部内) 裾部ナデ	4区青灰色 砂礫層
58図- 5	土師器	高坏	口径 (19.2) 底径 11.3 器高 11.8	1mm前後砂粒わ ずかに含む	良好	(外) 暗茶褐色	(坏部外) ナデ (坏部内) ミガキ (脚部外) ハケメ (脚部内) ナデ	4区暗灰色 粘土
58図- 6	土師器	高坏	口径 (16.5) 底径 10.1 器高 11.6	1mm以下砂粒わ ずかに含む	良好	(外) 白茶色 (内) 白茶色	(坏部外) ハケメ (坏部内) ハケメ (脚部外) ミ ガキ、ハケメ (脚部内) 简部ケズリ、裾部ナデ	4区暗灰色 粘質土
58図- 7	土師器	高坏	口径 18.2 底径 9.7 器高 13.3		良好	(外) 茶褐色	(坏部内) ハケ後ナデ (脚部外) 简部ハケ後ナデ、 裾部ナデ (脚部内) 简部ケズリ、裾部ハケメ	1区青灰色 砂礫層
58図- 8	土師器	高坏	口径 15.0 底径 10.0 器高 11.7	2mm前後石英わ ずかに含む	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡橙色	(坏部内) ハケメ、暗文 (脚部外) ハケメ	4区青灰色 砂礫層
58図- 9	土師器	高坏	口径 15.2 底径 10.4 器高 9.5		良好	(外) 灰色~茶褐色	(坏部外) ミガキ、ハケメ (坏部内) ハケメ、 暗文 (脚部外) ミガキ (脚部内) ケズリ	4区暗灰色 粘質土
58図-10	土師器	高坏	口径 15.8 底径 8.5 器高 10.7	1mm以下砂粒含 む	良好	(外) 肌色 (内) 褐色~淡褐色	(坏部外) ハケメ (坏部内) ハケメ、暗文 (脚部 外) 脚に3方向透し	4区青灰色 砂礫層
59図- 1	土師器	高坏	口径 20.3 底径 11.3 器高 13.4		良好		(环部外) ミガキ (环部内) ハケメ (脚部外) ナデ、 裾部ハケメ (脚部内) 环部橙色をおびた茶色、脚部灰色 脚に3方向透し、脚一部黒斑	1区青灰色 砂礫層
59図- 2	土師器	高坏	口径 18.0 底径 11.9 器高 11.8		良好	(外) 橙色	(环部外) ハケメ (环部内) 暗文 (脚部外) ミ ガキ (脚部内) 裾部ハケメ (脚部内) 内面絞り痕、赤色顔料	4区青灰色 粘質土
59図- 3	土師器	高坏	口径 15.2 底径 10.7 器高 12.8	1mm前後砂粒含 む	良好	(外) 白茶色	(坏部外) ハケ後ミガキ (环部内) ハケメ、ミガキ (脚部外) ハケ後ミガキ (脚部内) 简部ハケメ、裾 部ミガキ、底部端部ハケメ	2区青灰色 砂礫層
59図- 4	土師器	高坏	口径 (16.0)	1mm前後砂粒含 む	良	(外) 茶褐色~黒茶色 (内) 黑茶色	(坏部外) ハケメ (坏部内) ハケ後ミガキ (脚部 外) ミガキ (脚部内) 简部ケズリ、裾部ナデ	5区暗灰色 粘質土
59図- 5	土師器	高坏	口径 (16.9)	1mm前後砂粒含 む	良	(外) 橙色	(坏部外) ハケメ (环部内) ミガキ、ハケメ (脚部外) ミガキ (脚部内) ケズリ 脚に3方向透し	1区青灰色 砂礫層
59図- 6	土師器	高坏	口径 (11.0)	1mm大長石、石 英含む、密	良好	(外) 淡橙色	(坏部外) ハケ後ナデ (坏部内) ナデ	5区(T-3) 西侧排水路、 青灰色砂礫層
59図- 7	土師器	高坏	口径 18.8	1mm以下砂粒多 く含む	やや 良好	(外) 灰橙色	(坏部外) 口縁部下ナデ、ハケメ (坏部内) ナデ	5区青灰色 砂礫層
59図- 8	土師器	高坏	口径 15.2		良	(外) 褐色~赤褐色	(坏部外) ハケメ、ナデ (坏部内) ハケメ	2区青灰色 砂礫層

捕団番号	種類	器種	法量(cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
59図-9	土師器	高坏	口径 19.3		良		(坏部外) ナデ、ハケメ (坏部内) 暗文 口縁1条沈線	5区暗灰色 粘質土
59図-10	土師器	高坏	口径 (18.2)	密	良好	(外) 暗茶褐色	(坏部外) 口縁部下ナデ後ハケ (坏部内) 口縁端部 ナデ、ミガキ 坏部内面炭化物付着	
59図-11	土師器	高坏	口径 (18.0)	1~2mm大長石、 石英含む	良好	(外) 淡灰橙色	(坏部外) 口縁部下ナデ、ハケ後ナデ (坏部内) ハケ後ナデ 坏部内面炭化物付着	5区溝中
59図-12	土師器	高坏	口径 19.5	1mm大長石、石 英含む、密	良好	(外) 淡灰橙色	(坏部外) ハケ後ナデ (坏部内) 口縁部ハケ メ、ナデ	5区青灰色 砂礫層
59図-13	土師器	高坏	口径 18.9	1~3mm大長石、 石英含む	良好	(外) 灰橙色	(坏部外) ハケ後ナデ (坏部内) ハケ後ナデ	5区青灰色 砂礫層
60図-1	土師器	高坏	口径 20.0	長石、石英含む、 密	良好	(外) 灰橙褐色 (内) 淡灰橙褐色	(坏部外) ハケ後ナデ (坏部内) ハケ後ナデ、 暗文	4区(T-4)青 灰色砂礫層
60図-2	土師器	高坏	口径 18.8	密	良好	(外) 暗灰橙色	(坏部外) ハケ後ナデ (坏部内) ナデ	5区暗灰色 粘質土
60図-3	土師器	高坏	口径 19.5	1~4mm大砂粒 含む	良好	(外) 灰橙色	(坏部外) ナデ (坏部内) ミガキ、ハケメ	5区暗灰粘 質土
60図-4	土師器	高坏	口径 (17.9)	密	良好	(外) 灰茶褐色	(坏部外) 口縁部下ナデ、ハケ後ナデ (坏部 内) ハケ後ナデ、暗文	1区青灰色 砂礫層
60図-5	土師器	高坏	口径 (17.2)	1mm大砂粒含 む、密	良好	(外) 淡灰橙色	(坏部外) 口縁部下ナデ、ハケメ (坏部内) 口縁部ハケ後ナデ	5区青灰色 砂礫層
60図-6	土師器	高坏	口径 18.4		良	(外) 茶褐色 (内) 茶色	(坏部外) ナデ、ハケメ (坏部内) 暗文 外面に黒班	2区青灰色 砂礫層
60図-7	土師器	高坏	口径 19.9	長石、石英含む、 密	良好	(外) 淡茶橙色	(坏部外) ナデ (坏部内) ハケ後ナデ、暗文	1区青灰色 砂礫層
60図-8	土師器	高坏	口径 (18.9)	密	良好	(外) 灰橙色	(坏部外) ハケ後ナデ (坏部内) 口縁部ナデ、ハケ 後ナデ (脚部外) 坏部内、外面器面あれ、坏部内面炭化物付着	3区暗青灰 色粘質土
60図-9	土師器	高坏	口径 (22.0)	1~2mm大長石、 石英含む	良好	(外) 暗灰橙褐色	(坏部外) 口縁部下ナデ、ハケ後ナデ (坏部 内) ナデ後暗文	4区青灰色 砂礫層
60図-10	土師器	高坏	口径 15.4	密	良好	(外) 橙茶色	(坏部外) ハケ後ナデ (坏部内) ハケ後ナデ、 暗文	3区青灰色 砂礫層
60図-11	土師器	高坏	口径 20.0	1~3mm大砂粒 含む	良好	(外) 淡灰橙色	(坏部外) ハケメ (坏部内) 口縁部ハケメ、 ハケ後ナデ (脚部外)	5区青灰色 砂礫層
60図-12	土師器	高坏	口径 (19.2)	密	良好		(坏部外) 口縁部下ナデ、ハケメ (坏部内) ナデ後暗文 外面とも赤色顔料	5区青灰色 砂礫層
60図-13	土師器	高坏	口径 13.6		良		(坏部外) ミガキ (坏部内) ミガキ、ハケメ 坏部内面に茶色顔料	4区暗灰色 粘土層
60図-14	土師器	高坏	口径 (16.9)	1mm大長石、石 英含む、密	良好	(外) 淡灰白黄橙色	(坏部外) 口縁部下ナデ、ハケ後ナデ (坏部内) 口縁部ナデ、ナデ後暗文 一部器面あれ	
60図-15	土師器	高坏	口径 (17.4)	1mm大長石、石 英含む、密	良好	(外) 淡灰白色	(坏部外) 口縁部下ナデ、ハケ後ミガキ (坏 部内) ハケ後ミガキ	4区青灰色 砂礫層
60図-16	土師器	高坏	口径 19.5		良	(外) 淡茶色	(坏部外) ハケ後ミガキ (坏部内) ハケ後ミガキ 坏部内面炭化物付着	4区青灰色 砂礫層
61図-1	土師器	高坏	口径 19.9	密	良好	(外) 淡灰白橙色 (内) 淡灰橙褐色	(坏部外) ハケ後ナデ (坏部内) ハケ後ナデ	5区暗灰色 粘質土
61図-2	土師器	高坏	口径 17.9	1mm前後の砂粒 (長石、石英など) 多く含む、緻密	崩 れ もじり	(外) 淡褐色 (内) 淡橙褐色	(坏部外) ナデ (坏部内) ナデ	4区暗灰色 粘土層
61図-3	土師器	高坏	口径 17.8	1mm前後砂粒多 く含む、緻密	良好	(外) 淡黃灰色 (内) 淡黃灰色	(坏部外) ハケメ (坏部内) ミガキ、ナデ	5区青灰色砂 礫粘土上面
61図-4	土師器	高坏	口径 18.0	密	良	(外) 灰褐色 (内) 灰褐色	(坏部外) ナデ、ミガキ (坏部内) ナデ	1区青灰色 砂礫層
61図-5	土師器	高坏	口径 18.0	長石、石英含む、 密	良	(外) 淡灰綠色(褐色を含む) (内) 淡灰綠色(褐色を含む)	(坏部外) ナデ、ミガキ (坏部内) ハケメ、 ナデ、暗文	1区青灰色 砂礫層
61図-6	土師器	高坏	口径 18.0	1mm前後砂粒多 く含む	良好	(外) 淡橙灰色 (内) 淡橙灰色	(坏部外) ナデ (坏部内) ナデ	5区青灰色 砂礫層
61図-7	土師器	高坏	口径 (21.1)	1mm大長石、石 英含む、密	良好	(外) 淡灰橙茶色 (内) 淡灰橙褐色	(坏部外) ナデ (坏部内) ハケ後ナデ、ミガ キ	2区青灰色 砂礫層
61図-8	土師器	高坏	口径 18.8	長石、石英含む、 密	良好	(外) 淡灰橙色 (内) 淡灰橙褐色	(坏部外) ハケ後ナデ (坏部内) ナデ	5区青灰色砂 礫層粘土混入
61図-9	土師器	高坏	口径 18.2	1~3mm砂粒含 む		(外) 淡灰橙色 (内) 淡灰橙褐色	(坏部外) ハケ後ナデ (坏部内) ナデ後放射線状 の暗文 (脚部外) ミガキ (脚部内) ケズリ	5区青灰色 砂礫層
61図-10	土師器	高坏	口径 (24.0)	密	良好	(外) 淡灰白橙色 (内) 淡灰白橙色	(坏部外) ハケ後ナデ (坏部内) ナデ後暗文	3区暗青灰色粘 質土上面、青灰 色砂礫層上面
61図-11	土師器	高坏	口径 13.2	緻密	大變 良好	(外) 灰橙色 (内) 灰橙色	(坏部外) ハケ後ナデ	1区青灰色 砂礫層

挿図番号	種類	器種	法量(cm)	胎 土	焼成	色 調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
61図-12	土師器	高坏	口径 14.3	長石、石英含む、密	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡橙色	(坏部外) ナデ (坏部内) ハケ後ナデ	5区溝中
61図-13	土師器	高坏	口径 15.2			(外) 淡茶褐色 (内) 淡茶褐色	(坏部外) ナデ、ハケメ (坏部内) ケズリ 坏部外面炭化物付着	5区青灰色 砂礫層
62図- 1	土師器	高坏	口径 底径 器高 17.2 11.3 12.2	1mm前後砂粒多く含む	良好	(外) 淡橙灰色 (内) 淡橙灰色	(坏部外) ハケメ (坏部内) ハケメ (脚部外) ハケメ、ミガキ (脚部内) ハケメ	5区暗灰色 粘質土
62図- 2	土師器	高坏	口径 底径 器高 17.3 11.7 12.2	1mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 淡橙灰色 (内) 淡橙灰色	(坏部外) ハケメ (坏部内) ミガキ (脚部外) ミガキ (脚部内) ナデ 全体的に磨滅著しい	5区暗灰色 粘質土
62図- 3	土師器	高坏	口径 底径 器高 18.0 10.2 13.8			(外) 淡灰茶色 (内) 淡灰茶色	(坏部外) 暗文 (坏部内) 暗文 (脚部外) ミガキ (脚部内) ケズリ	2区青灰色 砂礫層
62図- 4	土師器	高坏	口径 10.6			(外) 淡橙色 (内) 淡橙色	(坏部外) ハケメ (坏部内) ナデ	4区青灰色 砂礫層
62図- 5	土師器	高坏	口径 16.5	密	良好	(外) 淡灰色 (内) 淡灰色	(坏部外) ハケ後ナデ (坏部内) ハケ後ナデ	5区青灰色 砂礫層
62図- 6	土師器	高坏	口径 19.4	緻密	良好	(外) 淡灰茶色 (内) 淡灰茶色	(坏部外) ナデ後ミガキ、ハケメ (坏部内) ナデ後暗文	
62図- 7	土師器	高坏	口径 18.2	1mm前後砂粒多く含む	良好	(外) 橙色 (内) 橙色	(坏部外) ナデ、ハケメ (坏部内) ナデ 外面塗状物質付着	4区暗灰色 粘質土
62図- 8	土師器	高坏	口径 16.6	1mm前後砂粒少し含む、緻密	良好		(坏部外) ナデ (坏部内) ハケ後ミガキ、暗文	4区茶褐色 粘質土
62図- 9	土師器	高坏	口径 17.0	長石、石英含む、密	やや 良好	(外) 灰黒茶色 (内) 灰黒茶色	(坏部外) ハケメ (坏部内) ハケ後ナデ	4区暗褐色 粘質土(流木の 周辺)
62図-10	土師器	高坏		1mm大長石、石 英含む、密	良好	(外) 暗灰橙色 (内) 暗灰橙色	(坏部外) ナデ後暗文ミガキ (坏部内) ハケ 後ナデ、暗文	
62図-11	土師器	高坏	口径 19.0	密	良好	(外) 黒色 (内) 淡灰橙褐色	(坏部外) ハケ後ナデ (坏部内) ハケ後ナデ	5区青灰色 粘質土
62図-12	土師器	高坏	口径 21.6	1~4mm大砂粒 含む	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 淡灰褐色	(坏部外) ハケ後ミガキ、ナデ (坏部内) ハ ケ後暗文	5区青灰色 粘質土
62図-13	土師器	高坏	口径 22.1	1~2mm大長石、 石英含む	良好	(外) 橙茶色 (内) 橙茶色	(坏部外) ハケ後ナデ (坏部内) ナデ	4区青灰色 砂礫層
63図- 1	土師器	高坏	口径 22.7	1mm大長石、石 英含む、密	良好	(外) 暗灰茶褐色 (内) 暗灰橙色	(坏部外) ナデ後ミガキ、下部ナデ (坏部内) ハケ後ナデ、暗文	4区青灰色 砂礫層
63図- 2	土師器	高坏	口径 19.5	1mm以下砂粒含 む、緻密	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 淡橙褐色	(坏部外) ナデ (坏部内) ナデ後ハケメ	4区暗灰色 粘質土
63図- 3	土師器	高坏		密	良好	(外) 淡灰橙色 (内) 淡灰橙褐色	(坏部外) 上部ナデ、下部ハケ後ナデ (坏部 内) ナデ後暗文	1区青灰色 砂礫層
63図- 4	土師器	高坏	口径 16.0			(外) 淡橙色 (内) 淡橙色	(坏部外) 暗文、ハケメ (坏部内) 暗文 内面に黒班	5区青灰色 砂礫層
63図- 5	土師器	高坏	口径 16.1	密	良好	(外) 淡灰橙色 (内) 淡灰橙褐色	(坏部外) ナデ (坏部内) ハケ後ナデ 内面に器面あれ	3区青灰色 砂礫層
63図- 6	土師器	高坏	口径 16.5	1~2mm以下砂 粒含む	良好	(外) 淡茶褐色 (内) 淡茶褐色	(坏部外) ハケメ (坏部内) ハケメ	4区青灰色 砂礫層上面
63図- 7	土師器	高坏	口径 21.4	密	良好	(外) 淡灰橙色 (内) 淡灰橙褐色	(坏部外) ハケ後ナデ (坏部内) ハケ後ナデ、暗文 内面ヘラ状工具痕	1区青灰色 砂礫層
63図- 8	土師器	高坏	口径 (22.0)	密	良好	(外) 灰褐色、一部暗灰黑色 (内) 灰褐色、一部暗灰黑色	(坏部外) ハケ後ナデ、ミガキ (坏部内) ナ デ、ミガキ、暗文	5区暗灰色 粘質土
63図- 9	土師器	高坏		1mm前後砂粒多く含む		(外) 淡橙色~黄茶色 (内) 黄茶色~灰黑色(黒斑)	(坏部外) ハケメ (脚部外) ナデ (脚部内) ナデ、 ケズリ 筒部付け根にヘラで押された跡	2区青灰色 砂礫層
64図- 1	土師器	高坏	底径 11.2	1~4mm砂粒含 む	良好	(外) 橙褐色 (内) 橙褐色	(外) 坯、筒ともミガキ、裾ハケ後ナデ (内) 筒ケズリ、裾ナデ	5区青灰色 砂礫層上面
64図- 2	土師器	高坏	底径 13.0	白色細粒含む	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 黑色一部淡灰褐色	(外) 坯ハケメ、筒ミガキ、裾ナデ (内) 筒 ケズリ、裾ハケ後ナデ	5区明灰色 粘質土
64図- 3	土師器	高坏	底径 10.0	0.5mm以下砂粒 わずかに含む	良好	(外) 淡橙色(一部黒色) (内) 淡橙色(一部黒色)	(外) 筒ミガキ後ナデ (内) 筒ケズリ 筒部の外間に工具跡	3区青灰粘 質土
64図- 4	土師器	高坏	底径 10.0	1mm前後砂粒含 む	良好	(外) 茶褐色(环部)、白茶色(脚部) (内) 茶褐色(环部)、白茶色(脚部)	(外) 坯、かすかにハケメ、筒ミガキ (内) 坏ミガキ、筒ケズリ、ハケメ、裾ハケメ	1区青灰色 砂礫層
64図- 5	土師器	高坏	底径 11.6	石英微粒含む	良好	(外) 淡黄茶色、一 部桃茶色 (内) 淡灰茶色	(外) 筒ハケ後ミガキ (内) 筒ケズリ、裾ハケメ 筒部~裾部外面に工具痕	4区青灰色 砂礫層
64図- 6	土師器	高坏	底径 11.8	1mm前後砂粒を む、密	良好	(外) 淡乳褐色 (内) 淡乳褐色	筒部外面に工具痕、刺突痕	4区茶灰色 粘質土
64図- 7	土師器	高坏	底径 12.0	1mm以下砂粒多く含む、密	良好	(外) 淡橙色~淡黄褐色(一 部赤褐色にやけている) (内) 淡橙色~淡黄褐色	(外) 坯ハケメ、筒ミガキ、裾ハケ後ナデ (内) 坏ミガキ、ナデ 脚2方向に透し	3区暗青灰 色粘質土
64図- 8	土師器	高坏	底径 12.1	1mm前後砂粒少 し含む	良好	(外) 黄茶色 (内) 黄茶色	(外) 坯ナデ、筒ミガキ、裾ナデ (内) 坯ミ ガキ、筒ミガキ、ナデ、裾ナデ	3区青灰色 砂礫層

挿図番号	種類	器種	法量(cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
64図-9	土師器	高坏	底径 11.1	密	良好	(外) 暗灰橙色 (内) 暗灰橙色	(外) 筒、裾ともハケ後ナデ (内) 筒ケズリ、 裾ハケ後ナデ	5区暗灰色粘質土(砂礫混入)流路中
64図-10	土師器	高坏	底径 10.6	白色細粒少量含む	良好	(外) 淡綠灰色 (内) 淡灰褐色	(外) 坏ナデ、筒ミガキ、ナデ、裾ナデ (内) 筒ケズリ後ナデ、裾ナデ	
64図-11	土師器	高坏	底径 10.7	0.5mm以下砂粒多く含む、密	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡橙色	(外) 筒ハケメ、ケズリ後ナデ (内) 筒ケズリ、 裾ナデ	4区青灰色砂礫層上面
64図-12	土師器	高坏	底径 9.3	1mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 黑色	(外) 筒ハケメ、ミガキ後ナデ (内) 筒ケズリ、 裾ハケメ	2区青灰色砂礫層
64図-13	土師器	高坏	底径 11.2	2mmまでの細粒含む	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 淡灰褐色	(外) 筒ミガキ、裾ナデ (内) 筒ケズリ、 裾ナデ	5区北側壁耕作土中
64図-14	土師器	高坏	底径 11.6	密	良好	(外) 淡橙茶色 (内) 淡橙茶色	(外) 筒ミガキ、裾ナデ (内) 筒ケズリ、 裾ハケメ	5区
64図-15	土師器	高坏		1~2mm砂粒含む	良好	(外) 黄白色 (内) 黄白色	(外) 坏ハケメ、ナデ (内) 坏ミガキ、筒ケズリ、ナデ	3区青灰色砂礫層
64図-16	土師器	高坏		1~2mm砂粒含む	良好	(外) 茶色 (内) 茶色	(外) 坏ナデ、筒ミガキ (内) 筒ケズリ後ナデ、 ハケメ	1区青灰色砂礫層
64図-17	土師器	高坏	底径 10.8	1~3mm砂粒含む	良好	(外) 橙茶色 (内) 橙茶色	(外) 筒ミガキ (内) 筒ケズリ 筒部内面絞り痕	青灰色砂層
64図-18	土師器	高坏		密	良好	(外) 橙色 (内) 橙色	(外) 筒ミガキ、ハケメ 赤色顔料	2区青灰色砂礫層
64図-19	土師器	高坏	底径 9.5	0.5mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 橙褐色 (内) 橙褐色	(外) 筒ハケメ、ミガキ後ナデ後ハケ (内) 裾ハケメ	1区青灰色砂礫層
64図-20	土師器	高坏		1mm前後砂粒多く含む	良好	(外) 橙色 (内) 橙色	(外) 筒ミガキ後ナデ (内) 筒ケズリ、裾ハケメ 外面赤色顔料	4区東排水路
65図-1	土師器	高坏	底径 11.0	石英、白色、黒色粒子を含む	良好	(外) 淡茶色 (内) 淡茶色~淡橙茶色	(外) 筒ミガキ、裾ナデ (内) 筒ケズリ、 裾ハケメ、ナデ	2区青灰色砂礫層
65図-2	土師器	高坏	底径 10.6	0.5mm以下砂粒わずかに含む	良好	(外) 淡橙灰色 (内) 淡橙灰色	(外) 筒ミガキ (内) 筒ケズリ、裾ハケメ	
65図-3	土師器	高坏	底径 10.9	1mm以下砂粒含む	良好	(外) 明橙褐色 (内) 灰色	(外) 筒ミガキ (内) 筒ケズリ、ハケメ	4区青灰色砂礫層上面
65図-4	土師器	高坏	底径 11.8	1mm以下砂粒含む	良好	(外) 淡茶褐色 (内) 淡茶褐色	(外) 筒ミガキ (内) 筒ケズリ、ハケメ	4区青灰色砂礫層上面
65図-5	土師器	高坏	底径 10.6	1mm以下砂粒含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 淡橙褐色	(外) 筒ミガキ後ヨコナデ (内) 筒ケズリ、 裾ハケ後ナデ	5区青灰色砂質粘土
65図-6	土師器	高坏	底径 11.6	1mm以下砂粒含む	良好	(外) 淡乳褐色 (内) 淡乳褐色	(内) 筒ケズリ、裾ハケメ	4区茶灰色粘質土
65図-7	土師器	高坏	底径 10.9	1mm前後砂粒含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) 裾ナデ	4区青灰色砂礫層
65図-8	土師器	高坏	底径 11.2	長石、石英細粒、黒色、白色細粒含む	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 淡灰褐色	(外) 筒ハケ後ミガキ、裾ナデ (内) 筒ケズリ、 裾ケズリ、ナデ、ハケメ 外面赤色顔料付着	2区青灰色砂礫層
65図-9	土師器	高坏	底径 13.0	1mm以下石粒わずかに含む	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡橙色	(外) 筒ハケメ、裾ハケメ (内) 筒ナデ、 裾ハケメ	4区青灰色砂礫層
65図-10	土師器	高坏	底径 10.7	2mm前後砂粒わずかに含む	良好	(外) 橙色 (内) 橙色	(外) 筒ナデ (内) 筒ケズリ、裾ハケメ	3区青灰色砂礫層
65図-11	土師器	高坏	底径 10.2	0.5mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 暗灰色 (内) 淡橙色、一部黑色	(外) 筒ハケメ、ケズリ後ナデ (内) 裾ケズリ	5区暗灰色粘質土流路中
65図-12	土師器	高坏	底径 9.6	筒部ミガキ	良好	(外) 淡灰橙色 (内) 淡灰橙色	(外) 筒ケズリ (内) 筒ケズリ、裾ハケメ	4区青灰色砂礫層上面
65図-13	土師器	高坏	底径 9.5	1mm~3mm大砂粒含む	良好	(外) 橙茶色 (内) 橙茶色	(外) 筒ハケ後ミガキ (内) 筒ケズリ	
65図-14	土師器	高坏	底径 10.7	2mm前後砂粒わずかに0.5mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 淡褐色 (内) 淡褐色	(外) 筒ミガキ	5区青灰色砂礫層
65図-15	土師器	高坏	底径 9.9	0.5mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 暗灰色~淡橙色 (内) 暗灰色	(外) 裾ナデ (内) 筒ケズリ 外面工具痕	4区茶褐色砂質粘土層
65図-16	土師器	高坏	底径 10.2	3mm大砂粒含む	良好	(外) 淡橙茶灰色 (内) 淡橙茶灰色	(外) 筒ミガキ、裾ナデ (内) 筒ケズリ、 裾ハケメ 筒部内面に絞り痕	1区青灰色砂礫層
65図-17	土師器	高坏	底径 12.5	1mm前後砂粒わずかに含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 淡橙褐色	(外) 裾ハケメ (内) 筒ケズリ、裾ハケメ	
65図-18	土師器	高坏	底径 12.0	1mm~3mm大粒子含む	良好	(外) 淡灰茶色 (内) 淡灰茶色~茶色	(外) 筒ミガキ、裾ナデ (内) 筒ケズリ、 裾ナデ	5区青灰色細砂層
65図-19	土師器	高坏	底径 13.0	白色粒子、石英含む	良好	(外) 暗茶褐色、一部暗橙色 (内) 黒褐色	(外) 筒ハケメ、裾ナデ (内) 筒ケズリ、 裾ナデ	1区青灰色砂礫層
65図-20	土師器	高坏	底径 11.8	密	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 灰褐色	(外) 筒ハケ後ミガキ (内) 筒ケズリ、 裾ハケメ	5区暗灰色粘質土

挿図番号	種類	器種	法量(cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
65図-21	土師器	高坏	底径 8.7	0.5mm以下砂粒わずかに含む	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡橙色	(外) 筒ハケメ、ミガキ (内) 補ハケメ	5区褐色粘質土
65図-22	土師器	高坏	底径 11.2	2mm前後砂粒多く含む	良好	(外) 淡灰色 (内) 暗灰色	(内) 筒ケズリ	4区青灰色砂礫層上段
65図-23	土師器	高坏						
65図-24	土師器	高坏	底径 10.8	2mm~3mm大砂粒少量含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 淡橙褐色	(外) 筒ミガキ (内) 筒ケズリ、補ハケメ	4区青灰色砂礫層上面
65図-25	土師器	高坏	底径 9.9	1mm以下砂粒わずかに含む	良好	(外) 淡橙白色 (内) 淡橙白色	(外) 筒ミガキ、裾ナデ (内) 補ハケメ	5区溝中
65図-26	土師器	高坏	底径 10.7	1mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 橙色 (内) 淡橙色、一部黒色	(外) 筒、裾ともハケ後ナデ (内) 筒ケズリ、補ハケメ	2区青灰色砂礫層
65図-27	土師器	高坏	底径 10.4	密	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡橙色	(外) 筒ミガキ (内) 筒ケズリ後ナデ、補ハケメ 外面赤色顔料	1区青灰色砂礫層
66図-1	土師器	高坏	底径 11.0	1mm前後砂粒多く含む		(外) 淡灰褐色 (内) 淡灰色	(内) 筒ケズリ、補ハケメ	1区青灰色砂礫層
66図-2	土師器	高坏	底径 10.2	白色、黒色粒子含む、7mm大白色粒子あり	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 淡橙褐色~橙褐色	(外) 筒ケズリ (内) 筒ケズリ、補ハケメ 筒部内面に絞り痕	5区青灰色砂礫層
66図-3	土師器	高坏	底径 9.8	1mm以下砂粒多く含む、2mm前後砂粒わずかに含む	良好		(外) 筒ミガキ、裾ナデ (内) 筒ケズリ、補ナデ	3区青灰色砂礫層
66図-4	土師器	高坏	底径 10.9	1mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡橙色	(外) 筒ミガキ後ハケメ、裾ナデ (内) 筒ケズリ、補ハケメ、ナデ	3区青灰色砂礫層
66図-5	土師器	高坏	底径 12.1	1mm以下砂粒含む	良好	(外) 橙灰褐色 (内) 橙灰褐色	(外) 筒ミガキ、裾ナデ (内) 筒ケズリ、補ハケメ、ナデ	1区青灰色砂礫層
66図-6	土師器	高坏	底径 12.5	1mm~2mm大砂粒含む	良好	(外) 灰茶褐色 (内) 灰茶褐色	(外) 筒ミガキ (内) 筒ケズリ、補ハケメ	3区青灰色粘質土
66図-7	土師器	高坏	底径 12.6	2mm~3mm程度粒含む	良好	(外) 白橙色 (内) 白橙色	(外) 筒ミガキ、ナデ、裾ナデ (内) 筒ケズリ	1区青灰色砂礫層
66図-8	土師器	高坏	底径 16.4	0.5mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 橙色~橙褐色 (内) 橙色~橙褐色	(外) 筒ミガキ後ナデ、裾ナデ (内) 筒ケズリ、補ハケメ	2区青灰色砂礫層
66図-9	土師器	高坏	底径 13.7	1mm~3mm大砂粒含む	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡橙色	(外) 筒ハケ後ミガキ (内) 筒ケズリ、補ハケメ	5区青灰色粘質土
66図-10	土師器	高坏	底径 13.3	2mm前後砂粒わずかに含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 淡橙褐色	(外) 筒ミガキ、補ハケメ (内) 筒ケズリ、補ハケメ	
66図-11	土師器	高坏	底径 13.5	細粒少し含む	良好	(外) 緑灰茶褐色 (内) 黒褐色	(外) 筒ミガキ後ナデ、裾ナデ (内) 筒ケズリ、補ハケメ	3区青灰色砂礫層
66図-12	土師器	高坏	底径 13.4	白色細粒含む	良好	(外) 黄橙褐色 (内) 黒灰色	(外) 筒ミガキ後ナデ、裾ナデ (内) 筒ケズリ、補ナデ	青灰色砂層
66図-13	土師器	高坏	底径 10.5	1mm大砂粒含む	良好	(外) 橙茶褐色 (内) 橙茶褐色	(外) 筒ハケ後ミガキ (内) 補ハケメ 筒部内面に絞り痕	5区青灰色砂礫層
66図-14	土師器	高坏	底径 10.0	1mm以下砂粒含む	良好	(外) 橙灰褐色 (内) 橙灰褐色	(外) 筒ハケ後ミガキ (内) 筒ケズリ、補ハケメ 筒部内面に絞り痕	4区青灰色砂礫層上面
66図-15	土師器	高坏	底径 10.1	1mm以下砂粒含む	良好	(外) 灰橙茶色 (内) 灰橙茶色	(外) 筒ミガキ (内) 補、指頭圧痕 筒部内面に絞り痕	3区青灰色砂礫層
66図-16	土師器	高坏	底径 10.2	1mm以下砂粒含む	良好	(外) 淡橙灰色 (内) 淡橙灰色	(外) 筒ミガキ (内) 補ハケメ 筒部内面に絞り痕、刺突	5区溝中
66図-17	土師器	高坏		白色細粒含む	良好	(外) 淡橙褐色 (内) 淡橙褐色 (一部暗黄色)	(外) 筒ハケ後ミガキ (内) 筒ヘラケズリ、補ハケメ 筒部外面に3本沈線	3区黒灰色粘質土
66図-18	土師器	高坏		白色、石英粒子含む	良好	(外) 淡黄橙褐色 (内) 淡黄橙褐色	(外) 筒ハケ後ナデ (内) 筒ヘラケズリ、補ハケメ後ナデ	3区青灰色砂礫層
66図-19	土師器	高坏		白色粒子少々含む	良好	(外) 黄茶褐色 (内) 黄茶褐色	(外) 筒ヘラ後ナデ、補ナデ (内) 筒ケズリ 後ナデ	4区青灰色砂礫層上面
66図-20	土師器	高坏		密	良好	(外) 淡橙色~淡橙白色 (内) 淡橙色~淡橙白色	(外) 筒ミガキ (内) 筒ナデ、ケズリ	5区西側水路
66図-21	土師器	高坏		白色、黒色粒子含む	良好	(外) 淡橙茶色 (内) 淡橙茶色	(外) 筒ミガキ、補ナデ (内) 筒ケズリ、ナデ	1区青灰色砂礫層
66図-22	土師器	高坏		0.5mm以下砂粒多く含む	良好	(外) 橙色 (内) 橙色	(外) 補ハケメ (内) 筒ケズリ	
66図-23	土師器	高坏		1mm大砂粒含む	良好	(外) 淡橙灰色 (内) 淡橙灰色	(外) 筒ハケ後ミガキ (内) 筒ケズリ、補ハケメ	
66図-24	土師器	高坏		0.5~3mm大石英、白色粒子含む	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 淡灰褐色	(外) 補ミガキ後ナデ (内) 補ケズリ後ナデ 筒部内面赤色顔料付着	1区青灰色砂礫層
66図-25	土師器	高坏		黑色、白色粒子、石英粒子含む	良好	(外) 淡灰茶色~茶色 (内) 淡灰茶色	(外) 筒ミガキ後ナデ、補ハケメ、ナデ (内) 筒絞り後ナデ 筒部内面全体に絞り痕	3区青灰色砂礫層

捕図番号	種類	器種	法量(cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
67図- 1	土師器	高坏	底径 12.9	2mm以下砂粒わずかに含む	良好	(外) 淡灰色 (内) 灰色~淡灰色	(外) 筒ケズリ、裾ナデ (内) 筒ケズリ、裾ハケメ	5区青灰色砂礫層
67図- 2	土師器	高坏	底径 10.5	1mm以下砂粒わずかに含む	良好	(外) 淡茶色 (内) 淡茶色	(外) 筒ミガキ (内) 筒ケズリ 脚3方向に透し	3区青灰色砂礫層
67図- 3	土師器	高坏	底径 10.5	密	良好	(外) 淡茶褐色 (内) 淡茶褐色	(外) 筒ナデ後ミガキ、裾ナデ (内) 筒ケズリ 脚3方向に透し	1区青灰色砂礫層
67図- 4	土師器	高坏	底径 13.4	1mm前後砂粒多く含む	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡橙色	(外) 筒ミガキ後ナデ、裾ハケ後ナデ消し (内) 筒ケズリ、裾ハケ後ナデ消し 脚4方向に透し	3区青灰色砂礫層
67図- 5	土師器	高坏	底径 11.8	1mm以下砂粒含む	良好	(外) 黄橙茶色 (内) 黄橙茶色	(外) 筒ミガキ、裾ハケメ (内) 筒ケズリ、裾ハケメ 脚3方向に透し	3区青灰色砂礫層粘土上面
67図- 6	土師器	高坏	底径 11.4	繊密	良好	(外) 淡青灰色 (内) 淡青灰色	(外) 筒ミガキ (内) 筒ミガキ、裾ハケメ 脚3方向に透し	1区青灰色砂礫層
67図- 7	土師器	高坏	底径 10.3	3mm大砂粒含む	良好	(外) 淡灰橙色 (内) 淡灰橙色	(外) 筒ミガキ、裾ナデ (内) 筒ケズリ、裾ハケメ 脚3方向に透し	
67図- 8	土師器	高坏	底径 10.9	1mm以下砂粒わずかに含む	良好	(外) 淡橙灰色 (内) 淡橙灰色	(外) 筒ミガキ、裾ナデ (内) 筒ケズリ、裾ナデ 脚3方向に透し	1区青灰色砂礫層
67図- 9	土師器	高坏	底径 9.5	0.5cm以下砂粒わずかに含む	良好	(外) 淡橙白色 (内) 淡橙白色	(外) 筒ハケメ (内) 筒ケズリ	5区溝中
67図-10	土師器	高坏	底径 12.0	1mm以下砂粒含む	良好	(外) 淡橙灰色 (内) 淡橙灰色	(外) 筒ミガキ、裾ナデ (内) 筒ケズリ、裾ハケメ 脚3方向に透し	1区青灰色砂礫層
67図-11	土師器	高坏	底径 10.0	1mm以下砂粒わずかに含む	良好	(外) 淡橙灰色 (内) 淡橙灰色	(外) 筒ハケメ (内) 筒ケズリ 脚3方向に透し	5区灰色粘質土層
67図-12	土師器	高坏	底径 11.6	長石細粒、黒色、白色細粒含む	良好	(外) 灰茶色~淡茶色 (内) 灰茶色~淡茶色	(外) 補ナデ (内) 筒ケズリ、裾ハケメ	4区暗灰色粘質土
67図-13	土師器	高坏	底径 11.9	密	良好	(外) 淡橙色 (内) 淡橙色	(外) 筒ハケメ、ミガキ後ナデ、裾ナデ (内) 筒ケズリ、裾ハケメ 脚3方向に透し	2区
67図-14	土師器	高坏	底径 13.7	1mm以下砂粒多く含む	良好		(外) 筒ハケ後ナデ、裾ハケ後ナデ (内) 筒ナデ、 裾ナデ 脚3方向に透し	
67図-15	土師器	高坏		長石、石英粗粒、白色細粒含む	良好	(外) 淡灰褐色 (内) 淡褐色 (一部黒色)	(外) 筒ハケ後ミガキ (内) 筒ケズリ、裾ハケメ 筒部内面に絞り痕、脚2方向に透し	3区青灰色砂礫層
68図- 1	土師器	甑型土器	口径 (42.4)	微粒の長石、石英わざかに含む、密	良好	(外) 淡灰橙色一部 黑色 (内) 暗茶灰色	(外) ハケ後ナデ (内) ハケメ	3区暗灰色粘質土
68図- 2	土師器	甑型土器	口径 (44.4)	1~2mm大長石、石英少々含む、密	良好	(外) 淡灰白色 (内) 暗灰橙色	(外) ハケ後ナデ (内) ハケメ	砂礫層
68図- 3	土師器	甑型土器、取手部		1mm以下砂粒わずかに含む	良好	(外) 白灰茶色	(外) ナデ	5区青灰色砂礫層上面
68図- 4	土師器	甑	胴最大径 (20.4)	1mm前後砂粒多く含む	良好	(外) 灰白茶色	(外) ハケメ (内) ケズリ	3区青灰色砂礫層
68図- 5	土師器	壺	口径 (23.5) 頸径 (22.7) 脇最大径 (26.6) 器高 18.7	1mm前後砂粒多く含む	良好	(外) 淡灰茶色 (内) 黄灰茶色	(外) ハケメ (内) ケズリ	5区シルト外側砂礫層
69図- 1	須恵器	坏蓋	口径 (14.8) 器高 4.5	1mm大砂粒含む	良好	(外) 灰白色	(外) 回転ヘラケズリ (内) 回転ナデ	1区青灰色砂礫層
69図- 2	須恵器	坏蓋	口径 13.4	1mm以下砂粒わずかに含む	良好	(外) 暗灰色 (内) 暗灰色	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ	4区
69図- 3	須恵器	坏蓋		1mm大砂粒少量含む	良好	(外) 灰色	(外) 回転ヘラケズリ、回転ナデ (内) 回転ナデ、ナデ	1区青灰色砂礫層
69図- 4	須恵器	坏蓋	口径 (14.6) 器高 4.5	密	良好	(外) 淡灰色 (内) 淡灰色	(外) ヘラケズリ (内) ヨコナデ	1区青灰色砂礫層
69図- 5	須恵器	坏	口径 (11.2) 受部径 13.5 器高 5.5	1mm以下砂粒わずかに含む	良好		(外) ヘラケズリ、底部ヘラ切り	2区青灰色砂礫層
69図- 6	須恵器	坏	口径 11.6 受部径 13.6 器高 5.6	1mm以下砂粒含む	良好	(外) 淡灰色	(外) 回転ナデ、底部回転ヘラケズリ (内) 回転ナデ、底部ナデ	3区一段目青灰色砂礫層(新規発見)
69図- 7	須恵器	坏	口径 11.2 受部径 14.0 器高 4.1	0.5mm以下砂粒わずかに含む	良好	(外) 暗灰色~淡黃褐色 (内) 淡褐色		1区青灰色砂礫層
69図- 8	須恵器	坏	口径 (12.0) 受部径 14.6	1mm以下砂粒わずかに含む	良好	(外) 暗灰色 (内) 暗灰色		4区T-5北青灰色砂礫層
69図- 9	須恵器	坏	口径 (12.6)	2mm前後砂粒わずかに含む	良好	(外) 暗灰色 (内) 灰色	(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	
69図- 10	須恵器	坏		1mm以下砂粒わずかに含む	良好	(外) 赤褐色 (内) 淡褐色		1区青灰色砂礫層
69図- 11	須恵器	坏	口径 (11.0) 受部径 13.8 器高 4.0	1mm以下砂粒わずかに含む	良好	(外) 暗灰色 (内) 暗灰色	(外) ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	昭和35年表採
69図- 12	須恵器	坏	口径 11.2 受部径 13.7 器高 4.1	1~2mm大砂粒含む	良好	(外) 淡灰色	(外) 回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ (内) 回転ナデ	昭和35年表採

挿図番号	種類	器種	法量(cm)	胎土	焼成	色調	調整・手法の特徴・他	出土区・層
69図-13	須恵器	甕	頸径 7.0	密、1~2mm砂粒わずかに含む	良好	(外) 暗青灰色	(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	2区青灰色砂礫層
69図-14	須恵器	甕		密	良好	(外) 暗灰色	(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	I区青灰色砂礫層
69図-15	須恵器	高坏		密	良好	(外) 暗灰色	(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ 脚部2方向透し	昭和35年表採
69図-16	須恵器	壺	胴最大径 11.3 底径 6.8	1~2mm大砂粒含む	良好	(外) 灰色	(外) 胴部ケズリ、回転ナデ、底部ナデ (内) 胴部回転ナデ、底部ナデ	3区青灰色砂礫層
69図-17	須恵器	平瓶	頸径 6.6	1~2mm大砂粒含む	良好	(外) 灰色	(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	2区五段青灰色粘質土
69図-18	須恵器	長頸壺	底部 11.0	1mm大砂粒少量含む	良好	(外) 灰色	(外) 胴部回転ナデ (底付近回転ヘラケズリ) 底部ナデ (内) 胴部回転ナデ	昭和35年表採
69図-19	須恵器	甕		1mm大砂粒含む	良好	(外) 灰色	(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	I区青灰色砂礫層

土製品観察表

挿図番号	種類	法量(cm)	胎土	焼成	色調	備考	出土区・層
70図-1	土錘	直径 0.7	密	良好	(外) 橙色 (内) 着色		3区青灰色粘質土
70図-2	土錘	直径 0.95	密	良好	(外) 灰茶色 (内) 灰茶色		I区青灰色砂礫層
70図-3	土錘	直径 0.95	密	良好	(外) 茶褐色 (内) 茶褐色		5区青灰色粘質土
70図-4	土錘	直径 0.9 長 3.2	密	良好	(外) 茶色 (内) 茶色		5区青灰色砂礫層
70図-5	土錘	直径 2.2	密	良好	(外) 着色 (内) 着色	上下の端部を欠く	4区青灰色砂礫層
70図-6	土錘	直径 3.3	密	良好	(外) 淡茶色(一部褐色) (内) 淡茶色(一部黒色)		5区青灰色砂礫層
70図-7	土笛		大きめの長石、石英を多く含む	良	(外) 淡灰褐色 (内) 褐色	(外) ナデ (内) ナデ、指押え 外面に2本の沈線あり	5区暗灰色粘質土
70図-8	円盤状土製品	直径 10.2 厚さ 0.7	長石・石英粒を含む	良好	(外) 褐色 (内) 褐色	漆状の付着物あり	I区青灰色砂礫層

石器観察表

挿図番号	種類	法量(cm,g)	石材	備考	出土区・層
71図-1	石棒	縦25 横9.9 厚さ5.7 重さ2360		全体的に研磨されている	
71図-2	石棒	縦26.4 横12.3 厚さ8.6 重さ3620		全体的に研磨されているが、表面は粗い	
71図-3	石棒	縦14.2 横5.9 厚さ4.7 重さ510		全体的に研磨せれている	
71図-4	石棒	残存長9.85 横5.9 厚さ4.1 重さ300		表面は粗い。片面は凹凸あり	
71図-5	石棒	残存長9 最大幅13.8 厚さ11 重さ2050		全体的に研磨され、表面は滑らかである	
72図-1	擦石	縦12.1 最大幅10.1 最厚8.2 重さ1520		表面は全体的に研磨されているものと思われ、滑らかである。上下2ヶ所に擦痕がみられる	
72図-2	磨石	縦15.1 横8.8 厚さ4.7 重さ1190		全体に研磨されており表面は滑らか。擦痕は6ヶ所ある	
72図-3	磨石	縦13.1 横10.4 厚さ6.15 重さ1160		表面は全体的に研磨されていて滑らかである。擦痕が4ヶ所ある。片面中央に小さくぼみあり	
72図-4	磨石	残存長9.2 横9.1 厚さ4.8 重さ600		片面中央にくぼみあり。1ヶ所擦痕ある。全体的に研磨されているが表面は粗い	
72図-5	磨石	縦9.7 横7.5 厚さ2.5 重さ280		片面にかすかに擦痕あり、表面は全体的に研磨されており滑らか	
72図-6	磨石	縦8.6 横8.35 厚さ6.2 重さ660		全体的に研磨されており表面は滑らか。擦痕は1ヶ所	
72図-7	磨石	縦11.4 横8.2 厚さ6.5 重さ940		全体的に研磨されている。片面中央にくぼみがあり、1ヶ所擦痕ある	
72図-8	磨石	縦11.1 横8.9 厚さ4.1 重さ630		両面に2ヶ所ずつくぼみあり	
73図-1	石皿	残存部最大径29.4 重さ4210		石の中央部がすり鉢状にくぼんでいる(直径26cm)	
73図-2	石皿	残存部最大径25.6 厚さ7.8 重さ1090		片面にくぼみあり	
74図-1	石斧	残存長13.6 最大幅9.3 最大厚7.2 重さ1090		刃部の片面は研磨されている。先端は使用により少々欠損	
74図-2	石斧	残存長11 最大幅6 最大厚4 重さ400		刃部は両面とも研磨されている。刃端部はわずかに欠損している	

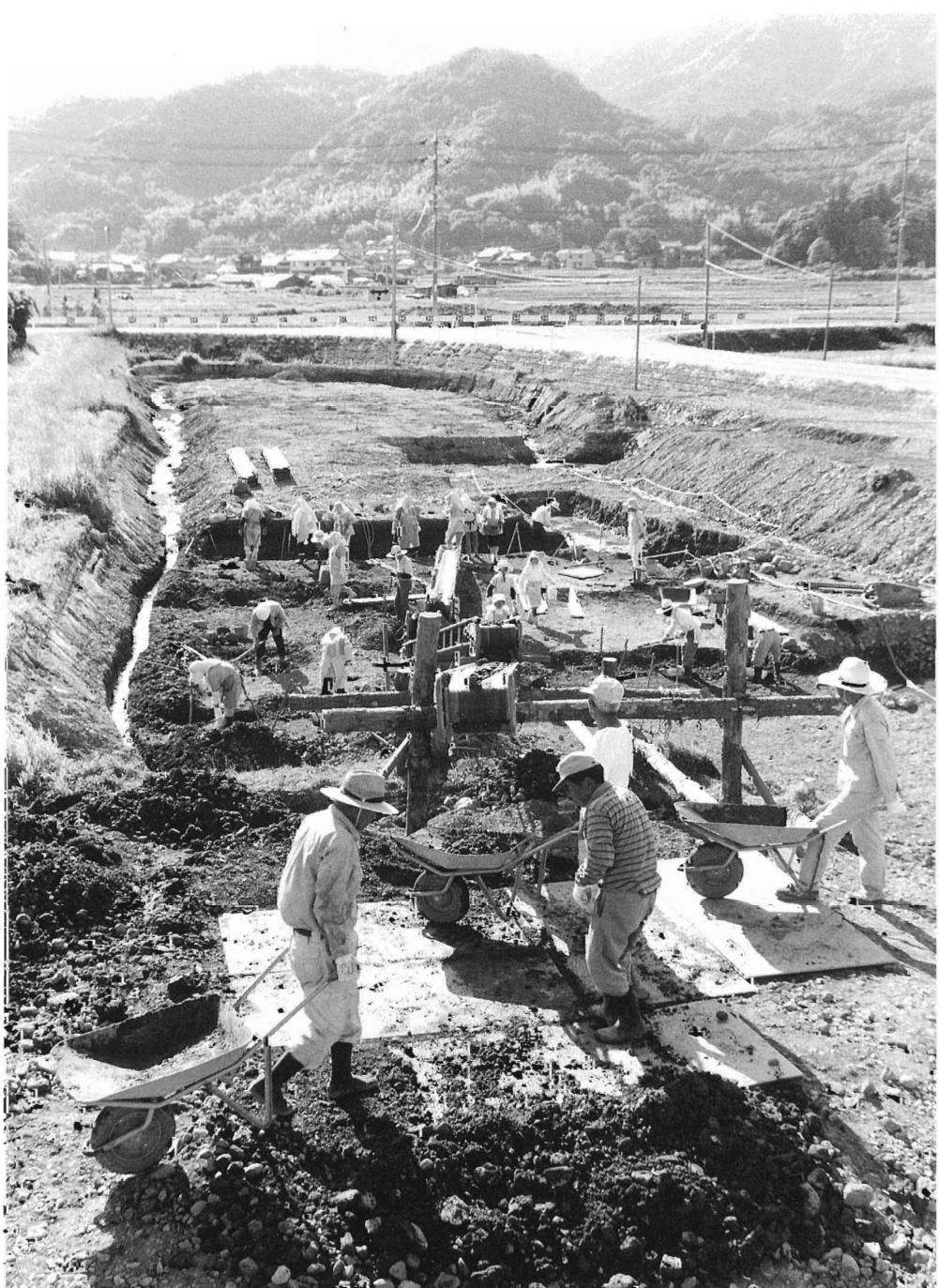
挿図番号	種類	法 量(cm,g)	石材	備 考	出土区・層
74図- 3	石棒	残存長22.3 最大幅4.5 最大厚3.4 重さ610		表面は全体的に研磨されており、滑らかであるがかすかに擦磨が入る	
74図- 4	砥石	残存長17.6 最大幅4.4 最大厚4.3 重さ470		4面の中央は逆アーチ状に磨滅	
75図- 1	転用石器	縦14.5 横5.3 厚さ2 重さ159.84		側面が研磨され刃状に加工されている	
75図- 2	スクレイパー	縦4.0 横6.2 厚さ1.7 重さ31.70	安山岩	使用痕顯著	
75図- 3	スクレイパー	縦4.6 横4.1 厚さ0.7 重さ14.65	黒曜石	打痕	
75図- 4	スクレイパー	縦6.0 横7.5 厚さ1.35 重さ52.83	黒曜石		
75図- 5	スクレイパー	縦7.5 横4.1 厚さ1.0 重さ25.16	黒曜石		
75図- 6	スクレイパー	縦6.5 横6.4 厚さ1.2 重さ45.87	黒曜石		

木 製 品 觀 察 表

挿図番号	種類	法 量(cm)	樹 種	形 態 の 特 徴 ・ そ の 他	出土区・層
76図- 1	櫂	全長(残存長) 82.5 水搔き部の長さ 22.5 水搔き部の幅 6.7	スギ		4区粘質土層
76図- 2	櫂	全長(残存長) 86.5 水搔き部の長さ 34.1 水搔き部の幅 8.9	スギ		5区粘質土層
76図- 3	櫂	全長(残存長) 88.7 水搔き部の長さ 29.5 水搔き部の幅 9.2	スギ		4区粘質土層
77図- 1	櫂	全長(残存長) 76.5 水搔き部の長さ 26.2 水搔き部の幅 6.9	スギ		4区粘質土層
77図- 2	櫂	全長(残存長) 49.0 水搔き部の長さ 20.4 水搔き部の幅(残存幅) 4.6		杭に再利用	4区粘質土層
77図- 3	櫂	全長(残存長) 36.9 水搔き部の厚さ 1.9 水搔き部の幅 10.1			4区粘質土層
78図- 1	火鑓臼	全長(残存長) 19.6 厚さ 1.8 最大幅 2.9	スギ		4区粘質土層
78図- 2	梯子	全長(残存長) 87.7 幅 5.3 板部の厚さ 2.6	スギ	足掛けの断面はおそらく半円形に近い、全体にタテに割れて半分は欠損	5区粘質土層
78図- 3	梯子	全長(残存長) 14.8 最大厚 2.8 最大幅 5.7			4区青灰色粘質土層
78図- 4	編台目盛版	全長 72.0 高さ 1.8 幅 1.8	スギ		4区暗青灰色粘質土層
78図- 5	布巻具	全長 66.8	スギ		4区暗青灰色粘質土層
78図- 6	布巻具	全長 59.0 厚さ 1.7 幅 5.0	スギ	片面には工具痕が認められる。両端部付近には各々4cm程の削りあり	5区茶褐色粘質土層
78図- 7	蓋	全長 37.1 最大厚 2.8 最大幅 11.9		焼痕あり	4区粘質土層
79図- 1	農具(鋤)	全長(残存長) 57.5 最大幅 3.0	アカガシ		
79図- 2	農具(鋤)	全長(残存長) 42.8 最大厚 2.1 最大幅 13.0	アカガシ		
79図- 3	農具(鋤)	全長(残存長) 41.7 最大幅 2.9	アカガシ		
79図- 4	農具(鋤)	全長(残存長) 35.0 最大幅 2.7			
80図- 1	農具(?)	全長(残存長) 60.0 厚さ 1.8 最大幅 17.6	スギ		4区暗灰色粘質土層
80図- 2	田船	最大厚 7.8 幅 34.9	ヒノキ		4~5区粘質土層
80図- 3	盾形木製品	全長 28.8 厚さ 1.1 最大幅 16.0	スギ		4区暗灰色粘質土層
80図- 4	盾形木製品	全長 31.2 厚さ 0.8 最大幅 16.2			4区暗灰色粘質土層
80図- 5	把頭	全長(残存長) 6.9 把頭端長さ 2.3 把頭端幅 2.8	アカガシ		4区粘質土層

挿図番号	種類	法量(cm)	樹種	形態の特徴・その他	出土区・層
81図-1	杭	全長(残存長) 78.7			4~5区
81図-2	杭	全長(残存長) 77.4			4~5区
81図-3	杭	全長(残存長) 59.2			4~5区
81図-4	杭	全長(残存長) 58.4			4~5区
81図-5	杭	全長(残存長) 59.4			4~5区
81図-6	杭	全長(残存長) 55.2			4~5区
81図-7	杭	全長(残存長) 57.5			4~5区
81図-8	杭	全長(残存長) 31.0 最大厚 2.1 最大幅 3.5			4~5区
81図-9	杭	全長(残存長) 29.1			4~5区
81図-10	杭	全長(残存長) 46.3			4~5区
81図-11	杭	全長(残存長) 37.3 最大厚 2.0 最大幅 2.5			4~5区
81図-12	杭	全長(残存長) 38.7			4~5区
81図-13	杭	全長(残存長) 42.5			4~5区
81図-14	杭	全長(残存長) 45.4			4~5区
82図-1	杭	全長(残存長) 49.6			4~5区
82図-2	杭	全長(残存長) 49.2			4~5区
82図-3	板材	全長(残存長) 48.5 最大厚 1.9 最大幅 9.8			
82図-4	板材	全長 11.1 最大厚 1.4 残存幅 5.2			5区暗茶褐色粘質土層
82図-5	不明木製品	全長(残存長) 15.4 最大厚 2.2 最大幅 16.6(片方8.3)			5区茶褐色粘質土層
82図-6	栓状木製品	残存長 7.3			3区
82図-7	不明木製品	全長(残存長) 17.1 最大厚 2.7 最大幅 4.8			2区青灰色砂礫層
83図-1	建材	全長(残存長) 130.5 最大幅 12.2			4区粘質土層
83図-2	建材	全長(残存長) 135.0 最大幅 9.5			4区粘質土層
84図-1	建材	全長(残存長) 121.3 最大厚 4.0 最大幅 16.0	9×7 (cm) のホゾ穴を持つ、断面台形である。		4区粘質土層
84図-2	建材	全長(残存長) 118.0 最大厚 4.6 最大幅 10.7			3区茶褐色粘質土層
85図-1	柱材	径 12.0			5区
85図-2	柱材	径 16.2			5区
85図-3	柱材	径 14.4			5区
85図-4	柱材	径 12.6	クリ		5区
85図-5	柱材	径 12.0	クリ		5区
85図-6	柱材	径 13.2	モミ		5区
85図-7	柱材	径 12.0	クリ		5区

図版



作業風景

図版1



夫手遺跡遠景（西より）



夫手遺跡近景（東より）



2 区
縄文土器出土状況



1 区
土師器甕出土状況



3 区
土師器細片出土状況

図版 3



3 区南壁土層堆積状況



4 区木製品出土状況

図版 4



SB-01（手前）・SB-02（奥）検出状況

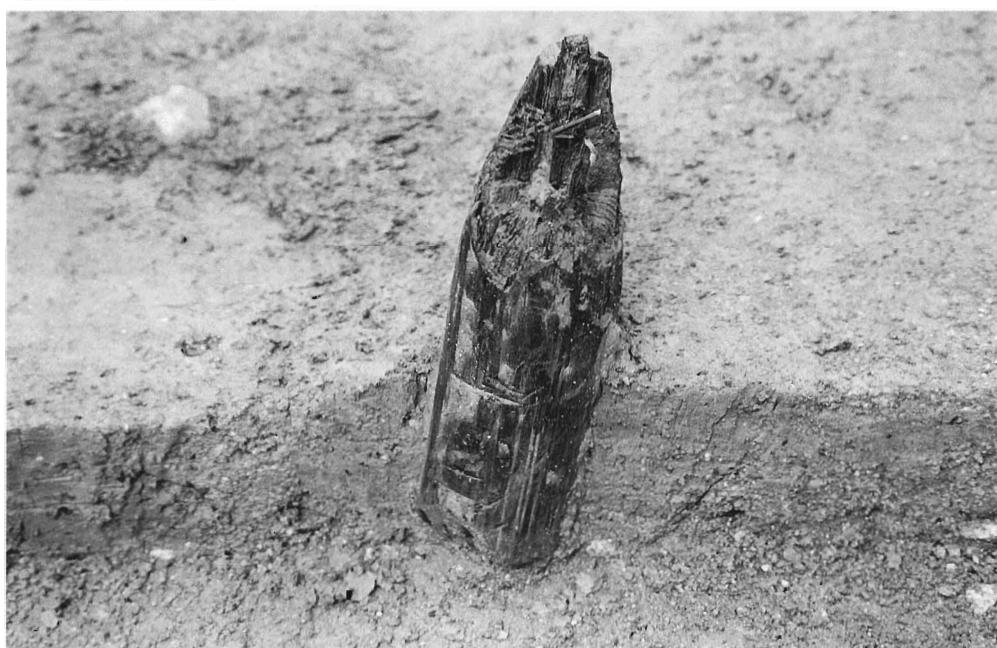


4・5区調査終了後風景

図版 5



SB - 01
柱根検出状況



SB - 02
柱根検出状況



杭出土状況



5 区
柱根および
遺物出土状況

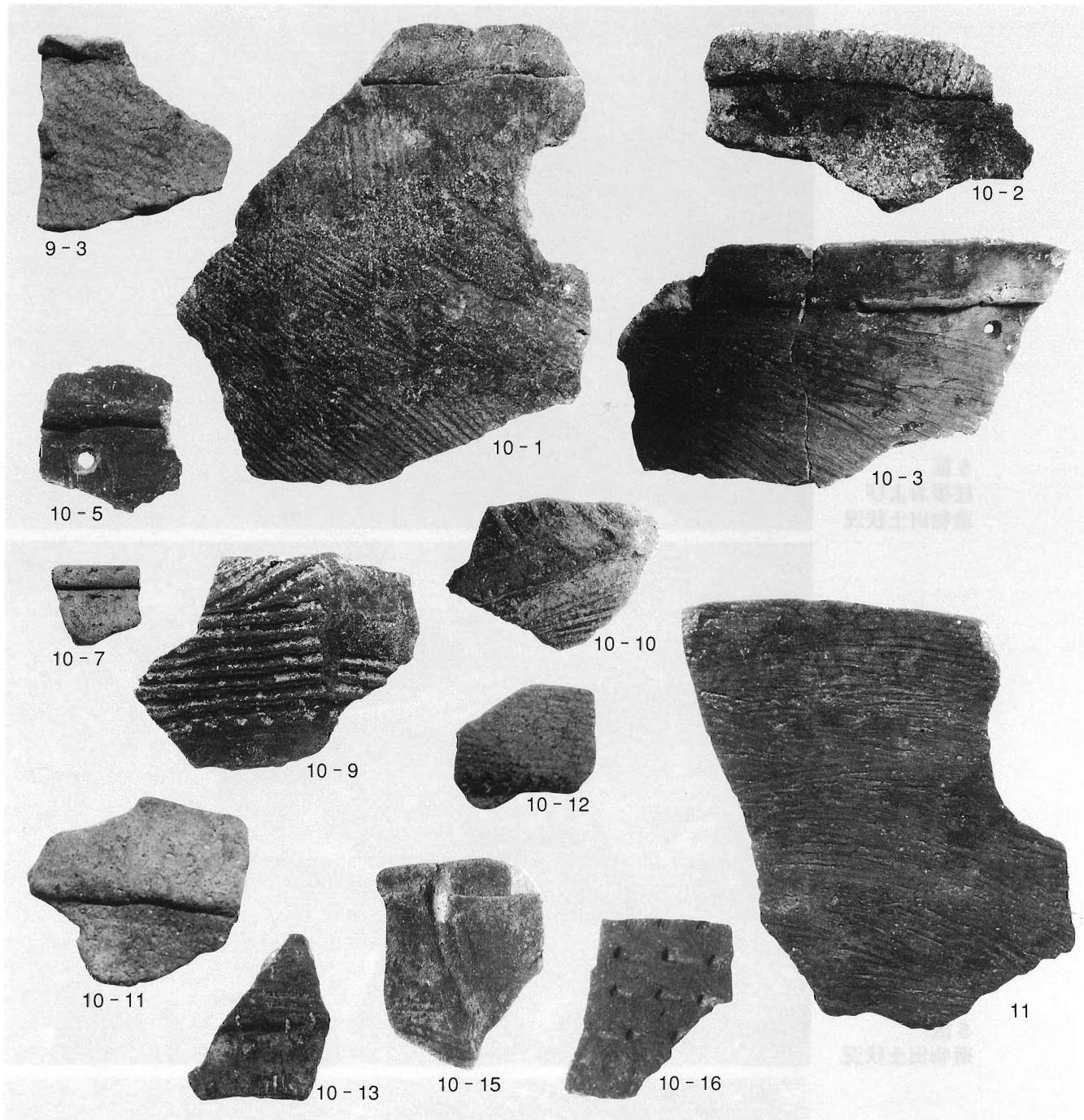


5 区
遺物出土状況



5 区
櫛出土状況

図版 7

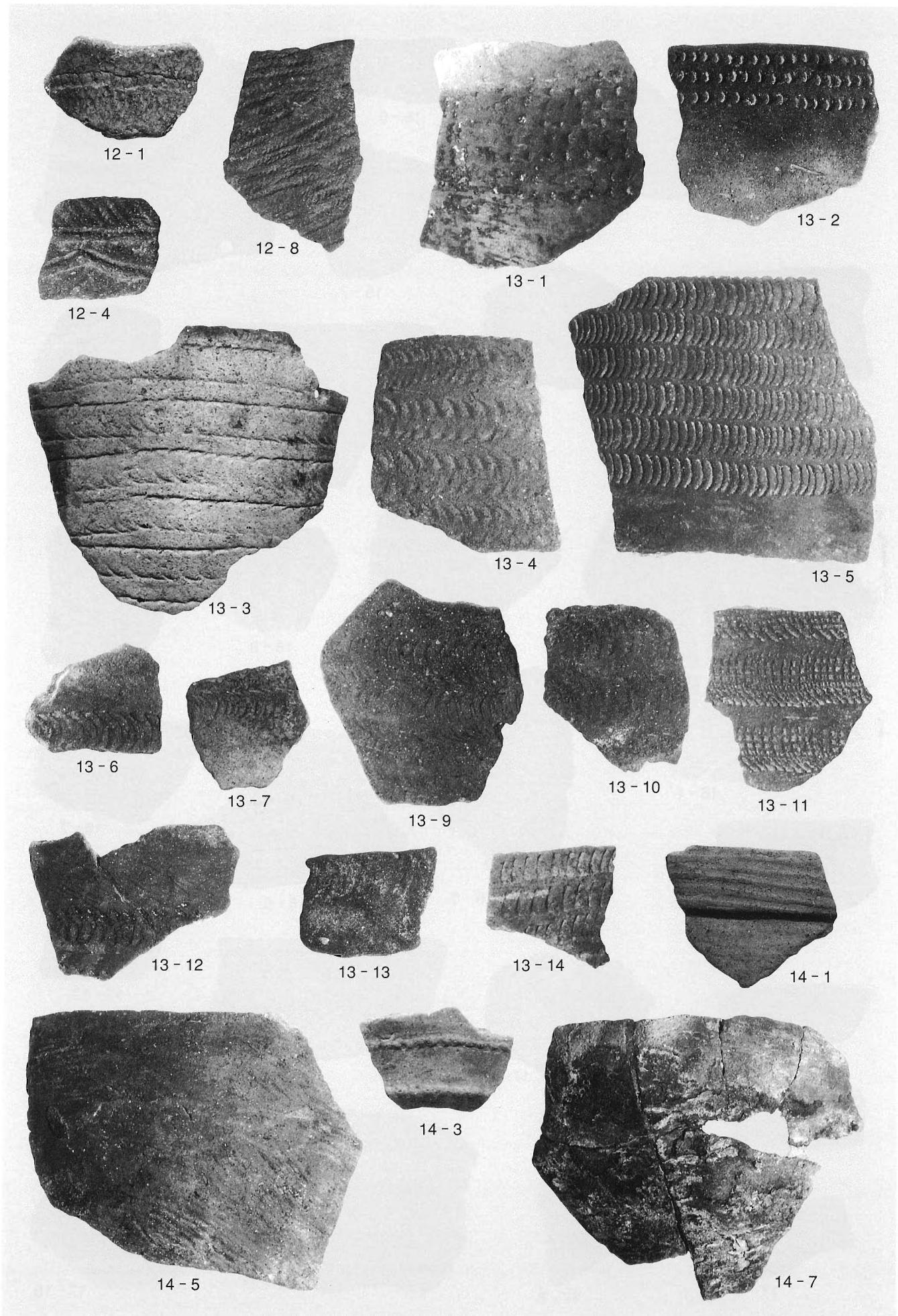


10 - 8

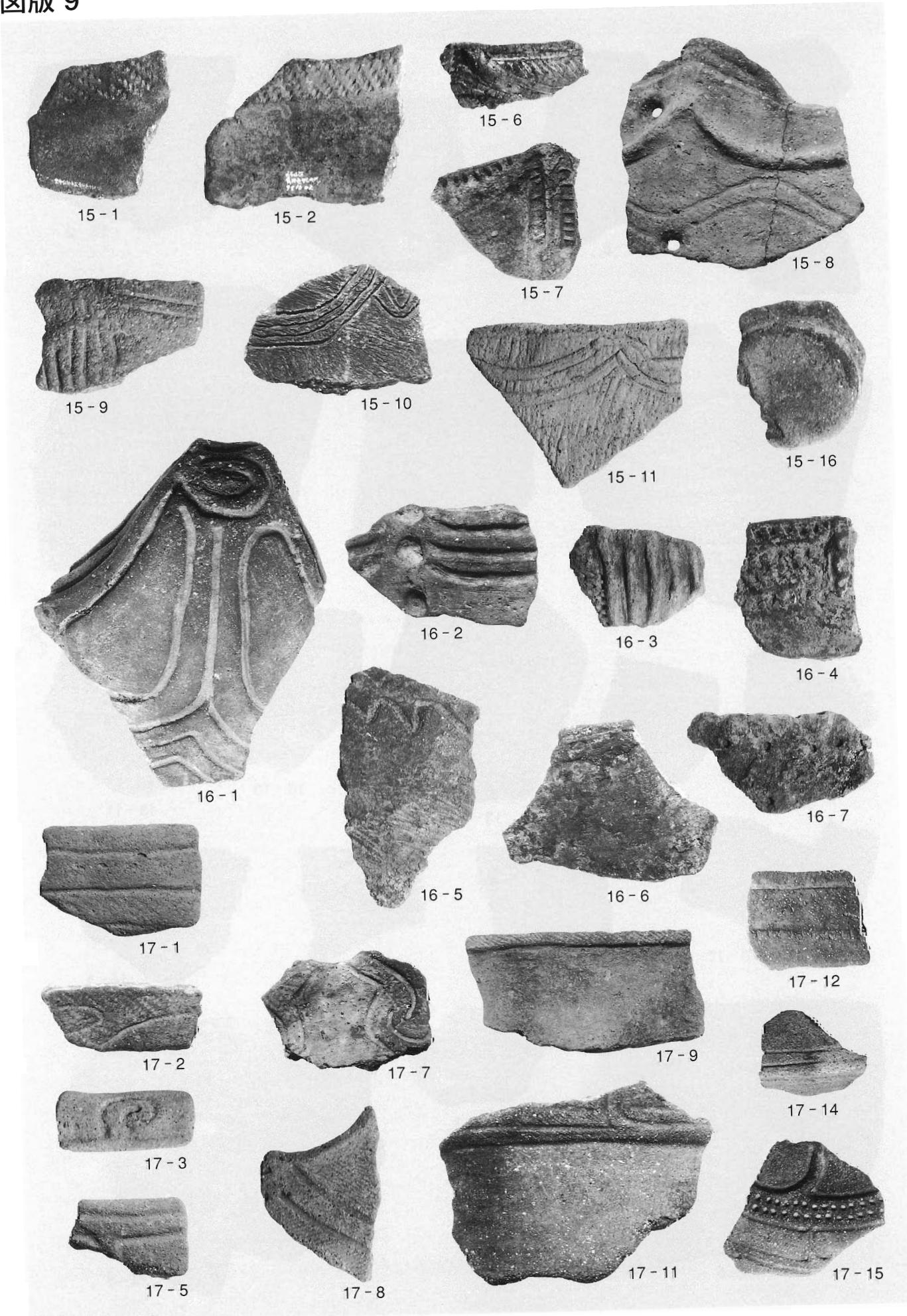


10 - 8 内面

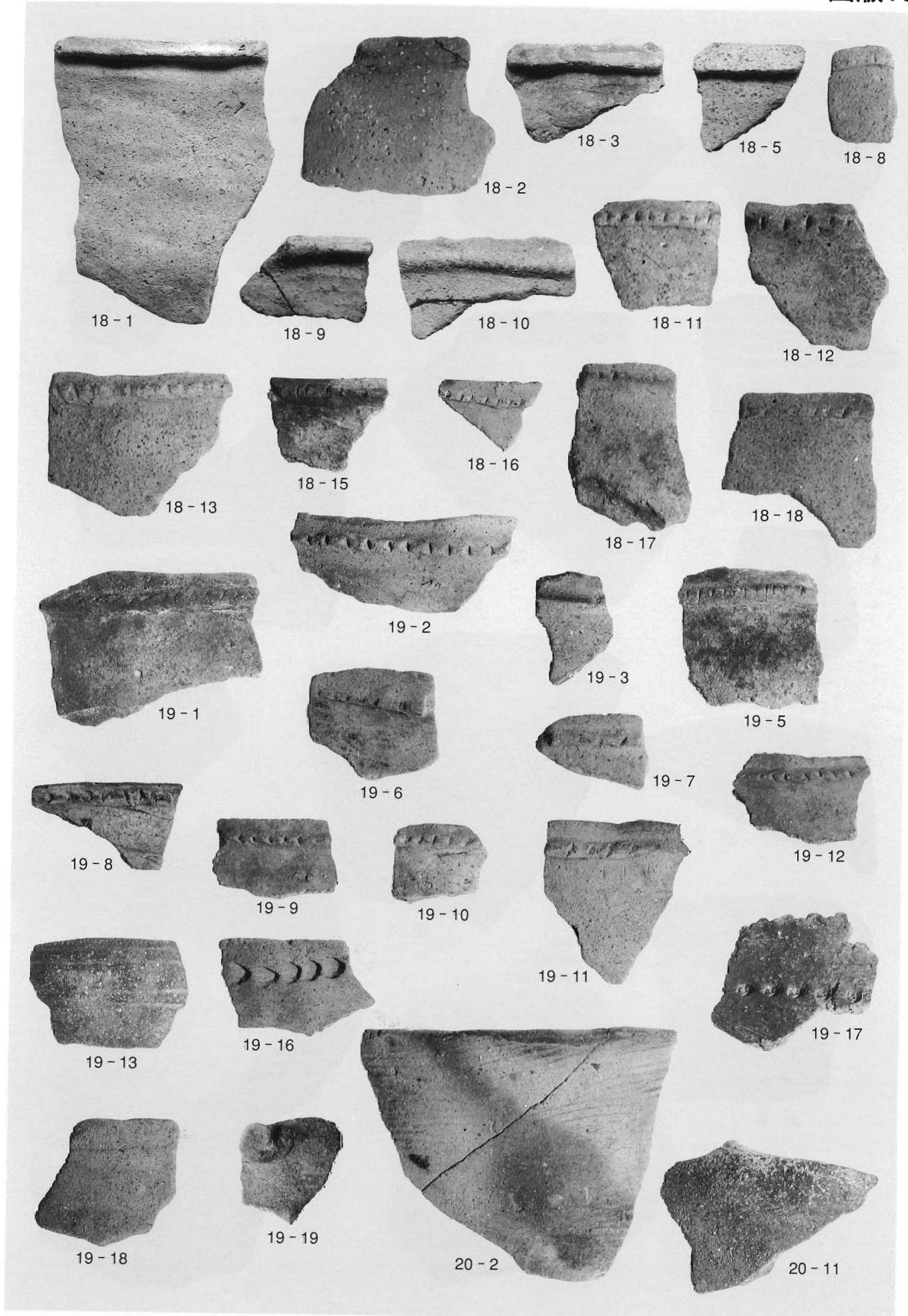
図版 8



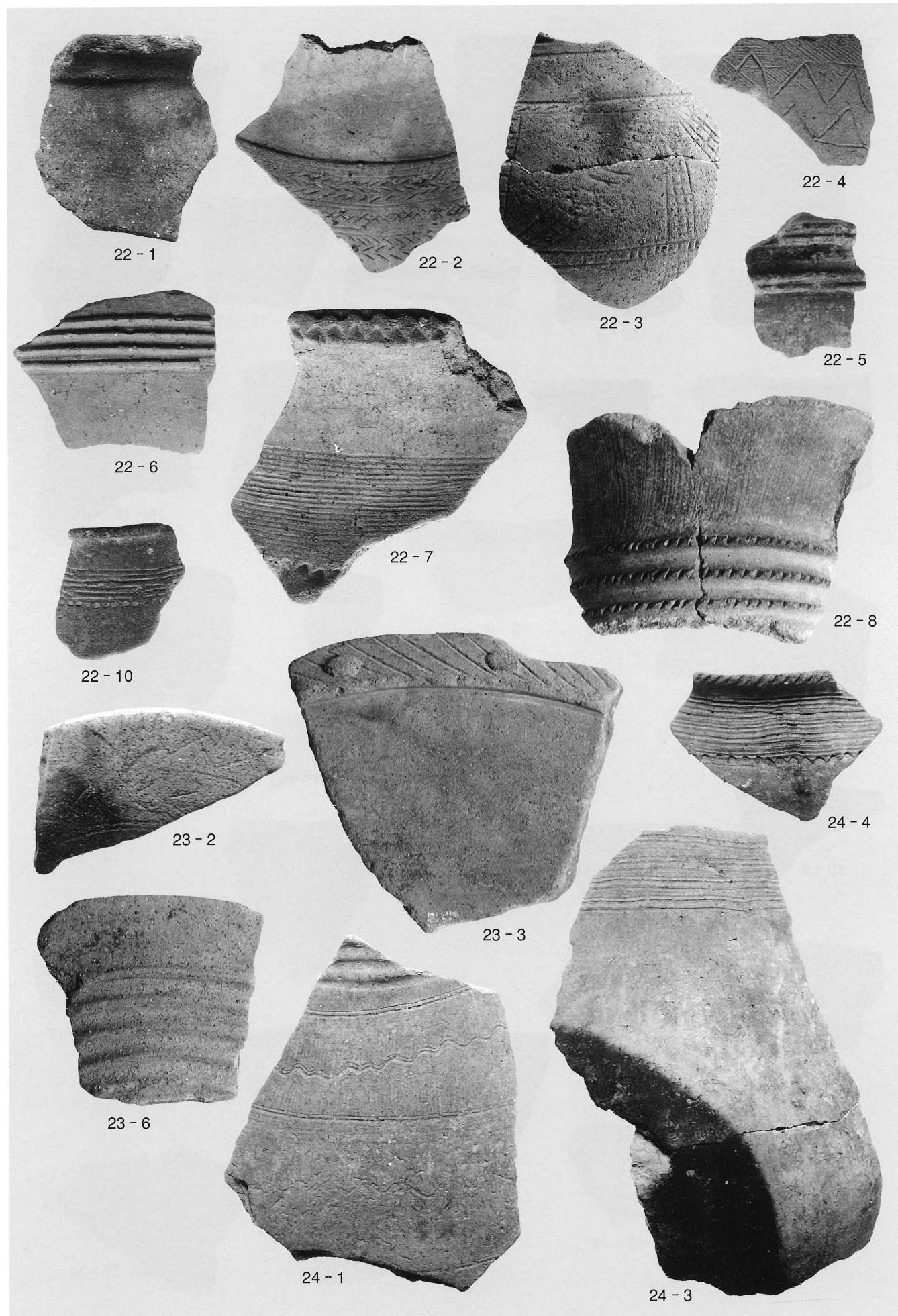
図版 9

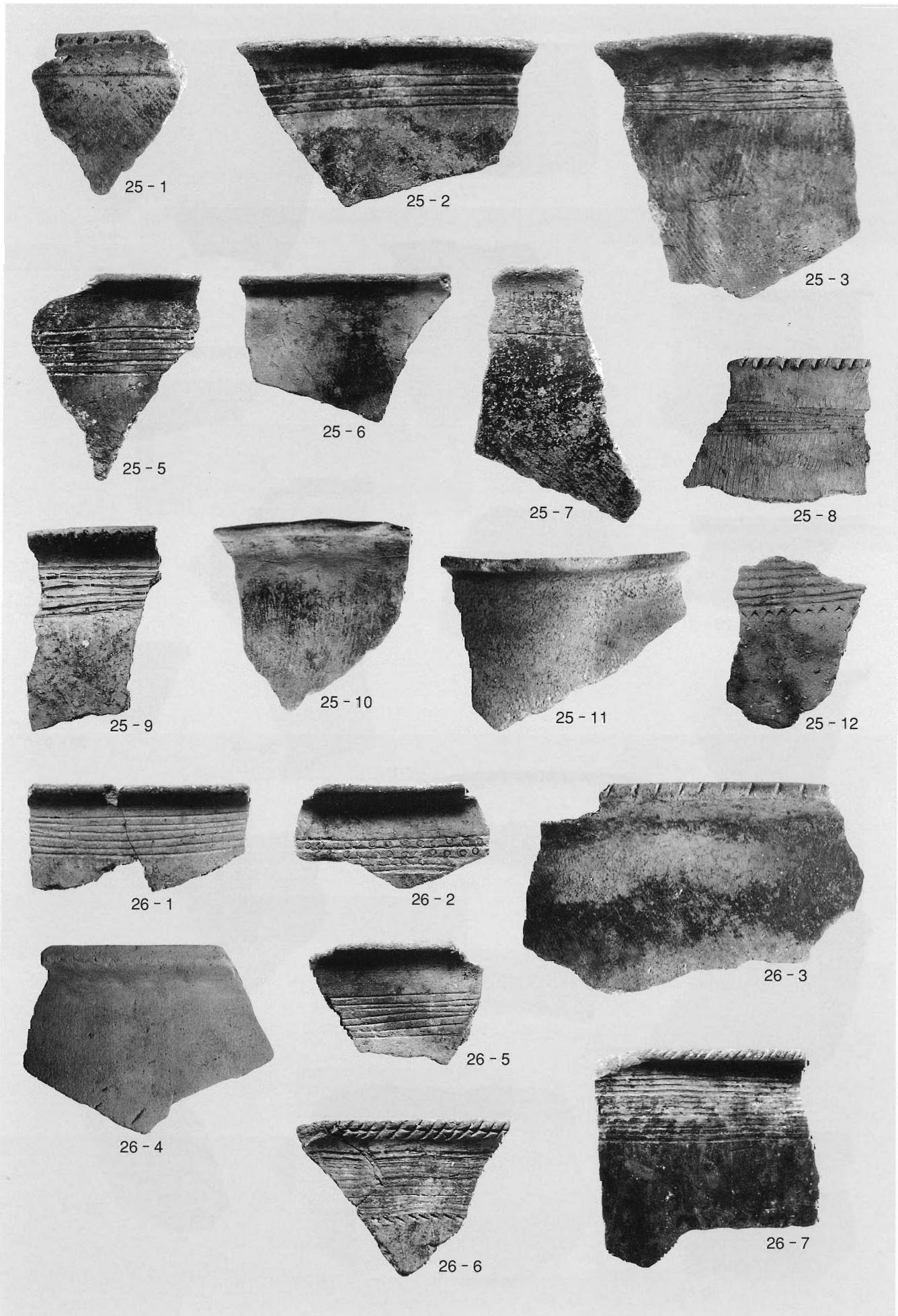


図版10

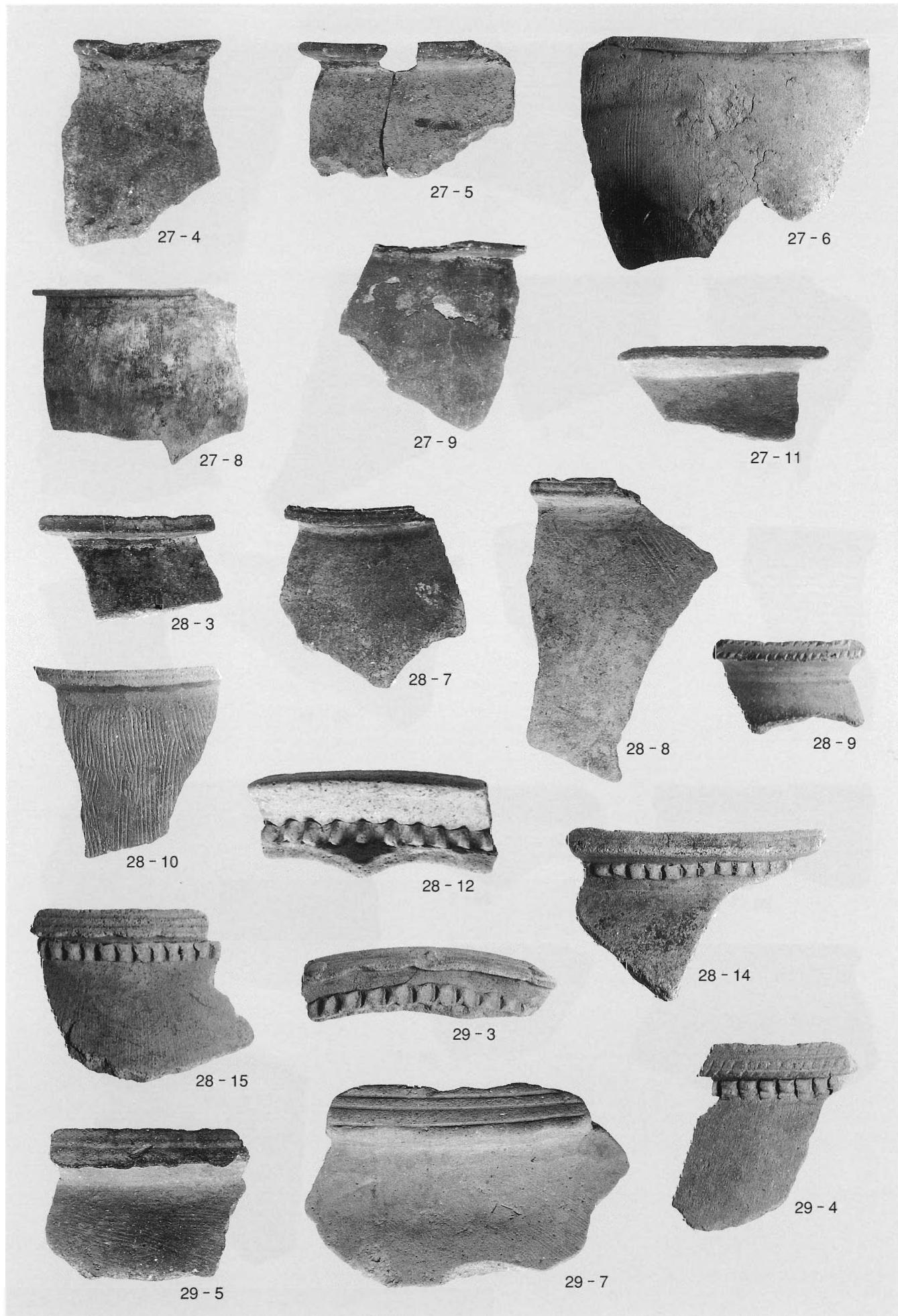


図版11

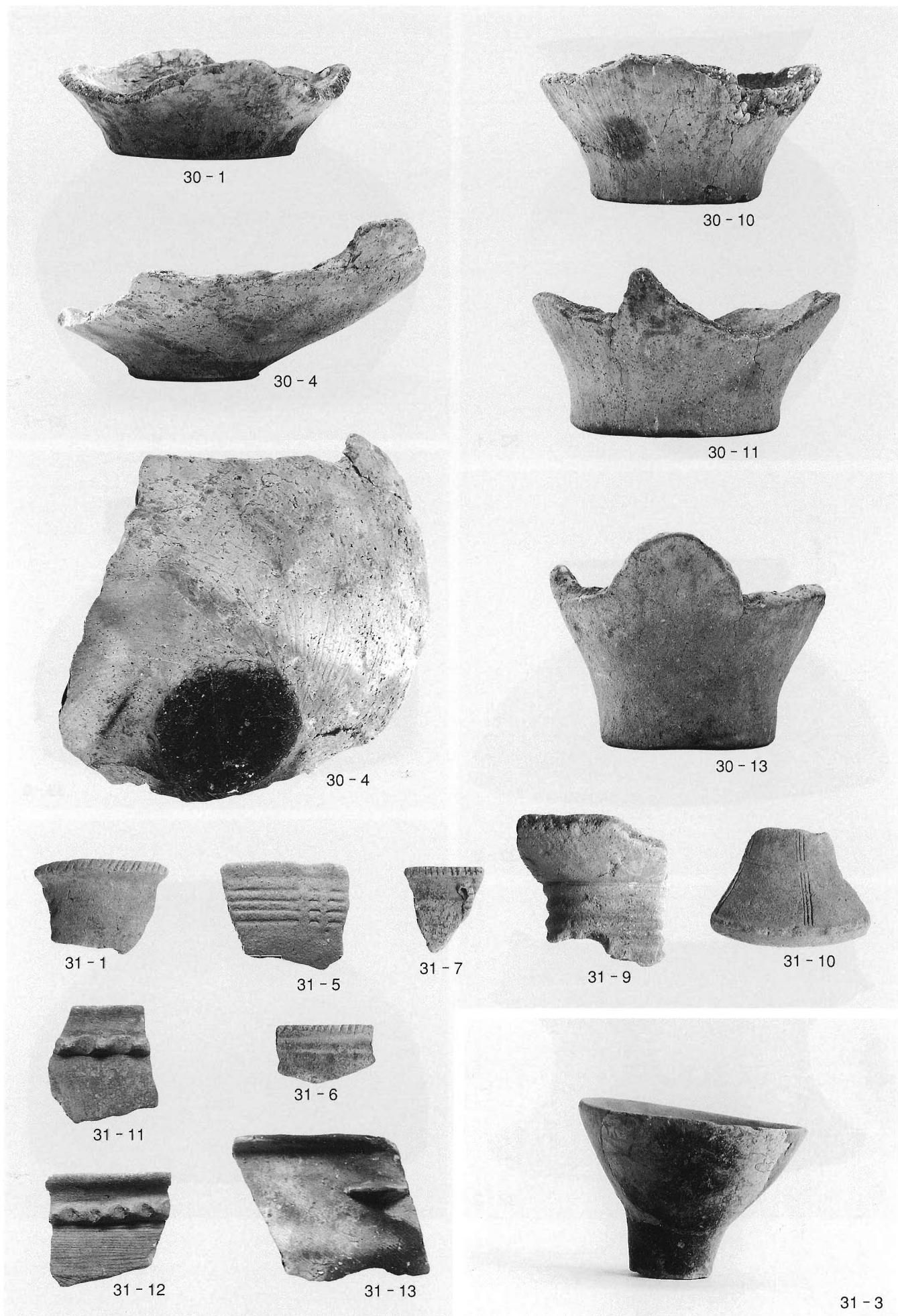




図版13



図版14



図版15



32 - 1



33 - 7



32 - 2



33 - 8



32 - 2



35 - 1

図版16



35-2



38-1



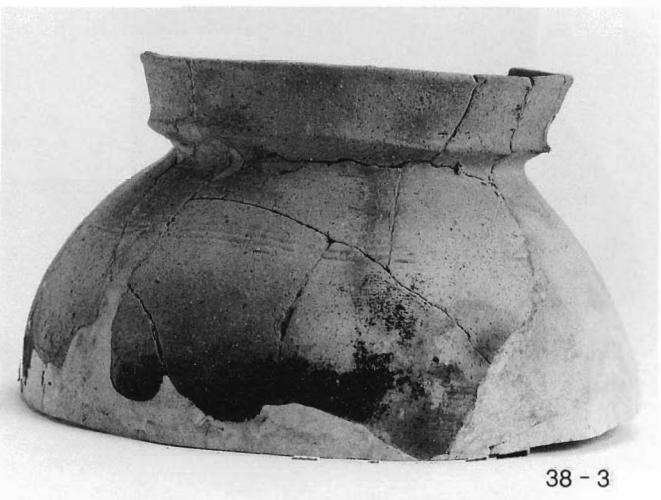
36-8



38-2



37-2



38-3



37-5

図版17



38-4



42-1



40-11



42-3



40-12



42-12



43 - 9



43 - 10



44 - 10



45 - 1

図版19



45 - 3



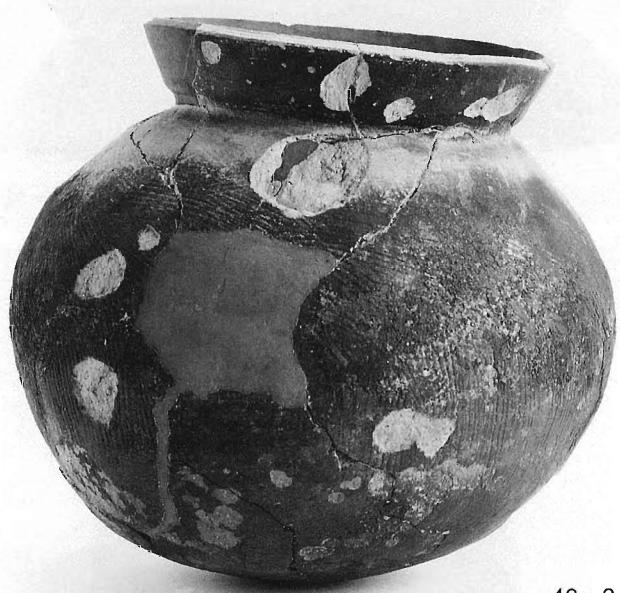
46 - 4



45 - 4



47 - 13

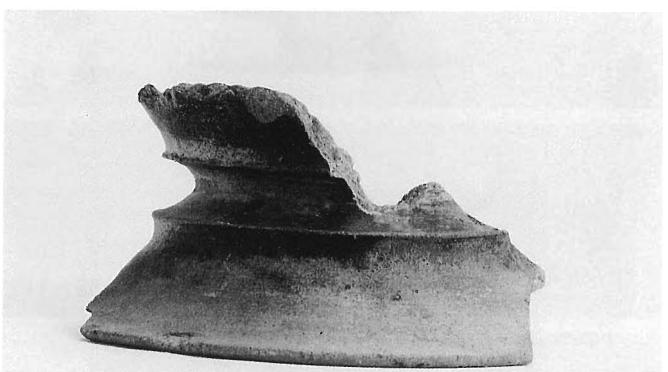


46 - 3

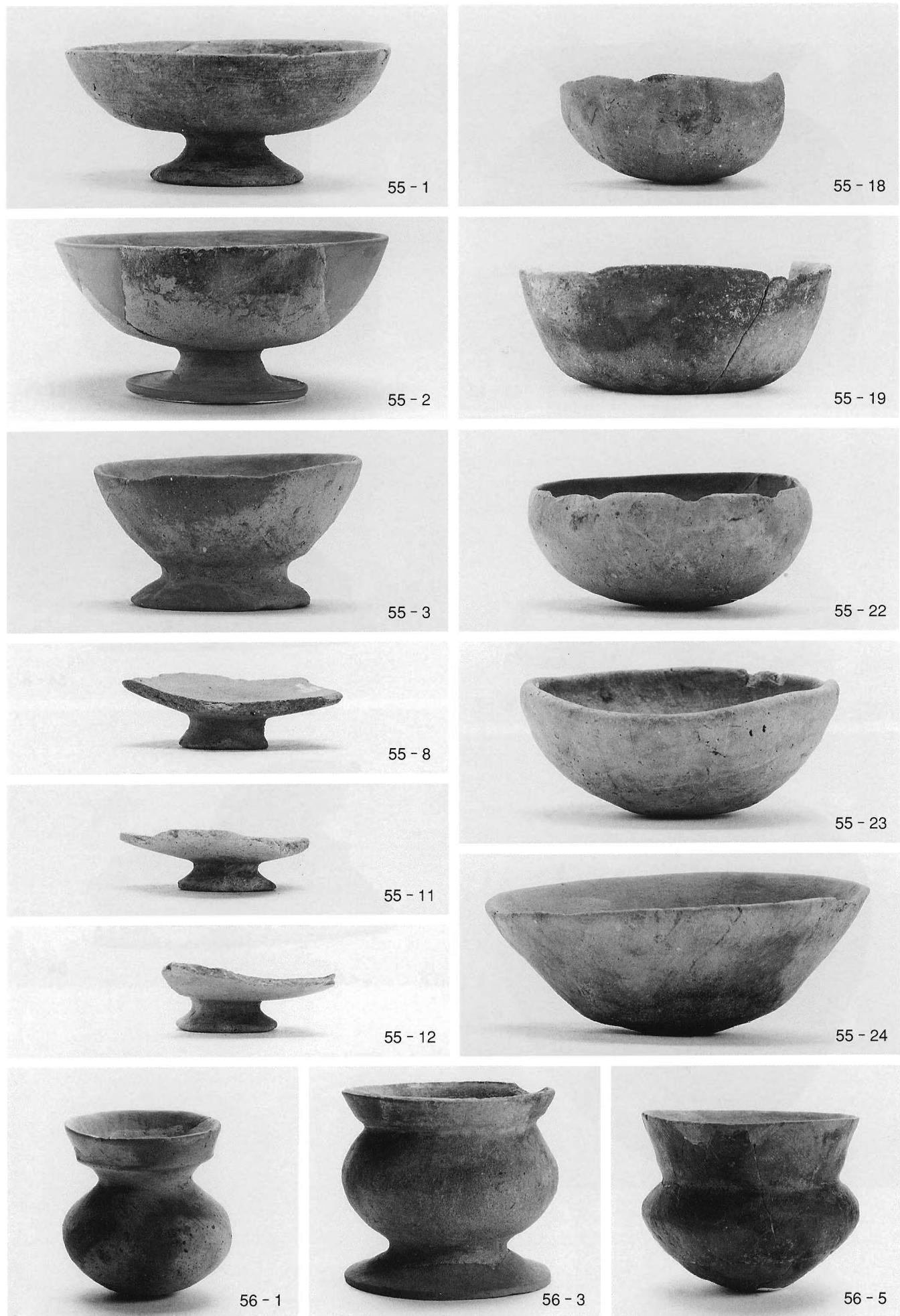


47 - 14

図版20



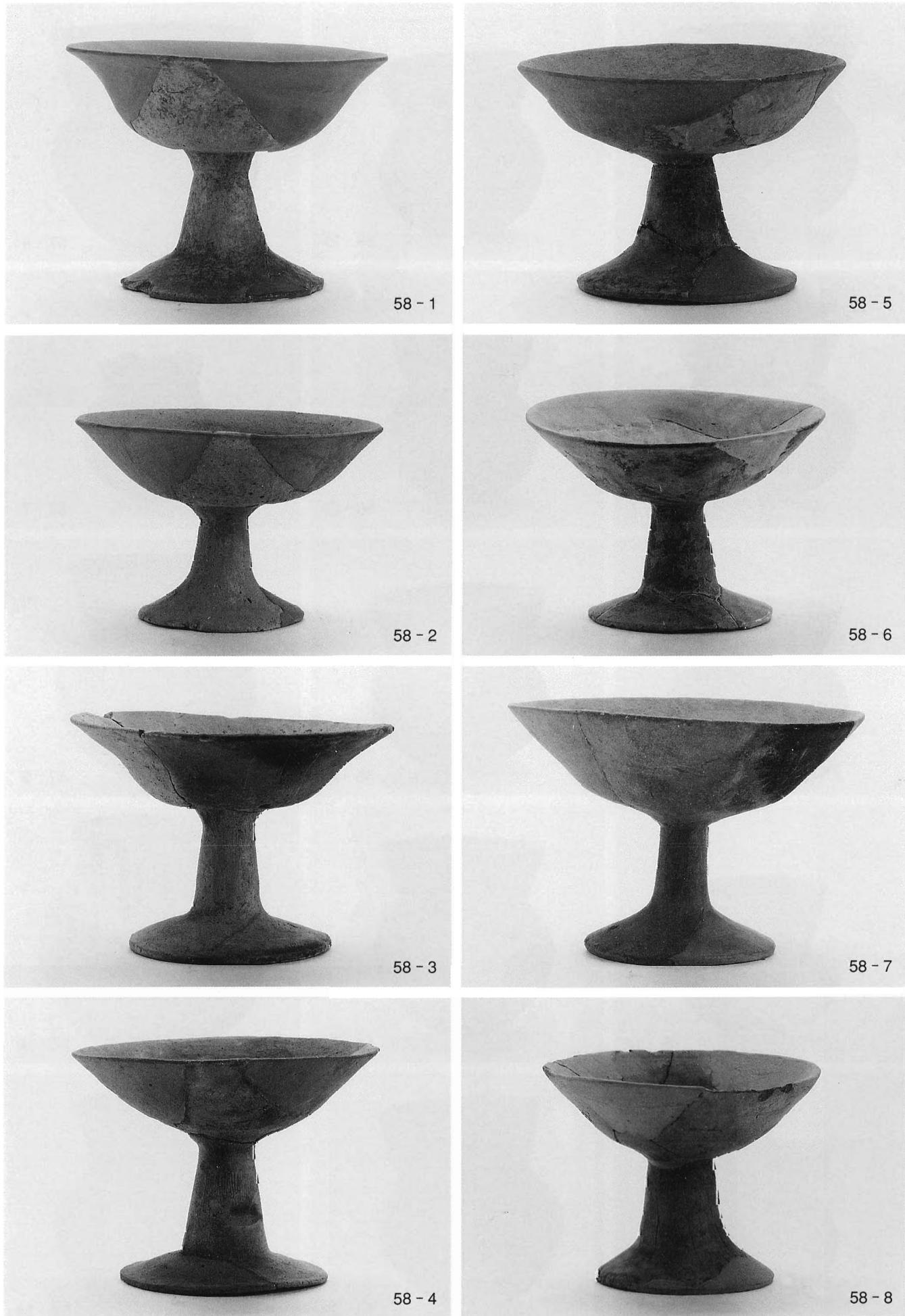
図版21



図版22



図版23





58 - 9



59 - 3



58 - 10



62 - 1



59 - 1



62 - 2

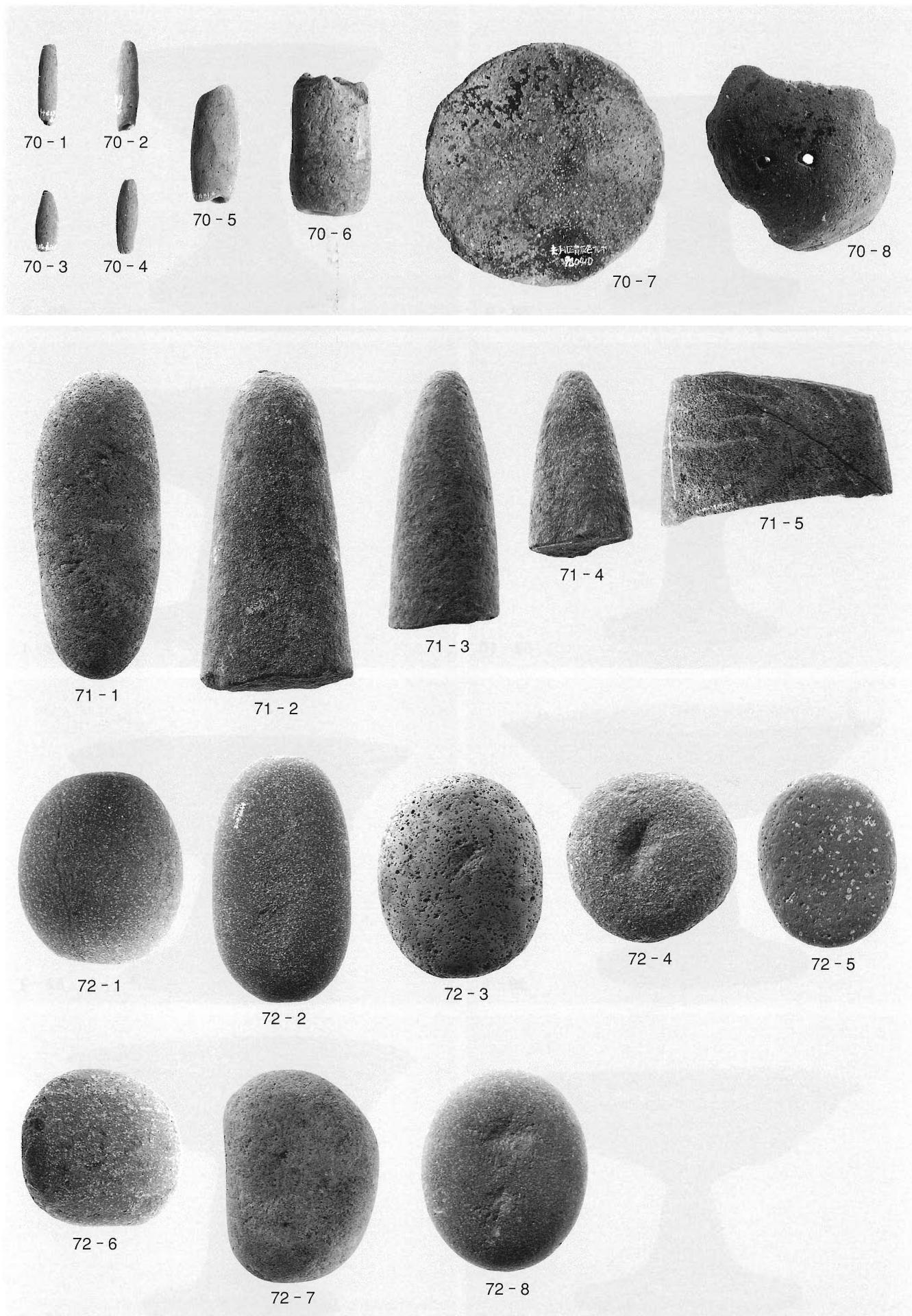


59 - 2

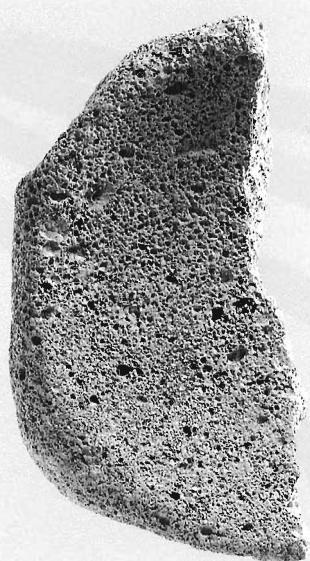


62 - 3

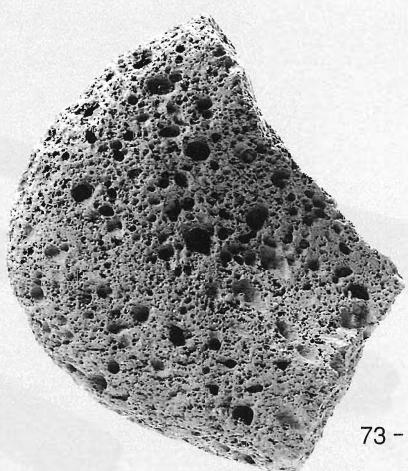
図版25



図版26



73 - 1



73 - 2



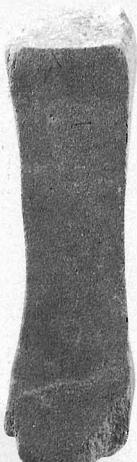
74 - 1



74 - 2



74 - 3



74 - 4



75 - 1



75 - 2



75 - 3



75 - 4

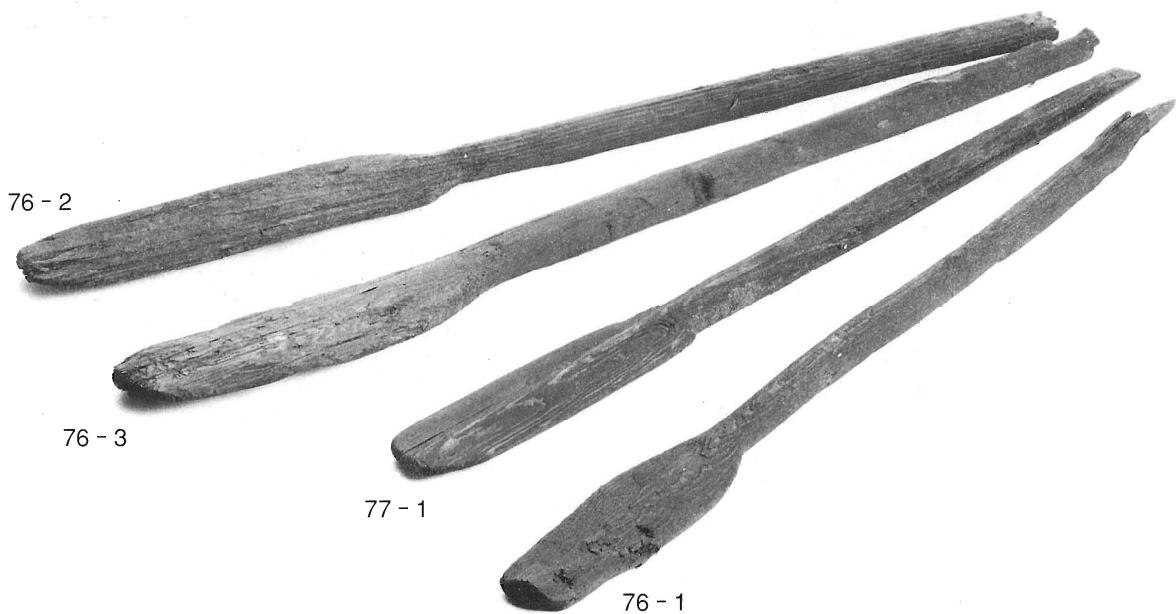


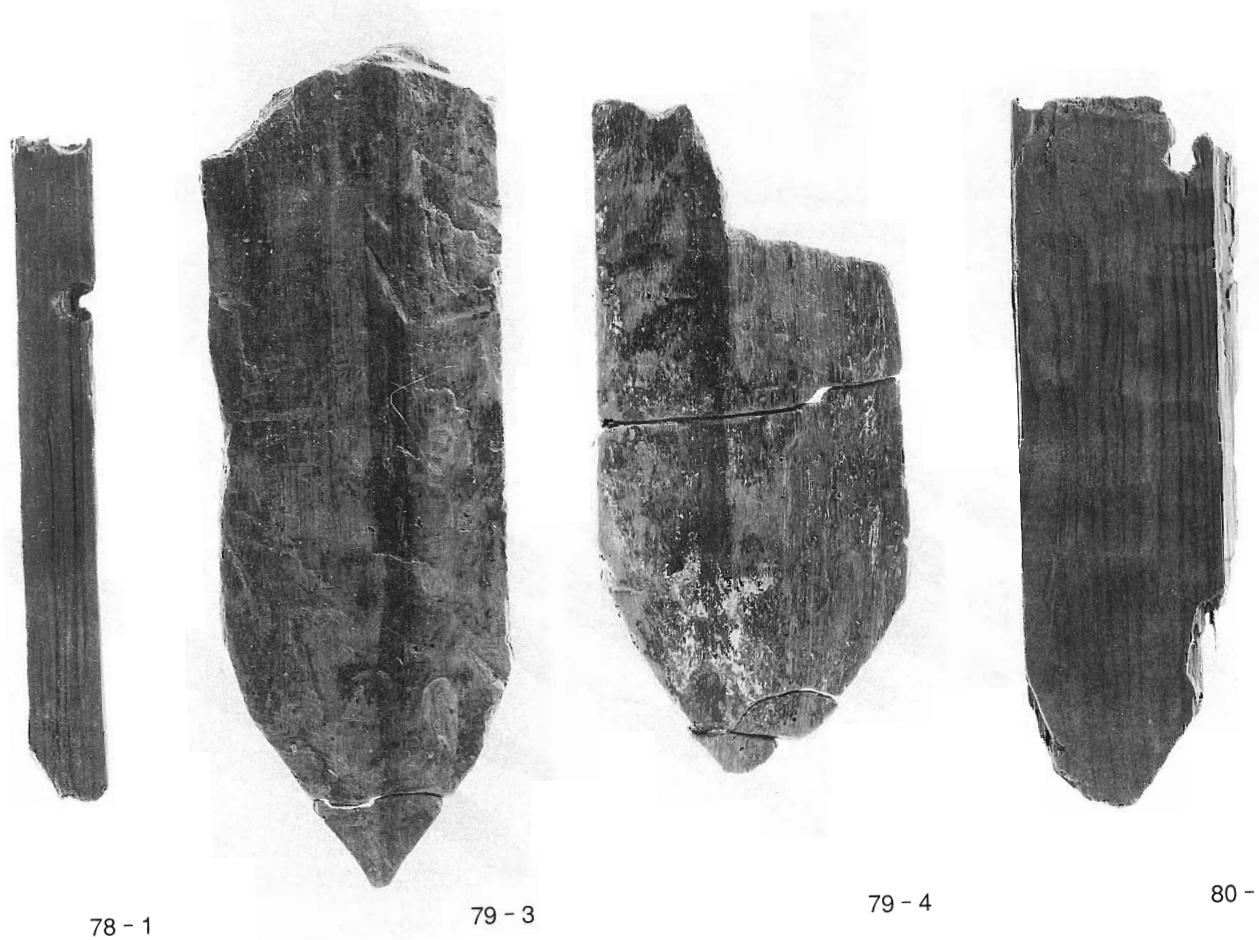
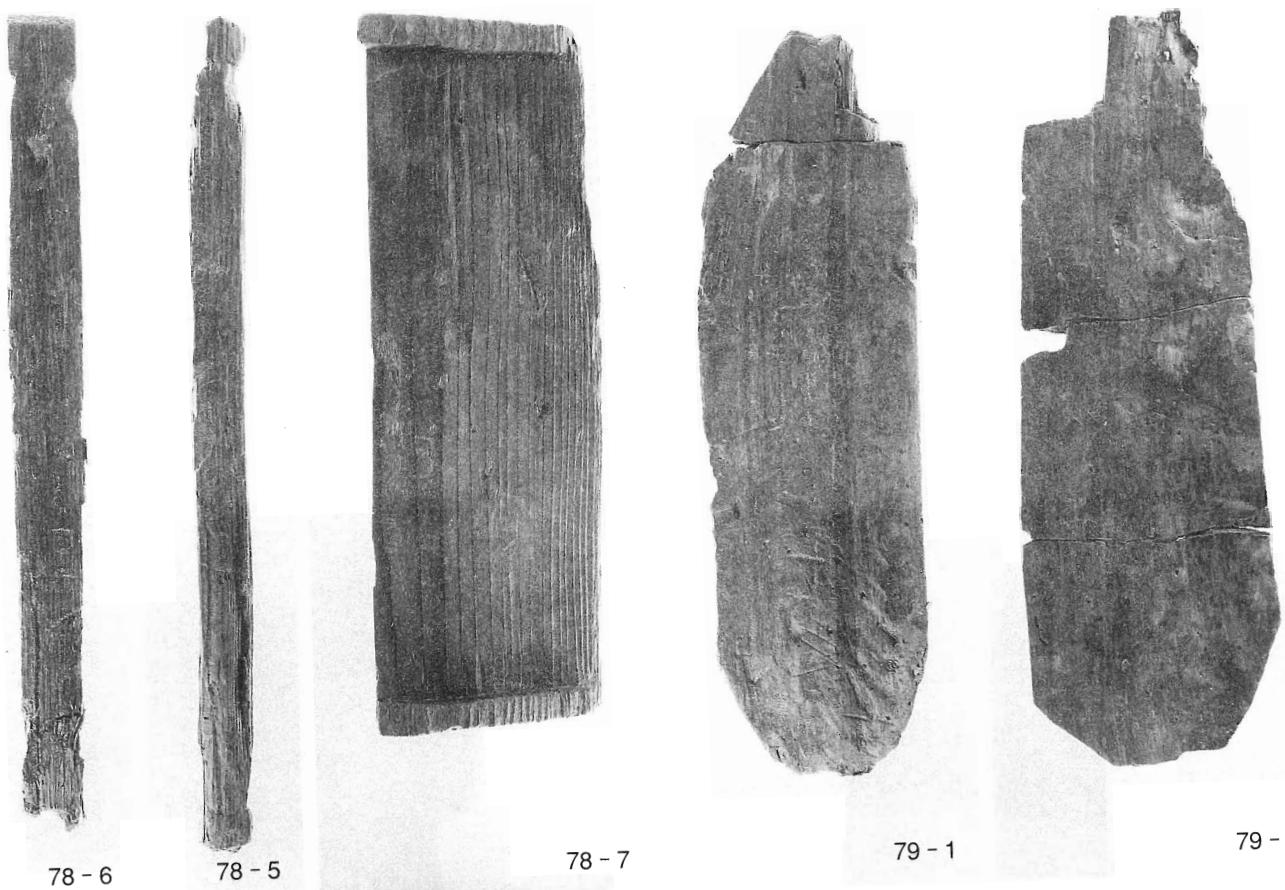
75 - 5



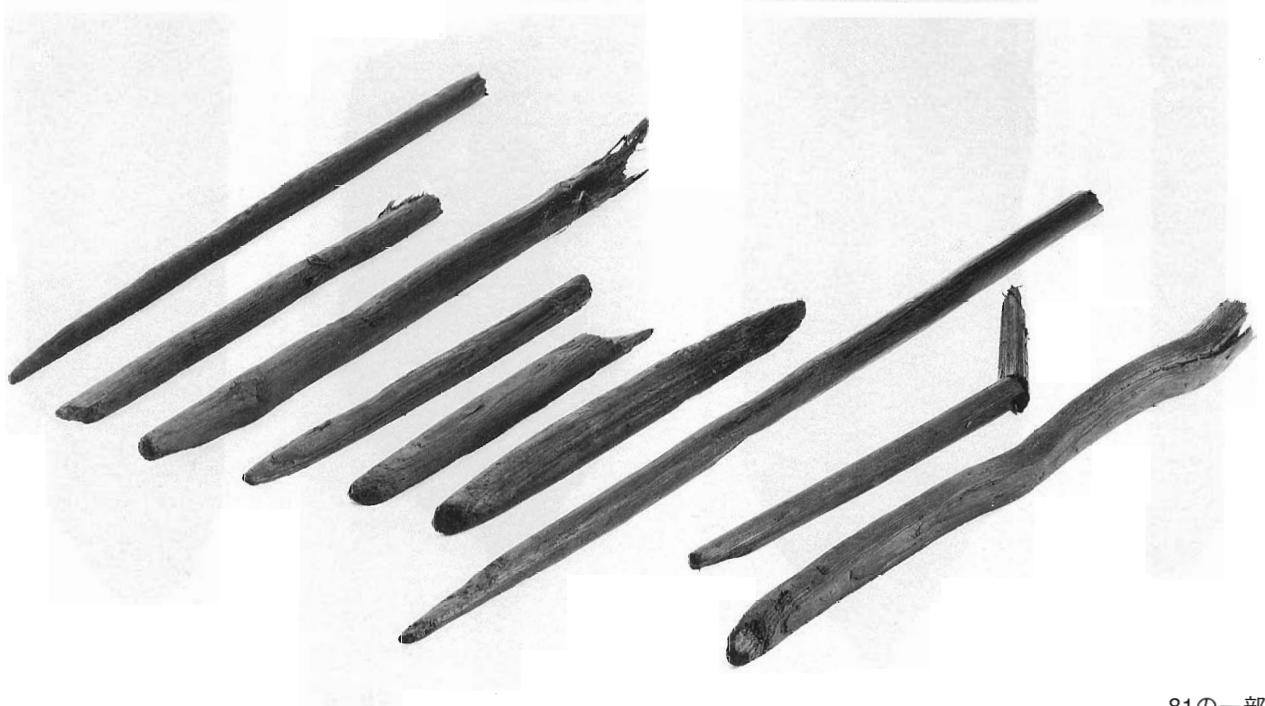
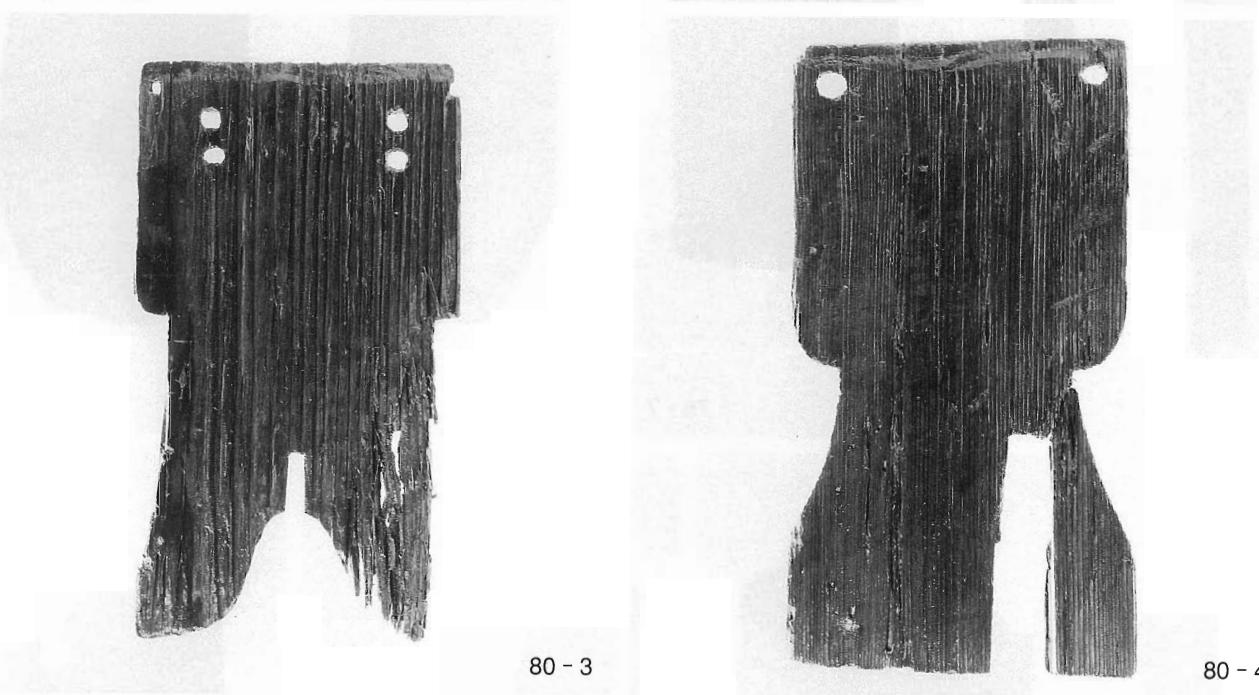
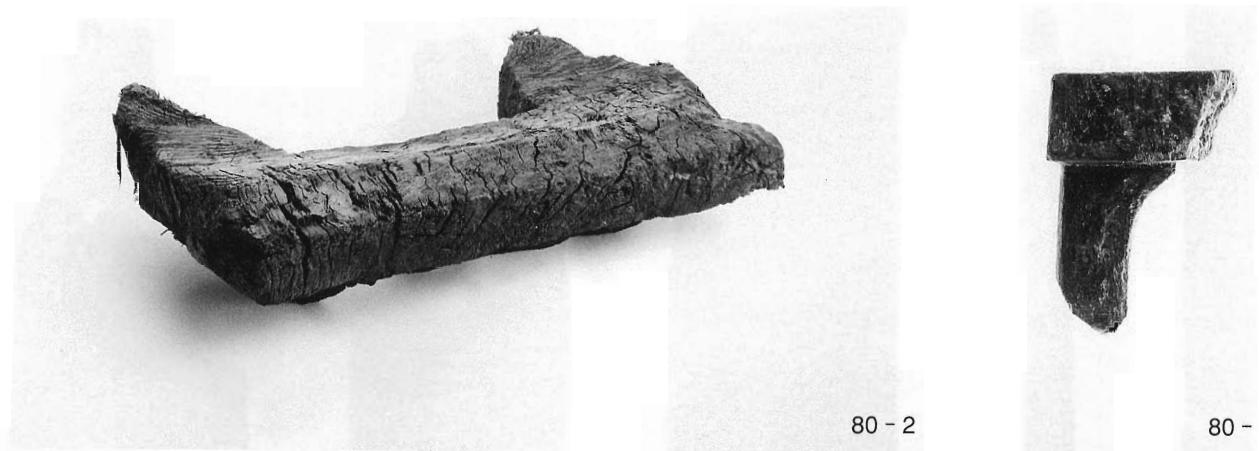
75 - 6

図版27





図版29



81の一部